

T7XC

2.4GHz
T-FHSS
Super Response **SR**



取扱説明書

注意

- 製品をご使用前に必ず本書をお読みください。
- 本書はいつでも活用できるように大切に保管してください。

保証書について

- セットに保証書が付属しています。お買上時、保証書に販売店印とお買い上げ年月日の記入手続きをお受けください。

模型用

Futaba®

1M23N34201

Digital Proportional R/C System

このたびは T-FHSS SR 7XC-2.4G システムをお買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
また、お読みになられた後も大切に保管してください。

はじめにお読みください。

下記に 2.4GHz システムを安全にご使用いただくための基本的な注意事項が記載されています。製品をご使用の前に必ずお読みください。

2.4GHz システムを安全にご使用いただくための基本的な注意事項

- ① ご使用の際は製品に付属の取扱説明書や注意書をよく読んでください。
- ② 2.4GHz はラジコン専用の周波数ではありません。この周波数帯は電子レンジ、無線 LAN、デジタルコードレス電話、オーディオ・ゲーム機や携帯電話の Bluetooth、VICS などの近距離通信に利用される ISM（産業・科学・医療）バンドと共用されているため、都市部では 2.4GHz システムの操縦レスポンスが低下する可能性があります。また、アマチュア無線、移動識別用構内無線にも使用されているため、これらの影響に注意をして使用してください。なお、既設の無線局に有害な電波干渉を与えた場合は、速やかに電波の発射を停止し、干渉回避対策を実施してください。
- ③ 走行場では、送受信機に影響を与える可能性のある機器の使用は最小限にし、事前に安全性を確認するようにしてください。また、施設の管理者の指示に従ってください。
- ④ 同一走行場では、同時に使用する 2.4GHz プロポの台数は 15 台以内にしてください。同時に使用される 2.4GHz のプロポの台数が判るように施設のボード等を利用してください。
- ⑤ 建物、鉄塔や樹木などの後ろを走行させ、電波の到達方向を遮へいすると、操縦レスポンスが低下したり操縦不能になる場合があります。常に目視で確認できる範囲で走行してください。
- ⑥ 日本国内では、電波法に基づく技術基準適合証明試験を受け、認証番号を記載した認証ラベルが外から見える場所に貼られているプロポが使用できます。ラベルを剥がしたり汚したりしないでください。
- ⑦ 海外からの輸入品等の場合で、上記認証ラベルが貼られていないプロポの使用は電波法違反になります。
- ⑧ (一財) 日本ラジコン電波安全協会は、ラジコン運用を安全に行っていただくための啓発を行っています。同協会の名称の入った認証ラベルが貼られているプロポをご使用ください。

〔認証ラベルの例〕



2.4GHz 送信機操作時の注意事項

- ① 送信機のアンテナ（内蔵）には構造上、電波の弱い方向があります。アンテナ先端を模型方向に向けないでください。
- ② 送信機のアンテナの特性上、金属クリップなどを送信機ケースの内蔵アンテナ部分に取り付けしないでください。また、この部分を手などで覆い隠さないようにしてください。

2.4GHz 受信機搭載時の注意事項

- ① 受信機のアンテナは、できるだけ金属や地面から離し、金属等の電波の遮へい物がないように搭載してください。
- ② 受信機のアンテナを折り曲げたり、長さを詰めたり、切断しないでください。
- ③ 振動が大きい場所、電気ノイズ・機械ノイズが多い場所への搭載は避けてください。

DIGITAL PROPORTIONAL R/C SYSTEM

FXC

2.4GHz システム

取扱説明書

- 本書の内容の一部または全部の無断転載を禁じます。
- 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容は万全を期して作成していますが、万一ご不明な点や誤り、記載もれなどお気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。
- お客様が機器を使用した結果につきましては、責任を負いかねることがございます。

安全にお使いいただくために

●表示の意味	8
●システム設定と使用サーボの注意	8
●走行（走航）時の注意	9
●バッテリーおよび充電器の取り扱い上の注意	10
●保管・廃棄時の注意	11
●その他の注意	11

お使いになる前に

●特長	12
●セット内容	14
●送信機の取り扱い方	15
送信機 T7XC 各部の名称	15
電源（PWR）／ディスプレイ（DSP）スイッチ	16
電源（PWR）スイッチを入れたときの画面表示	16
電源切り忘れアラームとオートパワーオフ	17
ローバッテリーアラーム	17
ステアリング／スロットルの操作方法	17
デジタルトリムの操作方法	18
トリムロック	19
スティックの長さ調整	19
スティック取り付け角の調整	19
スロットルスティック動作範囲の調整方法	20
スティックテンションの調整方法	20
ニュートラルアジャスターの調整方法	21
バッテリーの充電	22
バッテリーの交換方法	23
スロットルスティックをラチェット式に改造する場合	24
●ノンテレメトリー LED（テレメトリー OFF サイン）	26
●送信機のアンテナおよび受信機の取り扱い方	26
T7XC のアンテナについて	26
受信機 R334SBS / R334SBS-E 各部の名称	27
受信機の搭載方法	27
● microSD カード（市販品）の取扱い	29

組込方法

●受信機・サーボの接続方法	30
●組込時の安全上の注意	31

初期設定

●設定前の準備	34
電源スイッチ（PWR）を入れたときの表示について	34
高周波出力と受信機設定の確認	35

受信機設定の変更および、送信機と受信機のリンク方法	35
レスポンス／SR モードの確認	40
スロットルモードの確認	42
トリム類の初期設定	42

機能選択方法

●画面の操作	44
メニュー画面の表示	44
ホームボタン設定	45
各機能の数値や設定データの変更方法	46
●カスタムメニュー	47
カスタムメニュー画面の表示と編集	47
機能の一覧	48
機能マップ	50

機能説明

●テレメトリー 機能 ON/OFF (受信機設定画面)	52
●リバース	53
サーボ / その他の機器動作の反転機能	
●サブトリム	54
リンクage時のサーボセンター位置の微調整	
●エンドポイント	55
リンクage時の舵角調整機能	
●フェイルセーフ	58
フェイルセーフ機能、バッテリーフェイルセーフ機能	
●アクセレーション	60
エンジンカーの立ち上がり特性を調整する機能	
●スロットルモード	62
ニュートラルポジションとニュートラルブレーキ	
●サーボビュー	64
●D/R ATL	65
●トリム／ダイヤル 設定	67
ダイヤル (DL1) 各デジタルトリム (DT1 ～ DT6) で操作する機能の選択	
●スイッチ 設定	70
スイッチ SW1 ～ SW6 操作する機能の選択	
●アイドルアップ	73
エンジン始動時などにアイドルリングを上げる機能	
●チャンネルリミッター	75
サーボの最大動作量を制限 (ミキシング機能の重複の影響を防ぐ機能)	
●チャンネル設定	76
任意のチャンネルに、ステアリングまたはスロットルを割り当てる機能	
●コンディション機能	77
1 台のモデルの中に最大 4 種類のデータを設定	
●カーブ (EXP)	81
ステアリング／スロットル／ブレーキの動作カーブ調整機能	
ステアリングカーブ	81

安全にお使い
いただくために

お使いになる
前に

組込方法

初期設定

機能選択方法

機能説明

参考

スロットルカーブ（前進側）	83
ブレーキカーブ	86
● スピード	87
ステアリング／スロットルサーボのディレイ機能	
ステアリングスピード	87
スロットルスピード	89
● A.B.S	93
スロットルサーボを断続的にブレーキ動作させる機能	
● トラクションコントロール	98
スロットルサーボを断続的に前進動作させトラクションをかける機能	
● スタート	102
スリッピーな路面に使用するスタート時のサーボプリセット機能	
● エンジンカット	104
エンジン停止機能	
● ステアリングミキシング	106
ステアリングの左右を2個のサーボでコントロールするミキシング機能	
● ブレーキミキシング	109
1/5GP カー等のフロント／リア独立のブレーキ制御機能	
● ジャイロミキシング	113
弊社カー用レートジャイロの感度調整に使用	
● 4WS ミキシング	116
クローラー等の4WSタイプの車体に使用	
● デュアル ESC	119
クローラー等で駆動用のモーターコントローラーをフロント側、リア側を独立して調整可能	
● CPS ミキシング (1,2,3)	121
弊社チャンネル・パワー・スイッチのコントロールに使用	
● タンクミキシング	123
戦車などの履帯車両向けのミキシング	
● プログラムミキシング (1,2,3,4,5)	125
任意チャンネル間でプログラム可能なミキシング	
● チルトミキシング	128
船外エンジン用のチルトミキシング	
● タイマー	130
アップ／フューエルダウン／ラップタイマーの選択および設定	
● ラップリスト	137
ラップタイマーのデータ（各周回タイム）の確認	
● S.BUS サーボ	138
S.BUS サーボ SR モード設定とパラメーター変更	
● MC(ESC) リンク	144
MC940CR, MC960CR, MC950CR, MC851C, MC602C, MC402CR, M970CR 等 ESC のパラメーター変更	
● ジャイロリンク	162
GYD550 等ジャイロのパラメーター変更	
● 指数表	168
● ギヤレシオ表	169
● ホームボタン設定	170

●ホーム画面表示設定	171
●テレメトリー システム	173
センサー接続例	173
●テレメトリー	174
テレメトリー：受信機電圧	175
テレメトリー：外部電圧	176
テレメトリー：回転数	177
テレメトリー：温度	178
テレメトリー：電流	179
テレメトリー：GPS	181
テレメトリー：MC970CR	183
●センサーリスト	185
●センサーメニュー	187
センサー再読み込み	188
センサー登録	189
スロット番号変更	190
音声ガイドの間隔とログデータ間隔の設定	191
ホーム画面にテレメトリーメーターの表示	191
テレメトリーメーターの表示設定	192
●モデルセレクト	193
モデルメモリーの呼び出し機能	
●モデルコピー	194
モデルメモリーの内容を別のモデルメモリーにコピー	
●モデルネーム	196
各モデルメモリーごとにモデル名を登録	
●モデル削除 (SD カード内)	197
SD カードに保存されたモデルデータを、削除する機能	
●データリセット	198
現在選んでいるモデルメモリーの内容をリセットする機能	
●ディスプレイ設定	199
●システム情報	201
●音声	203
●バッテリー設定	204
●日付と時刻	205
●LED 設定	206
●アジャスター	207
●ソフトウェアアップデート	209
●受信機アップデート	210

参考

●強制的な初期化	212
●仕様	212
・送信機 T7XC	212
・受信機 R334SBS	212
●ワーニング表示	213
●オプションパーツ	215
●SR モード対応サーボ／ S-FHSS システム対応多 CH 受信機	216
●修理を依頼されるときは	

安全にお使い
いただくために

お使いになる
前に

組込方法

初期設定

機能選択方法

機能説明

参考

いつも安全に製品をお使いいただくために、以下の点に注意してください。

表示の意味

本書の中で次の表示がある部分は、安全上で特に注意する必要がある内容を示しています。

表 示

意 味



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される場合。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。または軽傷、物的損害が発生する可能性が高い場合。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、使用者または他の人が重傷を負う可能性は少ないが、傷害を負う危険が想定される場合。ならびに物的損害のみの発生が想定される場合。

図記号：

⊘；禁止事項

❗；必ず実行する事項

システム設定と使用サーボの注意



❗ T7XC の受信機設定と使用するサーボは必ず決められた条件で使用する。

その他の条件では動作できない場合や、動作できる場合でも所定の性能は発揮しません。また、サーボ、その他の機器の故障の原因となります。他社製品との組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。

システム	レスポンス／SR モード	対応サーボ
T-FHSS SR	SR モードチャンネル ON	・ 弊社製カー用 SR 対応サーボで SR モード
	SR モードチャンネル OFF	・ 弊社製カー用 SR 対応サーボでノーマルモード ・ 弊社製カー用デジタルサーボ
T-FHSS	デジタル（ハイスピード）	・ 弊社製カー用 SR 対応サーボでノーマルモード ・ 弊社製カー用デジタルサーボ
	アナログ（ノーマル）	・ 弊社製カー用全サーボ （弊社製カー用 SR 対応サーボの場合ノーマルモード）
S-FHSS	デジタル（ハイスピード）	・ 弊社製カー用 SR 対応サーボでノーマルモード ・ 弊社製カー用デジタルサーボ
	アナログ（ノーマル）	・ 弊社製カー用全サーボ （弊社製カー用 SR 対応サーボの場合ノーマルモード）
FASST	デジタル（ハイスピード）	・ 弊社製カー用 SR 対応サーボでノーマルモード ・ 弊社製カー用デジタルサーボ
	アナログ（ノーマル）	・ 弊社製カー用全サーボ （弊社製カー用 SR 対応サーボの場合ノーマルモード）

受信機側使用電源：受信機および接続するデジタルサーボの規格に合わせる（乾電池を除く）

送信機側受信機設定（システム／レスポンス）の設定方法は P35 ～ 41）

T-FHSS SR システムおよび、その他のシステムのデジタル（ハイスピード）モードでは、システムが異なるためフェイルセーフユニット FSU は使用できません。送信機側のフェイルセーフ機能を使用してください。

走行（走航）時の注意

警告

⊖ 雨の日、水たまりの中、夜間は絶対に走行させない。

装置内部に水が入り誤動作して暴走したり、見失ったりして大変危険で、暴走した場合大ケガをします。

⊖ 次のような場所では走行（走航）させない。

- 他のラジコンサーキットの近く（3km程度以内）
- 人の近くや道路
- 手漕ぎボートがいるような池
- 高圧線、通信施設の近く

電波の混信などにより暴走、または万一プロボや車体（船体）の故障により暴走した場合、大ケガをします。

⊖ 疲れているとき、病気のとき、酔っぱらっているようなときは走行（走航）させない。

集中力を欠き、正常な判断ができないため思わない操作ミスをおかします。

❶ 走行（走航）前には必ずプロボのテストを実行する。

プロボ、車体（船体）等のどこかに一つでも異常があれば暴走する危険があり、暴走した場合大ケガをします。
（簡単なテスト方法）

車体（船体）は助手の人に持ってもらるか、台の上に乗せて走り出さないようにし、各舵を動作させてみて、追従動作することを確認します。追従動作しない場合や、異常な動作をする場合は、走行（走航）させないでください。また、モデルメモリーが、その車体（船体）に合ったものを選んでおくことも確認しておきましょう。

⊖ 使用中、使用直後には、エンジン、モーター、FET アンプ等には触れない。

高温になっているためやケドします。

❶ 電源スイッチを入れるとき（フェイルセーフ機能を設定している場合でも）

送信機のスロットルスティックを停止位置にした状態で、

1. 送信機の電源スイッチを入れてから、
2. 受信機側の電源スイッチを入れる。

操作の順番を逆にすると、不意に車（ボート）が暴走する危険があり、暴走した場合大ケガをします。

❶ 電源スイッチを切るとき（フェイルセーフ機能を設定している場合でも）

エンジンまたはモーターを停止させた後、

1. 受信機側の電源スイッチを切ってから、
2. 送信機の電源スイッチを切る。

操作の順番を逆にすると、不意に車（ボート）が暴走する危険があり、暴走した場合大ケガをします。

❶ プロボの調整を行うときは、必ずエンジンを停止させた状態（モーターの接続を外した状態）で行う。

不意に車（ボート）が暴走する危険があり、暴走した場合大ケガをします。

（フェイルセーフ機能）

❶ 安全のため必ずフェイルセーフ機能（F/S）を設定し、走行（走航）前にフェイルセーフ機能が作動することを確認する。

（確認方法）

エンジン始動前に次の方法で確認してください。

- 1) 送信機、受信機の順で電源スイッチを入れる。
- 2) 10秒経過後、送信機の電源スイッチを切る。（フェイルセーフのデータは送信機の電源を入れてから10秒後に受信機へ自動転送し、その後5秒ごとに転送します）
- 3) スロットル等がフェイルセーフ機能で設定した位置に動作することを確認してください。

フェイルセーフ機能は受信不能時にあらかじめ設定した位置にサーボを動作させ、被害を最小限におさえるための安全上の補助装置ですが、危険な位置に設定している場合は逆効果となります。また、リバース機能でサーボの動作方向を変えた場合は、フェイルセーフ機能の再設定が必要です。

設定例：スロットルをアイドルまたはブレーキの位置

バッテリーおよび充電器の取り扱い上の注意

(充電式バッテリーを使用する場合)

安全にお使いいただくために

⚠ 警告

⓪ 専用充電器のプラグは日本国内仕様です。AC100V 以外の電源コンセントには差し込まない。

⓪ めれた手で充電器をコンセントへ抜き差ししない。

感電の危険があります。

⓪ 送受信用バッテリー FT2F1700B/1100B は、絶対に受信機側には使用しない。

プロポ用バッテリー FT2F1700B/1100B は負荷が大きくなると保護回路が働き出力が停止します。走行（走航）中に停止すると暴走する危険があります。

❶ 送受信機用バッテリーは、走行（走航）前に必ず充電する。

走行（走航）中に電池がなくなると暴走する危険があります。

❶ 送受信機用バッテリーの充電は、専用充電器を使用する。

規定値を越える充電は、異常発熱、破裂、漏液等により、ヤケド、火災、ケガ、失明等を引き起こします。

⚠ 注意

⓪ 市販の単3型ニッカド、ニッケル水素バッテリーは使用しない。

急速充電時、バッテリーホルダーの接点部分が異常発熱し装置が破損する場合や、充電できない場合があります。



⓪ 走行（走航）の際は、送信機に乾電池を使用しない。

乾電池は動作確認以外に使用しないでください。衝撃で乾電池が電池ボックスの接点から離れ、電源が切れる可能性があります。走行（走航）中に電源が切れると暴走する危険があります。

ニッケル水素、またはリチウムフェライトバッテリーの使用をおすすめします。

⓪ バッテリーの接続コネクターの端子をショートさせない。

ショートすると発火、異常発熱等により、ヤケドをする場合や、火災を引き起こす場合があります。

⓪ バッテリーは、落下させるなどの強い衝撃を与えない。

ショートして異常発熱したり、壊れて電解液が漏れると、ヤケドしたり、化学物質による被害を受けます。

⓪ バッテリーを接続していない状態で充電器を接続しない。

回路に負荷がかかり、本体が破損する恐れがあります。

❶ 走行（走航）させないときは、必ず走行（走航）用バッテリーを外しておく。

接続したままにしておくと、不意に車（ボート）が暴走する危険があります。

❶ 専用充電器は、充電しないときにはコンセントから抜いておく。

異常発熱等による事故を防止します。

< ニッケル水素、ニッカドバッテリーの電解液について >

バッテリー内の電解液は強アルカリ性のため、電解液が目に入ったときは、失明の恐れがあります。こすらずに、すぐにきれいな水でよく洗い流した後、直ちに医師の治療を受けてください。また、電解液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

保管・廃棄時の注意

⚠警告

⊖ プロポ、バッテリー、車体等を幼児の手の届くところに放置しない。

触って作動させたり、電池をなめたりすると、ケガをしたり、化学物質による被害を受けたりします。

⊖ バッテリーを火の中に投入したり、加熱したりしない。また、分解したり、改造したりしない。

破裂、異常発熱、漏液等により、ケガ、ヤケド、失明等を行います。

❶ 走行（走航）させない場合は、プロポ用リチウムバッテリーの FT2F1700B/1100B は約 50% 充電した状態で保管し、次の走行（走航）前に再度充電するようにする。

長期間使用しない場合は、電池の劣化を防ぐため満充電ではなく、容量の半分程度の状態で保存することを推奨します。また、自己放電による過放電状態になることにも注意が必要です。定期的（3カ月程度ごと）に充電してください。また、必ずプロポから取り外し、湿気の少ない 15℃～25℃ くらいの涼しい場所で保管してください。

⊖ プロポは次のような場所には保管しない。

- ・極端に暑いところ（40℃以上）、寒いところ（-10℃以下）。
- ・直射日光があたる場所。
- ・湿気の多い場所。
- ・振動の多い場所。
- ・ほこりの多い場所。
- ・蒸気や熱があたる場所。

上記のようなところに保管すると、変形や故障の原因となります。

❶ 長期間使用しない場合は、バッテリーを送信機や車体（船体）から取り出して、湿気の少ない場所に保管する。

そのまま放置すると、電池の漏液により、送信機や車体（船体）の性能や寿命を低下させます。

< ニッケル水素、ニッカドバッテリーおよび、その他バッテリーのリサイクルについて >

このマークは小型充電式電池の再利用を目的として制定されたリサイクルマークです。充電式電池に用いられる希少な資源を有効に活用するためにリサイクルにご協力ください。

電池は「充電式電池リサイクル協力店くらぶ」加入の電気店またはスーパー等に設置のリサイクルボックスで回収しています。

詳しくは社団法人電池工業会ホームページ、<http://www.baj.or.jp/recycle/> をご覧ください。なおご不要の電池は必ず＋極と－極をセロテープ等で絶縁してからリサイクルボックスに入れてください。有効に活用するためにリサイクルにご協力ください。



安全にお使いいただくために

その他の注意

⚠注意

⊖ 燃料、廃油、排気等を直接プラスチック部分にかけない。

そのままにしておくと、プラスチックが侵され、破損します。

❶ 送信機、受信機、サーボ、FET アンプ、バッテリーその他オプションパーツは、必ず Futaba 純正品の組み合わせで使用する。

Futaba 純正品以外との組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。取扱説明書およびカタログに記載されているものを使用してください。

特長

●フルカラー液晶タッチパネル装備

4.3 インチ大型カラーグラフィック液晶タッチパネルにより、セッティング時の操作性を大幅に向上させています。

●日本語対応

ディスプレイに表示する内容は、メニュー、警告、インフォメーションのすべてが日本語で表示します。

●ディスプレイスイッチ

電波を出さずに、機能設定ができます。

● T-FHSS SR (Super Response) ハイレスポンス新システム

T-FHSS 双方向通信システムに加え、さらにレスポンスアップのため、処理速度を速めた T-FHSS SR システムを追加しました。(SR システムはテレメトリー機能非対応)

●ソフトウェアアップデートが可能

microSD カードで、ソフトウェアアップデートが可能、microSD カードにモデルデータを保存することもできます。また、テレメトリーのログデータも保存できます。

● 40 台分のモデルメモリーを搭載

モデルネームには 15 文字迄の英数文字、カタカナ、および記号が使用できるため、解りやすい名前を設定できます。モデルコピー機能を使うと微妙にセッティングの違うモデルメモリーを簡単に作れます。

● NFC 通信

NFC 通信で、将来 Android 搭載端末から「T7PX/T7XC」アプリを使って、T7XC 本体のアップデートが可能になります。

* N マークは、NFC Forum, Inc. の米国その他の国における商標または登録商標です。

●ダイヤル + スイッチ

ダイヤル (DL1) とプッシュスイッチ (SW6) 機能の両方を持つスイッチを採用。

●大型カー用ブレーキミキシング

1/5GP カー等の前後輪のブレーキミキシングで、前後別々に調整が可能。

●ステアリングミキシング

左右独立したステアリングサーボの設定で、スムーズなコーナーリングが可能。

● 4WS ミキシング

クローラー等 4WS タイプの、同位相、逆位相などのコントロールが可能。

●デュアル ESC ミキシング

前後に独立した ESC (モーターコントローラー) をコントロール。

●ジャイロミキシング

T7XC 本体側で弊社製カー用レートジャイロの感度調整が 4 レート可能。

●タンクミキシング

戦車などの履帯車両向けのミキシングです。信地旋回、超信地旋回が可能です。

●CPS ミキシング

弊社製チャンネル・パワー・スイッチ CPS-1 を使って、LED を点灯、点滅のコントロールをスイッチだけでなく、ステアリングやスロットル操作に合わせて 3 系統の設定ができます。

●S.BUS サーボ

弊社製 S.BUS サーボのパラメーターの変更を T7XC 本体で設定できる機能です。S.BUS サーボを受信機に接続したままの状態を設定するワイヤレス方式と、T7XC の com (コミュニケーション) ポートに接続して設定する有線方式の 2 通りが可能です (一部のパラメーターは、PC の Link ソフトを使用)。

●MC(ESC) リンク

弊社製 モーターコントローラー (ESC) の、可変周波数やその他のデータ変更を T7XC 本体で設定できる機能です (一部のパラメーターは、PC の Link ソフトを使用)。受信機に接続したままの状態を設定するワイヤレスの設定が可能。

※ワイヤレス対応 ESC : MC970CR (2020 年 6 月現在) 他社製 Acuvance Xarvis / XarvisXX にも対応

●ジャイロリンク

弊社製カー用ジャイロのパラメーターの変更を、T7XC 本体からワイヤレスで設定できる機能です。※対応ジャイロ : GYD550 (2020 年 6 月現在)

●スロットルスピード

スロットルスピード機能を設定することで、スムーズかつ楽に操縦できると同時に、電池の消耗をおさえます。ターン方向と、リターン方向のスピード調整ができます。

●ステアリングスピード

ステアリングサーボが速すぎると感じたときなどに、サーボの動作スピード (最高スピードをおさえる方向) を調整できます。

●ノンテレメトリー LED を搭載 (テレメトリー OFF サイン)

レースレギュレーションで、テレメトリー機能が禁止になっている場合に、テレメトリーが OFF になっていることが一目で分かる専用の LED を搭載。

●ダイヤル設定／スイッチ設定機能

ダイヤル類 (デジタルトリム、デジタルダイヤル) に、機能を割り当てる機能。その他、ステップ量や動作方向も調整可能。このダイヤル類はすべてデジタル方式であるため、モデル呼び出しのたびにトリムの位置合わせをする必要はありません。また、6 個のスイッチに対して機能を割り当てる機能。その他動作方向も設定可能。

●トリム／ダイヤルロック機能

T7XC 本体のトリム／ダイヤルによる設定および操作を禁止するロック機能を装備。

●バイブモーター内蔵

レーシングタイマーのタイムアップや、各アラームなどでバイブを動作させることができます。バイブの動作は各機能画面で設定します。

セット内容

次のものが付属します。ただし、セットにより付属品の内容が異なります。

送信機	T7XC (x1)
受信機	R334SBS または R334SBS-E (x1、W レシーバーセットは x2)
その他	送信機用バッテリー FT2F1700BV2 (x1) * 送信機に取り付けてありますが、コネクタは接続されていません。 充電器 LBC-34D P (x1) 受信機コネクタ防塵カバー (x3) スロットル用 ラチェット板 (x1) 取扱説明書 (本書) ミニドライバ (x1)

お
使
い
に
な
る
前
に

注意：

- この製品には送信機用電源バッテリーが付属していますが、コネクタは接続されていません。P23 の " **バッテリーの交換方法** " を参考にコネクタを接続し、付属の充電器で充電してからご使用ください。

- セット内容に、不足や不明な点があるときはご購入のお店にお問い合わせください。

警告

- ⊙ R334SBS-E は電動カー用です。エンジンカーには使用しないでください。

- ❗ **送信機、受信機、サーボ、FET アンプ、バッテリーその他オプションパーツは、必ず Futaba 純正品の組み合わせで使用する。**

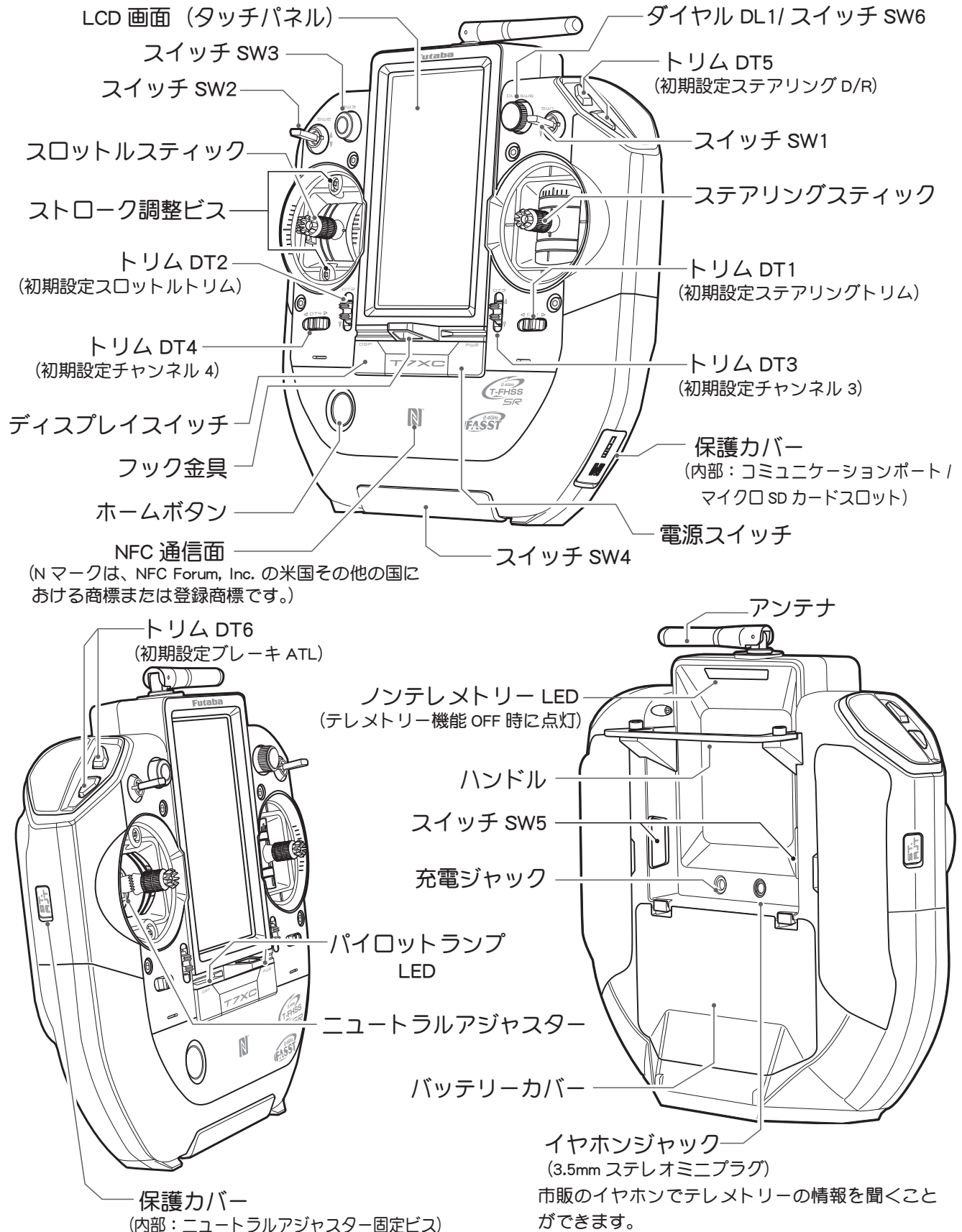
Futaba 純正品以外との組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。取扱説明書およびカタログに記載しているものを使用してください。

送信機の取り扱い方

送信機 T7XC 各部の名称

* 図のスイッチ、ツマミ、トリム類に割り当てる機能は変更できます。図の表記は初期設定時の割り当て機能を示します。

* 各プッシュスイッチを強く押しすぎないように注意してください。

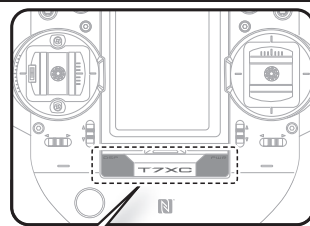


お使いになる前に

電源 (PWR) / ディスプレイ (DSP) スイッチ

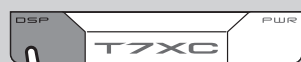
電源スイッチとディスプレイスイッチはプッシュスイッチです。

電源スイッチ (PWR) を押すと電波が送信され、ディスプレイスイッチ (DSP) を押すと電波を送信しないで画面を表示して、データの確認や設定ができます。電源を切る場合は、電源スイッチとディスプレイスイッチのどちらかを長押しします。また、両方のスイッチを同時に押すと素早く電源が切れます。



ディスプレイ/電源スイッチ

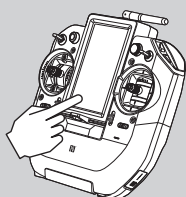
お使いになる前に



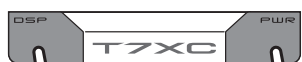
DSP

「ディスプレイモード
電波は送信されません」と赤く点滅表示します。

電波を送信しないで画面を表示することができます。

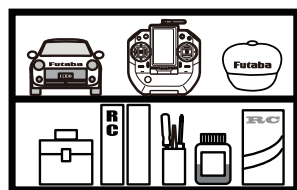


※送信機の各設定ができます。
模型の操作はできません。

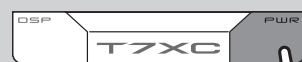


OFF

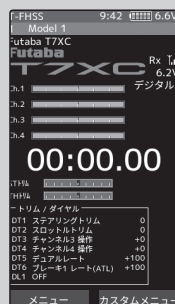
電源スイッチとディスプレイスイッチのどちらかを長押しすると電源が切れます。また、両方のスイッチを同時に押すと素早く電源が切れます。



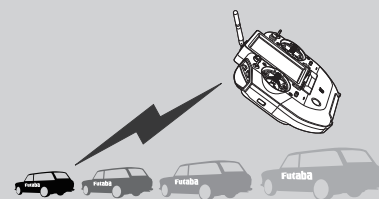
※未使用時は電源を OFF にします。



PWR



電波を送信します。
各機能の確認、設定もできます。



※次に受信機側の電源を ON すると模型の操作ができます。

電源 (PWR) スイッチを入れたときの画面表示

T7XC は、タッチパネルとホームボタンで、画面の操作をします。

詳しくは P44 の「画面の操作」をお読みください。

受信機設定
T-FHSS SR / T-FHSS / S-FHSS / FASST
(DSP 側の場合ディスプレイと表示)

モデルナンバー/モデルネーム (15 文字)
ユーザーネーム (15 文字)

Ch.1 ~ Ch.4 のサーボモニター
(S-FHSS アナログの場合 Ch.1 ~ Ch.7)

ST (ステアリング) トリム表示
TH (スロットル) トリム表示

メニュー表示ボタン
カスタムメニュー表示ボタン

トータルタイマーまたは時計表示 (時:分)

バッテリー電圧表示

テレメトリデータ (T-FHSS)
受信機電圧と受信機信号の受信感度

受信機設定が T-FHSS SR 以外の場合
:レスポンス (デジタル/ノーマル)
受信機設定が T-FHSS SR の場合
:SR モード設定チャンネル

レーシングタイマー

トリムロックマーク (P19)

マイクロ SD カードマーク (P29)

DT1 *デジタルトリム類に割り当てた機能名とレートを表示します。
DT2
DT3 初期設定では DL1 に割り当てた機能はありませんので OFF と表示します。
DT4
DT5
DT6
DL1

*上の図は、説明のため一部合成加工していますので、実際の画面表示とは違う部分があります。

電源切り忘れアラームとオートパワーオフ（画面表示の詳細は P213 を参照）

T7XC のステアリング、スロットル、各プッシュスイッチやタッチパネルなどを、何も操作していない時間が 10 分経過すると、画面上部に「警告：オートパワーオフ」と表示し、警告音が鳴ります。このときステアリング、スロットルなどを操作すると、警告が解除されます。アラームを解除しないと、オートパワーオフ機能によって、5 分後に自動的に電源が OFF になります。また、使用しないのであれば電源を切ってください。このアラームと、オートパワーオフ機能を使用したくない場合は、システムメニューのバッテリー設定（P204）で解除できます。

ローバッテリーアラーム（画面表示の詳細は P213 を参照）

送信機のバッテリー電圧が、使用できる限界近くまで下がると、LCD 画面に「バッテリーが少なくなっています」と警告を表示し、警告音が鳴ります。標準の LiFe バッテリーパックと、純正オプションのニッケル水素バッテリーでは、ローバッテリー電圧が異なります。使用する電池の種類を替えた場合、必ずバッテリー設定（P204）で使用電源タイプの変更をしてください。なお、温度の影響でバッテリーの使用できる条件に違いがあるため、送信機の温度に対してローバッテリーアラーム電圧の補正をしています。そのためローバッテリーアラームの条件は、気温など周囲温度で変化します。

⚠ 注意

- ❶ ローバッテリーアラームが発生した場合、すぐに車（ボート）を回収し、走行（走航）を中止してください。

走行（走航）中に電池がなくなると、車（ボート）が暴走する危険があります。

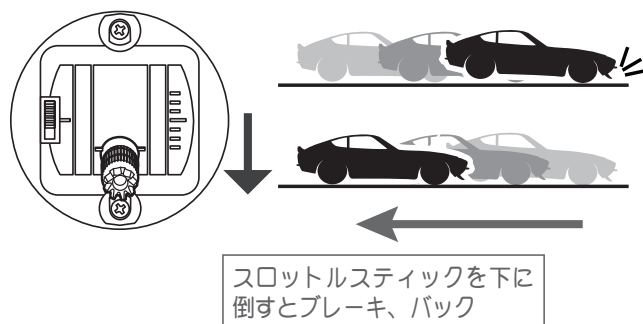
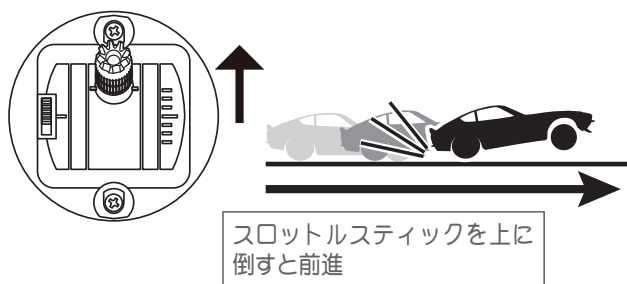
ステアリング／スロットルの操作方法 Ch.1 Ch.2（一般的な R C カーの操作例）

（Ch.1；ステアリングスティック、Ch.2；スロットルスティック）

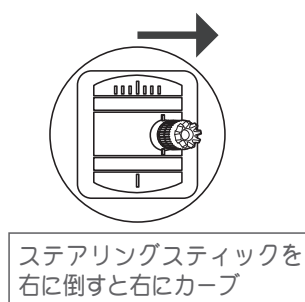
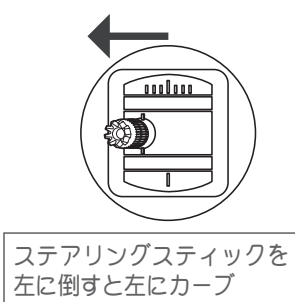
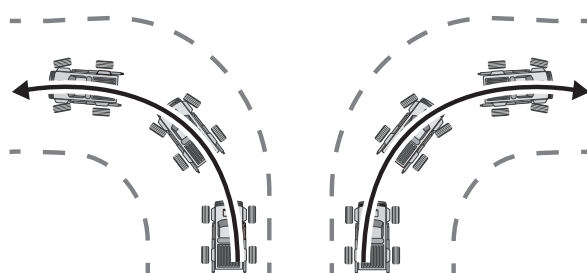
ステアリングスティックを左右に動かして、ステアリング操作をします。

スロットルスティックを上下に動かして、前進、停止、ブレーキ、バックの操作をします。

スロットルスティックの操作



ステアリングスティックの操作

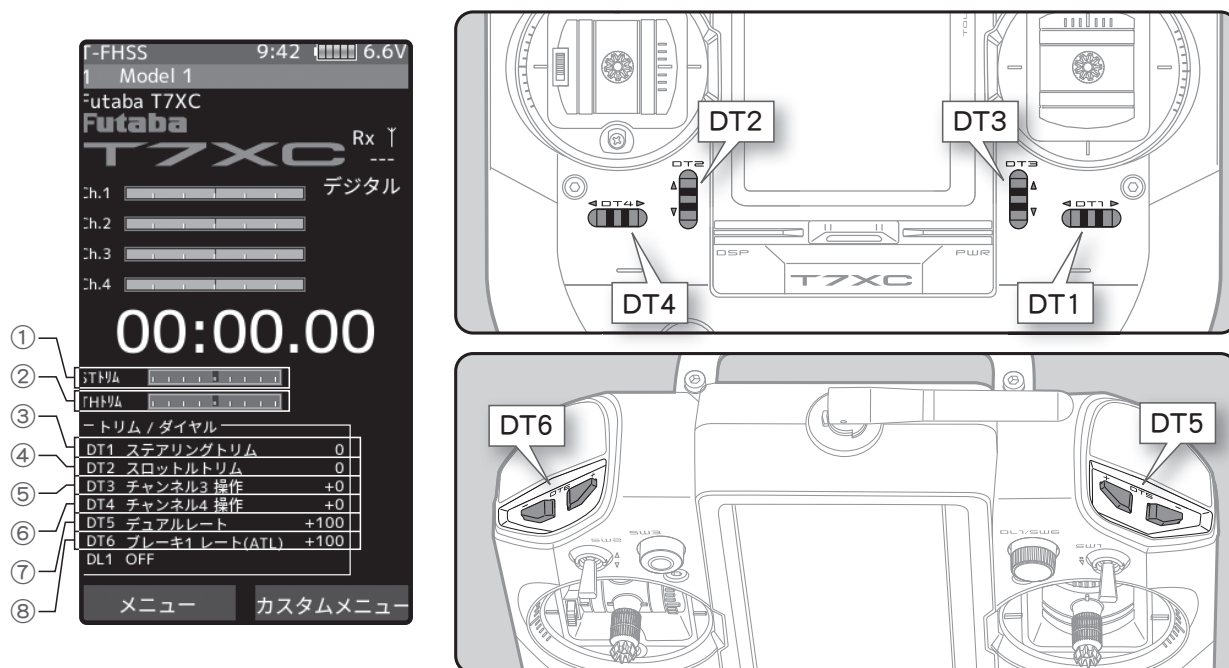


デジタルトリムの操作方法

(初期設定の状態では、DT1；ステアリングトリム、DT2；スロットルトリム、DT3；Ch.3、DT4；Ch.4、DT5；ステアリング D/R、DT6；ATL)

DT1 ～ DT4 はトリムを両サイドに押して操作します。DT5 と DT6 は (+) と (-) ボタンを押して操作します。現在の設定値を LCD 画面に表示します。

お使いになる前に



- ① ③ DT1 ST (ステアリング) トリム表示
- ② ④ DT2 TH (スロットル) トリム表示
- ⑤ DT3 チャンネル 3 表示
- ⑥ DT4 チャンネル 4 表示
- ⑦ DT5 ステアリング D/R 表示：0 (ステアリングの動作をしない) ～ 100 (ステアリング動作量最大)
- ⑧ DT6 スロットル ATL 表示：0 (ブレーキの動作をしない) ～ 100 (ブレーキ動作量最大)

- ステップごとにクリック音で知らせます。
- 両サイドの最大の位置で、クリック音が変わって知らせます。それ以上変化しません。
- DT1 ～ DT4 のトリムは、レバーを中央の位置で送信機本体側へ押す (約 1 秒間) とリセットされ初期値に戻ります。
- DT5 / DT6 のトリムボタンは、両方向のボタンを同時に押す (約 1 秒間) とリセットされ初期値に戻ります。

ステアリングスティックが中立のとき、車体が左右に曲がらず、直進するようにステアリングトリムで調整します。

スロットルスティックが中立のとき、車体が停止、また、走行中にスティックから指を離れたとき、ブレーキがかからないように、スロットルトリムで調整します。

ステアリング D/R は、ステアリングサーボの動作量を調整します。

スロットル ATL は、ブレーキ (バック) 側のサーボ動作量を調整します。

ステアリング/スロットルトリムの動作について

ステアリングトリム、またはスロットルトリムを操作して、ニュートラル位置を調整しても、最大舵角位置は変化しないセンタートリム方式を採用しています。そのため、トリム操作によるリンケージのロック等は発生しません。

トリムロック

T7XC は本体のデジタルトリム DT1 ～ DT6 およびダイヤル DL1 による操作を、禁止することができます。

ロックと解除の方法

ホーム画面の状態ではホームボタンを約 1 秒間押すと、ピッという確認音が鳴り、画面に鍵マークが表示されロックします。ロック状態からホームボタンを約 1 秒間押すと、画面から鍵マークが消えロックが解除されます。



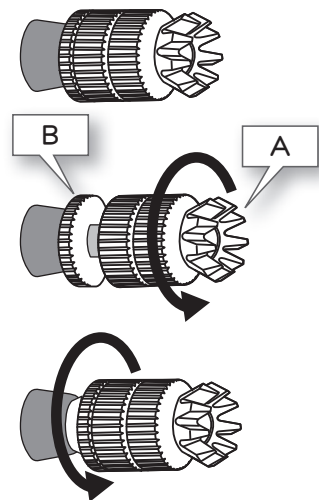
トリムロックマーク

スティックの長さ調整

スティックの長さが微調整できます。

調整方法

- 1 レバーヘッド B が回らないようにおさえながら、レバーヘッド A（スティックの先端部）を反時計方向に回してロックを外す。
- 2 レバーヘッド A を好みの長さに調整します。（反時計回りで長く、時計回りで短く）短くする場合は、レバーヘッド B を時計方向に回しておく
- 3 レバーヘッド A をおさえながら、レバーヘッド B を反時計まわりにしめてロックする。



お使いになる前に

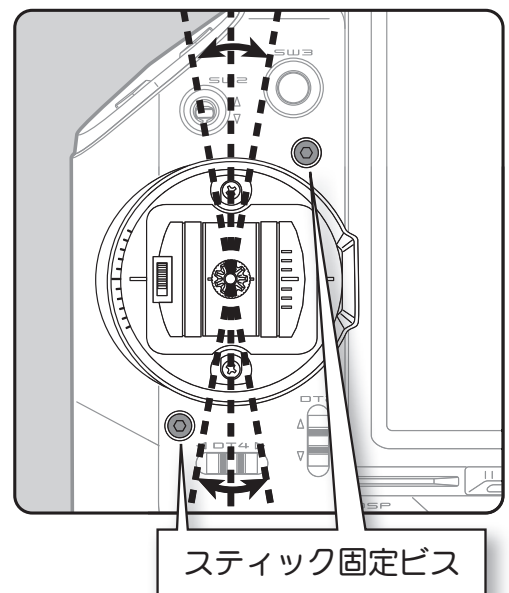
スティック取り付け角の調整

操作フィーリングで、スティックの角度が微調整できます。

調整方法

- 1 図のスティック固定ビスをゆるめる。（片側 2 か所）
- 2 スティックの角度を変える。
- 3 ゆるめたビスをしめる。

●図はスロットルスティックの例です。ステアリングも同じく調整できます。



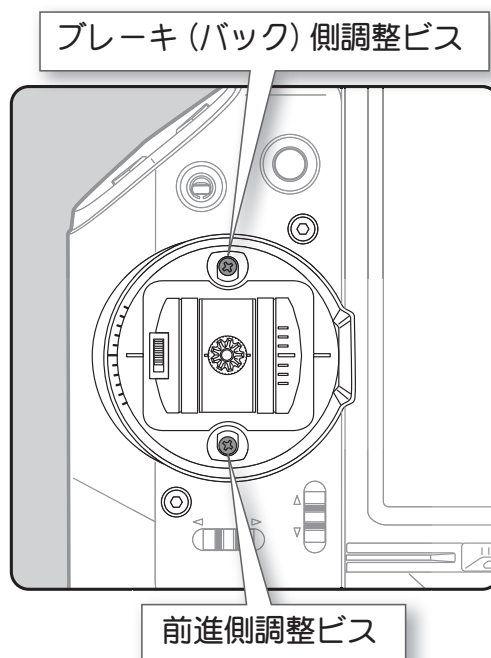
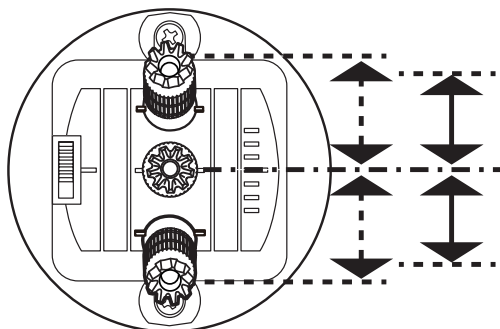
スロットルスティック動作範囲の調整方法

操作フィーリングで、スロットルスティックのストローク（動作範囲）を狭くしたい場合に調整します。

調整方法

- 1 プラスドライバーを使って、図のビスを回して、スティックのストロークを調整します。

●時計方向に回すとストロークが狭くなります。スティックを動かしながら調整してください。



注意事項

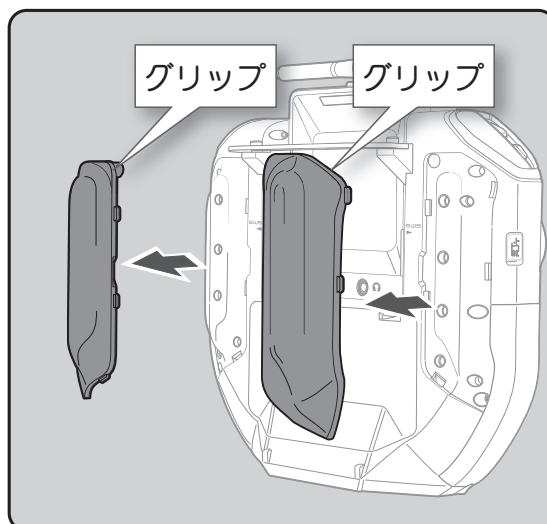
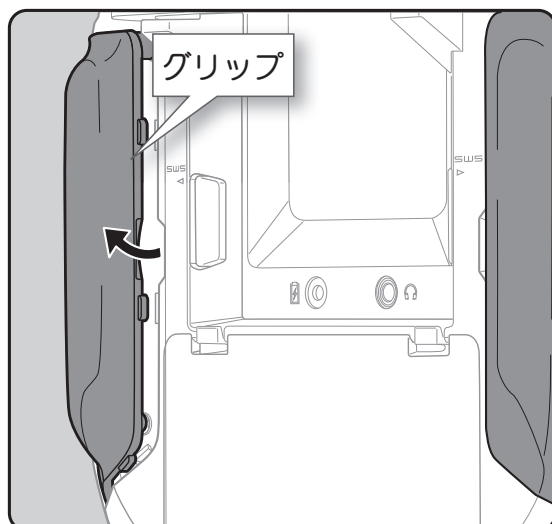
ストロークを調整した場合、サーボ（モーターコントローラー）の動作量も変わりますので、アジャスター機能（P207）でスロットル側の補正を必ず行ってください。また、実際にスロットルサーボ（モーターコントローラー）の舵角量を確認し、必要であれば再度スロットルの舵角量を EPA（エンドポイントアジャスター）で調整します。

スティックテンションの調整方法

ステアリングとスロットルスティックの、バネの強さを変えたいときに調整します。

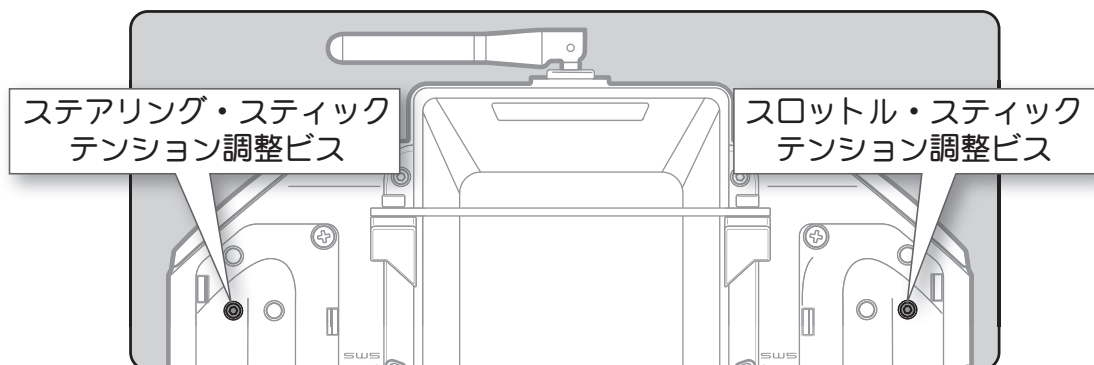
調整方法

1. 図のように左右のグリップを外します。



- 2** 2.0mm 六角レンチを使って、図のビスを回して、ステアリングまたはスロットルのバネの強さを調整します。

- 工場出荷時は一番弱い状態に設定してあります。
- 時計方向に回すとテンションが強くなります。



注意事項

反時計方向へ回しすぎると、ビスがぬけ落ちてしまいます。調整範囲は一番締め込んだ状態(一番強い状態)から7~8回転までです。それ以上回すとビスがぬけ落ちてしまいます。

- 3** 調整が終了したら、グリップを元の位置に取り付けます。

ニュートラルアジャスターの調整方法

スロットルスティックのニュートラル位置を 5:5 ~ 7:3 の範囲で自由に設定ができます。

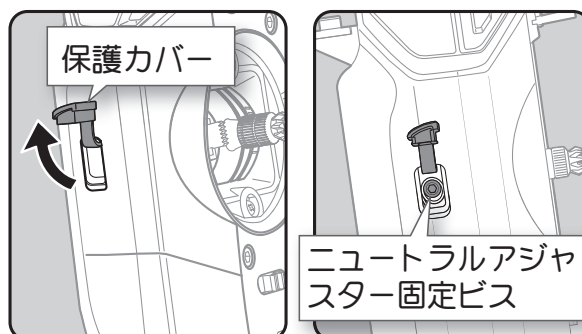
調整方法

- 1** 図の保護カバーを開けて、ニュートラルアジャスター固定ビスを 2.0mm の六角レンチで、反時計方向に少し回してゆるめます。

- このビスは必ずゆるめてください。

注意事項

固定ビスをゆるめすぎると、ビスがぬけ落ちてしまいます。

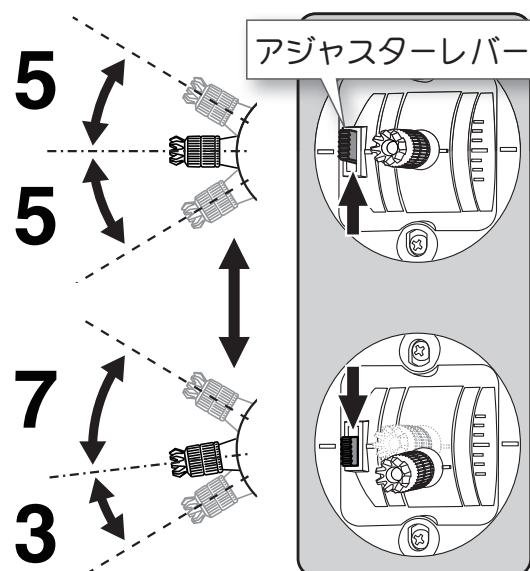


- 2** スロットルスティック横の、アジャスターレバーを上下に移動させ、ニュートラル位置を決めます。

- 3** 最初の 1 でゆるめた固定ビスを締めて、ニュートラルアジャスターを固定し、保護カバーを閉じます。

注意事項

ニュートラル位置を移動また、移動しなかった場合でも、固定ビスを一度ゆるめた場合は、アジャスター機能 (P207) でスロットル側の補正を必ず行ってください。



お
使
い
に
な
る
前
に

バッテリーの充電

購入後、最初に以下の方法で必ず充電してから使用してください。(バッテリーのコネクターは接続されていません。P23 の " **バッテリーの交換方法** " を参考にコネクターを接続してください。)

FT2F1700BV2 の充電方法

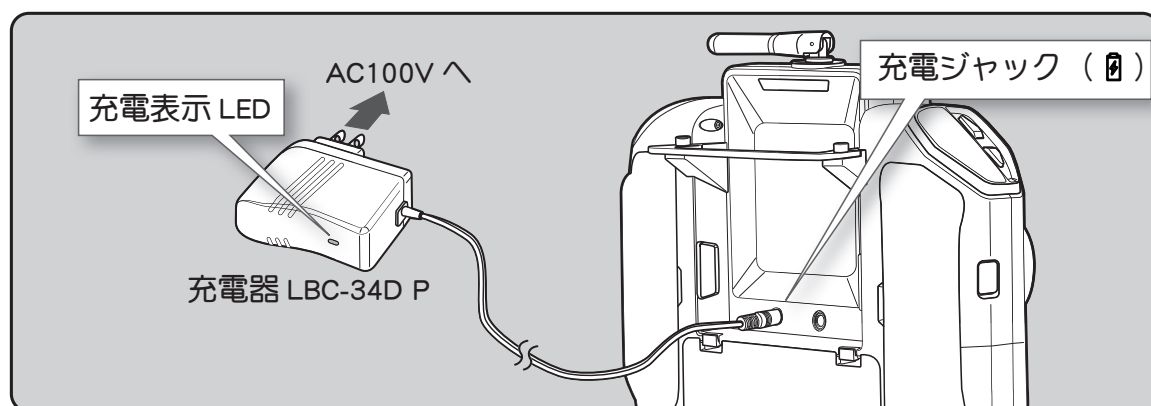
- 1 付属の専用充電器のプラグを送信機の充電ジャック ( マーク) に接続します。
- 2 AC100V のコンセントに充電器を接続します。
- 3 充電表示の LED が赤く点灯 (または点滅) していることを確認します。
- 4 充電表示の LED が、緑の点灯に変わったら充電が完了です。プラグを送信機から外し、充電器を AC コンセントから外します。

付属の充電器 LBC-34D P でバッテリー FT2F1700BV2 を充電する場合、充電時間は約 2.5 時間です。

しばらく使用しない場合は、3 カ月に一度程度、専用充電器で約 50% (30 分間から 1 時間程度) 充電した状態で保管してください。満充電の状態で長期間保管しないでください。充電器とバッテリーを接続したままで保管しないでください。

付属の LBC-34D P は、電源回路の違いにより、T4PL (S) には使用できません。差し込んでも LED 表示が緑点灯の状態で充電を開始しません。

LBC-34D P : 入力 : 100V ~ 240V、50/60Hz、
定格出力 : DC7.2V、800mA
電源プラグは 100V 専用



⚠ 警告

ⓧ 専用充電器のプラグは日本国内仕様です。AC100V 以外の電源コンセントには差し込まない。

ⓧ めれた手で充電器をコンセントへ抜き差ししない。

感電の危険があります。

ⓧ LBC-34D P で FT2F1700/1100B 以外のバッテリーを充電しない。

それ以外の保護回路のないバッテリーの充電は、異常発熱、破裂、発火により、ヤケド、火災、ケガ、失明等を引き起こすおそれがあります。また、火災の原因になり大変危険です。

❗ FT2F1700BV2 の充電は、必ず専用充電器を使用する。

規定値を越える充電は、異常発熱、破裂、漏液等により、ヤケド、火災、ケガ、失明等を引き起こします。

⚠ 注意

ⓧ バッテリーの被膜を剥がしたり、カッターナイフ、または金属部品のエッジなどで傷つけたりしない。

ⓧ バッテリーを水や海水に浸けたり濡らしたりしない。

ⓧ 変形や膨らみの見られるバッテリーは使用しない。

破裂、発火する恐れがあり、大変危険です。

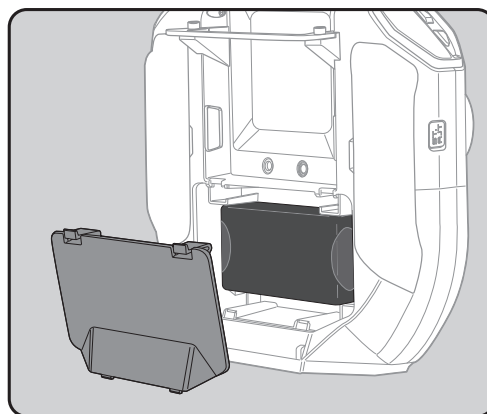
バッテリーの交換方法

長期間送信機を使用しないときに外し保管したり、交換したりできるように、バッテリーはコネクターで接続されています。

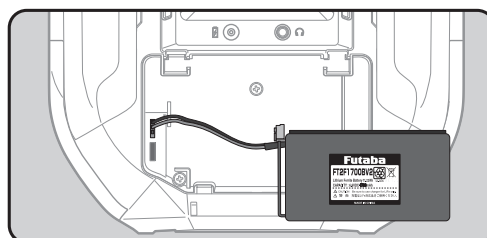
●バッテリーは必ず標準の FT2F1700BV2、またはオプションの FT2F1100B を使用してください。

バッテリーの交換

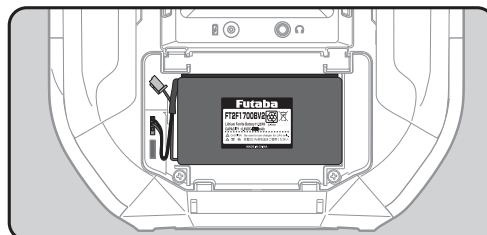
- 1 送信機のバッテリーカバーを、図の2か所を押しながら矢印の方向へ外します。



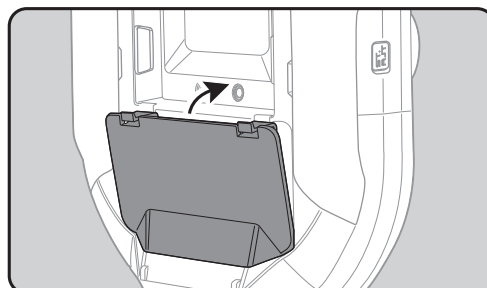
- 2 本体からバッテリーを取り出してから、コネクターを抜きます。



- 3 新しいバッテリーのコネクターを挿し、本体に収めます。



- 4 バッテリーカバーを取り付けて終了。



お
使
い
に
な
る
前
に

⚠ 注意

- ① バッテリーカバーを閉めるときは、バッテリーのリード線をバッテリーカバーで挟まないよう注意する。

挟んでショートすると、発火や異常発熱等により、やけどしたり、火災の原因となったりします。

スロットルスティックをラチェット式に改造する場合

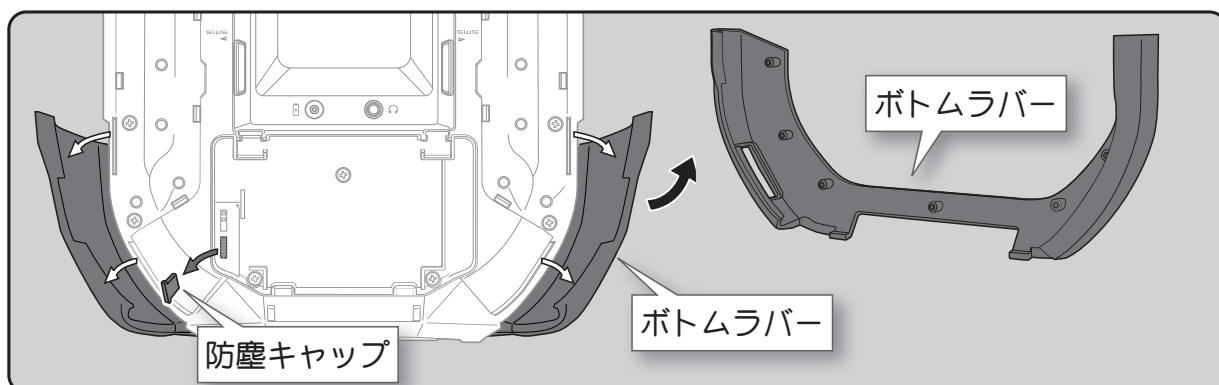
スティックは指を離すとスプリングでニュートラルに戻ります（セルフニュートラル式）。エンジンボートなどを使用するために、指を離した位置で止まる（ラチェット式）ようにする場合、本製品に付属のラチェット板を取り付ける必要があります。

注意事項

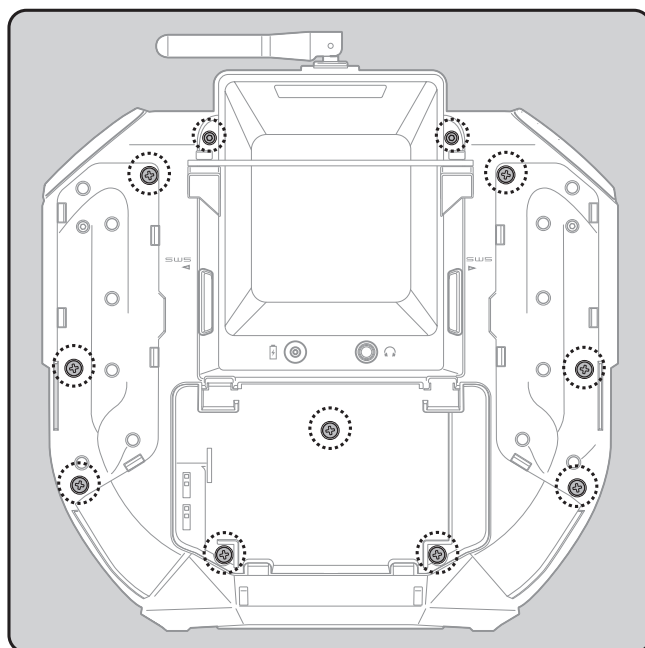
- ラチェット式に変更した場合、必ず P62 の "スロットルモード" を "前進 100：ブレーキ 0" に変更してください。変更しないと、スロットルの各設定の基準値に不都合が生じます。また、使用しないブレーキの各設定をキャンセルできます。
- "スロットルモード" を "前進 100：ブレーキ 0" に変更すると、安全のためスロットルスティックがスロー以外の位置で電源を ON にするとアラームがなります。必ずスロー位置で電源を ON してください。スロットルスティックをスローにするとアラームは止まります。（画面表示の詳細は P213 を参照）

改造方法

- 1 最初にバッテリーカバーとバッテリーを外します。（P23 参照）
次に左右のグリップを外します。（P20 参照）
- 2 下図のようにボトムラバーを外します。次にバッテリーコネクターの下にある防塵キャップを外します。

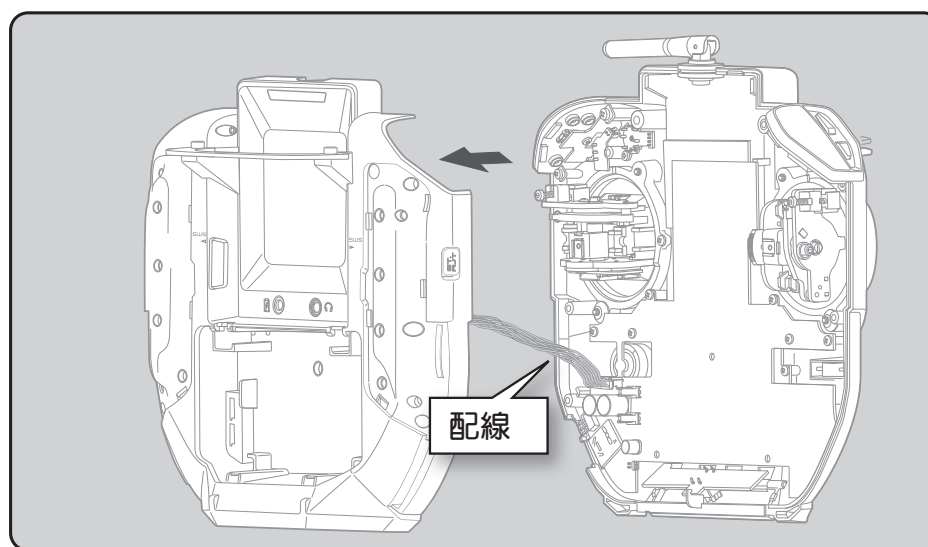


- 3 プラスドライバーと 1.5mm の六角レンチで、図の 11 本のビスを送信機本体から外します。

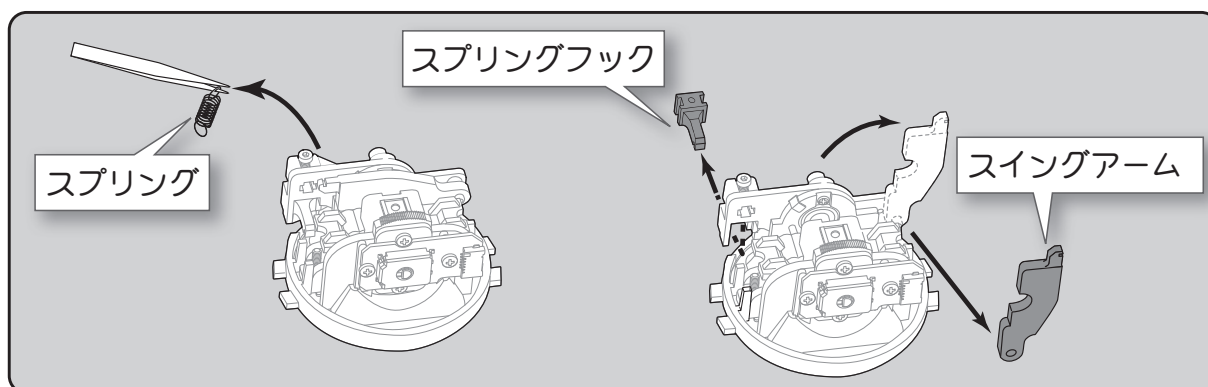


4 配線を引っ張り過ぎないように注意して、リヤケースを取り外します。

- 内部の基板や電子部品に触れないようにしてください。

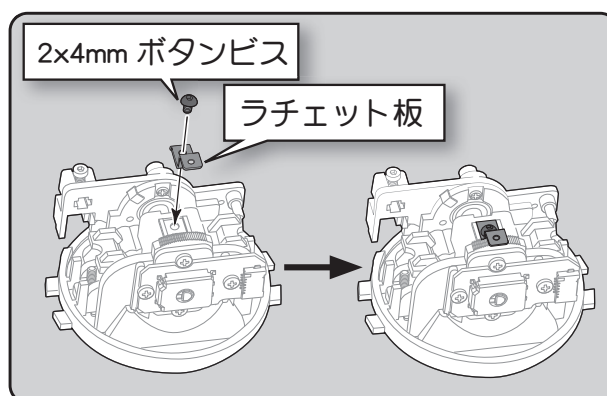


5 スロットスティックのスプリング、スプリングフック、スイングアームをピンセットで取り外します。



6 1.5mm の六角レンチを使用して、ラチェット板を2x4mm ボタンビスで取り付けます。

- ラチェット板と2x4mm ボタンビスは、製品に付属の袋詰の中にあります。
- ラチェット板と樹脂パーツの接触部分に、サーボグリスを少量塗る（スイングアームに付着しているグリスでも良い）。
- ラチェット板が脱落すると、内部でショートして送信機が破損します。確実に取り付けてください。



7 プラスドライバーと1.5mmの六角レンチで、元通りにリヤケースを取り付けます。

- 配線をはさまないように気をつけてください。
- ビスは強くしめすぎるとケースが破損します。
- 内部に異物が混入しないようにしてください。

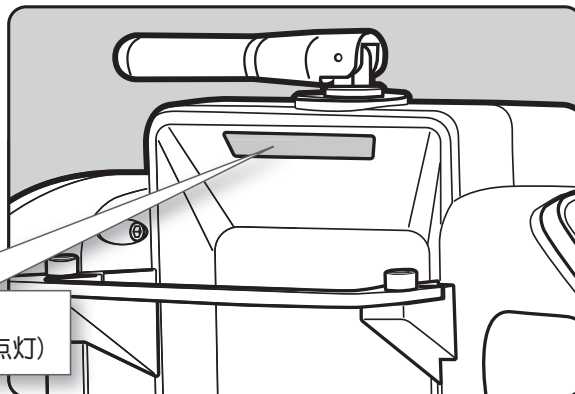
8 ボトムラバー、防塵キャップ、バッテリーとバッテリーカバー、左右のグリップを元の位置に取り付けます。

ノンテレメトリー LED (テレメトリー OFF サイン)

●テレメトリー機能が OFF になっている状態で、この LED が点灯します。

テレメトリー機能が禁止されているレースに参加する場合は、動作していないことを確認できます。

ノンテレメトリー LED
(テレメトリー機能 OFF のときに点灯)



送信機のアンテナおよび受信機の取り扱い方

T7XC のアンテナについて

*地面に対して垂直に
立てた状態がベスト。

アンテナ

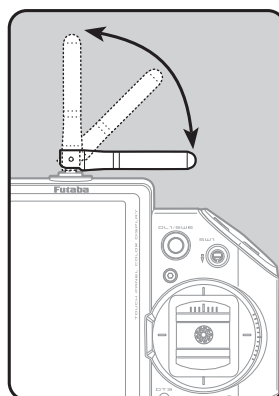
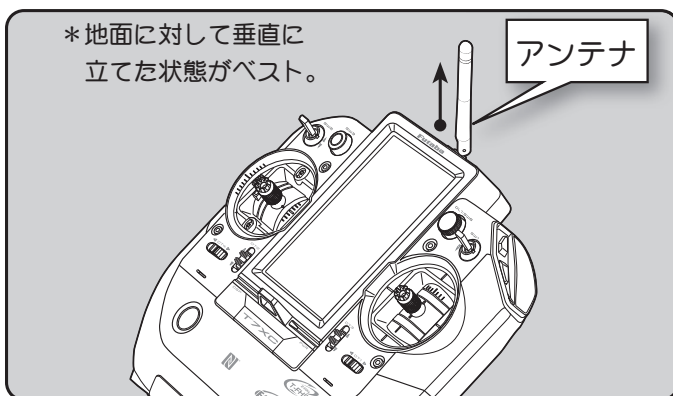


図 A

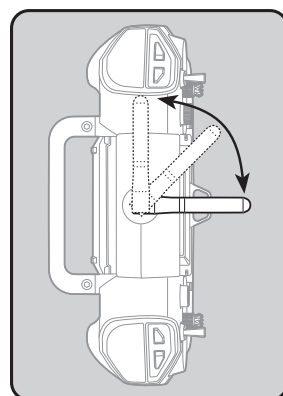


図 B

⚠注意

❶ 操作時、アンテナが地面に対して可能な限り垂直になるように調節してください。

アンテナの先端が受信機の方に向くと、最も受信距離が短くなります。

❷ アンテナは取り外すことができません。

アンテナは脱着式ではありません。ムリに外すと破損します。

❸ 走行中はアンテナを握らないでください。

電波の出力が弱くなるため、受信距離が短くなり危険です。

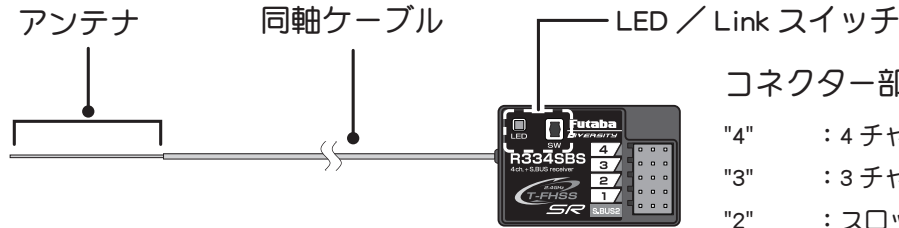
❹ アンテナは上記の図 A,B の範囲で可動しますが、可動範囲以上に回したり、衝撃などのダメージを与えたりしないでください。

内部ケーブルの断線、故障の原因となる恐れがあり、そのような場合受信距離が大幅に短くなり危険です。

*送信機のアンテナを受信機以外のサーボ、モーターコントローラー等に極端に接近させると誤動作する場合がありますが、強い高周波出力の影響による現象で異常ではありません。

受信機 R334SBS / R334SBS-E 各部の名称

R334SBS 受信機

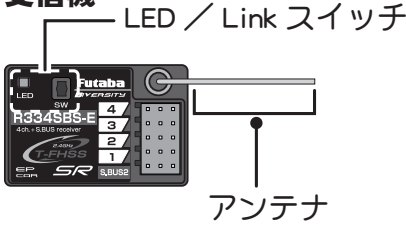


コネクター部

- "4" : 4チャンネルサーボ (4CH 目)
- "3" : 3チャンネルサーボ (3CH 目)
- "2" : スロットルサーボ (2CH 目)
- "1" : ステアリングサーボ (1CH 目)

"S.BUS2" : 電源接続コネクター / SBUS2 端子

R334SBS-E 受信機



コネクター部

- "4" : 4チャンネルサーボ (4CH 目)
- "3" : 3チャンネルサーボ (3CH 目)
- "2" : スロットルサーボ (2CH 目)
- "1" : ステアリングサーボ (1CH 目)

"S.BUS2" : 電源接続コネクター / SBUS2 端子

* 受信機電源は、SBUS2 端子または 1 ~ 4 のどのコネクターに接続しても使用できます。

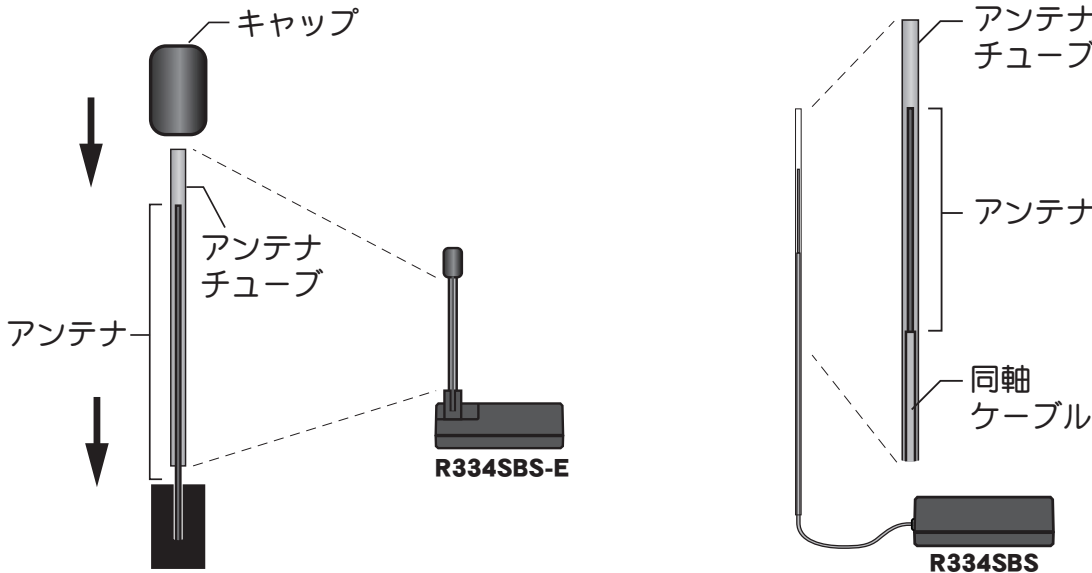
受信機の搭載方法

受信機は、以下に書かれている内容に充分注意して、車体に搭載します。

注意 : R334SBS / R334SBS-E 受信機とアンテナを搭載する場所により、受信距離が異なります。

注意 : R334SBS / R334SBS-E 受信機は、図のアンテナ部分 (R334SBS は先端から約 3cm) を保護するために、アンテナチューブにアンテナを必ず入れ、先端を外部に出さないでください。

注意 : R334SBS / R334SBS-E 受信機は、外付けアンテナとケース内部にアンテナがあるダイバーシティー方式です。受信機上面に障害物があると、受信状態が悪くなり操作不能になる危険性があります。そのため、この場所に配線や電子機器を載せたり、ステッカーを貼りつけたりしないでください。受信距離に影響があります。



⚠ 警告

- ❶ 図で示すような高い場所にアンテナ部分を設置してください。
- ❷ アンテナ部分、同軸ケーブル部分は切断したり束ねたりしない。
- ❸ アンテナ部分は絶対に、折り曲げないでください。また、同軸ケーブル部分を無理に折り曲げないでください。
- ❹ 受信機アンテナの同軸ケーブルやアンテナを無理に引っ張らないでください。
受信機内部破損の原因となります。
- ❺ 受信機はバッテリー、モーターコントローラー、モーターやシリコンコードなどのノイズ源から可能な限り離す。特にアンテナ線は絶対に近付けない。
ノイズ源に近付けると、受信感度が下がって走行(走航)範囲が狭くなって暴走の原因となります。
- ❻ 受信機はスポンジゴム等で包むか、厚手の両面テープで固定し、防振対策を行う。湿気がある場合は、水の浸入を防ぐためにビニール袋等に受信機を入れ、防水対策をしてください。

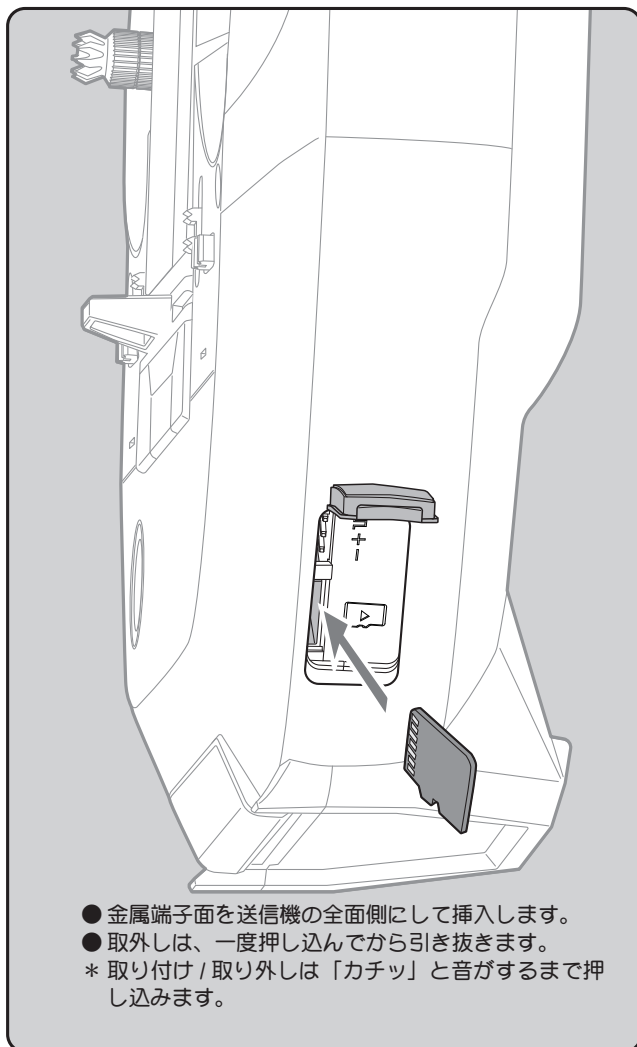
⚠ 注意

- ❶ サーボは必ず下記条件で使用してください。
 - ・受信機側使用電源：3.7V ～ 7.4V （乾電池の使用禁止）
 - ・送信機の受信機設定が T-FHSS SR の SR モード ON のチャンネル：弊社 SR 対応サーボで SR モードに設定したサーボ
 - ・送信機の受信機設定が T-FHSS SR の SR モード OFF のチャンネル：弊社 SR 対応サーボで SR モードに設定していないサーボと弊社製カー用デジタルサーボ
 - ・受信機レスポンスタイプ設定が T-FHSS, デジタル（ハイスピード）：弊社製カー用デジタルサーボ
 - ・受信機レスポンスタイプ設定が T-FHSS, アナログ（ノーマル）：弊社製カー用全サーボ（SR モード以外）

注意：ただし、T-FHSS のデジタル（ハイスピード）設定の場合、デジタルサーボ（BLS シリーズのブラシレスサーボを含む）の使用が条件となります。アナログサーボはデジタル（ハイスピード）設定では正常に動作できません。また、受信機に接続されているサーボ、その他の機器の故障の原因となります。

microSD カード（市販品）の取り扱い

市販の microSD カードに、T7XC のモデルデータの保存と、テレメトリーのログデータを保存できます。また、T7XC のソフトのアップデートが弊社ホームページへ公開された場合、microSD カードを使用してアップデートができます。



(市販品)
SD 規格および、SDHC 規格準拠
の microSD カード

(カードにより動作しないものもあります)

* メモリーカード内のデータは故障や損害の内容・原因にかかわらず補償いたしかねます。メモリーカード内の大切なデータは、必ずバックアップをお取りください。

⚠ 注意

❶ microSD カードの取り付けおよび取り出しは、必ず送信機の電源が off の状態で行う。

アクセス中（読み込みや書き込み）microSD カードを取り出すと、カード自体やデータが破壊される恐れがあります。

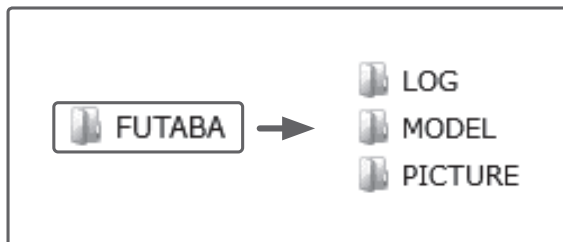
❷ microSD カードスロットを顔に向けて、取り付け / 取り外しをしないでください。

急に指を離して microSD カードが飛び出し、顔に当たると危険です。

❸ microSD カードは精密機器のため、無理な力や衝撃を与えない。

● microSD カードを T7XC に取り付けると **"Futaba"** という名前のフォルダが作成されます。その中に **"LOG"** と **"MODEL"** というフォルダが作成されます。**"MODEL"** というフォルダの中にモデルデータが保存され、**"LOG"** というフォルダの中にテレメトリーのログデータが保存されます。また、スイッチ設定（P70）でプッシュスイッチに **"画面保存"** を設定すると、このスイッチで T7XC に表示されている画面の画像が保存されます。保存された画像が **"PICTURE"** というフォルダに保存されます。スイッチで画面保存を実行するまでは、**"PICTURE"** フォルダは作成されません。

● microSD カードに記録したテレメトリーのログデータは、弊社ホームページで公開しているテレメトリーログコンバーターで、csv 形式に変換することができます。ログファイルをコピーまたは移動する場合は、必ず **.FLI** と **.FLD** ファイルの両方を選択してください。



お
使
い
に
な
る
前
に

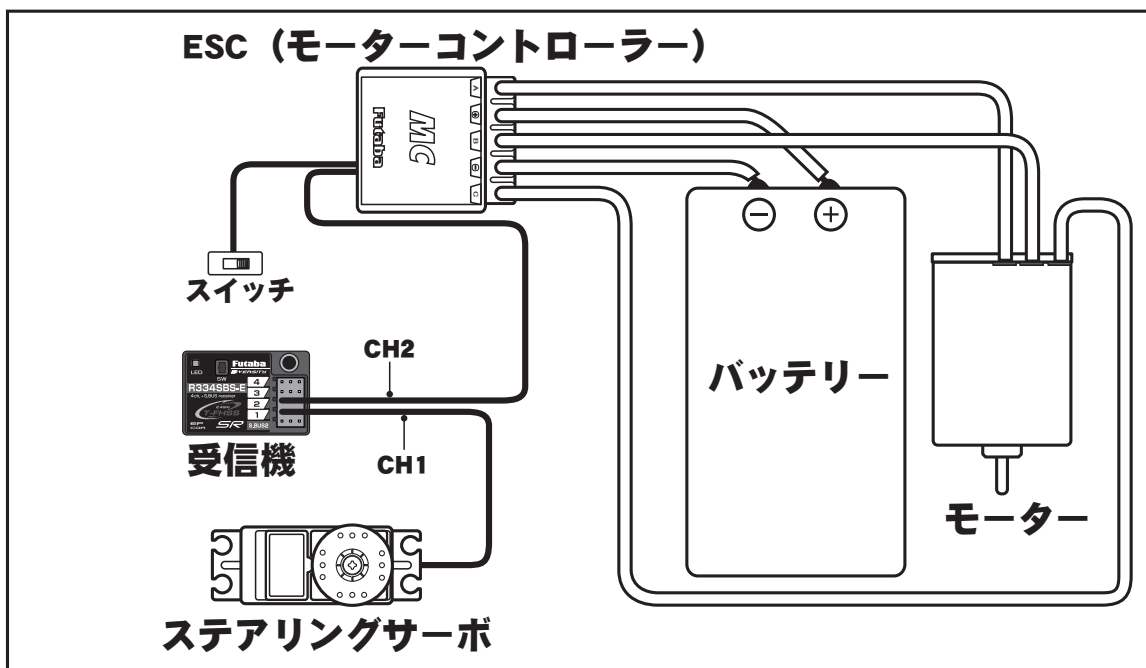
受信機・サーボの接続方法

受信機、サーボ等は下の図のように接続してください。また、次のページの「組込時の安全上の注意」を守って、接続および組込みをしてください。

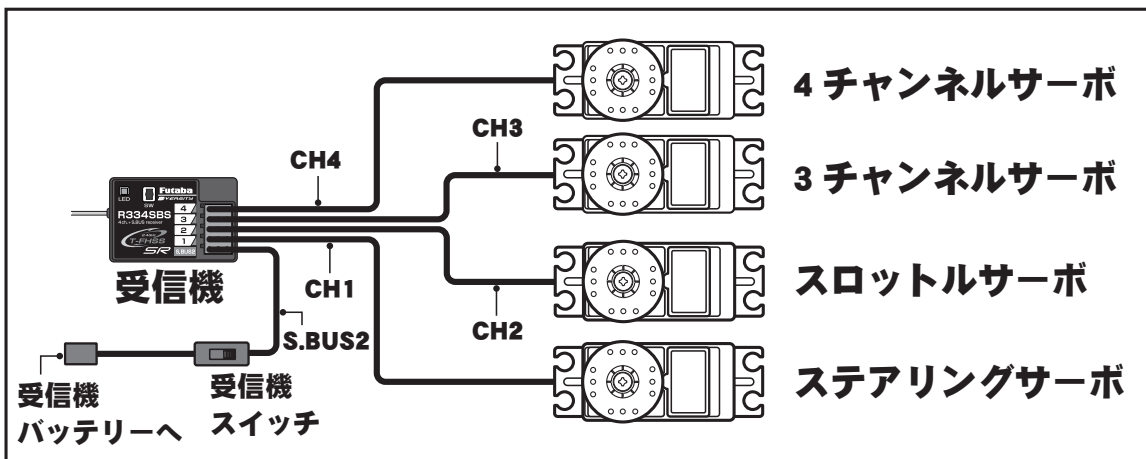
下の図は一例を示します。ESC（モーターコントローラー）からモーターおよびバッテリーへの接続方法は、使用する ESC の種類により違いがあります。

ESC やサーボは別途ご準備ください。

ESC（モーターコントローラー）を使用する接続例

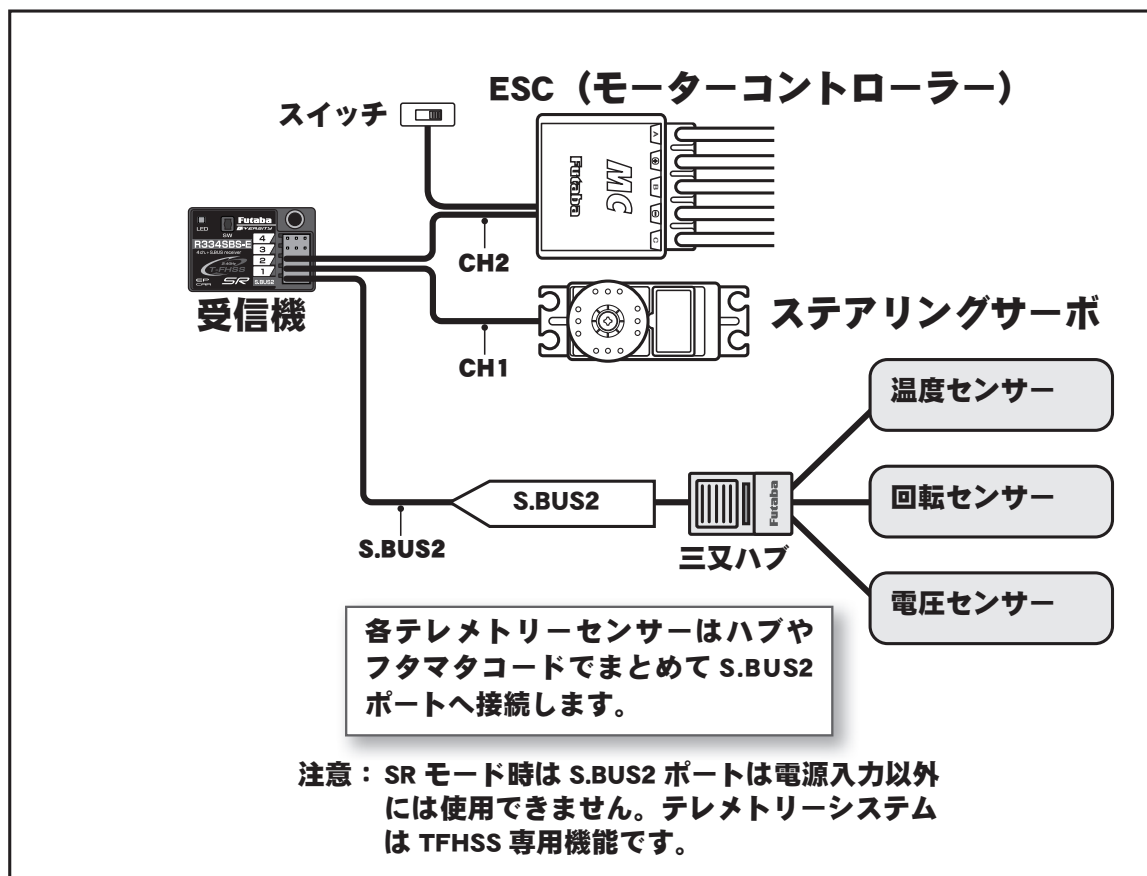


エンジンカーの接続例



注意：R334SBS-E は電動カー用です。エンジンカーには使用しないでください。

テレメトリセンサーを使用した S.BUS の接続例



組込時の安全上の注意

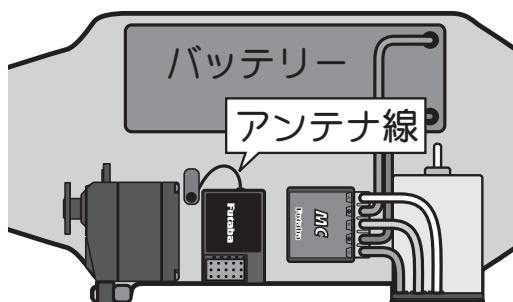
警告

受信機 (受信機アンテナ)

- ⊙ アンテナ線は切断したり束ねたりしない。
- ⊙ アンテナ線はサーボや ESC (モーターコントローラー) のリード線と一緒に束ねない。
- ⊙ モーターや動力バッテリー等の大電流が流れる部分 (配線を含む) に近付けない (1cm 以上離す)。
- ⊙ 受信機上面にも内部アンテナがあります。この場所に配線や電子機器を載せたり、ステッカーを貼ったりしないでください。受信距離に影響があります。
- ❶ アンテナホルダーは受信機にできるだけ近い位置に取り付ける。

切断したり、束ねたり、ノイズ源に近付けると、受信感度が下がって走行 (走航) 範囲が狭くなって暴走の原因となります。

* ノイズは金属やカーボン等の電気を通すものを伝わってくるので、それらのパーツからも離してください。



受信機はバッテリー、ESC、モーターやシリコンコードなどのノイズ源から可能な限り離す。特にアンテナ線は絶対に近付けない。

左図の例は、R334SBS の場合です。R334SBS-E はケースの上面にアンテナを配置します。

⚠ 警告

受信機の防振／防水

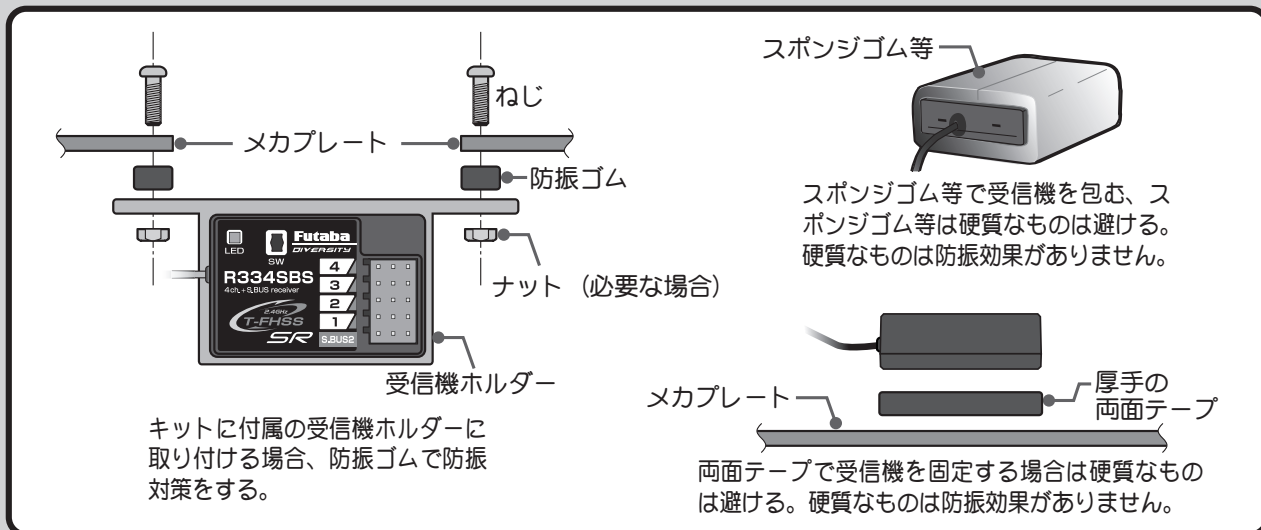
(車の場合)

- ① 受信機はスポンジゴム等で包むか、厚手の両面テープで固定し、防振対策を行う。
- ① キットに付属の受信機ホルダーを使用する場合、防振ゴム（ラバーグロメット）を介して車体に取り付ける。

(ボートの場合)

- ① 受信機はスポンジゴム等で包んで防振対策をする。また、ビニール袋等に入れて、防水対策を行う。

強い振動やショックを受けた場合や、水滴の侵入によって誤動作すると暴走します。



コネクター接続

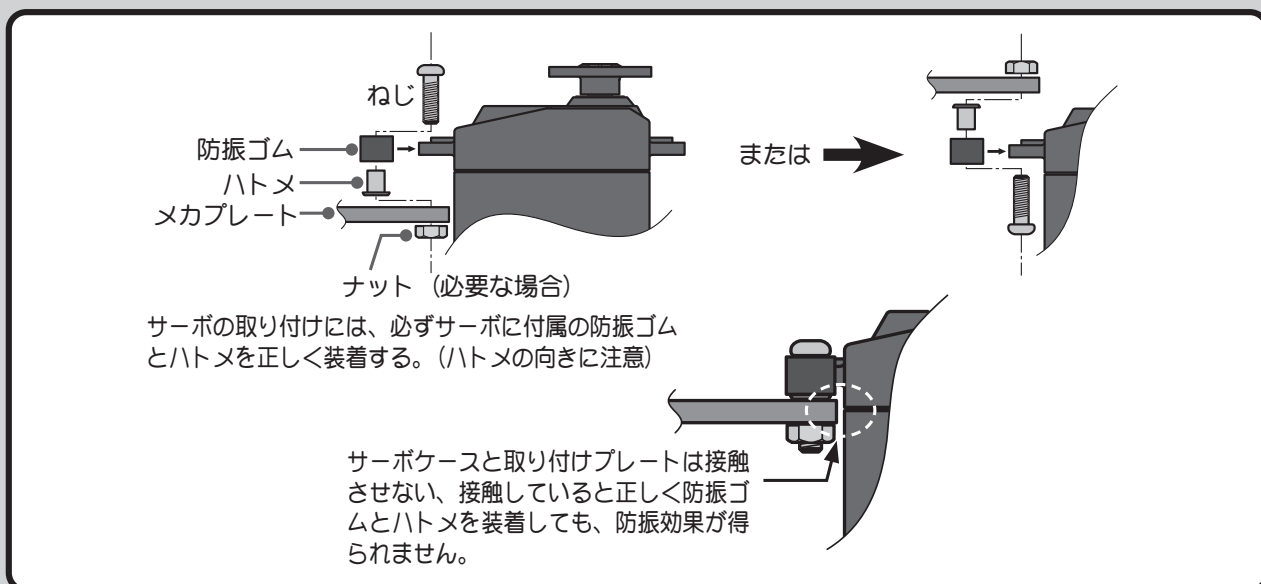
- ① サーボ、電池等の接続コネクターは奥まで確実に挿入する。

走行（走航）中に、車体（船体）の振動等でコネクターが抜けると暴走の危険があります。

サーボの取り付け

- ① サーボは防振ゴム（ラバーグロメット）を使用してサーボマウント等に取り付ける。また、サーボケースがサーボマウント等の車体（船体）の一部に直接触れないように搭載する。

サーボケースが直接車体（船体）に接触している状態が続くと、振動が直接サーボに伝わり、サーボが破損し暴走します。



⚠ 警告

サーボの動作中

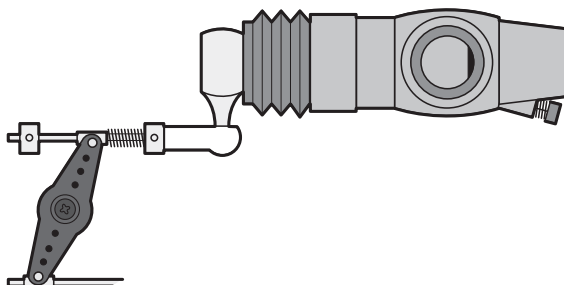
- ❶ 各舵のサーボを動作中いっぱい動作させてみて、プッシュロッドがひっかかったり、たわんだりしないように調整する。

サーボホーンに無理な力が加わった状態が続くと、サーボが破損、または電池の消耗が早くなって暴走



ステアリングサーボは、車体側の最大舵角で、サーボに無理な力が加わらないように調整する。

● ストッパーに触れるところで最大動作量を決定



スロットルサーボはエンジンのキャブレターが全開、全閉とブレーキをいっぱいにかけたときに無理な力が加わらないように調整する。

特にブレーキは、走行中にブレーキ本体が熱により効きが悪くなるため、ATL でブレーキ舵角を増やすケースがありますが、走行前に適正な最大舵角量をエンドポイントで調整し、走行中に ATL で舵角を増やしてもサーボに無理な力が加わらないようにする。

ESC (モーターコントローラー)

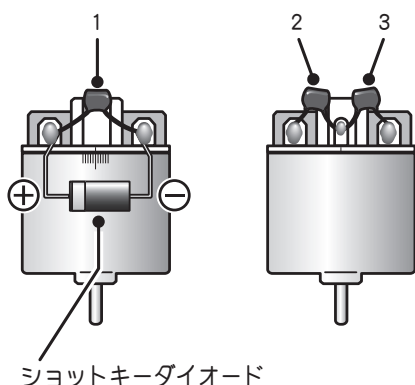
- ❶ ヒートシンク (放熱板) は、アルミやカーボンシャーシ等の電気を通すものに触れないように取り付け。

走行 (走航) 中に触れて、他の回路とショートした場合、暴走します。

ブラシモーターのノイズ対策

- ❶ 走行 (走航) 用 ブラシモーターには、必ずノイズ取りのコンデンサーを取り付ける。

ノイズキラーコンデンサーがない場合、ノイズの影響で、走行 (走航) 可能範囲が狭くなり、暴走の危険があります。



ノイズキラーコンデンサーがないブラシモーター、あるいはノイズキラーコンデンサーが不十分な場合、受信機等を誤動作させる可能性があります。必ずコンデンサーを3個モーターにはんだ付けしてください。

また、ショットキーダイオードを必要とする ESC を使用する場合は、カソード (白い帯) 側を+側に、もう一方の端子を-側にハンダ付けしてください。モーターの極性表示は必ずしも実際の配線の極性とは合っていないのでご注意ください。この極性を誤ると、ESC およびダイオードを破損します。

その他のノイズ対策

- ❶ 車体 (船体) に、振動で金属同士が接触するような部分がないように整備する。

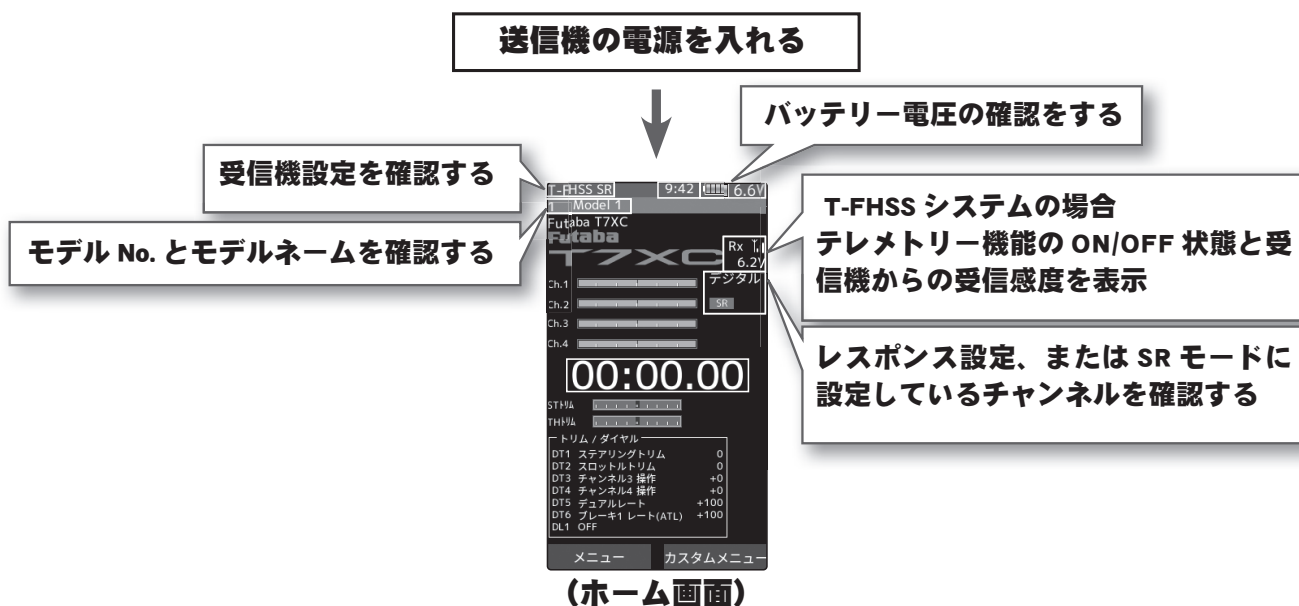
このような部分があると、受信特性に影響を受け、走行 (走航) 可能範囲が狭くなり、暴走の危険があります。

設定前の準備

送信機の各機能を設定する前に、次の各項目を確認し、必要な場合は最初に設定します。

電源スイッチ（PWR）を入れたときの表示について

電源スイッチを入れると、現在選択しているモデル名を表示します。これから使用するモデル名が表示しているか確認してください。モデルの変更が必要な場合は、モデルメニューのモデルセレクト機能（P193）で変更してください。



* 画像は画面の説明の関係で合成しています。実際にはレスポンス（デジタル／ノーマル）と SR モードは同時に表示しません。また、T-FHSS システム以外のシステムでは、テレメトリー機能の ON/OFF 状態と受信機からの受信感度は表示しません。

高周波出力と受信機設定の確認

使用する受信機のシステムに設定しているか確認します。

- * "PWR" 側の電源スイッチを ON にし、正常に電波が出力している場合、右図のように "T-FHSS SR" / "T-FHSS" / "S-FHSS" / "FASST" のいずれかを表示します。使用する受信機とシステムの設定が違っている場合は、"受信機設定" で変更してください。表示しない場合は、異常や故障が考えられます。弊社カスタマーサービスセンターにご連絡ください。

"DSP" 側で画面表示している場合は、同じ場所に "ディスプレイ" と表示します。

- * T7XC セットに付属の R334SBS / R334SBS-E は T-FHSS SR、または T-FHSS システムで動作しますので、この表示は T-FHSS SR、または T-FHSS になっている必要があります。

- * T7XC 送信機は、R314SB / R304SB の T-FHSS システム受信機や、R2104GF などの S-FHSS と FASST システムの受信機が使用できます。ただし FASST システムで使用できる受信機は、R614FS/FF/FF-E, R604FS/FSE の "C2" タイプ専用です。R603FS/FF の C1 タイプには使用できません。

"T-FHSS SR" と表示



T-FHSS SR の場合

受信機設定の変更および、送信機と受信機のリンク方法

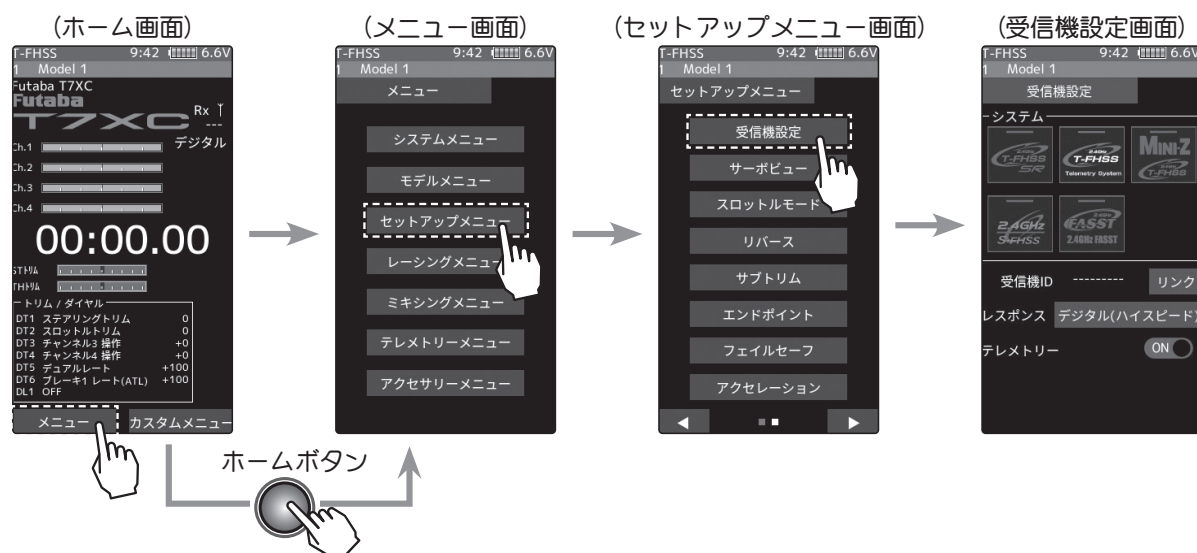
最初に "受信機設定" でシステムの設定をします。次に送信機と受信機をリンクさせ、送信機の ID 番号を受信機が記憶し、他の送信機からの信号を受け付けないようにします。また、テレメトリーシステム T-FHSS は、同時に受信機の ID 番号を送信機が記憶し、他の受信機からのデータを受け付けないようにします。

受信機タイプの設定方法と、送信機と受信機のリンク方法を説明します。

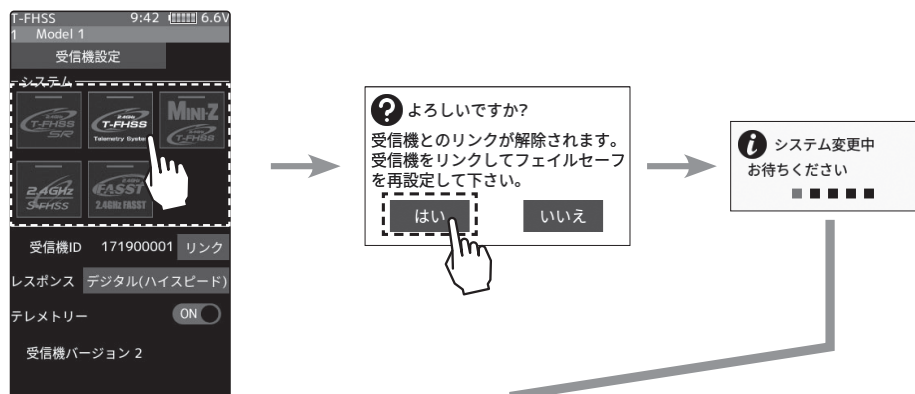
ホームボタンとタッチパネルで操作します。

受信機設定の変更方法

- 1 電源スイッチ (PWR) を入れます。ディスプレイ (DSP) 側では、リンクはできません。ホーム画面でホームボタンまたは、タッチパネルの【メニュー】をタッチして、次に【セットアップメニュー】→【受信機設定】をタッチして、"受信機設定" 画面を表示します。

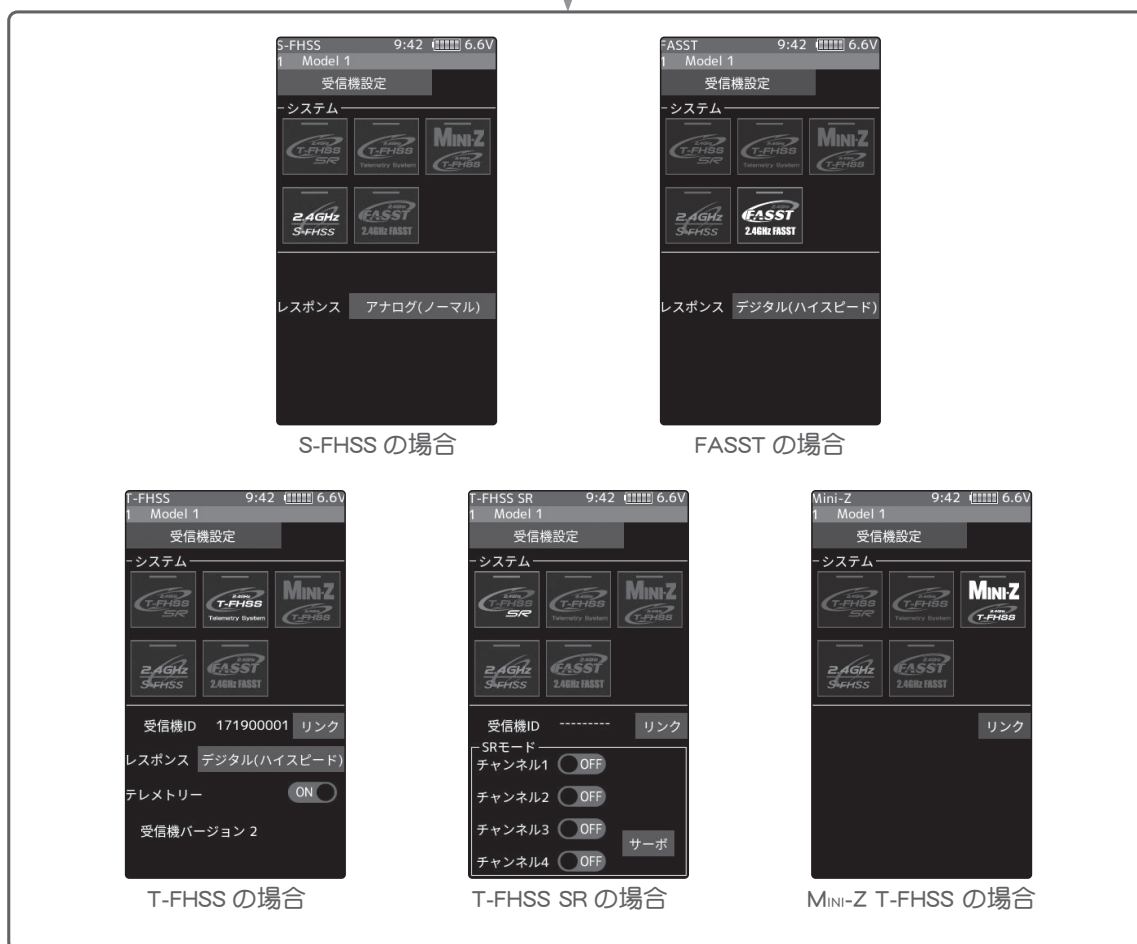


- 2 受信機設定**で T-FHSS SR / T-FHSS / S-FHSS / FASST / MINI-Z T-FHSS の中から、設定するシステムを選びタッチします。確認画面を表示しますので実行する場合は **【はい】** をタッチすると、ピピッと電子音がして設定が終了します。キャンセルする場合は **【いいえ】** を選びタッチします。システムを変更した場合は、必ず受信機とリンクさせ、電源を入れなおします。



T-FHSS SR / T-FHSS / S-FHSS / FASST / MINI-Z T-FHSS の中から、設定するシステムを選びタッチ

* 同じ受信機でも、システムを変更した場合は、必ず受信機と再リンクし、受信機の電源を入れなおします。(P37 ~ 39)



- * ここまでの設定が終わったら、FASST システム (R614 シリーズ / R604 シリーズ) と、S-FHSS システム (R2104GF、R204GF-E 等) 受信機を使用する場合は、P38 の **【T-FHSS SR / T-FHSS 以外の受信機】** に進んでください。T-FHSS SR 受信機 (R334SBS / R334SBS-E 等) と T-FHSS 受信機 (R314SB 等) は、次の **3** に進みます。

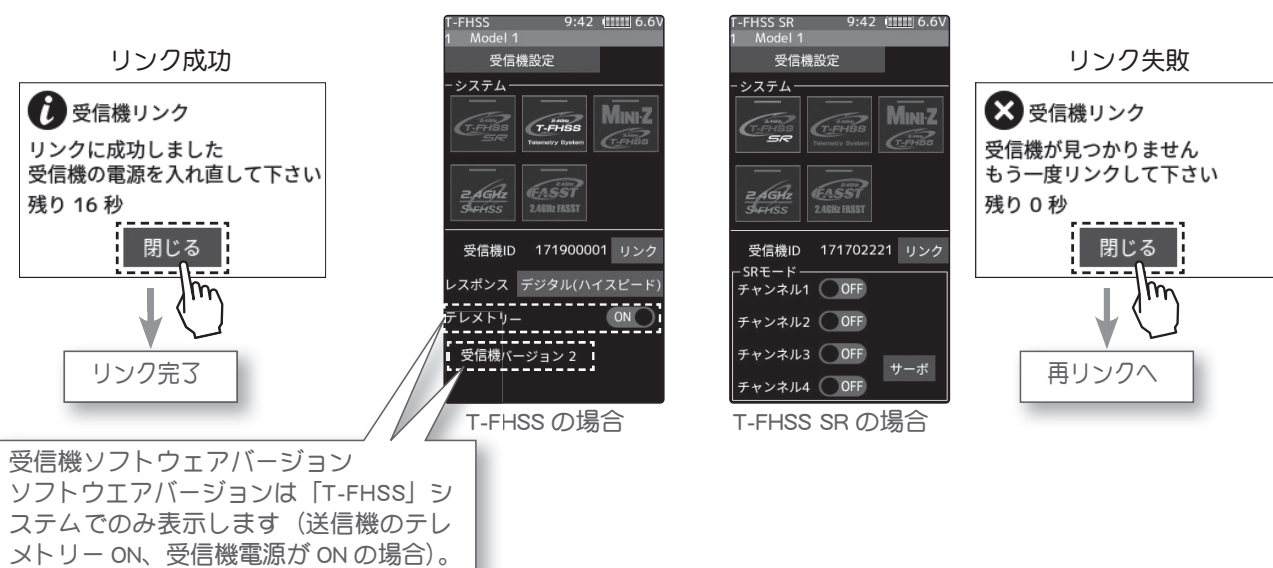
参考:T-FHSS SR システムは、SR モード対応サーボを使用して、T7XC の SR モードとサーボの SR モードの両方を ON にしたとき、最高の性能を発揮します。

- 送信機と受信機を 50cm 以内に近付け、(お互いのアンテナは接触させない) 受信機側の電源を ON にします。
- 送信機 T7XC 画面の【リンク】をタッチすると、チャイム音がして T7XC が 20 秒間のリンクモードに入ります。20 秒のリンクモードの間に受信機側の Link スイッチを約 2 秒以上押します。



- LED が赤点灯から緑点灯に変わり、T7XC のピピッという電子音と、画面に「リンクに成功しました」と表示したら、受信機の Link スイッチを離し、画面の【閉じる】をタッチします。これでお互いの ID の読み込みが終わり、T7XC の画面に受信機の ID ナンバーを表示します。T-FHSS の場合、受信機ソフトウェアバージョンも表示します。「受信機が見つかりません」とエラー画面を表示した場合は、リンクが失敗していますので【閉じる】をタッチし画面を閉じます。設定内容を確認して、再度リンク操作をしてください。設定が完了したら一旦受信機の電源を入れなおします。

初期設定

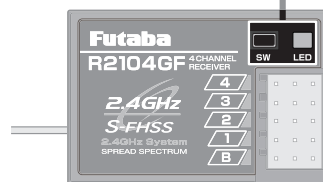


- T7XC と T-FHSS SR 受信機 (R334SBS / R334SBS-E 等) または、T-FHSS 受信機 (R314SB 等) は、モデルメモリーごとに最後にリンクした組み合わせで、送信機と受信機が互いに ID を記憶します。
- T7XC は各モデルメモリー毎に、受信機の ID を 1 つしか記憶できません。そのため同じモデルメモリーで複数の受信機は使用できません。同じモデルメモリーで受信機を交換する場合は、以前リンク済みの受信機でも再度リンクさせる必要があります。
- 複数の受信機を使用する場合は、T7XC のモデルメモリーごとにリンクした組み合わせで使用してください。
1 台の受信機で、複数のモデルメモリーにリンクして使用することは可能です。
- テレメトリー機能の通信状態は、T7XC のホーム画面で確認できます。(T-FHSS の場合)

T-FHSS SR / T-FHSS 以外の受信機

- 1 送信機と受信機を 50cm 以内に近づけます。
- 2 電源スイッチ (PWR) を入れます。ディスプレイ (DSP) 側では、リンクはできません。
- 3 受信機側の電源 ON にします。
- 4 受信機側の Link スイッチを 1 秒以上押し続け LED が「緑」の点灯に変わったら離します。これにより、受信機は送信機 ID の読み込みが終わります。実際にサーボの動作を確認してください。

LED と Link スイッチ



R2104GF の場合

注意：受信機 LED の状態を確認

信号を受信していない状態	赤点灯
受信状態 OK (ID 設定完了)	緑点灯
受信状態 (ID 設定前、または不一致)	緑点滅 ^{*1} T-FHSS (SR) は赤点灯 ^{*2}
自動復旧できない異常 (EEPROM 異常, その他)	赤／緑の交互点灯

^{*1} 緑点滅は、一時的に赤点灯する場合があります。

^{*2} T-FHSS と T-FHSS SR 受信機は赤点灯します。

MINI-Z 受信機 RA-42 のリンク

1 送信機と受信機（車体）を 50cm 以内に近付けます。

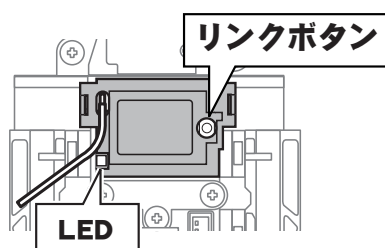
（※ アンテナ同士をできるだけ近接します。）

受信機 RA-42 の電源を ON します。

2 画面のリンクボタンをタッチします。

送信機がリンクモードに入ります。

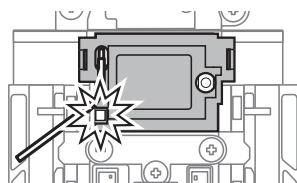
3 MINI-Z 受信機 RA-42 のリンクスイッチを 2 秒以上押した後、放します。



4 RA-42 の LED が 2 秒点灯し再度点滅したら、送信機のリンク画面の【閉じる】ボタンをタッチして、リンクモードから通常モードにします。確認してください。

5 RA-42 の LED が点灯したら、リンク成功です。

※リンク操作時、周囲で他の T-FHSS Mini-Z システムがリンク操作されている場合、それらの送信機のうちの 1 台とリンクしてしまう場合があります。このため、リンク操作が完了したら、必ず動作を確認してください。



初期設定

警告

- ❗ ID 番号の読み込み操作を行うときは、必ずエンジンを停止させた状態（モーターの接続を外した状態）で行う。

不意に車（ボート）が暴走する危険があります。

- ❗ ID 番号の読み込み操作を行った後は、サーボの動作確認を必ず行ってください。

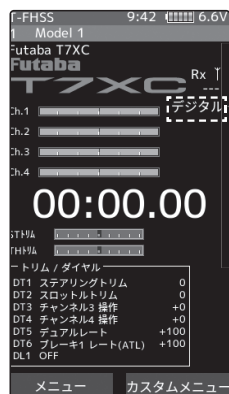
注意

- ❗ 走行前に必ず受信機の電源を入れなおしてから、サーボの動作テストを行い、自分の送信機の ID 番号を読み込んでいることを確認してください。

サーキットなど、自分以外の Futaba 2.4GHz システムの電波が送信している場所で、ID 番号の読み込み操作を行うと別の送信機の ID 番号を読み込んで、受信機の LED が緑点灯に変わっている場合があります。この場合、自分の送信機でコントロールできません。

レスポンス / SR モードの確認

ここではレスポンスまたは、SR モードの設定が使用するサーボや、その他の機器と一致しているか確認してください。



レスポンスモードを表示
 "デジタル":
 デジタル (ハイスピード) 設定
 "アナログ":
 アナログ (ノーマル) 設定

T-FHSS, S-FHSS, FASST の場合



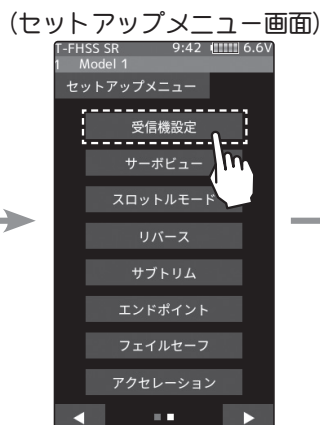
SR モードの ON/OFF を表示
 [SR] と表示している場合は、SR
 モードが ON
 表示していない場合は、SR モー
 ドが OFF
 チャンネルに ON/OFF が設定でき
 ます。

T-FHSS SR の場合

設定が異なる場合は次の方法で変更してください。

レスポンス / SR モードの設定方法

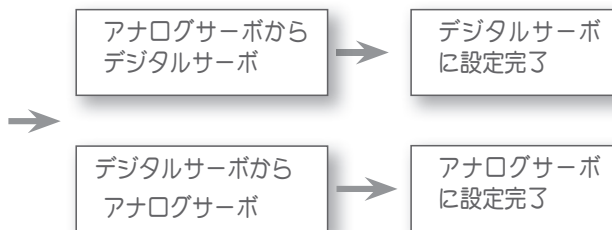
- 1 ホーム画面からホームボタン、またはタッチパネルの【メニュー】をタッチ、次に表示の【セットアップメニュー】→【受信機設定】をタッチして、"受信機設定"画面を表示します。



初期設定



- 2 T-FHSS / S-FHSS / FASST の場合、受信機設定で "デジタル(ハイスピード)" または "アナログ(ノーマル)" をタッチして変更します。変更すると表示が変わります。受信機の電源が入っている場合、必ず電源を入れなおしてください。



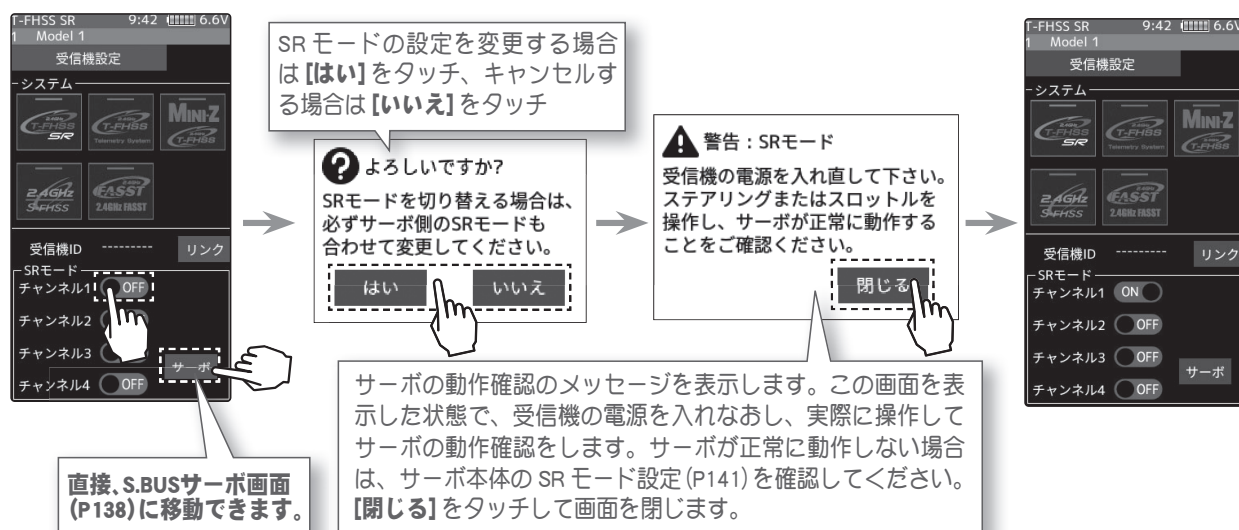
S-FHSS システムのアナログ (ノーマル) モードに設定すると、7ch まで使用できます。

T-FHSS SR の場合、T-FHSS に比べ大幅にレスポンスアップさせる「SRモード」が使用できます。**受信機設定**でSRモードの各チャンネルの(ON●)/(●OFF)をタッチして変更します。変更すると表示が変わります。動作確認前に必ず受信機の電源を入れなおします。SRモードは、チャンネル単位でON/OFFの設定ができます。通常のサーボまたはESCを使用する場合は、接続するチャンネルのSRモードを(●OFF)にしてください。

注意：

＊ SRモードONでは、通常のサーボは動作しません。SRモードに対応した弊社 S.BUS サーボを S.BUS サーボ画面でSRモードに設定してご使用ください(P138)。また、SRモードOFFの場合、SRモードに設定したサーボは使用できませんので、サーボを S.BUS サーボメニューでノーマルモードに設定してください。間違った組み合わせで使用すると、サーボ、その他の機器が故障しますので注意してください。

＊ SRモードに対応していないESCやジャイロ、その他の機器はSRモードで動作しません。



レスポンス／SRモードの設定と対応サーボ

システム	レスポンス／SRモード	対応サーボ
T-FHSS SR	SRモードチャンネル ON	・ 弊社製カー用 SR 対応サーボで SR モード
	SRモードチャンネル OFF	・ 弊社製カー用 SR 対応サーボでノーマルモード ・ 弊社製カー用デジタルサーボ
T-FHSS	デジタル (ハイスピード)	・ 弊社製カー用 SR 対応サーボでノーマルモード ・ 弊社製カー用デジタルサーボ
	アナログ (ノーマル)	・ 弊社製カー用全サーボ (弊社製カー用 SR 対応サーボの場合ノーマルモード)
S-FHSS	デジタル (ハイスピード)	・ 弊社製カー用 SR 対応サーボでノーマルモード ・ 弊社製カー用デジタルサーボ
	アナログ (ノーマル)	・ 弊社製カー用全サーボ (弊社製カー用 SR 対応サーボの場合ノーマルモード)
FASST	デジタル (ハイスピード)	・ 弊社製カー用 SR 対応サーボでノーマルモード ・ 弊社製カー用デジタルサーボ
	アナログ (ノーマル)	・ 弊社製カー用全サーボ (弊社製カー用 SR 対応サーボの場合ノーマルモード)

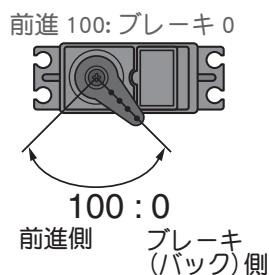
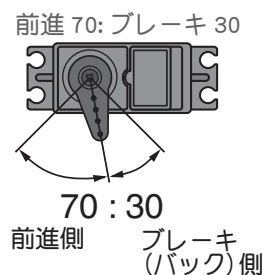
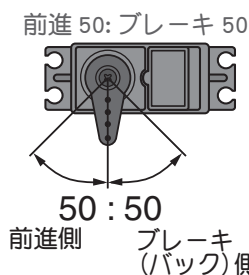
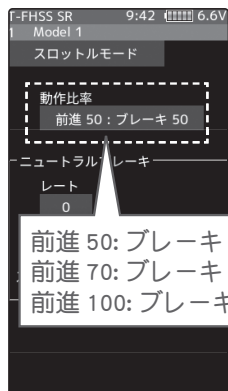
警告

① T7XC の受信機設定と使用するサーボは必ず決められた条件で使用する。

その他の条件では動作できなかったり、動作できる場合でも所定の性能は発揮されません。また、サーボ、その他の機器の故障の原因となります。他社製品との組み合わせにより発生した損害等につきましては、当社では責任を負いません。

スロットルモードの確認

スロットルモード機能 (P62) "動作比率" は、スロットルスティック操作による、スロットルサーボの動作量を 50 : 50、70 : 30 または 100 : 0 に設定できます。ボートに使用するときなど 100 : 0 に設定するとスティックのブレーキ側動作をカットできます。



スロットルモードを "前進 100 : ブレーキ 0" に変更すると、安全のためスロットルスティックがスロー以外の位置で電源ONするとアラームがなります。必ずスロー位置で電源をONしてください。スロットルスティックをスローにするとアラームは止まります。(画面表示の詳細は P213 を参照)

トリム類の初期設定

●ステアリングトリムとスロットルトリムの使用方法

車体の組み立てが終わり、実際に走行させるときに、ステアリングとスロットルのニュートラルを微調整するために使用します。

●ステアリングスティックから指を離した状態で、ゆっくり前進させたとき、車体が右方向や左方向に曲がって行かないようにステアリングトリムで調整します。

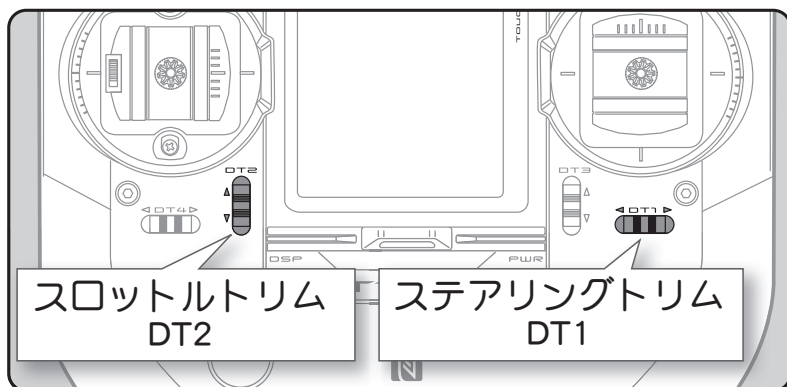
●スロットルスティックから指を離した状態で車体が停止しているように、また、走行中にスロットルスティックから指を放して、ブレーキがかからないようにスロットルトリムで調整します。

●ステアリングトリム (DT1) の確認

初期設定では、ステアリングスティックの下にあるデジタルトリム DT1 が、ステアリングトリムです。DT1 を操作して画面のステアリングトリム表示が移動することを確認してください。確認後 DT1 を操作して表示をセンター "0" の位置にしてください。

●スロットルトリム (DT2) の確認

初期設定では、スロットルスティックの下右側にあるデジタルトリム DT2 が、スロットルトリムです。DT2 を操作して画面のスロットルトリム表示が移動することを確認してください。確認後 DT2 を操作して表示をセンター "0" の位置にしてください。

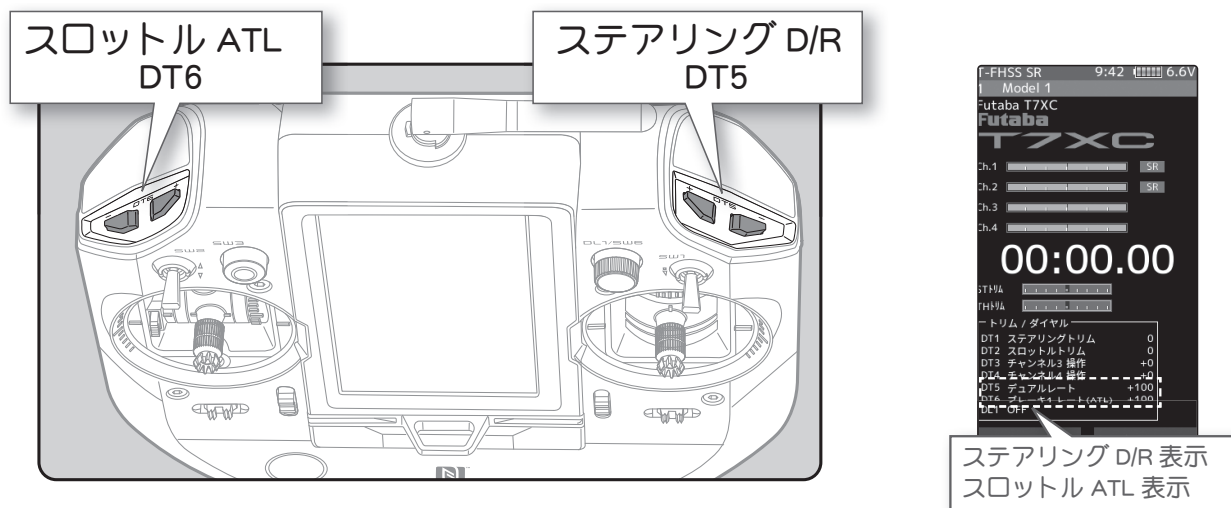


●ステアリングデュアルレート (DT5) の確認

初期設定では、送信機左肩にあるデジタルトリム DT5 が、ステアリングデュアルレート (D/R) です。DT5 の (+) または (-) ボタンを操作して、画面の D/R 表示の数値が変化することを確認してください。確認後は DT5 を操作して 100% に設定してください。

●スロットル ATL (DT6) の確認

初期設定では、送信機右肩にあるデジタルトリム DT6 (下側) が、スロットル ATL (ATL) です。DT6 の (+) または (-) ボタンを操作して、画面の ATL の数値が変化することを確認してください。確認後は DT6 を操作して 100% に設定してください。



(車体組込時の設定手順)

車体にサーボを組み込むときは、次の順で機能の設定をすることをおすすめします。

1 前ページの設定前の準備のトリム類の初期設定をすべて行う。

2 リバース機能でサーボ動作の方向を設定する。(P53)

それぞれのキットにより、サーボの組み込み方、リンケージの方向等が異なるため、送信機の操作に対して、サーボの動作方向を逆転させなければならない場合があります。

3 ニュートラルアジャスターで、スロットルスティックのニュートラル位置を設定します。(P21)

ニュートラルアジャスターを調整した場合は、アジャスター機能 (P207) でスロットル側の補正を行ってください。

4 サブトリムを設定し、サーボのニュートラルを合わせる。(P54)

5 自分の好みに合わせて、スロットルスティックの動作量を設定する。(P20)

ストロークを調整した場合は、アジャスター機能 (P207) でスロットル側の補正を行ってください。

6 エンドポイント機能で各チャンネルのサーボの舵角 (動作量) を調整する。(P55)

画面の操作

基本的な画面の操作方法を説明します。画面操作に使用するのは、ホームボタンと LCD 画面のタッチパネルです。

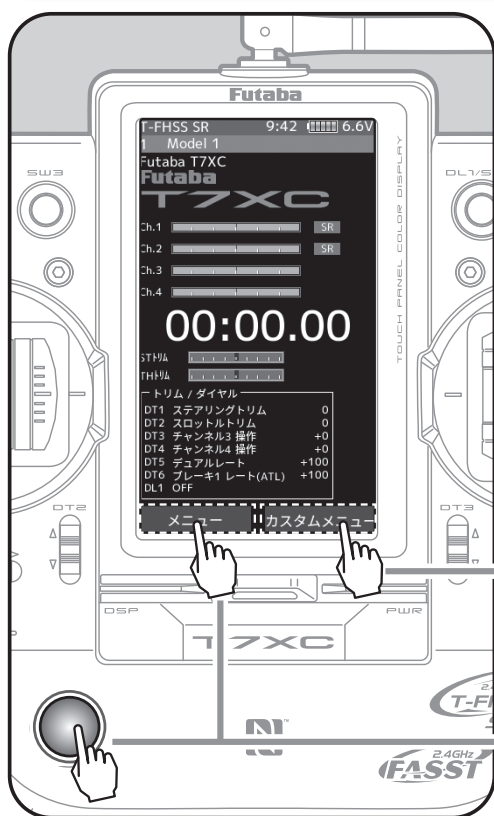
メニュー画面の表示



の表示は、ホームボタンを通常の短押し、またはタッチパネルをタッチ



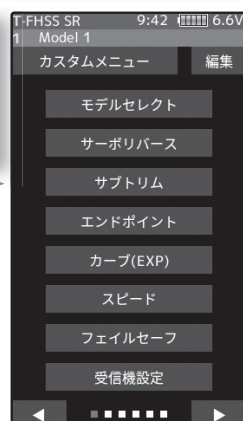
の表示は、ホームボタンを長押し



ホーム画面から、画面の**【カスタムメニュー】**をタッチするとカスタムメニュー画面に移動します。



メニュー画面



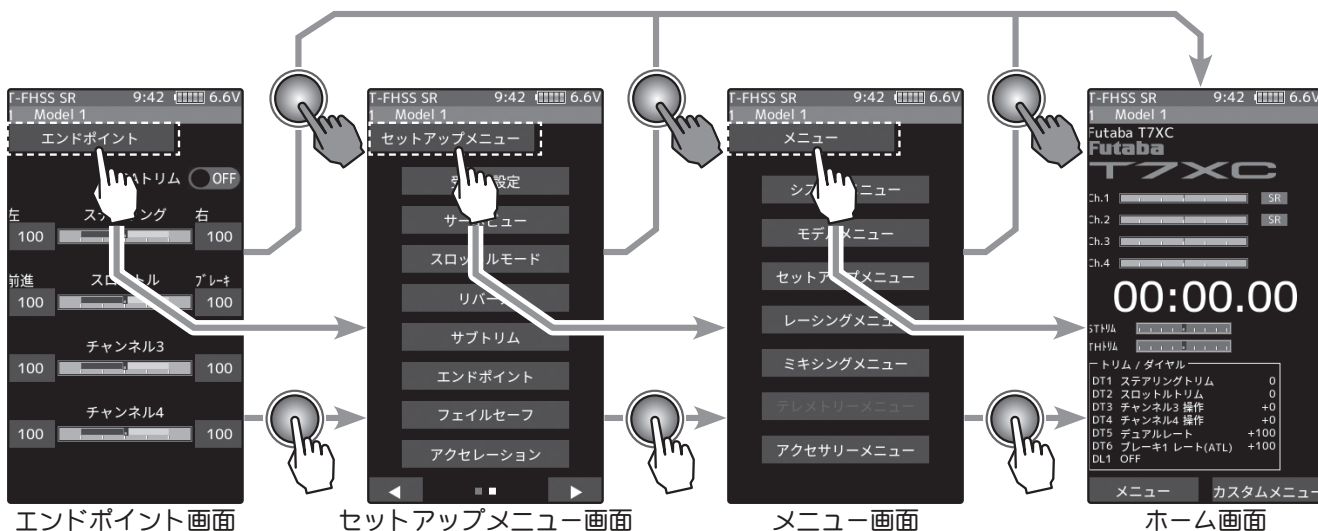
カスタムメニュー画面

ホーム画面から、ホームボタンを押すか、画面の**【メニュー】**をタッチするとメニュー画面に移動します。

* **【アクセサリメニュー】**の**「ホームボタン設定」**で、ホーム画面からホームボタンを押して移動する画面を、メニュー画面とカスタムメニュー画面から選ぶことができます。

* 各画面からホーム画面へは、以下の方法で戻ることができます。

* 下図の例は、エンドポイント画面からホーム画面まで戻する方法です。



ホームボタン設定

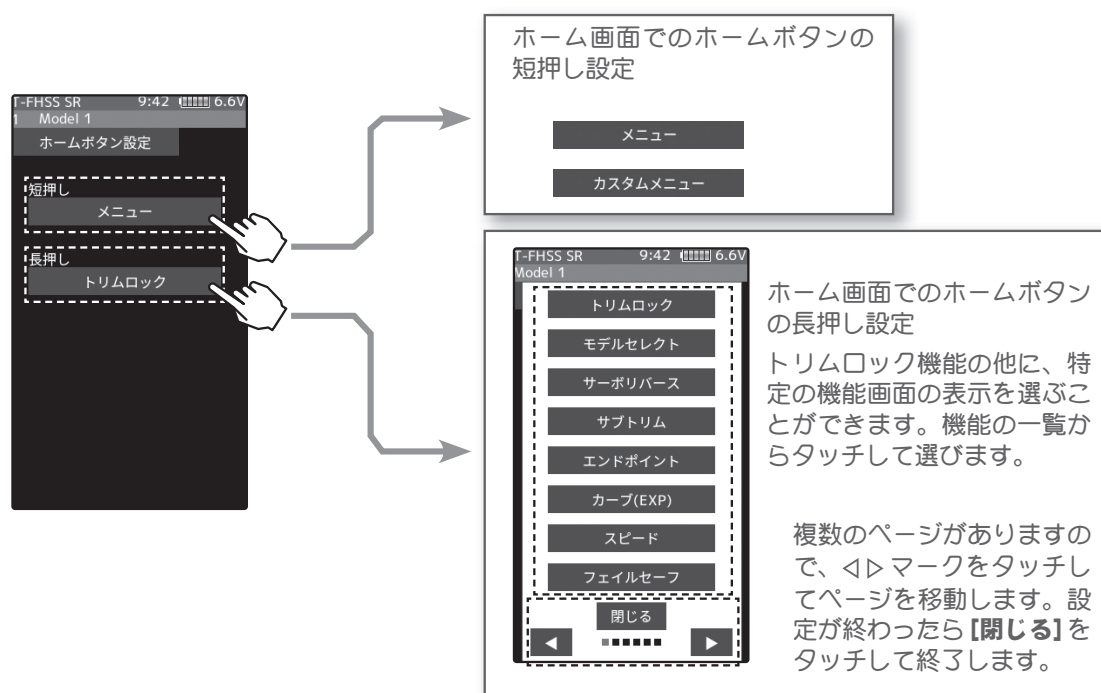
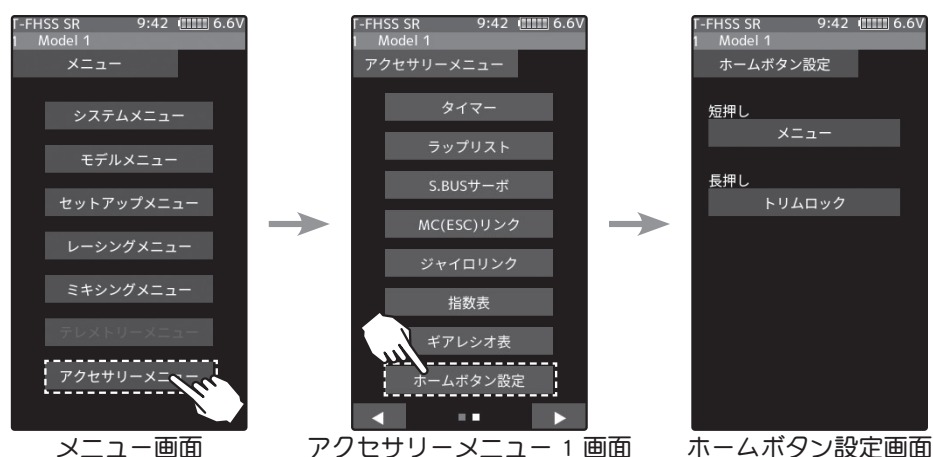
工場出荷時のホームボタンの働き

- ホーム画面からホームボタンを押すと、メニュー画面に移動します。
- メニュー画面や各設定画面でホームボタンを押すと、一つ前の画面に戻ります。
- メニュー画面や各設定画面でホームボタンを長押しすると、ホーム画面に戻ります。カスタムメニューから移動した設定画面も、同じように移動してホーム画面に戻ります。
- ホーム画面でホームボタンを長押しすると、トリムロックが働き、T7XCは本体のデジタルトリム DT1 ～ DT6 および、ダイヤル DL1 による操作を禁止することができます。
- ホーム画面からの通常の短押しと、長押しの働きを変更することができます。

*短押し ----- メニュー画面に移動、またはカスタムメニュー画面に移動

*長押し ----- トリムロック、または好みの機能画面に移動

ホームボタンの機能設定は、「アクセサリメニュー」の「ホームボタン設定」機能 (P164) を使って以下の方法で変更できます。



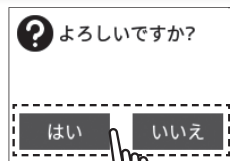
各機能の数値や設定データの変更方法

各機能の設定画面で、データの数値の増減方法は、設定する項目をタッチすると画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示しますので、パネルの **[-]** **[+]** をタッチして設定します。**[リセット]** をタッチすると初期値に戻ります。**[リセット]** がない項目があります。

* 下図の例は、エンドポイント画面です。



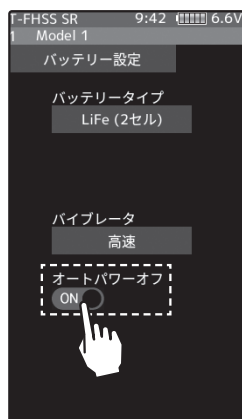
例：エンドポイント画面でステアリングの右側動作量を変更する場合、ステアリングの右をタッチして、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示したら、動作量を増やす場合は **[+]**、減らす場合は **[-]** をタッチして数値を変更します。タッチしたままにすると連続して数値が変化します。**[リセット]** をタッチすると、初期値に戻ります。



リセットを実行すると確認のポップアップを表示します。リセットする場合は **[はい]** をタッチ、リセットしない場合は **[いいえ]** をタッチ

ON/OFF の切り替え方法は、**(ON●)** または **(●OFF)** をタッチすると ON から OFF へ、OFF から ON へ切り替わります。

* 下図の例は、バッテリー設定画面です。



例：バッテリー設定画面でオートパワーオフ機能を OFF にする場合、オートパワーオフの **(ON●)** をタッチすると **(●OFF)** 表示になり、機能が OFF になります。

複数の項目から選ぶ設定方法は、**[項目]** をタッチするとリストのポップアップウィンドウを表示しますので、変更したい項目を選んでタッチして選びます。

* 下図の例は、システム情報画面です。



例：システム情報設定画面で、表示言語 **[日本語 (Japanese)]** をタッチすると、使用できる言語のポップアップを表示します。英語に変更する場合は、**[英語 (English)]** をタッチすると、画面の表示が英語になります。変更しない場合は、**[取り消し]** をタッチして画面を閉じます。使用できる言語は今後増えます。

* ファンクションによっては、タッチで項目が順番に切り替わる場合もあります。

カスタムメニュー

自分が良く使用する設定項目を、1 ページに 8 種類 6 ページで最大 48 種類までカスタムメニューに登録できます。モデルメモリーごとに違ったカスタムメニューを作成でき、また、モデルコピー (P194) をすると、カスタムメニューが他のモデルにコピーされます。

カスタムメニュー画面の表示と編集

カスタムメニュー画面は、ホーム画面で**【カスタムメニュー】**をタッチすると表示できます。(P44 参照)

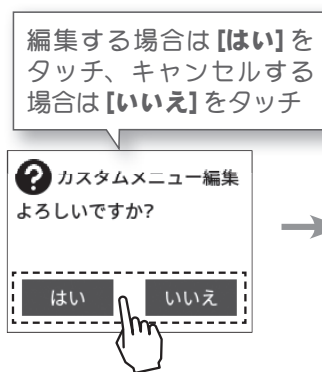
* ホームボタン設定 (P170) で、ホームボタンを押して表示するように変更もできます。

カスタムメニューの登録方法

- 1 カスタムメニュー画面で**【編集】**をタッチします。**【カスタムメニュー編集よろしいですか?】**と確認のポップアップが表示します。編集する場合は**【はい】**をタッチすると編集画面になります。編集しない場合は**【いいえ】**をタッチしてください。

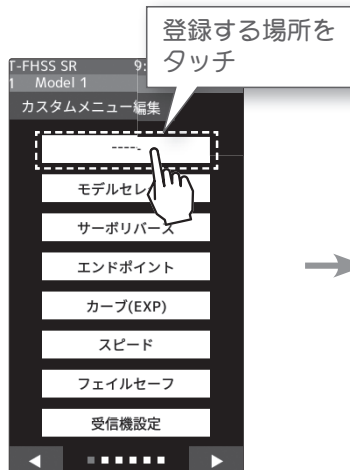


カスタムメニュー画面

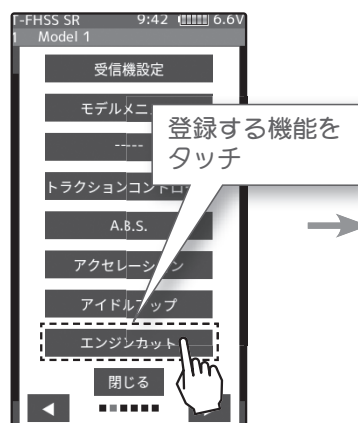


カスタムメニュー編集画面

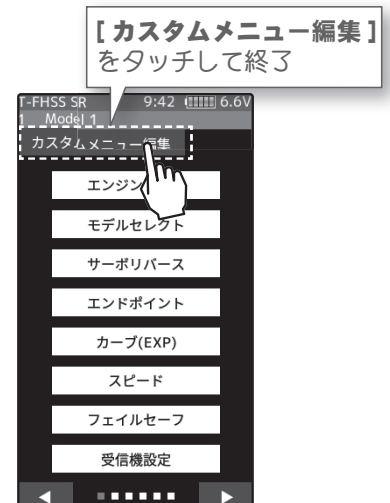
- 2 機能を登録する場所をタッチします。選べる機能のリストが表示しますので、必要な機能をタッチするとその場所に登録できます。



カスタムメニュー編集画面



カスタムメニューリスト画面



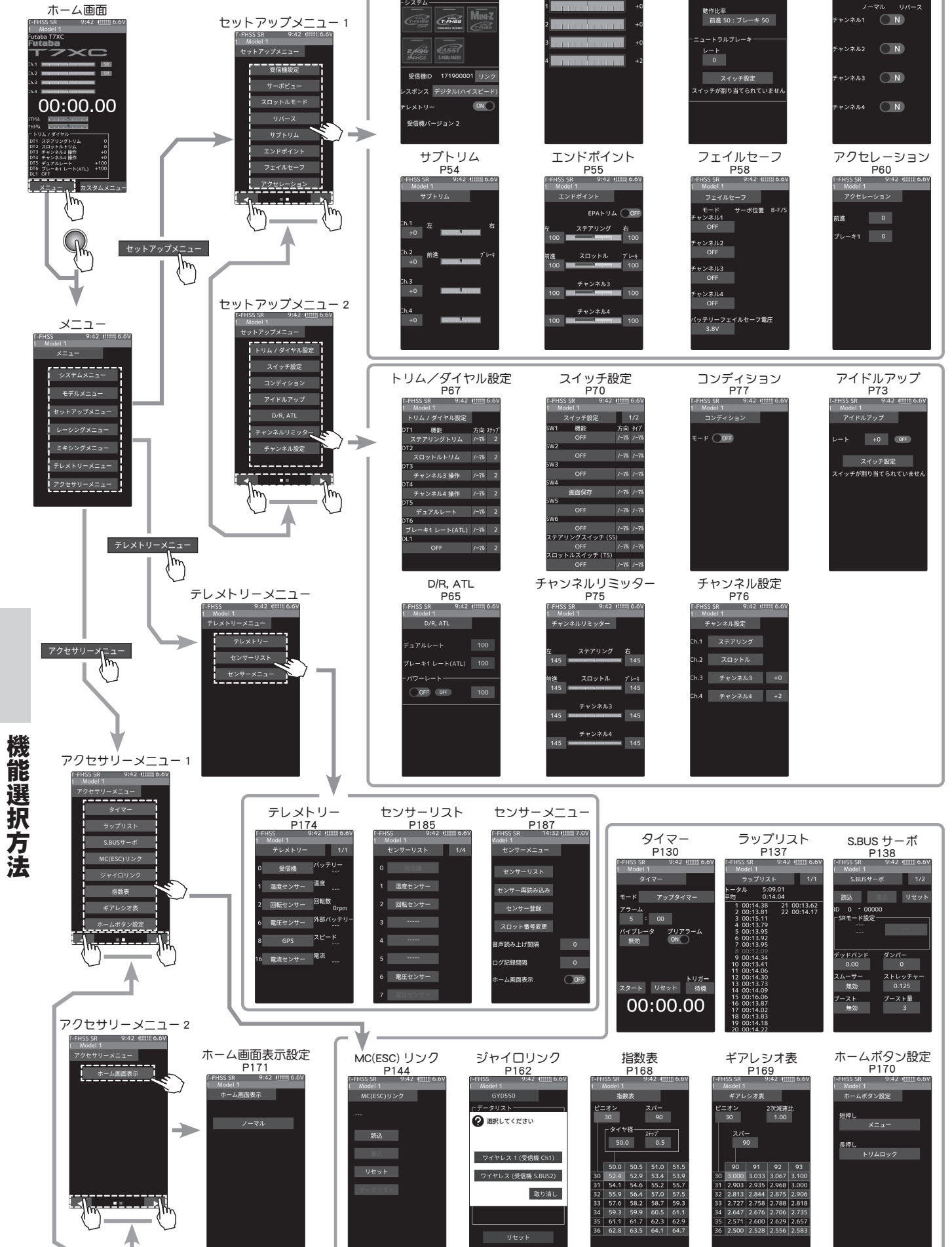
- 3 **【カスタムメニュー編集】**をタッチして終了し、カスタムメニュー画面に戻ります。

機能一覧

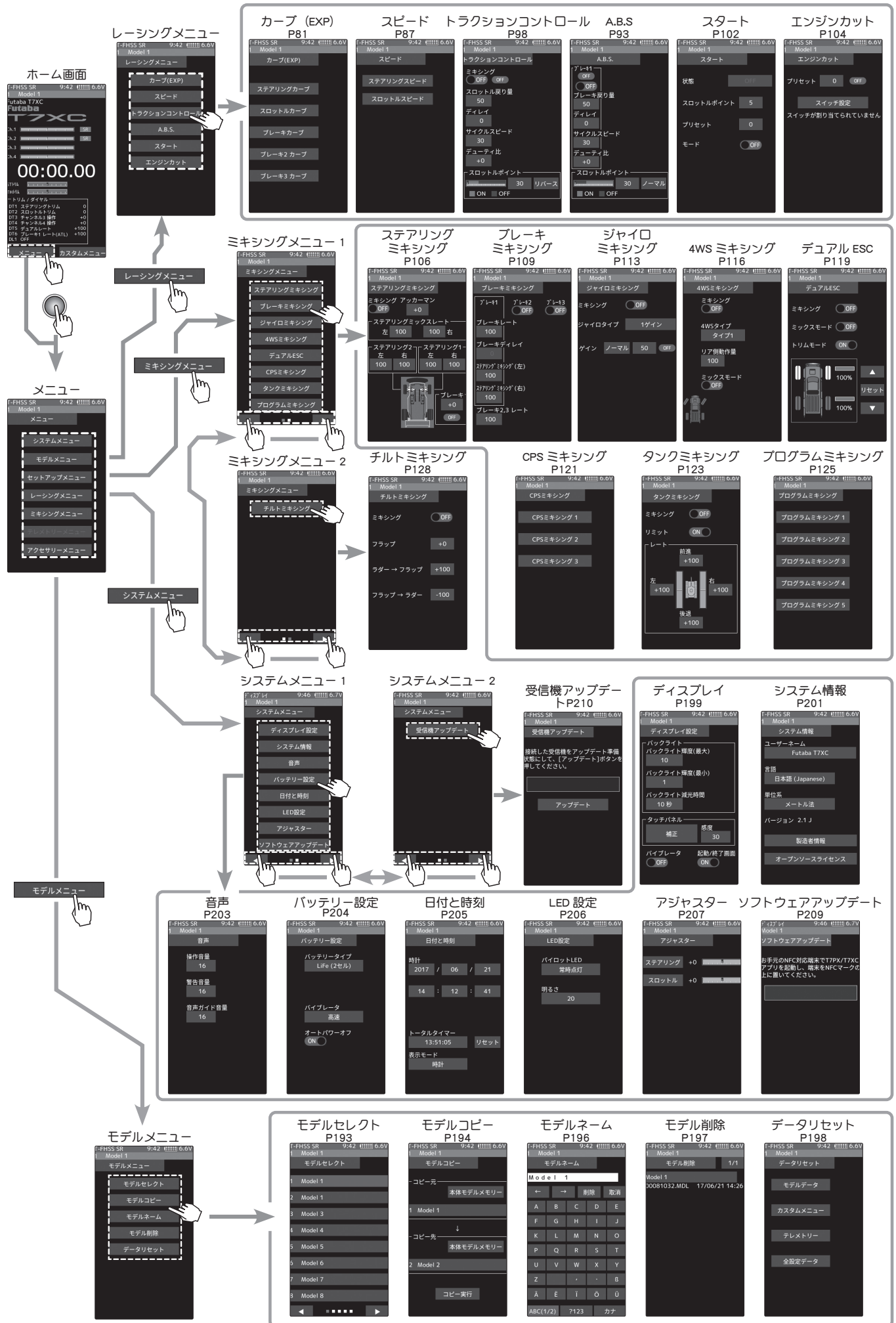
機能名	機能の説明	ページ
ディスプレイ設定	バックライト輝度設定／減光時間設定／タッチパネル補正	P-199
システム情報	表示言語設定／バージョン情報	P-201
音声	テレメトリー音声ガイド設定／警告音、操作音設定	P-203
バッテリー設定	使用バッテリータイプの設定／オートパワーオフの ON/OFF	P-204
日付と時刻	日付と時刻の設定／ホーム画面の時刻表示かトータルタイマーの選択	P-205
LED設定	パイロット LED 点灯／消灯	P-206
アジャスター	ステアリングスティック、スロットルスティックの補正機能	P-207
ソフトアップデート	NFC で端末のアプリで T7XC をアップデート	P-209
受信機アップデート	T7XC から受信機（R334SBS / R334SBS-E）をアップデート	P-210
モデルセレクト	モデルメモリーの呼び出し機能	P-193
モデルコピー	モデルメモリーのコピー機能	P-194
モデルネーム	モデルメモリーの名前の設定と変更	P-196
モデル削除	SD カード内のモデルデータを削除	P-197
データリセット	モデルメモリーのリセット機能	P-198
受信機設定	受信機タイプ、サーボタイプの選択／ T-FHSS、T-FHSS SR のリンク操作／ T-FHSS テレメトリー ON/OFF	P-35 /52
サーボビュー	サーボ動作をバーグラフで表示	P-64
スロットルモード ニュートラルブレーキ	ニュートラルブレーキ機能／スロットルサーボの前進側とブレーキ側の動作比率設定	P-62
リバース	サーボ、その他の動作方向の反転	P-53
サブトリム	リンケージ時のサーボセンター位置の微調整	P-54
エンドポイント	リンケージ時の舵角調整機能	P-55
フェイルセーフ	フェイルセーフ機能、バッテリーフェイルセーフ機能	P-58
アクセレーション	スロットルのニュートラルから立ち上がる特性を調整する機能	P-60
トリム／ダイヤル	ダイヤル（DL1）、デジタルトリム（DT1 ～ DT6）で操作する機能の選択	P-67
スイッチ設定	各スイッチ（SW1 ～ SW6）で操作する機能の選択	P-70
コンディション	各コンディション切り替え機能	P-77
アイドルアップ	アイドルリング位置の設定機能	P-73
D/R ATL	ステアリングの舵角調整機能（D/R）／ブレーキ側の調整機（ATL）	P-65
チャンネルリミッター	サーボの最大動作量を制限する機能	P-75

機能一覧		
機能名	機能の説明	ページ
チャンネル設定	任意のチャンネルに、ステアリングまたはスロットル動作を割り当てる機能	P-76
カーブ(EXP)	ステアリングの動作カーブ、スロットルの動作カーブ、ブレーキの動作カーブの設定	P-81
スピード	ステアリングサーボ、スロットルサーボのディレイ機能	P-87
トラクションコントロール	スロットルの動作を間欠動作でトラクションを確保	P-98
A.B.S	ポンピングブレーキ機能	P-93
スタート	スタート時のスロットルプリセット機能	P-102
エンジンカット	スイッチによるエンジン停止機能	P-104
ステアリングミキシング	ステアリングのツインサーボミキシング	P-106
ブレーキミキシング	1/5GP カー等のフロント、リア独立のブレーキ制御機能	P-109
ジャイロミキシング	弊社製カー用レートジャイロの感度調整をするリモートゲイン機能	P-113
4WSミキシング	4 WS ミキシング (前後ステアリングの位相、逆位相)	P-116
デュアル ESC	フロント、リアのモーターコントローラーの設定	P-119
CPSミキシング	弊社製チャンネル・パワー・スイッチ CPS-1 をコントロールする機能	P-121
タンクミキシング	戦車用ミキシング (ステアリングとスロットルの操作で信地旋回および超信地旋回)	P-123
プログラムミキシング1~5	任意チャンネル間でプログラム可能なミキシング (5 系統)	P-125
チルトミキシング	船外エンジン用のチルトミキシング	P-128
テレメトリー	テレメトリーデータ表示	P-174
センサーリスト	テレメトリーセンサーリスト表示	P-185
センサーメニュー	テレメトリーセンサーの設定機能／テレメトリーセンサースロット番号変更	P-187
タイマー	アップ、ダウンおよびラップタイマー、ラップナビゲートの設定／各周回タイムの確認	P-130
ラップリスト	ラップタイマーで記録したラップメモリーのデータ	P-137
S.BUSサーボ	S.BUS サーボのパラメーター変更／SR 対応サーボのSR モード設定	P-138
MC (ESC) リンク	MC851C/602C/402CR/950CR/960CR 等のパラメーター変更	P-144
ジャイロリンク	弊社製 カー用ジャイロのデータ変更	P-162
指数表	DD カー用の指数表機能	P-168
ギアレシオ表	ギア比の計算機能	P-169
ホームボタン設定	ホームボタンの働き変更	P-170
ホーム画面表示設定	ホーム画面の表示モードの選択	P-171

機能マップ



機能マップ



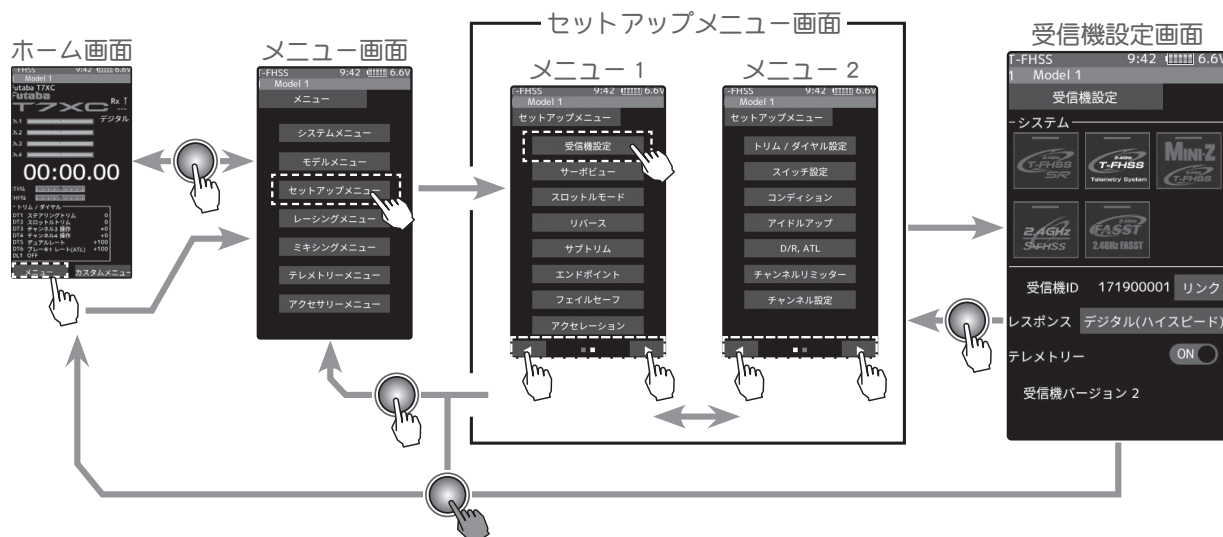
機能選択方法

テレメトリー機能 ON/OFF

T-FHSS システムのテレメトリーの機能を ON/OFF するには、この受信機設定画面で行います。T-FHSS システム以外は、テレメトリーの機能は使用できません。

この他に受信機設定画面で、システムの変更やレスポンスの変更また、T-FHSS SR と T-FHSS システムの送信機と受信機のリンクをします。詳しくは P35 ～ 41 をお読みください。

受信機設定画面は、次の方法で表示します。



テレメトリー機能 ON/OFF 設定方法

1 (テレメトリー ON/OFF の設定)

テレメトリーの(ON●)または(●OFF)をタッチして、ON/OFF を選択します。

- "(●OFF)" : 機能 OFF
- "(ON●)" : 機能が ON の状態



設定

●(ON●) / (●OFF) をタッチ。

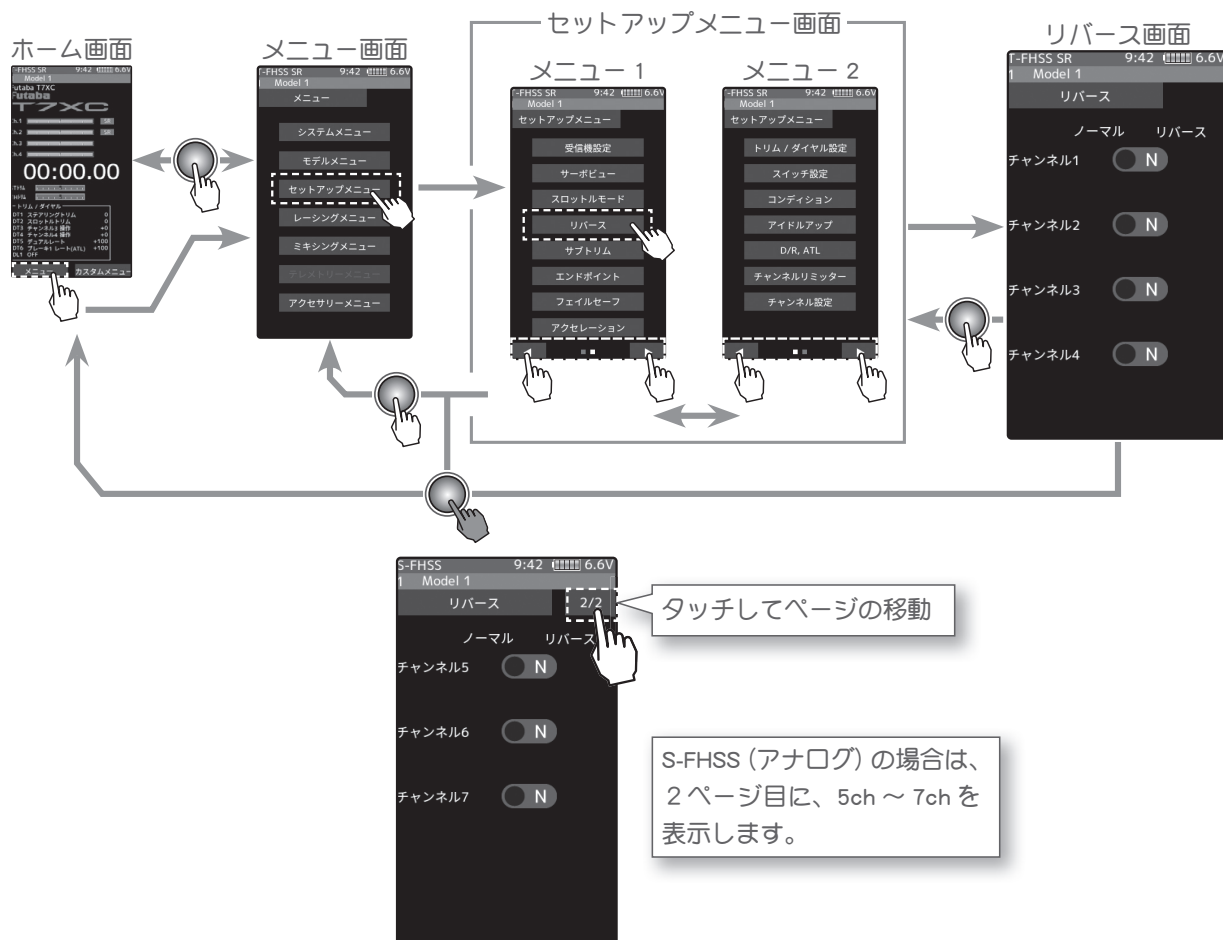
- 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

リバース

送信機のステアリング、スロットル、チャンネル 3 / 4、その他の予備チャンネルの操作に対して、サーボやその他の機器が動作する方向を決める機能です。

トリムおよびサブトリムで位置をセンターから移動している場合、その移動した位置を中心に反対側になります。

サーボリバース画面は、次の方法で表示します。



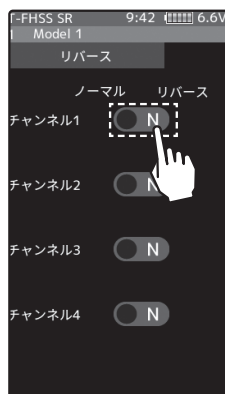
リバース機能の設定方法

1 (リバースの設定)

設定するサーボのチャンネルの(R●)または(●N)をタッチして、サーボ動作方向を設定します。表示(●N)がノーマル方向で、(R●)がリバース方向です。

"(●N)" がノーマル方向
"(R●)" がリバース方向

(各チャンネルを同様に設定します。)



設定

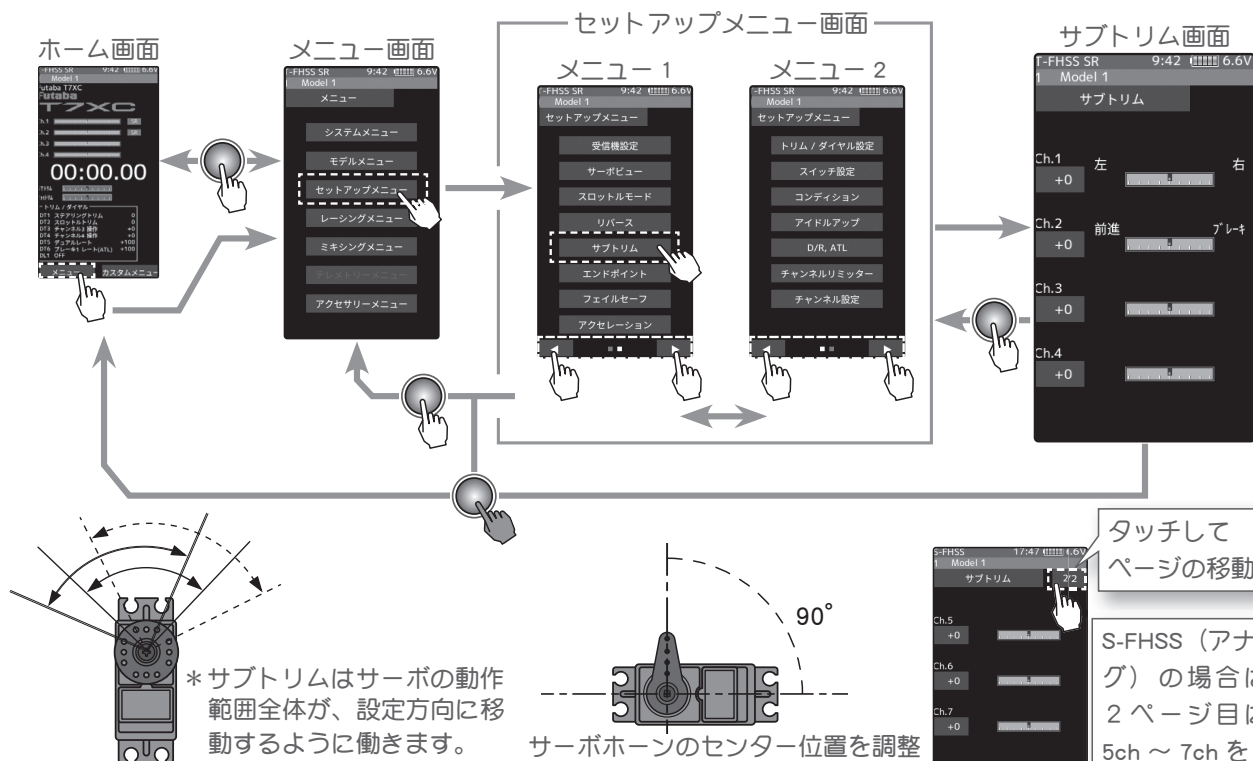
●(R●) / (●N) をタッチ。
(N) ノーマル / (R) リバース

2 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

サブトリム

モデルを組み立てるとき、各サーボのサーボホーンと、部品をロッドで接続するリンケージで、基準となるサーボホーンのセンターの位置を微調整するときに使用します。

サブトリム画面は、次の方法で表示します。



サブトリムの調整方法

(準備)

- モデルキットの説明書にしたがって、サーボホーンを取り付けてから次の調整をします。
- ステアリング、スロットルの各デジタルトリムをセンター "0" の位置に、Ch.3, Ch.4 やその他のチャンネルを使用している場合は、そのチャンネルもセンター "0" に設定しておきます。
- 設定するチャンネルの【レート】をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に【-】【リセット】【+】が表示します。

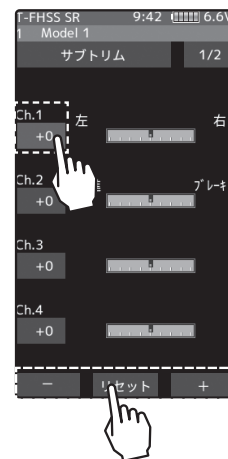
1 (サブトリムの調整)

【+】、【-】をタッチしてセンター位置を調整します。

- サブトリム調整値 ± 100 は実際の舵角の約 20% に相当。
- サブトリム調整値が大きくなる場合は、サーボホーンの取り付け角度や穴の位置を調整して、やり直す。

(各チャンネルを同様に調整できます。)

- 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。



調整

- 【+】／【-】をタッチで調整。
- 【リセット】をタッチで初期値。

サブトリム調整範囲

+ 100 ~ -100
初期値: 0

エンドポイント

リンケージのときに、ステアリング左右の舵角調整、スロットルのハイ側／ブレーキ側の動作量調整、およびチャンネル 3 / 4 とその他の予備チャンネルのアップ側／ダウン側の動作量調整に使用する機能です。

- 車体の特性等で、左右の回転半径に差が出る場合は、ステアリング左右の各舵角量の調整をします。

最大舵角について

このエンドポイントで、各チャンネルの最大舵角が決定されますが、下に示す機能を調整した場合は、エンドポイントで設定された動作範囲を越える場合があります。これらの機能を調整した場合は、その都度リンケージに無理がないか確認してください。

- サブトリム（全チャンネル）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54 ページ
- プログラムミキシングのスレーブ側（全チャンネル）・・・・・・ 125 ページ
- アイドルアップ（スロットル）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73 ページ
- エンジン・カット（スロットル）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104 ページ

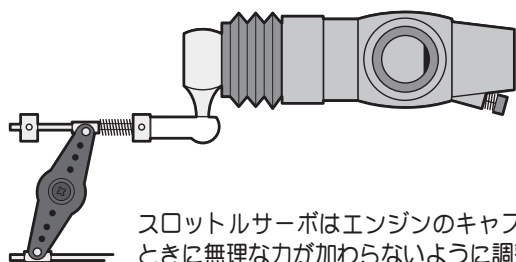
ATL トリム機能について

ATL トリム機能で、走行中にブレーキ側の動作量が調整できます。そのため ATL を最大（100）にしたとき、ブレーキサーボに無理な力が加わらないように、スロットルエンドポイントで動作角度を調整してください。

⚠ 警告

- ❶ ステアリング操作時、ナックルストッパーに当たり無理な力がかかったり、その他のチャンネル操作時にサーボに無理な力がかかったりしないように調整してください。

ステアリングやスロットルの操作時、サーボホーンに無理な力が加わった状態が続くと、サーボが破損したり、電池の消耗が早くなって暴走の危険があります。



スロットルサーボはエンジンのキャブレターが全開、全閉とブレーキをいっばいにかけたときに無理な力が加わらないように調整する。

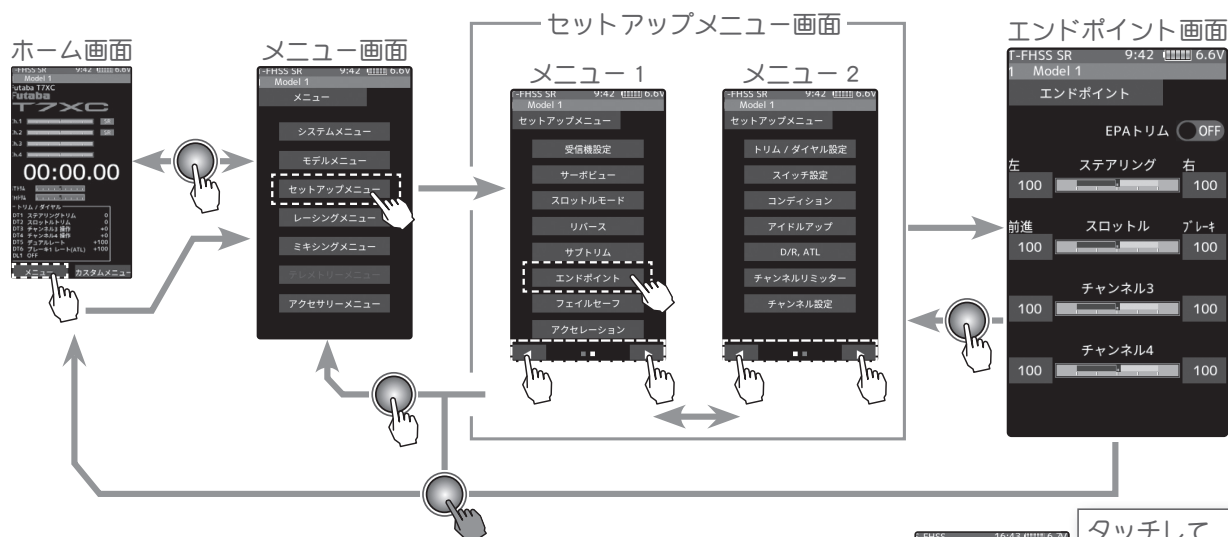
特にブレーキは、走行中にブレーキ本体が熱により効きが悪くなるため、ATL でブレーキ舵角を増やすケースがありますが、走行前に適正な最大舵角量をエンドポイントで調整し、走行中に ATL で舵角を増やしてもサーボに無理な力が加わらないようにする。



- ストッパーに触れるところで最大動作量を決定

ステアリングサーボは、車体側の最大舵角で、サーボに無理な力が加わらないように調整する。

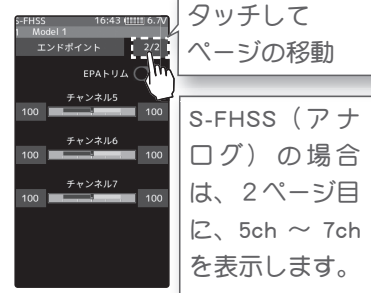
エンドポイント画面は、次の方法で表示します。



ステアリングの舵角（エンドポイント）調整方法

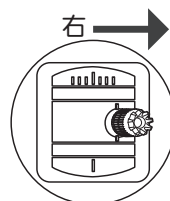
（準備）

- ・ステアリングの舵角を調整する前に、ステアリング D/R トリム（初期設定は DT5）を最大舵角位置 100 に設定しておきます。
- ・設定項目 **【ステアリング右設定値】** をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-] [リセット] [+]** が表示します。



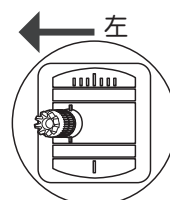
1 (ステアリング右側の調整)

ステアリングスティックを右側いっぱい動かした状態にして、**【+】**、**【-】** をタッチして右側舵角を調整します。



2 (ステアリング左側の調整)

ステアリングスティックを左側いっぱい動かした状態にして、**【+】**、**【-】** をタッチして舵角を調整します。

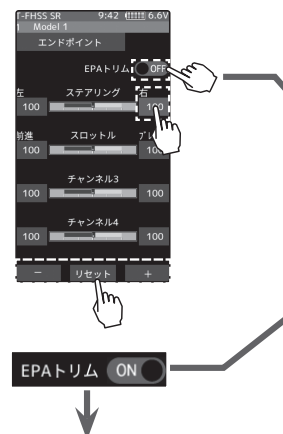


- 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

調整範囲

0 ~ 140（各方向）
初期値：100

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。



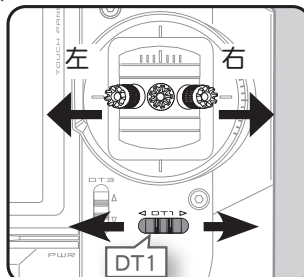
EPA トリム

EPAトリムをONにすると、ステアリングトリムを設定したデジタルトリム、またはダイヤルで、ステアリングの舵角調整（エンドポイント）ができます。（ステアリングトリムの初期設定は DT1）

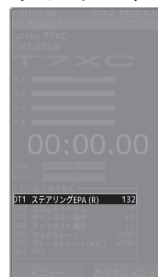
ステアリング左側の調整(ホーム画面)



ステアリングスティックを左側いっぱい動かした状態で、ステアリングトリムを操作して舵角調整します。操作中はホーム画面のSTトリム表示の場所に表示します。



ステアリング右側の調整(ホーム画面)



ステアリングスティックを右側いっぱい動かした状態で、ステアリングトリムを操作して舵角調整します。操作中はホーム画面のSTトリム表示の場所に表示します。

エンドポイント

目次へもどる

スロットルの舵角（エンドポイント）調整方法

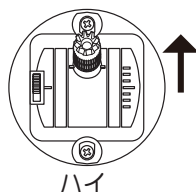
（準備）

- ・スロットルの舵角を調整する前に、スロットル ATL トリム（初期設定は DT6）を最大舵角位置 100 に設定しておきます。
- ・設定項目【スロットル前進設定値】をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。

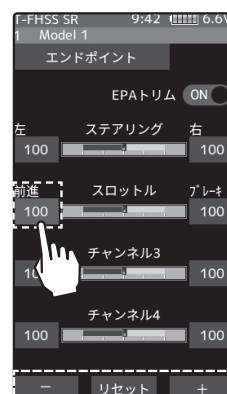
1 （スロットル前進側の調整）

スロットルスティックをハイ側いっぱいにした状態にして、**[+]**、**[-]** をタッチして前進側舵角を調整します。

ただし、ESC（モーターコントローラー）を使用するときは 100 に設定してください。

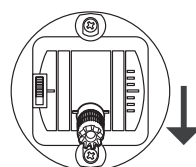


ハイ



2 （スロットルブレーキ側／バック側の調整）

スロットルスティックをブレーキ側いっぱいにした状態にして、**[+]**、**[-]** をタッチしてブレーキ側舵角を調整します。



ブレーキ (バック)

調整範囲

0 ~ 140（各方向）

初期値：100

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

- ### 3
- 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

スロットルモード（P62）を 100 : 0 に設定した場合、ブレーキ側の動作は停止していますので、スロットルのブレーキ側は調整できません。

予備チャンネルサーボの舵角（EPA）調整方法

（準備）

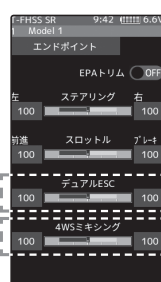
- ・舵角を調整するチャンネルと方向の設定値をタッチします。

1 **[+]**、**[-]** をタッチして舵角を調整します。

予備チャンネルの表示

予備チャンネルに、各ミキシングの機能を設定すると表示が変わります。これは 3 チャンネル目にデュアル ESC ミキシング、4 チャンネル目に 4WS ミキシングを設定した例です。

デュアル ESC フロント ESC
4WS リアサーボ



調整範囲

0 ~ 140（各方向）

初期値：100

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

- ### 2
- 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

モードの設定方法

(準備)

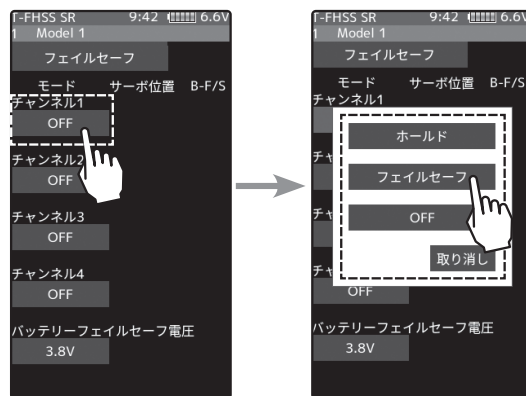
- ・フェイルセーフを設定するチャンネルの【モード】をタッチして、モードリストのポップアップを表示します。

1 (モードの選択)

使用するモードをタッチして選びます。キャンセルする場合は、【取り消し】をタッチします。

(各チャンネルを個別に設定します。)

"OFF" : オフ・モード
"ホールド" : ホールド・モード
"フェイルセーフ" : フェイルセーフ・モード



モードの選択

- ポップアップ画面をタッチして選択。

- ### 2
- ホールド・モードまたはオフ・モードの設定で終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。フェイルセーフ・モードに設定した場合は、次の方法でサーボポジションを設定します。

フェイルセーフ機能 - サーボポジションの設定方法

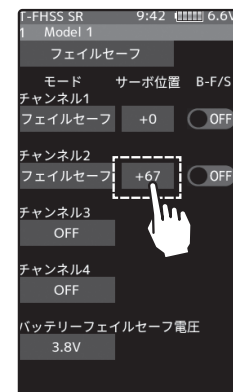
1 (サーボポジションの設定)

フェイルセーフ機能が働いたときにサーボを動作させる位置で、ステアリングスティック、スロットルスティックなどを固定し、設定するチャンネルの【サーボ位置数値】をタッチします。画面にサーボポジションを数値で表示し、設定します。(各チャンネルを同様に設定できます。)

- ### 2
- 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。

F/S ポジション設定

- スティックを保持したまま、サーボ位置のレートをタッチ。



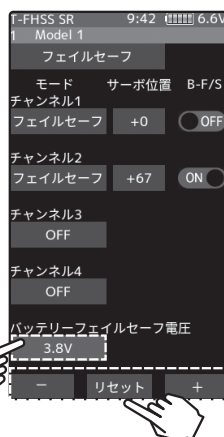
* 例：スロットルをフェイルセーフ (F/S) モードで、サーボポジションを設定。

バッテリーフェイルセーフ機能の ON/OFF

1 (バッテリーフェイルセーフ機能の ON/OFF)

各チャンネルの(●OFF)をタッチして、(ON●)に設定します。電圧設定は画面下のバッテリーフェイルセーフの【**V】をタッチします画面下に【-】【リセット】【+】が表示します。【-】【+】をタッチして電圧を選びます。S-FHSS は 3.8V 固定で電圧設定はできません。

* FASST システムの 5.5V 設定は受信機が R614FS (FSE) でしか使用できません。



- ### 2
- 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

バッテリーフェイルセーフ電圧

T-FHSS/T-FHSS SR
3.8, 4.0, 4.2, 4.4, 4.6, 4.8, 5.0, 5.3, 5.6, 5.9, 6.2, 6.5, 6.8, 7.1, 7.4 (V)

S-FHSS-3.8V 固定
FASST

3.5, 3.8, 4.4, 4.75, 5.5V (R614 のみ)

初期値 : 3.8V

参考値 :

Ni-Cd /Ni-MH 4セル→ 3.8V

Ni-Cd /Ni-MH 6セル→ 4.4V

LiFe 2セル→ 4.8V

Li-Po 2セル→ 5.6V

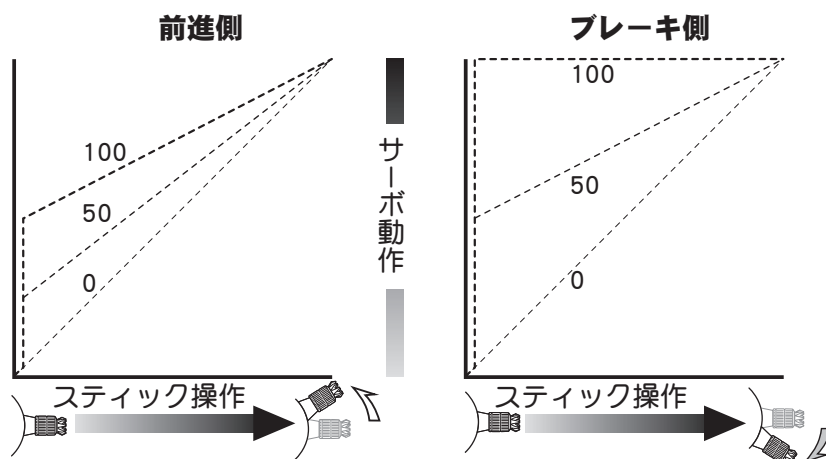
- 【+】／【-】をタッチで調整。
- 【リセット】をタッチで初期値。

アクセレーション

スロットルの前進側、ブレーキ側のニュートラル付近の立ち上がり特性を別々に調整することができます。

動作

- スロットルスティックのニュートラル付近の動作が急激な立ち上がりとなります。
- 前進側とブレーキ側を別々に設定できます。

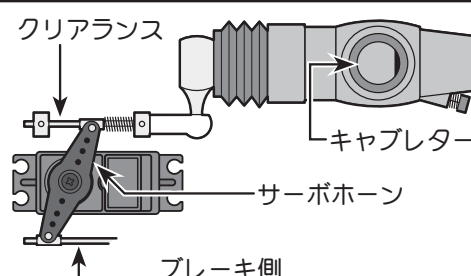


設定量について

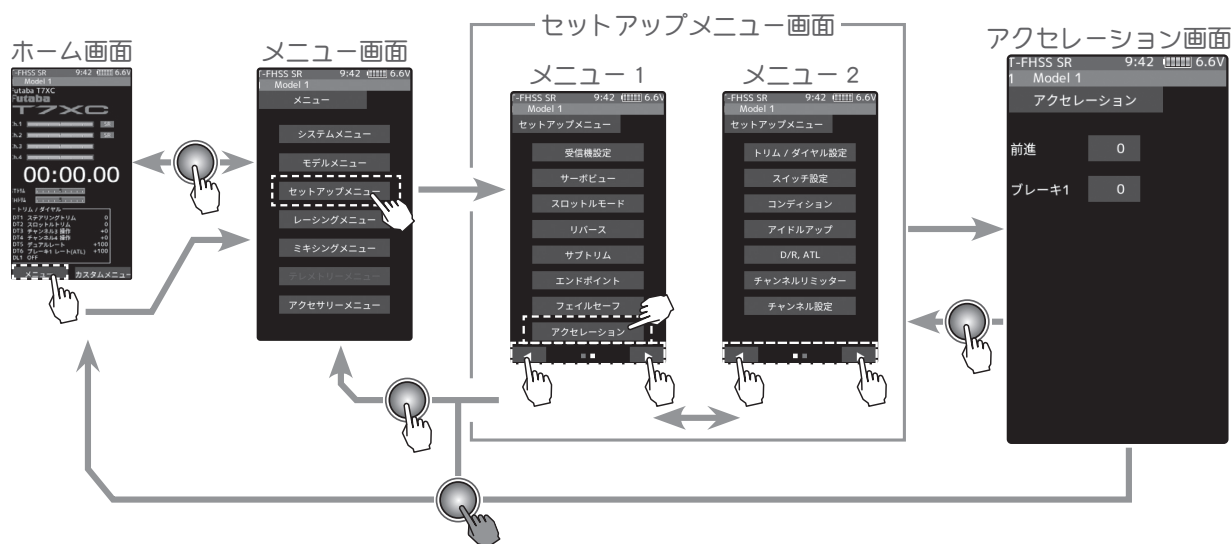
アクセレーションの最大値（100 のポイント）は、スロットルのエンドポイント機能で設定された動作量に影響されます。

便利な使い方

エンジンカーの場合、1 個のサーボでエンジンのキャブレターとブレーキを操作させるため、リンケージにクリアランス（遊び）が必要になります。そのため前進、ブレーキ側ともに若干のタイムラグが生じます。このタイムラグを送信機側で減らすことにより、電動カー並のすばいレスポンスになります。



アクセレーション画面は、次の方法で表示します。



スロットルアクセレーションの調整方法

1 (前進側アクセレーション量の調整)

設定項目**【前進設定値】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】【リセット】【+】**が表示します。

【+】、【-】をタッチしてアクセレーション量を調整します。

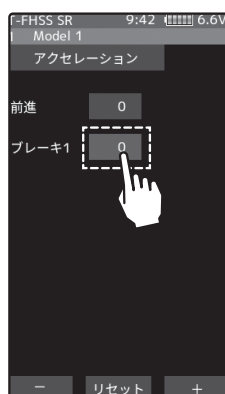


2 (ブレーキ側アクセレーション量の調整)

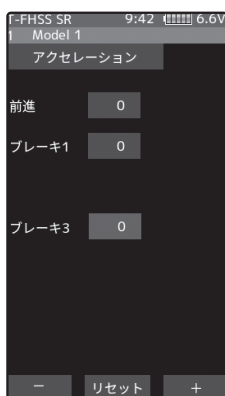
設定項目**【ブレーキ設定値】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】【リセット】【+】**が表示します。

【+】、【-】をタッチしてアクセレーション量を調整します。

ブレーキミキシング機能 (P109) を使用すると、ブレーキ 2、ブレーキ 3 または、ブレーキ 2、3 両方のアクセレーション量が調整可能になります。



ブレーキ 2



ブレーキ 3



ブレーキ 2,3

3 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

注意

スロットルモード (P62) を 100 : 0 に設定した場合、ブレーキ側機能は動作しません

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム／ダイヤル設定 (P67) を使って、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ～ DT6 で、前進側、ブレーキ 1 側、ブレーキ 2 側、ブレーキ 3 側の各アクセレーション量の調整ができます。

前進側調整量 (FWD)

0 ～ 100

初期値 : 0

調整

- **【+】／【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。
- "0" : アクセレーションなし
- "100" : アクセレーション量最大
(前進側最大舵角の約半分)

ブレーキ側調整量 (BRK)

0 ～ 100

初期値 : 0

調整

- **【+】／【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。
- "0" : アクセレーションなし
- "100" : アクセレーション量最大
(ブレーキ側最大舵角)

スロットルモード

●スロットルサーボのニュートラル位置を移動して、前進側とブレーキ（バック）側の動作比率を " 前進 50: ブレーキ 50" / " 前進 70: ブレーキ 30" / " 前進 100: ブレーキ 0" から選ぶことができます。**【ラチェット】**に設定した場合の動作比率は、"50:0" / "100:0" です。

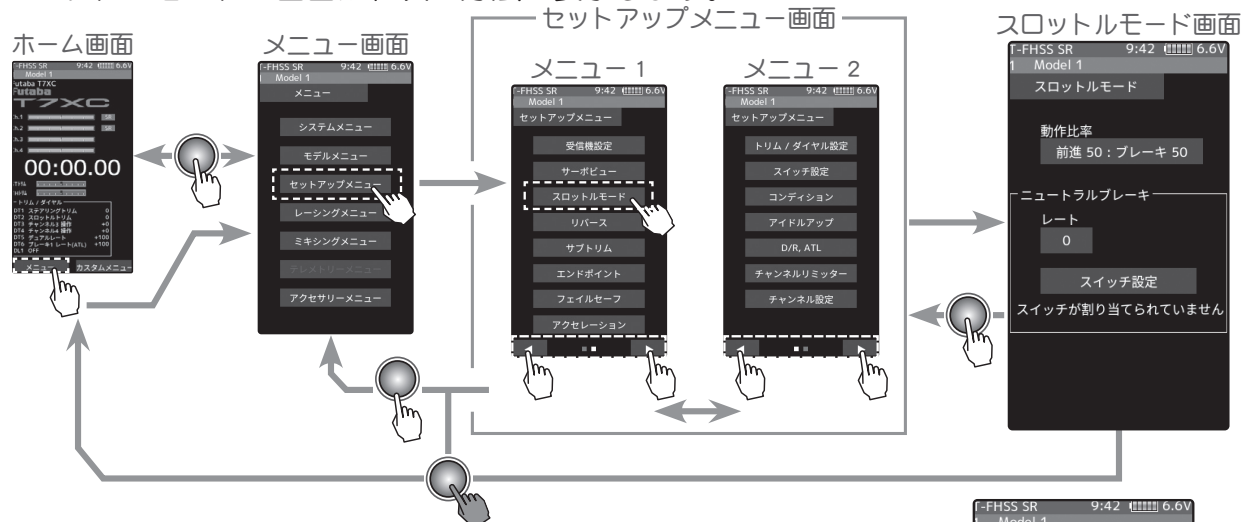
*スティックのタイプを**【ラチェット】**に設定すると、スロットルスティックが最スロー以外の位置で電源をONにすると安全のためアラームがなります。必ず最スロー位置で電源をONしてください。スロットルスティックを最スローにするとアラームは止まります。（画面表示の詳細は P213 を参照）

●スロットルスティックのニュートラル位置で、ブレーキをかけるニュートラルブレーキが設定できます。この機能は、スイッチ設定機能（P70）でON/OFF スイッチを設定する必要があります。

*弊社製 ESC（モーターコントローラー）MC960CR, MC950CR, MC851C, MC602C, MC402CRなどは、安全上電源を入れた瞬間的にモーターが回転するのを防ぐため、ニュートラル位置の確認ができないと動作しません。上記弊社製 ESC をご使用の場合は、ESC がニュートラル位置の確認後、動作が可能になってからニュートラルブレーキ機能のスイッチを ON にしてください。

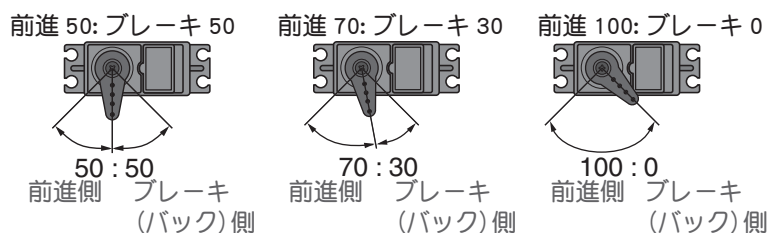
*ESC 側のニュートラルブレーキ機能と、T7XC のニュートラルブレーキ機能は同時に使用できますが、設定が解りにくなりますので、どちらか片方の機能を使用することをおすすめします。

スロットルモードの画面は、次の方法で表示します。



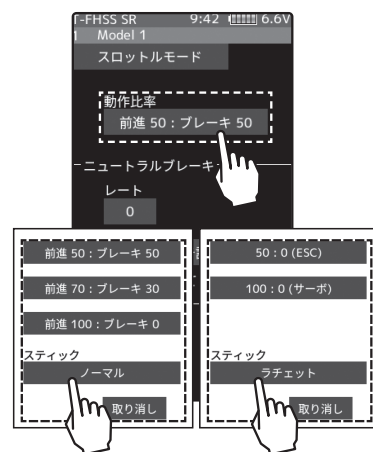
スティック（ノーマル/ラチェット）と動作比率の設定方法

1 **【動作比率】**をタッチで、モードリストのポップアップ画面を表示し、現在のスティックのタイプ**【ノーマル】**または、**【ラチェット】**が表示されていますので、変更する場合はをタッチします。**【ノーマル】**に設定した場合、前進側とブレーキ（バック）側の動作比率を、" 前進 50: ブレーキ 50" / " 前進 70: ブレーキ 30" / " 前進 100: ブレーキ 0" から選択します。



【ラチェット】に設定した場合、前進側とブレーキ（バック）側の動作比率を、"50:0(ESC)" / "100:0(サーボ)" から選択します。

*スロットルスティックをラチェット式に変更した場合は、"スティック" 設定を**【ラチェット】**に設定してください。



動作比率（ノーマル）

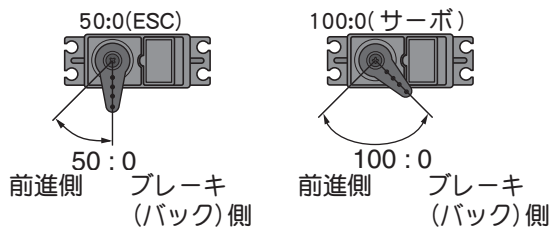
前進 50: ブレーキ: 50
前進 70: ブレーキ: 30
前進 100: ブレーキ: 0

動作比率（ラチェット）

50 : 0 (ESC)
100 : 0 (サーボ)

モードの選択

●ポップアップ画面をタッチして選択。



- 50:0(ESC)
スロットルスティックが最スローの位置で、スロットルチポジションがニュートラルになります。スロットルに ESC を使用する場合に推奨。
- 100:0(サーボ)
スロットルスティックが最スローの位置で、スロットルチポジションが最スローになります。スロットルにサーボを使用する場合に推奨。

2 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。

画面上でニュートラルブレーキの調整をする場合

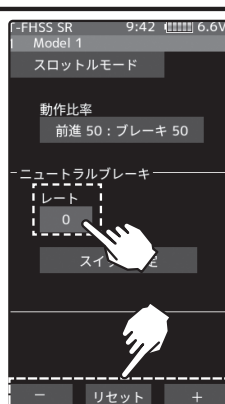
(準備)

- スイッチ 設定機能 (P70) で、ニュートラルブレーキ機能の ON/OFF スイッチを設定します。設定していない場合「**スイッチが割り当てられていません**」と表示しますので、**[スイッチ設定]**をタッチし、スイッチ設定画面でスイッチを選びます。

1 (ニュートラルブレーキ量の調整)

設定項目 **[ニュートラルブレーキ設定値]** をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。 **[+]**、**[-]** をタッチしてブレーキ量を調整します。

- ブレーキ量は 0 ~ 100 の範囲で調整が可能。

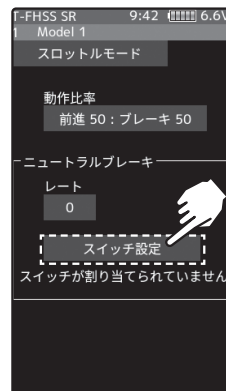


ニュートラルブレーキ量

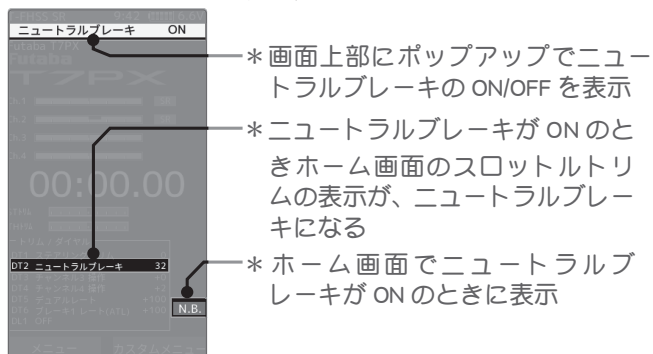
0 ~ 100
初期値: 0

調整

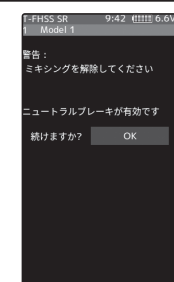
- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。



2 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。



ニュートラルブレーキスイッチを ON にしたまま電源を入れたら、アラーム音と LCD 画面のワーニング表示で警告します。ニュートラルブレーキスイッチを一度 OFF にしてください。



ワーニング画面

スロットルトリムでニュートラルブレーキ量の調整

ニュートラルブレーキスイッチが ON の状態になると、自動的にスロットルトリムに設定しているデジタルトリム、ダイヤルがニュートラルブレーキ量の調整用に替わります。ブレーキ量は、スロットルトリムのブレーキ側動作方向で、ブレーキが強くなります。

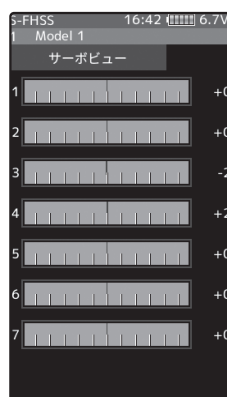
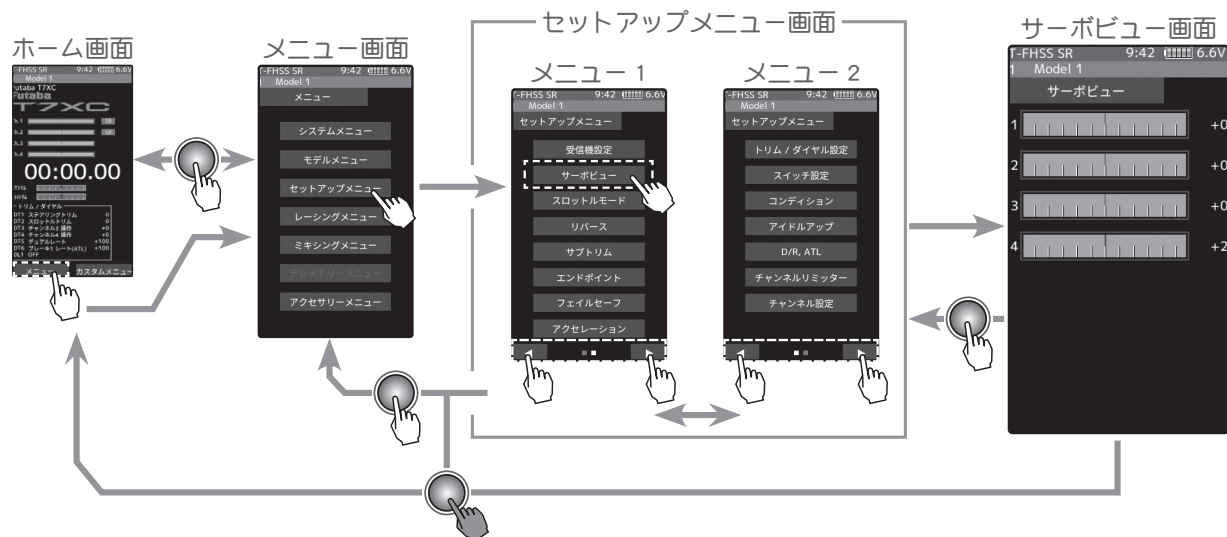
その他の機能との関係。

- スロットル ATL とスロットルエンドポイントのブレーキ 1 側のレート量は、ニュートラルブレーキ量に影響します。ニュートラルブレーキ量の設定後に、Ch.2 ブレーキ (ATL)、またはスロットルエンドポイントのブレーキ側のレート量を変更すると、ニュートラルブレーキの強さが変わりますので注意してください。
- ニュートラルブレーキより、アイドルアップ (P73)、エンジンカット (P104) 機能が優先です。

サーボビュー

全チャンネルのサーボ動作が確認できます。舵角調整やミキシング機能を設定したときに動作を確認できます。

サーボビューの画面は、次の方法で表示します。



S-FHSS (アナログ) の場合は、
1ch ~ 7ch を表示します。

サーボポジションの確認

- 1 ステアリングスティックやスロットルスティックなど、各チャンネルを操作すると、グラフが移動してサーボ動作が確認できます
- 2 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

D/R, ATL

■ D/R デュアルレート

ステアリング全体の舵角がこの画面で調整でき、送信機に D/R を設定したデジタルトリム（初期設定右肩にある DT5）と連動しています。

■ ATL

この画面でブレーキの調整ができ、送信機に ATL を設定したデジタルトリム（初期設定右左肩にあるデジタルトリム DT6）と連動しています。

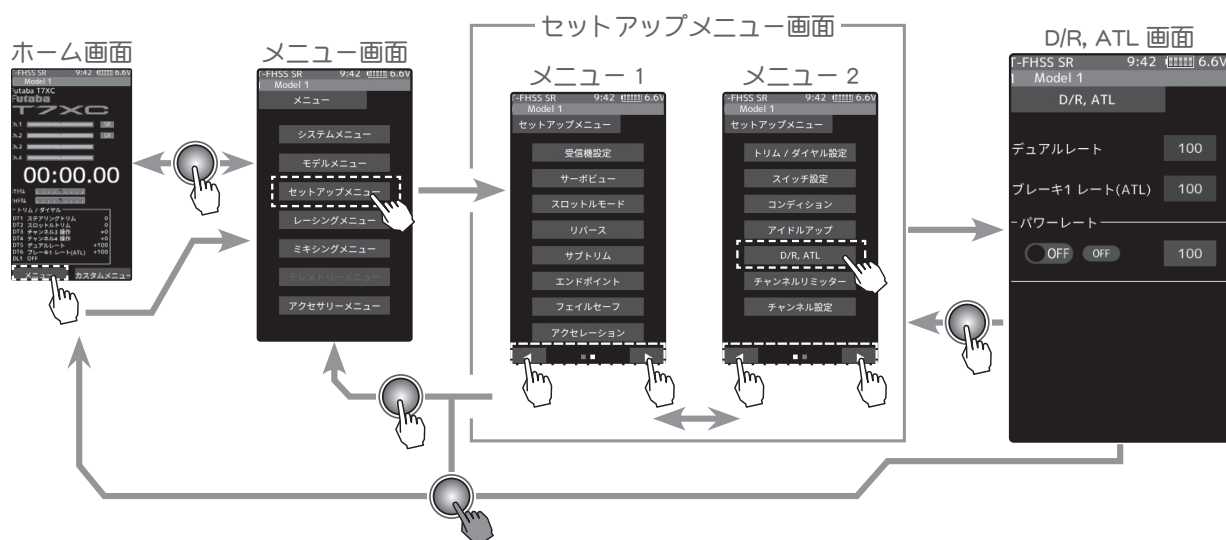
D/R ATL 画面は、次の方法で表示します。

■ パワーレート

スロットルトリガーをハイ側いっぱいにも、フルスロットルにならないようにスロットルの動作量を調整することができます。

- スイッチ設定画面で「パワーレート」機能を割り当てることで、機能の ON/OFF をスイッチで切り替えることができ、状況に応じてスロットルの動作量をフルスロットルに切り替えられます。
- トリム／ダイヤル設定を使ってパワーレートを、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ～ DT6 などと調整することができます。

D/R, ATL の画面は、次の方法で表示します。



D/R の設定方法

1 (デュアルレートの設定)

設定項目【デュアルレート設定値】をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に【-】【リセット】【+】が表示します。【+】、【-】をタッチしてステアリングの全体の舵角を調整します。



D/R

0 ～ 100

初期値：100

調整

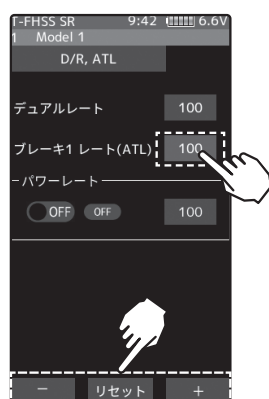
- 【+】／【-】をタッチで調整。
- 【リセット】をタッチで初期値。

2 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押ししてホーム画面に戻ります。

ATL の設定方法

1 (ATL の設定)

設定項目 **ブレーキ1 レート(ATL)設定値** をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチしてブレーキ量を調整します。



ATL

0 ~ 100

初期値 : 100

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

2 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

パワーレートの調整方法

(準備)

- ・セットアップメニューまたはカスタムメニューから D/R, ATL 画面を開きます。

パワーレート

0 ~ 100

初期値 : 100

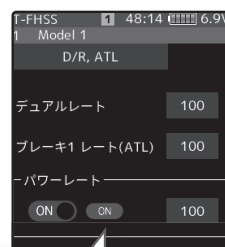
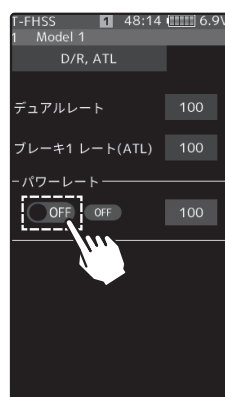
調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

1 (パワーレート ON/OFF の設定)

パワーレートの **(ON●)** または **(●OFF)** をタッチして、ON/OFF を選びます。

- " (● OFF)" : 機能 OFF
- " (ON ●)" : 機能が ON の状態



ON/OFF スイッチを設定した場合、パワーレート機能が働いている状態を ON/OFF で表示

2 (パワーレートの設定)

設定項目 **パワーレート設定値** をタッチ、設定値が青く表示され、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示されます。**[+]**、**[-]** をタッチしてパワーレート機能動作時のスロットルの動作量を調整します。



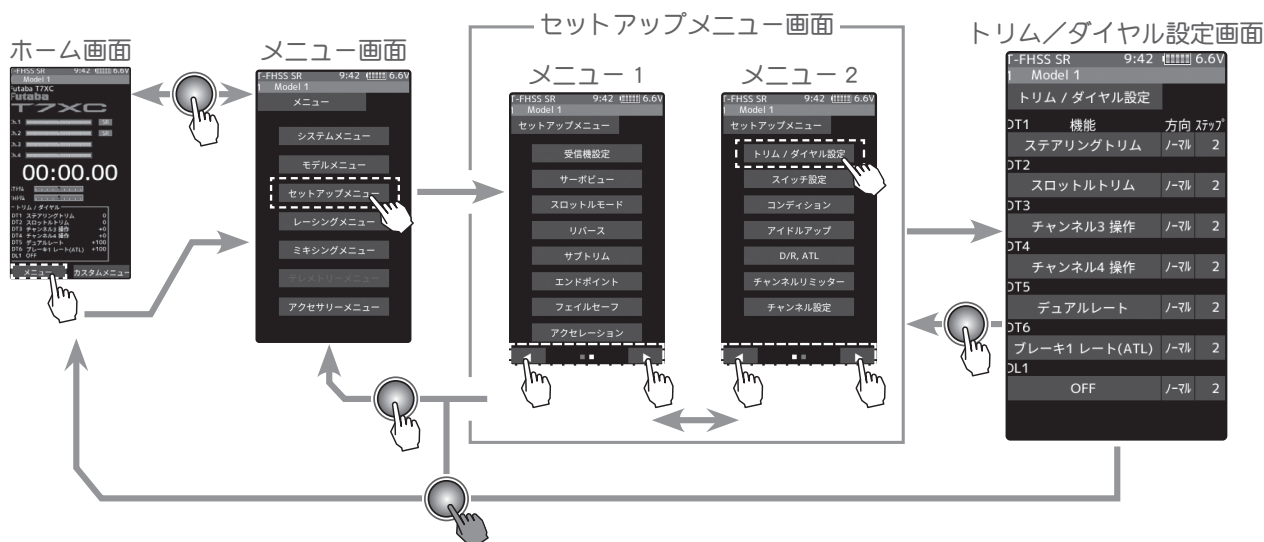
3 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

トリム／ダイヤル設定

この機能で、デジタルトリム（DT1～DT6）と、ダイヤル（DL1）で操作できる機能を設定できます。

- デジタルトリムとダイヤルに設定が可能な機能は、P69 のリストに記載しています。
- デジタルトリムとダイヤルの1クリックで変化するステップ量と、動作方向（ノーマル／リバース）を設定することができます。（設定値とステップ量の関係は次ページの表に記載）

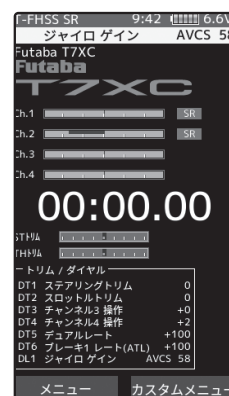
トリム／ダイヤル設定画面は、次の方法で表示します。



トリム／ダイヤル操作の表示

トリム／ダイヤルを操作すると、画面上部に約2～3秒間割り付けた機能のレートを表示します。

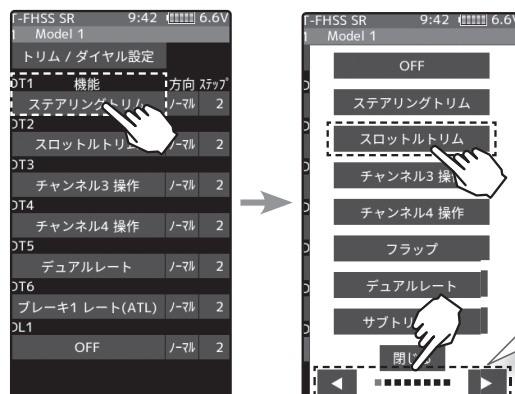
例：ジャイロミキシングのゲイン調整を割り付けたトリム／ダイヤルを操作した場合。



トリム、ダイヤルの設定方法

- 1 (設定トリム、ダイヤルの選択)
設定するトリム、またはダイヤルをタッチします。
(DT1 / DT2 / DT3 / DT4 / DT5 / DT6 / DL1)

- 2 (機能を設定する)
機能リストのポップアップ画面を表示します。使用する機能をタッチして選択します。キャンセルする場合は、**【閉じる】**をタッチします。



機能の選択

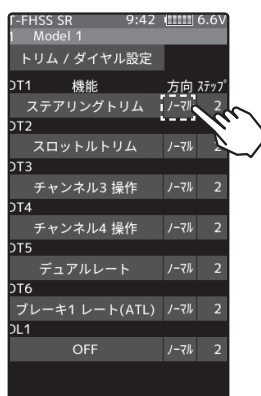
- ポップアップ画面をタッチして選択。
- 各トリム／ダイヤルに割り付け可能な機能リストは P69

◀▶をタッチしてページを移動、◀▶の中央にある■の数だけページがある。

機能説明

(動作方向の設定)

方向の[ノーマル]または[リバース]をタッチして、方向を設定します。



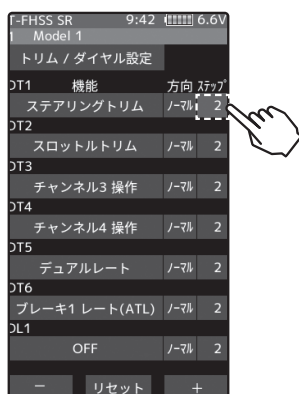
設定

- [ノーマル] / [リバース] をタッチ。
- ノーマル / リバース

(ステップ量の設定)

設定項目[ステップ設定値]をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に[-][リセット][+]が表示します。[+], [-]をタッチしてステップ量を調整します。

- 設定値とステップ量の関係は、下の説明を参照してください。



調整

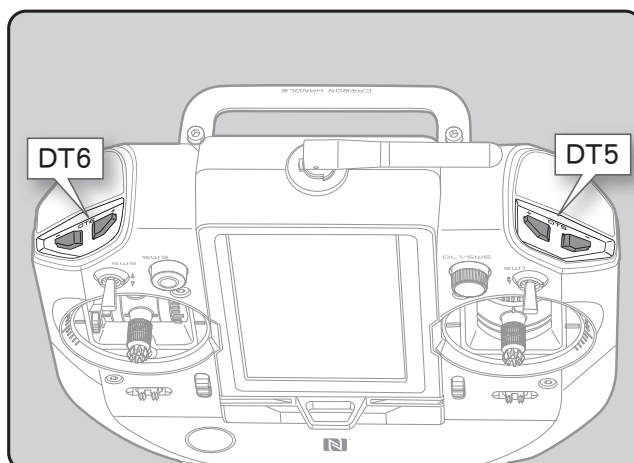
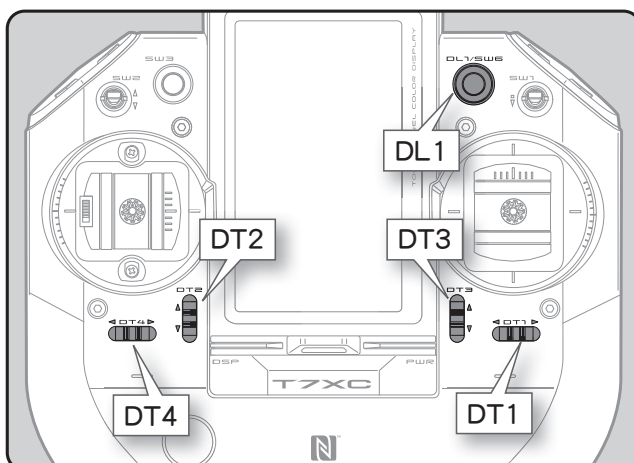
- [+] / [-] をタッチで調整。
- [リセット] をタッチで初期値。

- 3 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押ししてホーム画面に戻ります。

設定値とステップ量の関係

(設定範囲 1 ~ 10, 20, 30, 40, 50, 100, 200)

- ステアリングトリム / スロットルトリムの場合最小 "1" に設定した場合はトリムの全動作巾を 200 クリック、"100" は全動作巾を 2 クリック、200 は 1 クリックで動作します。
- レート等の設定の場合
それぞれのレートの設定値に対して、1 クリックで動作する % の値です。-100 ~ 0 ~ +100 のレートを持つ機能は全動作巾が 200% になりますので "100" に設定すると全動作巾を 2 クリック、0 ~ 100 レートの機能は全動作巾が 100% になりますので "100" と "200" は 1 クリックで動作します。
- Ch.3 / 4 の場合
最小 "1" に設定した場合は Ch.3 / 4 の全動作巾を 200 クリック、"100" は全動作巾を 2 クリック、200 は 1 クリックで動作します。



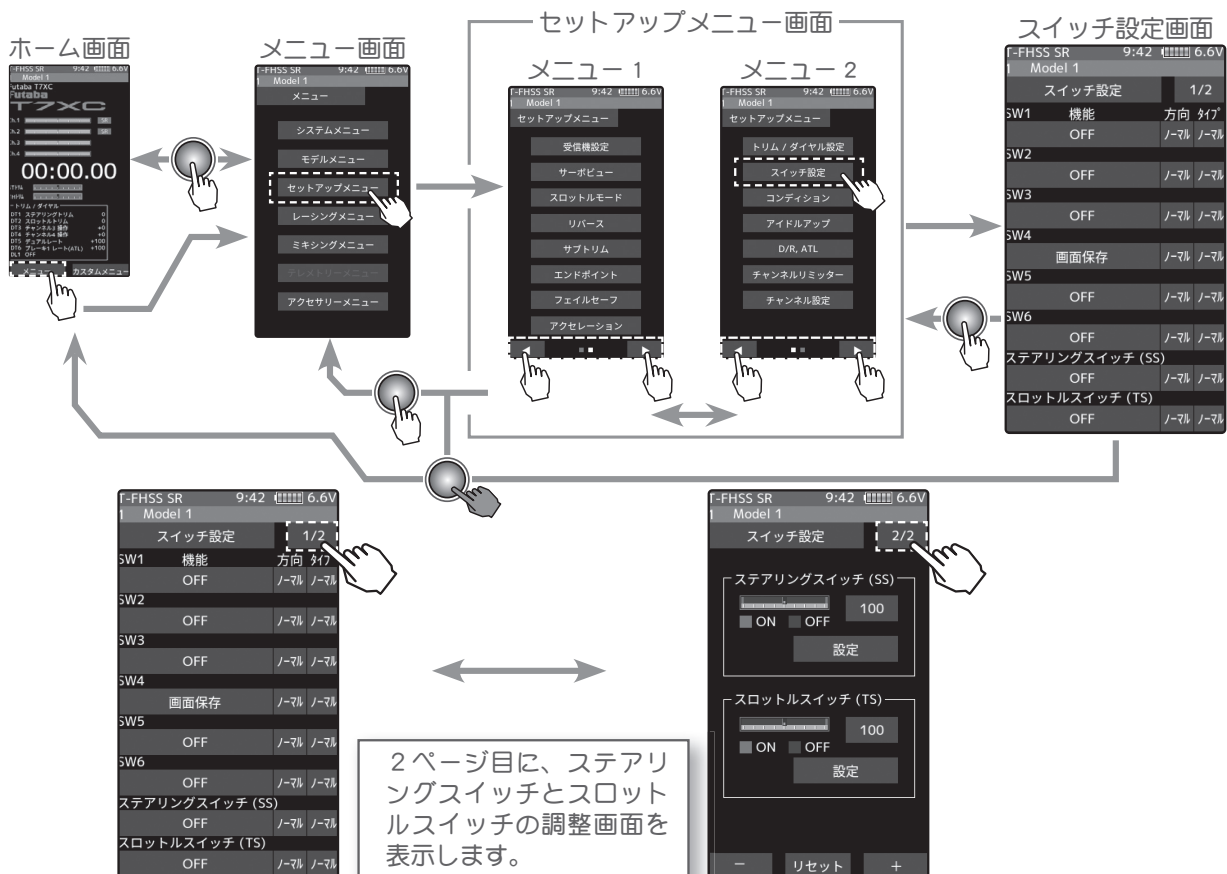
設定可能な機能／ダイヤル (DL1) , トリム (DT1 / DT2 / DT3 / DT4 / DT5 / DT6)		
設定画面上の機能名	ホーム画面上の略号	機能など
ステアリングトリム	ステアリングトリム	ステアリングトリム
スロットルトリム	スロットルトリム	スロットルトリム
チャンネル 3,4,5,6,7 操作	チャンネル 3,4,5,6,7 操作	3,4,5,6,7 チャンネル動作 (5,6,7 は S-FHSS のみ使用可能)
フラップ	フラップ	チルトミキシングミキシング フラップレート
デュアルレート	デュアルレート	デュアルレート機能
サブトリム Ch.1 ~ Ch.7	サブトリム Ch.1 ~ Ch.7	サブトリム (Ch.1 ~ 7)(5,6,7 は S-FHSS のみ使用可能)
アクレション (前進)	アクレション 前進	スロットルアクセレーション (前進側)
アクレション (ブレーキ 1)	アクレション ブレーキ 1	スロットルアクセレーション (ブレーキ 1 側)
アクレション (ブレーキ 2)	アクレション ブレーキ 2	スロットルアクセレーション (ブレーキ 2 側)
アクレション (ブレーキ 3)	アクレション ブレーキ 3	スロットルアクセレーション (ブレーキ 3 側)
ステアリングカーブ	ステアリングカーブ	ステアリングカーブ (EXP)
スロットルカーブ	スロットルカーブ	スロットルカーブ (前進側)
ステアリングスピード (ターン)	ステアリングスピード (ターン)	ステアリングスピード (ターン側)
ステアリングスピード (リターン)	ステアリングスピード (リターン)	ステアリングスピード (リターン側)
スロットルスピード (ターン/ハイ)	スロットルスピード (ターン/ハイ)	スロットルスピード (3 スピードの高速域ターン側)
スロットルスピード (ターン/中間)	スロットルスピード (ターン/中間)	スロットルスピード (3 スピードの中速域ターン側)
スロットルスピード (ターン/ロー)	スロットルスピード (ターン/ロー)	スロットルスピード (3 スピードの低速域ターン側)
スロットルスピード (リターン/ハイ)	スロットルスピード (リターン/ハイ)	スロットルスピード (3 スピードの高速域リターン側)
スロットルスピード (リターン/中間)	スロットルスピード (リターン/中間)	スロットルスピード (3 スピードの中速域リターン側)
スロットルスピード (リターン/ロー)	スロットルスピード (リターン/ロー)	スロットルスピード (3 スピードの低速域リターン側)
ABS (ブレーキ 1 戻り)	ABS (ブレーキ 1 戻り)	A.B.S 機能ブレーキ 1 (戻り量)
ABS (ブレーキ 1 デイレイ)	ABS (ブレーキ 1 デイレイ)	A.B.S 機能ブレーキ 1 (デイレイ)
ABS (ブレーキ 1 サイクル)	ABS (ブレーキ 1 サイクル)	A.B.S 機能ブレーキ 1 (ポンピングの速さ)
ABS (ブレーキ 2 戻り)	ABS (ブレーキ 2 戻り)	A.B.S 機能ブレーキ 2 (戻り量)
ABS (ブレーキ 2 デイレイ)	ABS (ブレーキ 2 デイレイ)	A.B.S 機能ブレーキ 2 (デイレイ)
ABS (ブレーキ 2 サイクル)	ABS (ブレーキ 2 サイクル)	A.B.S 機能ブレーキ 2 (ポンピングの速さ)
ABS (ブレーキ 3 戻り)	ABS (ブレーキ 3 戻り)	A.B.S 機能ブレーキ 3 (戻り量)
ABS (ブレーキ 3 デイレイ)	ABS (ブレーキ 3 デイレイ)	A.B.S 機能ブレーキ 3 (デイレイ)
ABS (ブレーキ 3 サイクル)	ABS (ブレーキ 3 サイクル)	A.B.S 機能ブレーキ 3 (ポンピングの速さ)
トラクションコントロール (戻り)	トラクションコントロール (戻り)	トラクションコントロール機能 (戻り量)
トラクションコントロール (デイレイ)	トラクションコントロール (デイレイ)	トラクションコントロール機能 (デイレイ)
トラクションコントロール (サイクル)	トラクションコントロール (サイクル)	トラクションコントロール機能 (ポンピングの速さ)
ブレーキ 1 レート ATL	ブレーキ 1 レート ATL	ブレーキ 1 レート ATL 機能
ブレーキ EXP (ブレーキ 1)	ブレーキ EXP (ブレーキ 1)	スロットル EXP (ブレーキ 1 側)
ブレーキ デイレイ (ブレーキ 1)	ブレーキ デイレイ (ブレーキ 1)	ブレーキミキシング (Ch.2 ブレーキデイレイ)
ブレーキ レート (ブレーキ 2)	ブレーキ レート (ブレーキ 2)	ブレーキミキシング (ブレーキ 2 レート)
ブレーキ EXP (ブレーキ 2)	ブレーキ EXP (ブレーキ 2)	ブレーキミキシング (ブレーキ 2 EXP)
ブレーキ デイレイ (ブレーキ 2)	ブレーキ デイレイ (ブレーキ 2)	ブレーキミキシング (ブレーキ 2 デイレイ)
ブレーキ レート (ブレーキ 3)	ブレーキ レート (ブレーキ 3)	ブレーキミキシング (ブレーキ 3 レート)
ブレーキ EXP (ブレーキ 3)	ブレーキ EXP (ブレーキ 3)	ブレーキミキシング (ブレーキ 3 EXP)
ブレーキ デイレイ (ブレーキ 3)	ブレーキ デイレイ (ブレーキ 3)	ブレーキミキシング (ブレーキ 3 デイレイ)
ブレーキ 2, 3 レート	ブレーキ 2, 3 レート	ブレーキミキシング (ブレーキ 2,3 レート)
チルトミキシング (ラダー → フラップ)	チルトミキシング (ラダー → フラップ)	チルトミキシングミキシングレート (ラダー ⇒ フラップ)
チルトミキシング (フラップ → ラダー)	チルトミキシング (フラップ → ラダー)	チルトミキシングミキシングレート (フラップ ⇒ ラダー)
アイドルアップ	アイドルアップ	アイドルアップレート
プログラムミキシング (1 ~ 5)A	プログラムミキシング (1 ~ 5)A	プログラムミキシング 1 ~ 5 レート A 側
プログラムミキシング (1 ~ 5)B	プログラムミキシング (1 ~ 5)B	プログラムミキシング 1 ~ 5 レート B 側
4WS リア側動作量	4WS リア側動作量	4WS ミキシング (リア側ステアリングレート)
デュアル ESC	デュアル ESC	デュアル ESC ミキシング (駆動モード切り替え)
デュアル ESC 比率	デュアル ESC 比率	デュアル ESC ミキシング (フロント & リアのレート比率)
ジャイロゲイン	ジャイロゲイン	ジャイロミキシング ゲイン調整 (感度調整)
アッカーマン	アッカーマン	ステアリングミキシングアッカーマン調整
コンディション	コンディション	コンディション 1 ~ 4 の移動
パワーレート	パワーレート	パワーレート
エンジンカット	エンジンカット	エンジンカットスロットル位置
ジャイロデータ	ジャイロデータ	ジャイロデータ 1 ~ 5 間の移動
OFF	OFF	未使用

スイッチ設定

スイッチ（SW1～SW6）とステアリング／スロットルスティックをスイッチとして操作する機能の選択および動作方式を設定します。スティックスイッチは、スティックのポイントでミキシングやエンジンカットなどの機能を ON/OFF できます。

- SW6 は、DL1 と一体型のスイッチになっています。
- オルタネート動作（押すたびに ON/OFF が切り替わる動作）にすることができます。
- ON/OFF 方向を反転することができます。（ノーマル／リバース）リバース設定した機能は常に ON の状態からスタートします。ただし、ステアリング／スロットルスティックスイッチはポジションによって変化します。

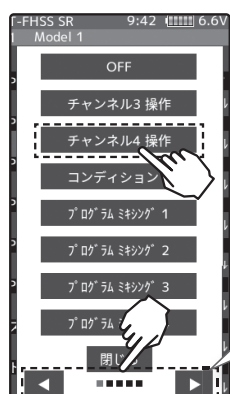
スイッチ設定 画面は、次の方法で表示します。



スイッチの設定方法

1 (設定スイッチと機能の選択)

設定するスイッチをタッチして、機能リストのポップアップ画面を表示します。使用する機能をタッチして選びます。キャンセルする場合は、**[取り消し]**をタッチします。



機能の選択

- ポップアップ画面をタッチして選択。
- 各スイッチに割り付け可能な機能リストは P72

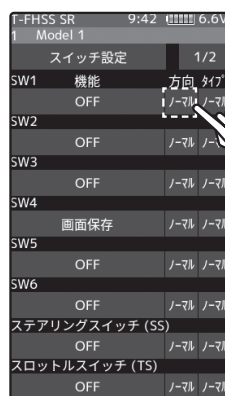
◀▶をタッチしてページを移動、◀▶の中央にある■の数だけページがある。

スイッチ設定

目次へもどる

2 (動作方向を変更する場合)

設定するスイッチの**方向**【**ノーマル**】または【**リバース**】をタッチして、動作方向を設定します。



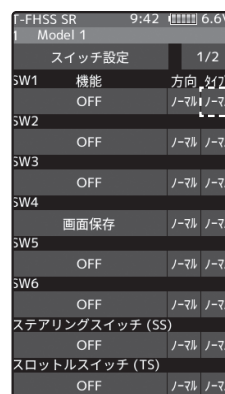
設定

- 【**ノーマル**】 / 【**リバース**】をタッチ。
- ノーマル / リバース

(動作タイプを変更する場合)

タイプの【**ノーマル**】または【**ALT.**】をタッチして、動作タイプを設定します。

- "ノーマル" : 押している間だけ ON、離すと OFF
- "ALT." : 押すたびに ON/OFF が切り替わる動作



設定

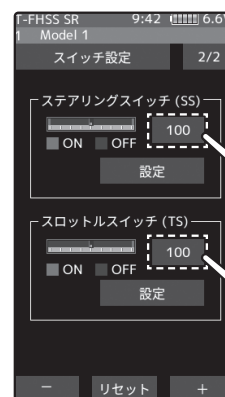
- 【**ノーマル**】 / 【**ALT.**】をタッチ。
- ノーマル / オルタネート (ALT.)

3 (スティックスイッチの設定)

ステアリング／スロットルスティックをスイッチとして働かせる機能です。

スティックスイッチのポジションの設定値をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に【-】【リセット】【+】が表示します。【+】、【-】をタッチして ON/OFF の切り替えポイントを設定します。またはスティックを ON/OFF の切り替えるポイント位置に保持し、【**設定**】をタッチすると、そこが切り替え位置に設定できます。【+】、【-】でそのポイントの微調整ができます。

バーグラフの赤の範囲が ON の状態です。



ステアリングポイント

0 ~ 100

初期値 : 100

スティックポイント

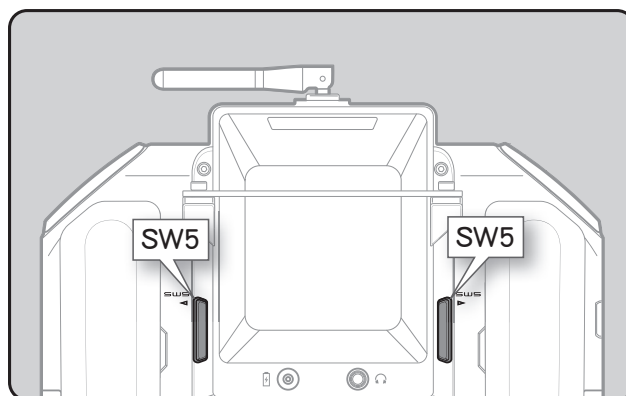
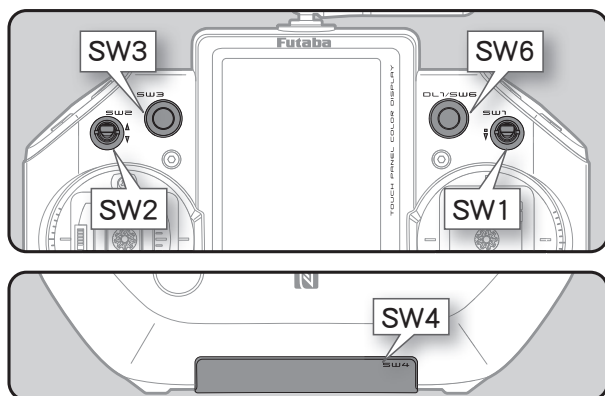
-100 ~ 100

初期値 : 100

調整

- 【+】 / 【-】をタッチで調整。
- 【リセット】をタッチで初期値。

4 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。



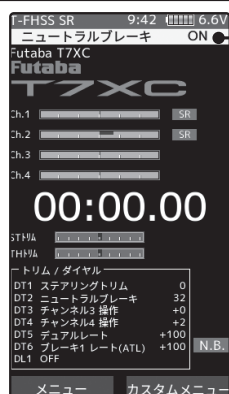
設定可能な機能: スイッチ (SW1 ~ 6)、ステアリング・スティックスイッチ (SS)、スロットル・スティックスイッチ (TS)

設定画面上の機能名	機能など
チャンネル 3,4,5,6,7 操作	3,4,5,6,7 チャンネル動作 (5,6,7 は S-FHSS のみ使用可能)
コンディション 1 ⇄ 2	コンディション 1 と 2 の切り替え
コンディション 1 ~ 4	コンディション 1 ~ 4 指定
プログラムミキシング 1 ~ 5	プログラムミキシング 1 ~ 5 機能の ON/OFF
A.B.S.(ブレーキ 1)	A.B.S 機能ブレーキ (2Ch.2) の ON/OFF
A.B.S.(ブレーキ 2,3)	A.B.S 機能ブレーキ 2,3(Ch.3,Ch.4) の ON/OFF
トラクションコントロール	トラクションコントロール機能の ON/OFF
4WS タイプ切り替え	4WS 機能のタイプ切り替え
4WS タイプ 1 (フロント)	4WS 機能の各タイプ 1 (フロント) 指定
4WS タイプ 2 (逆位相)	4WS 機能のタイプ 2 (逆位相) 指定
4WS タイプ 3 (同位相)	4WS 機能のタイプ 3 (同位相) 指定
4WS タイプ 4 (リア)	4WS 機能のタイプ 4 (リア) 指定
デュアル ESC(リア)	デュアル ESC ミキシングのリア駆動モード ON
デュアル ESC(4WD)	デュアル ESC ミキシングの 4WD モード ON
デュアル ESC(フロント)	デュアル ESC ミキシングのフロント駆動モード ON
ジャイロミキシング	ジャイロミキシングの ON/OFF
ジャイロゲイン	ジャイロミキシングのゲイングループ内 1/2 または 3/4 の切り替え
ジャイログループ切替	ジャイロミキシングのゲイングループの切り替え
CPS ミキシング 1 ~ 3	CPS ミキシング 1 ~ 3 機能の ON/OFF
ブレーキ	ステアリングミキシングのブレーキ ON/OFF
スタート	スタート機能の待機 SW
エンジンカット	エンジンカット (エンジン停止)
アイドルアップ	アイドルアップ機能の ON/OFF
ニュートラルブレーキ	ニュートラルブレーキ機能の ON/OFF
タイマースタート	レーシングタイマーのスタート / ストップ
タイマーリセット	レーシングタイマー表示のリセット
テレメトリー音声	テレメトリー音声の ON/OFF
テレメトリーログ	テレメトリーログ記録の ON/OFF
画面保存	現在表示している画面の画像を microSD カードに保存
バックライト	LCD バックライトの ON
パワーレイト	パワーレイト機能の ON/OFF
ジャイロデータ 1 ~ 5	ジャイロデータ 1 ~ 5 指定
OFF	未使用

スイッチ ON/OFF の表示

スイッチを操作すると、画面上部に約 2 ~ 3 秒間割り付けた機能の ON/OFF の状態などを表示します。

例：ニュートラルブレーキを割り付けたスイッチを操作した場合。



ホーム画面の状態でニュートラルブレーキスイッチを操作すると、画面上部にポップアップでニュートラルブレーキの ON/OFF を表示します。

アイドルアップ

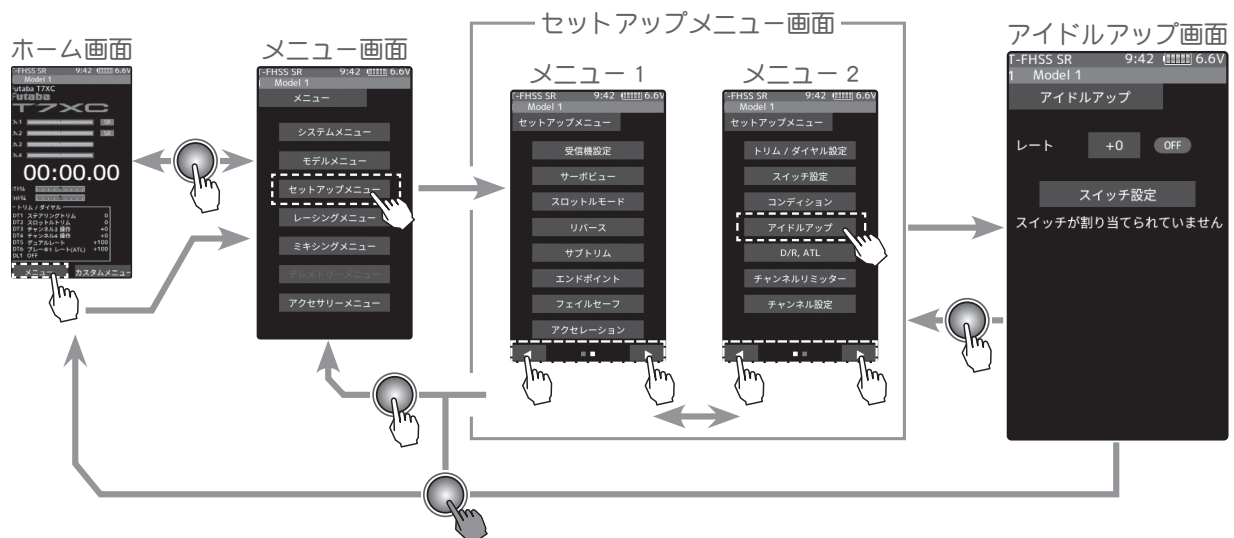
この機能を使用するにはスイッチ設定機能（P70）で、アイドルアップの ON/OFF スイッチを設定する必要があります。

エンジンカー（ボート）のエンジンスタート時に、アイドルリングを上げておくことにより、エンジンの始動性を良くするために使用します。また、ギヤ比の設定や電動カーの使用モーターの影響で、走行中のパワーオフしたときのブレーキ現象を防ぎたい場合にもこの機能が有効です。ただし、MC960CR, MC950CR, MC851C, MC602C, MC402CR などをご使用の場合は、ニュートラルブレーキ機能（P63）と同様に、ESC がニュートラル位置を認識して、動作可能になってからアイドルアップ機能のスイッチを ON にしてください。

動作

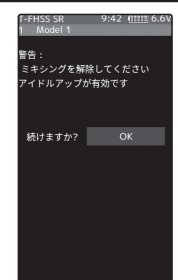
- スロットルのアイドルリング（ニュートラル）位置を前進側、またはブレーキ側にオフセットします。この機能でニュートラルをオフセットしても、最大動作角付近は変化しないので、リンクageのロック等はありません。

アイドルアップ画面は、次の方法で表示します。



- *画面上部に2～3秒間、ポップアップでアイドルアップのON/OFFを表示
- *ホーム画面でアイドルアップがONのときに表示

アイドルアップスイッチをONにしたまま電源を入れたら、アラーム音とLCD画面のワーニング表示で警告します。アイドルアップスイッチを一度OFFにしてください。

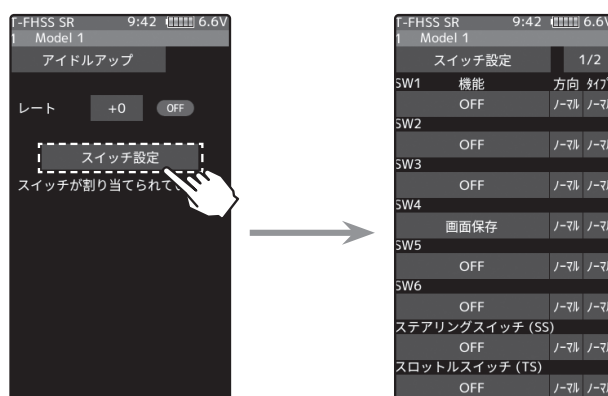


ワーニング画面

アイドルアップの調整方法

(準備)

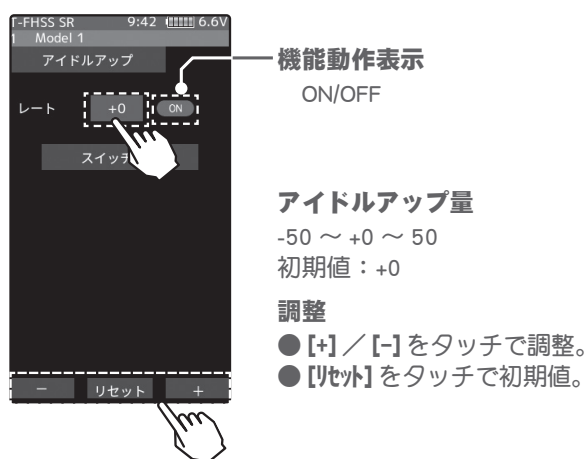
- ・スイッチ 設定機能 (P70) で、アイドルアップ機能の ON/OFF スイッチを設定します。設定していない場合「**スイッチが割り当てられていません**」と表示しますので、**[スイッチ設定]**をタッチし、スイッチ設定画面に移動してスイッチを選びます。



1 (アイドルアップ量の調整)

設定項目**[レート設定値]**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**[-]****[リセット]****[+]**が表示します。**[+]**、**[-]**をタッチしてブレーキ量を調整します。

- アイドルアップ量は -50 ~ +0 ~ 50 の範囲で調整が可能。



- 2 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

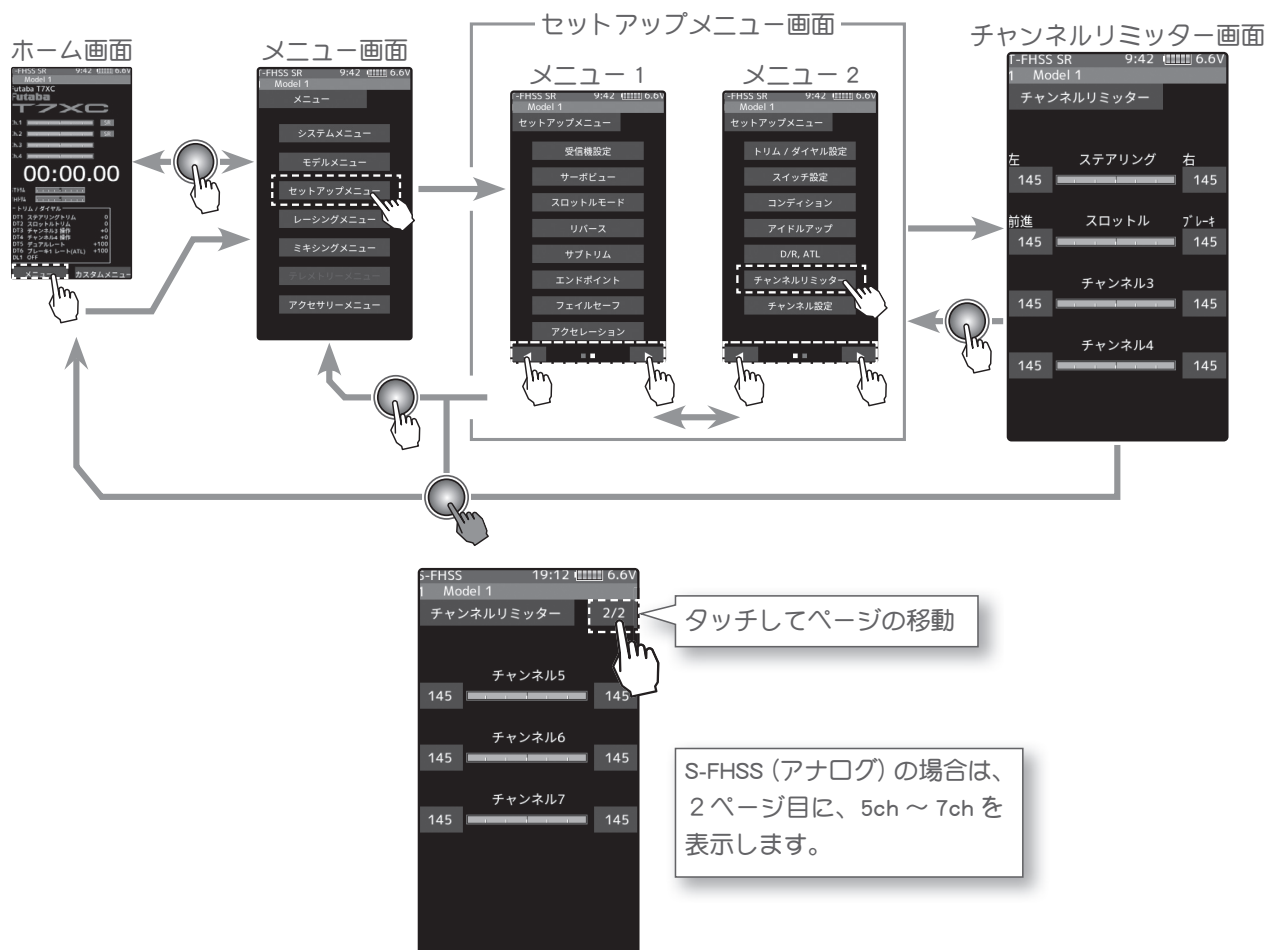
ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム／ダイヤル設定機能 (P67) で、アイドルアップ量の調整をダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 に設定することができます。

チャンネルリミッター

サーボの最大動作量を制限するリミッター機能です。ミキシングの重複などで、サーボの動作量が意図しない大きさとなった場合でも、動作量を制限することでリンクージを保護することができます。

チャンネルリミッター画面は、次の方法で表示します。



チャンネルリミッターの調整方法

1 (チャンネルレート確認調整)

設定するチャンネルの設定項目[**レート設定値**]をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** [**リセット**] **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして左右の各舵角量を調整します。各チャンネルレートの中央に表示するサーボモニターで、動作を確認できます。



リミットの設定

10 ~ 145

初期値: 145

調整

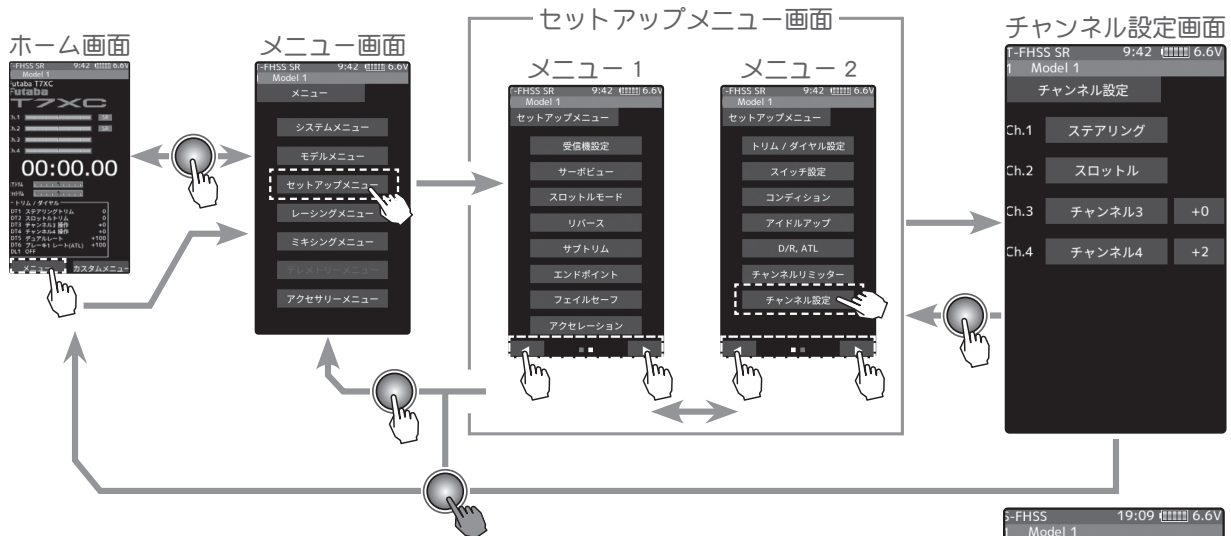
- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

2 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

チャンネル設定

任意のチャンネルにステアリング、またはスロットルを割り当てる機能です。別のチャンネルでステアリングやスロットルを使用したいときや、他のチャンネルをステアリングやスロットルと同じ動作をさせたいときに便利な機能です。

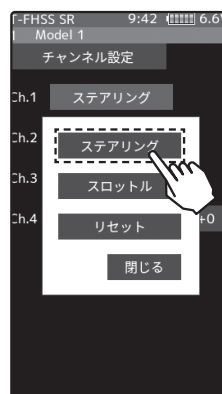
チャンネル設定画面は、次の方法で表示します。



ステアリング／スロットルの設定方法

1 (チャンネル設定)

設定する**【チャンネル】**をタッチ、**【ステアリング】****【スロットル】**のポップアップ画面が表示します。そのチャンネルに設定する**【ステアリング】**または**【スロットル】**をタッチして選びます。キャンセルする場合は、**【閉じる】**をタッチします。



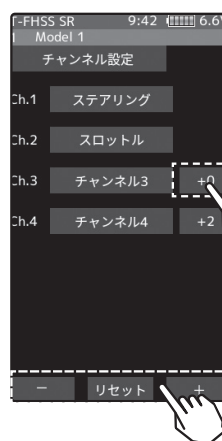
S-FHSS (アナログ) の場合は、1ch ～ 7ch を表示します。

チャンネルの選択

- ポップアップ画面をタッチして選択。
- **【セット】**をタッチで初期設定。

2 (予備チャンネルのポジション設定)

Ch.3 / 4 などにスイッチ、トリム／ダイヤルなどが無い場合、ここでポジション設定ができます。調整するチャンネルの設定項目**【ポジション設定値】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】****【リセット】****【+】**が表示します。**【+】**、**【-】**をタッチしてポジションを設定します。



ポジションの設定

-100 ～ +0 ～ +100
初期値：+0

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

3 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

コンディション

1つのモデルの中に最大4種類までのデータを設定できます。

例えば2種類のコンディションを設定した場合、ノーマルコンディション(コンディション1)でステアリングD/Rを90%、コンディション2にステアリングD/Rを60%といったように2種類のデータを設定できます。このコンディションの設定は、各モデルに設定できます。

●コンディション機能を使用する場合は、スイッチ設定(P70)またはトリム/ダイヤル設定機能(P67)で、コンディションを切り替えるスイッチ、トリム/ダイヤルの設定をします。

●コンディションネーム機能で、各コンディションに名前を付けることができます。

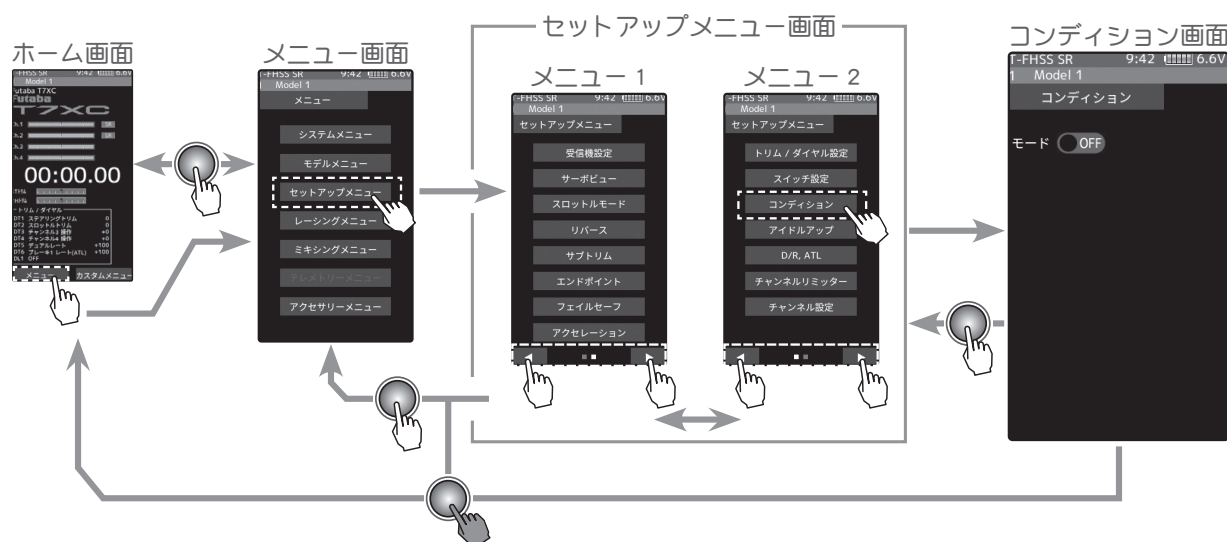
●最初にコンディション2～4に各機能の初期設定が作成されます。

●スイッチ設定で設定したスイッチで、コンディションを切り替えるとピピッとアラーム音で知らせ、画面の上部にコンディションナンバーが表示されます。(ステアリングスイッチとスティックスイッチは切り替え時にアラームは鳴りません)

●現在どのコンディションになっているか知らせるため、全画面の上部にコンディションナンバーが表示されます。セットアップメニューに含まれるリバース機能、エンドポイントなど、モデルの基準となる設定メニューは、コンディションは使用できませんので、全てのコンディションの設定データは同じになります。

●コンディションに設定した各データは、データリセット(P198)でデータをリセットするまで記憶されています。コンディション機能をOFFにしたり、スイッチ設定でスイッチの設定を変更したりしてもデータは記憶しています。

コンディション画面は、次の方法で表示します。



コンディション機能の ON/OFF

1 (コンディション機能の ON/OFF)

"モード" の(ON●)または(●OFF)をタッチして、ON/OFF を選びます。

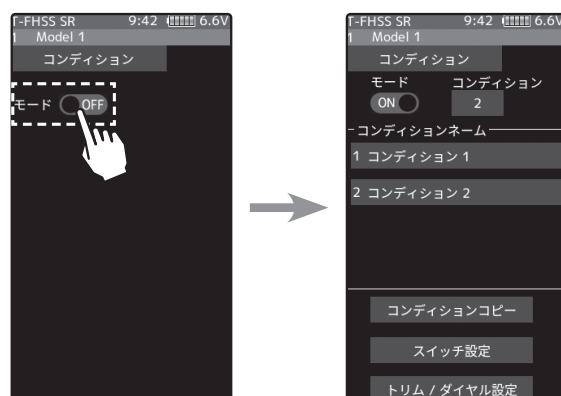
"(●OFF)" : 機能 OFF

"(ON●)" : 機能が ON の状態

(ON●) の状態でコンディション設定の表示が有効になり、コンディションが使用できるようになります。

設定

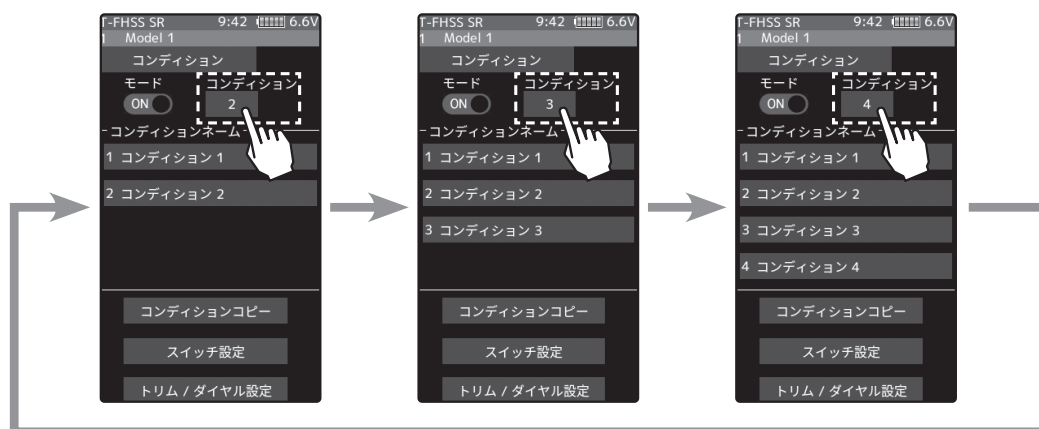
●(ON●)/(●OFF) をタッチ。



ボタンをタッチして ON に切り替えると、コンディション機能が有効になります。

2 [コンディション] ボタンをタッチすると、使用できるコンディションの数を変更することができます。

「コンディションネーム」グループボックス内に、コンディションナンバーのリストが表示されます。最大 4 コンディションまで使用可能です。



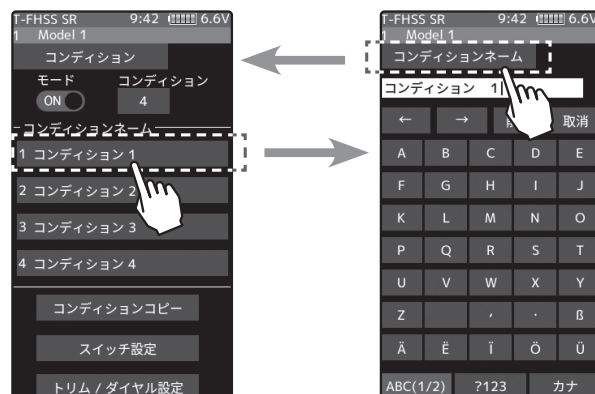
コンディションネームの設定

コンディションに、最大 15 文字までの名前を付けることができます。

1 「コンディションネーム」内のリストから、名前を変更するコンディションのボタンをタッチします。

2 コンディションネーム設定画面が表示するので、名前を編集します。

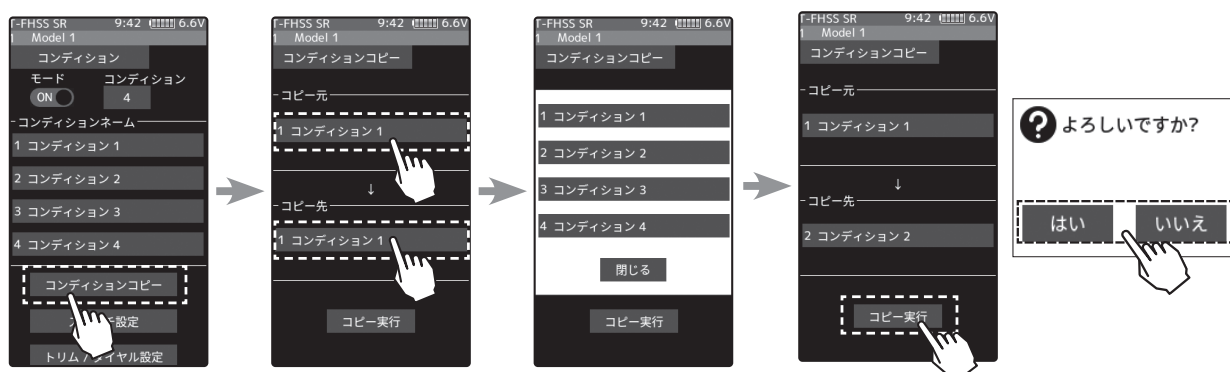
3 タイトルボタン[コンディションネーム]をタッチすると、コンディション画面に戻ります。



コンディションコピー

コンディションのデータを他のコンディションにコピーすることができます。

- 1 **「コンディションコピー」**ボタンをタッチします。コンディションコピー画面が表示します。
- 2 **「コピー元」**のコンディションボタンをタッチします。コピー元のコンディション選択画面が表示しますので、コンディションを選びます。同じように**「コピー先」**のコンディションボタンで、コピー先のコンディションを選びます。
- 3 コピー元とコピー選んだら**「コピー実行」**ボタンをタッチします。**「よろしいですか」**と確認メッセージが表示されますので、実行する場合は**「はい」**を、キャンセルする場合は**「いいえ」**をタッチします。コピー先コンディション名がコピー元と同じ名前になると、コピーが完了します。

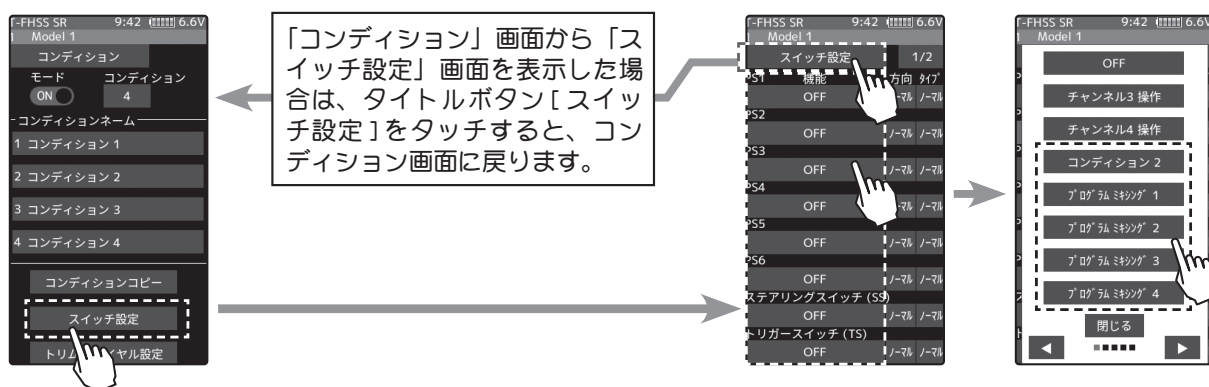


コンディション切り替えスイッチ設定

コンディションの切り替えをスイッチで行うことができます。切り替え方法は、以下の2種類があります。

- ・一つのスイッチで、コンディション1とコンディション2を切り替える。(従来のコンディション切り替えスイッチと同じ動作)
- ・各スイッチに任意のコンディションを割り当て、スイッチを操作してコンディションを切り替える。

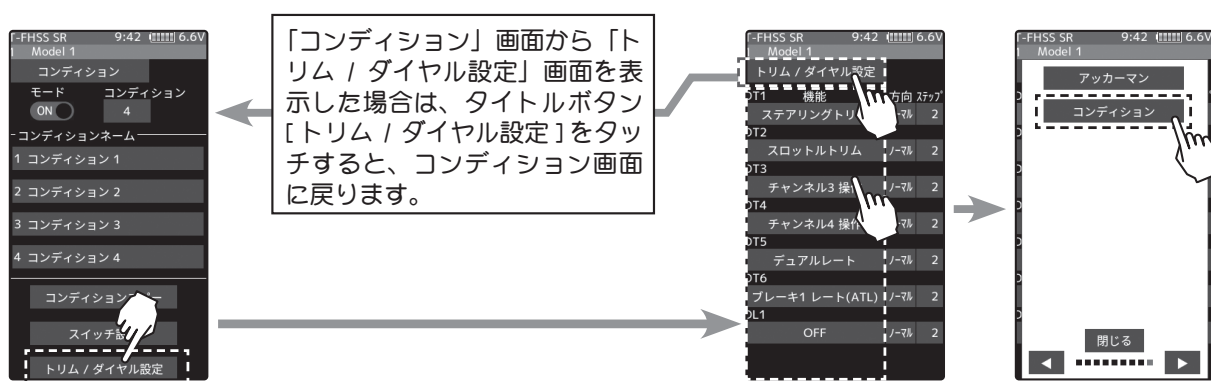
- 1 **「スイッチ設定」**ボタンをタッチして、**「スイッチ設定」**画面を表示します。(スイッチ設定画面は、セットアップメニューやカスタムメニューから開くこともできます)
- 2 切り替え機能を割り当てるスイッチをタッチして、機能選択画面を表示します。機能一覧から**「コンディション 1 ⇄ 2」**を選択すると、スイッチの操作でコンディション1とコンディション2を切り替えることができ、各スイッチに**「コンディション 1」**～**「コンディション 4」**を選択すると、各スイッチの操作で割り当てたコンディションに切り替えることができます。



コンディション切り替えトリム / ダイヤル設定

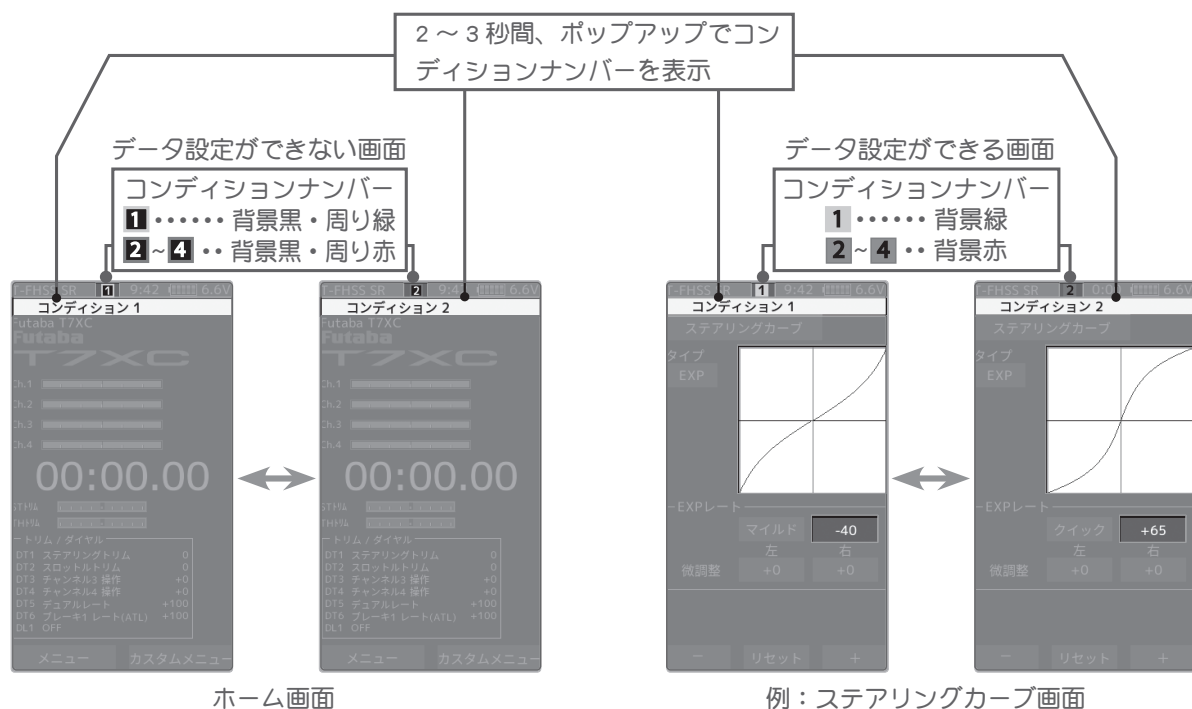
コンディションの切り替えをトリムまたはダイヤルで行うことができます。トリムまたはダイヤルを操作すると、コンディション 1 → 2 → 3 → 4 または 4 → 3 → 2 → 1 のようにコンディションを切り替えることができます。

- 1 **【トリム / ダイヤル設定】** ボタンをタッチして、**「トリム / ダイヤル設定」** 画面を表示します。(トリム / ダイヤル設定画面は、セットアップメニューやカスタムメニューから開くこともできます)
- 2 切り替え機能を割り当てるトリムまたはダイヤルをタッチして、機能選択画面を表示します。機能一覧から**【コンディション】**を選びます。



コンディション使用時の表示

コンディション設定ができる機能画面と、それ以外の画面では、ナンバー表示の背景色が違います。

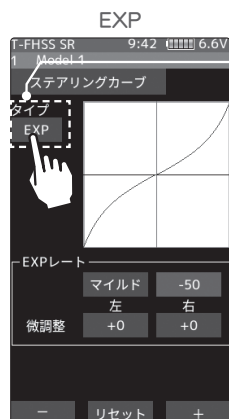
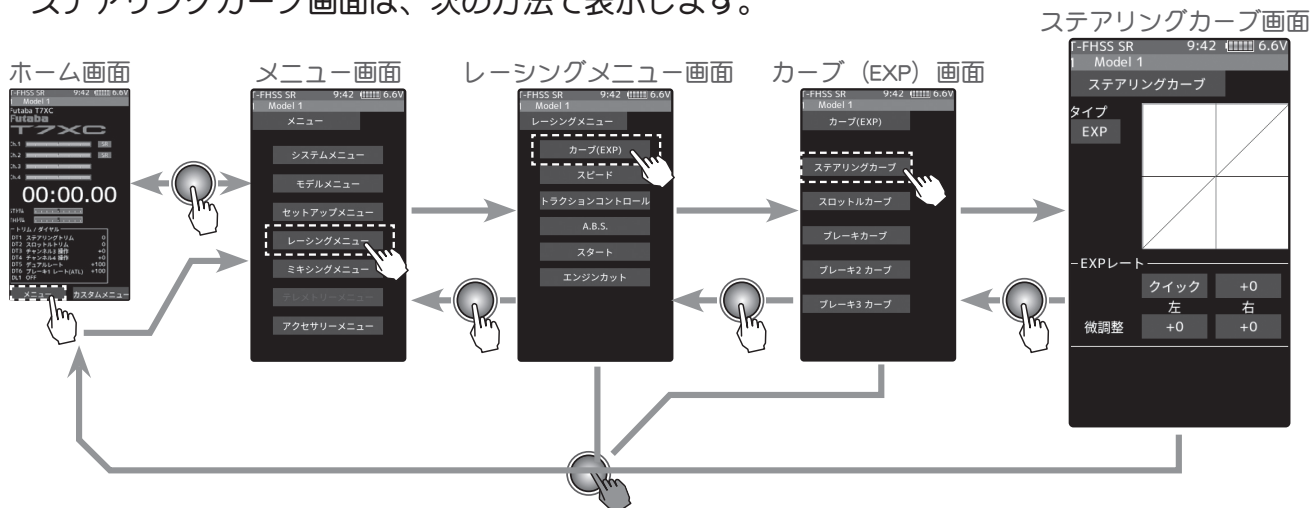


カーブ (EXP)

ステアリングカーブ

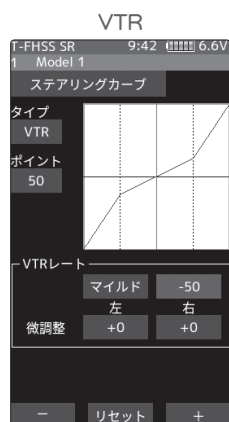
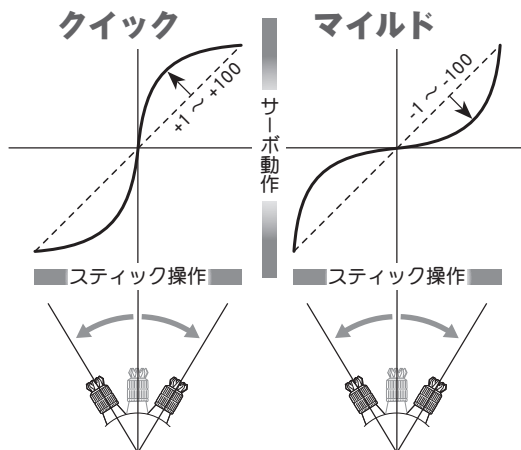
ステアリングスティック操作で、ニュートラル付近のサーボ動作をクイックにしたりマイルドにしたりする機能です。また、左右独立にレートの微調整機能もあります。各レートを調整してもサーボの最大舵角には影響しません。EXPとVTRの2種類のカーブタイプが選べます。

ステアリングカーブ画面は、次の方法で表示します。

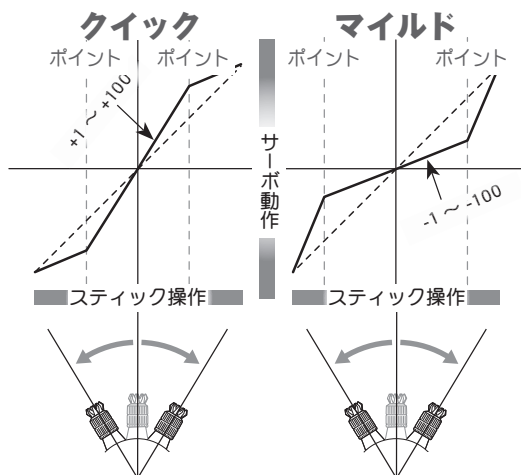


タイプをタッチしてEXP/VTRを切り替える

ニュートラル付近で、ステアリングスティックを操作したときに、サーボの動作をクイックにしたりマイルドにしたりする機能です。サーボの最大舵角には影響しません。



ニュートラルから最大舵角の間に、切り替わるポイントを設定し、2段階の直線的カーブで動作させるタイプ。サーボの最大舵角には影響しません。



ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム/ダイヤル設定 (P67) で、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ 6 など、ステアリングカーブのレート調整ができます。

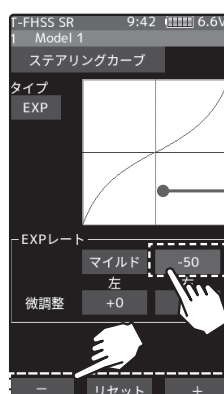
ステアリング EXP カーブの調整方法

(準備)

- カーブタイプをタッチして、**[EXP]** を選びます。

1 **[EXPレート設定値]** をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]****[リセット]****[+]** が表示します。ステアリングのサーボ動作をクイックにしたい場合は **[+]** をタッチして+側へ、マイルドにしたい場合は、**[-]** をタッチして-側に調整します。レートが"0"以外するとき、**[クイック]** または **[マイルド]** をタッチするとクイック/マイルドが反転します。

ステアリングの左右を別々に設定したい場合は、**[微調整]** の変更する方向のレートをタッチし、画面下の **[+]**、**[-]** をタッチして調整します。



カーブレート調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

調整範囲

-100 ~ +0 ~ +100
初期値 : +0

* ステアリングスティックの操作に連動して縦のカーソル線が移動します。

- 2** 終了する場合は、ホームボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

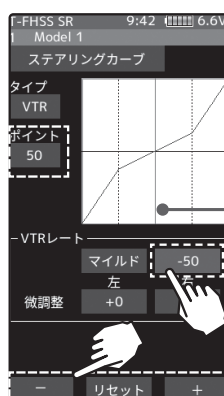
ステアリング VTR カーブの調整方法

(準備)

- カーブタイプをタッチして、**[VTR]** を選びます。

1 **[VTRレート設定値]** をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]****[リセット]****[+]** が表示します。ステアリングのサーボ動作をクイックにしたい場合は **[+]** をタッチして+側へ、マイルドにしたい場合は、**[-]** をタッチして-側に調整します。レートが"0"以外するとき、設定項目の **[クイック]** または **[マイルド]** をタッチするとクイック/マイルドが反転します。

ステアリングの左右を別々に設定したい場合は、**[微調整]** の変更する方向のレートをタッチし、画面下の **[+]**、**[-]** をタッチして調整します。



調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

カーブレート調整範囲

-100 ~ +0 ~ +100
初期値 : +0

ポイント調整範囲

1 ~ 99
初期値 : 50

* ステアリングスティックの操作に連動して縦のカーソル線が移動します。

- 2** (カーブの切り替わりポイントの調整)

ステアリングスティックに対して、カーブの切り替わりポイントを変更したい場合は **[ポイント設定値]** をタッチして、次に画面下の **[+]**、**[-]** をタッチして、設定したいポイントに移動します。

- 3** 終了する場合は、ホームボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

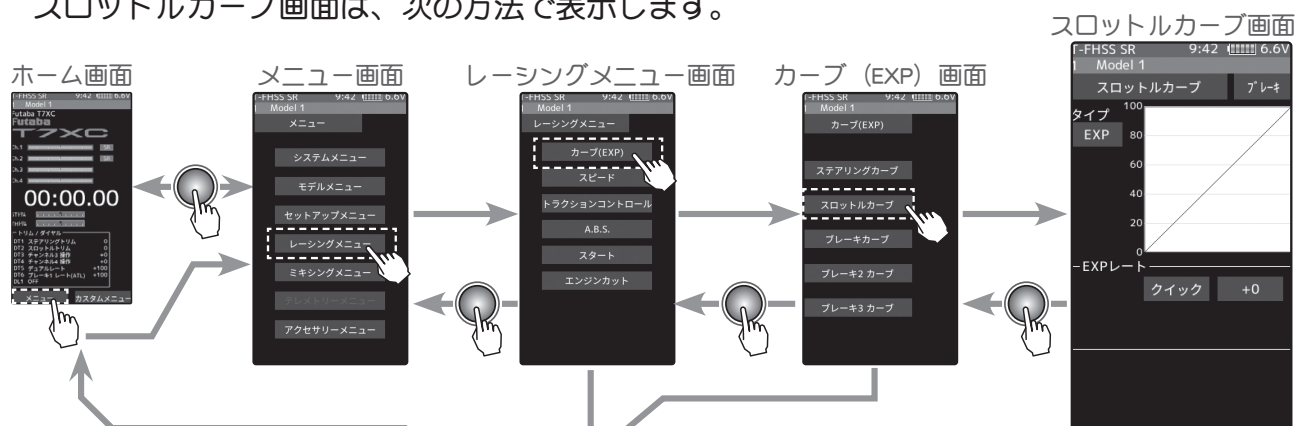
スロットルカーブ（前進側）

スロットルスティックの前進側の、サーボ動作をクイックにしたり、マイルドにしたりする機能です。サーボの最大動作量には影響しません。3種類のカーブタイプ（EXP / VTR / カーブ）が選べます。

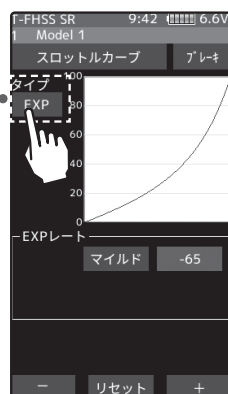
アドバイス

各カーブとも、コースコンディションが良くパワーユニットにトルク感がないときは+側（クイック側）とし、スリッピーな路面や、駆動輪がグリップしないときは-側（マイルド側）にします。

スロットルカーブ画面は、次の方法で表示します。

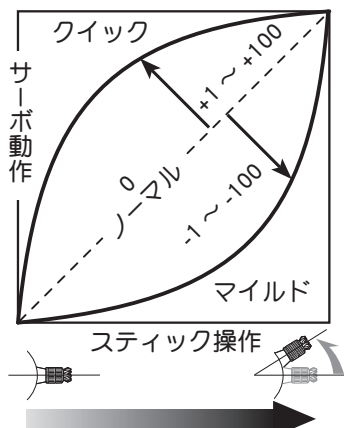


タイプをタッチしてEXP / VTR / カーブを切り替える



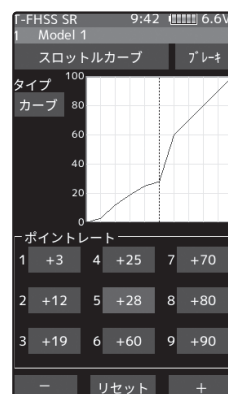
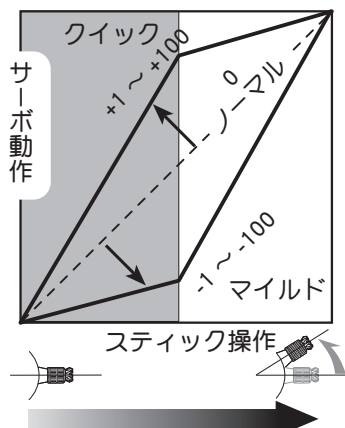
EXP

スロットルのニュートラルからハイポイントまでを、曲線カーブで動作させるカーブタイプ。



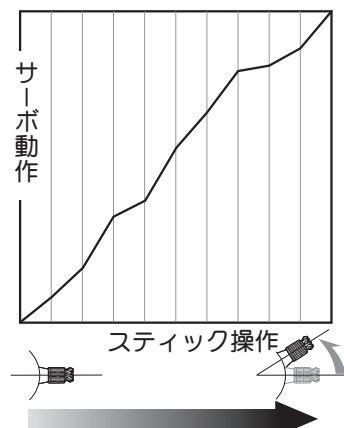
VTR

スロットルのニュートラルとハイポイント間に切り替わるポイントを設定し、2段階の直線のカーブで動作させるタイプ。



カーブ

スロットルのニュートラルとハイポイントの間に、9ポイントを設定し動作させるカーブタイプ。



機能説明

カーブ (EXP)

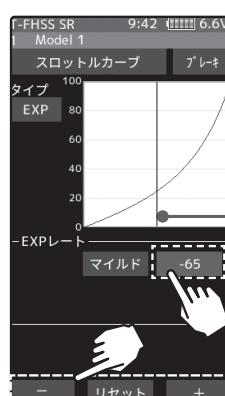
目次へもどる

スロットル(前進側)EXP カーブの調整方法

(準備)

- カーブタイプをタッチして、**[EXP]** を選びます。

- [EXPレート設定値]** をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。スロットルのサーボ動作をクイックにしたい場合は **[+]** をタッチして+側へ、マイルドにしたい場合は、**[-]** をタッチして-側に調整します。レートが"0"以外のとき、**[クイック]** または **[マイルド]** をタッチするとクイック/マイルドが反転します。



カーブレート調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

調整範囲

-100 ~ +0 ~ +100

初期値: +0

* スロットルスティックの操作に連動して縦のカーソル線が移動します。

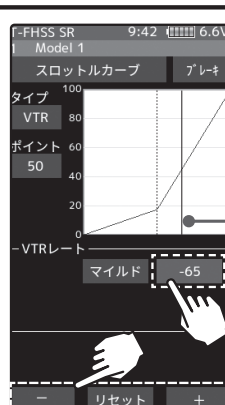
- 終了する場合は、ホームボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

スロットル(前進側)VTR カーブの調整方法

(準備)

- カーブタイプをタッチして、**[VTR]** を選びます。

- [VTRレート設定値]** をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。スロットルのサーボ動作をクイックにしたい場合は **[+]** をタッチして+側へ、マイルドにしたい場合は、**[-]** をタッチして-側に調整します。レートが"0"以外のとき、設定項目の **[クイック]** または **[マイルド]** をタッチするとクイック/マイルドが反転します。



調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

カーブレート調整範囲

-100 ~ +0 ~ +100

初期値: +0

ポイント調整範囲

1 ~ 99

初期値: 50

* スロットルスティックの操作に連動して縦のカーソル線が移動します。

- (カーブの切り替わりポイントの調整)
スロットルスティックに対して、カーブの切り替わりポイントを変更したい場合は **[ポイント設定値]** をタッチして、次に画面下の **[+]**、**[-]** をタッチして、設定したいポイントに移動します。
- 終了する場合は、ホームボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

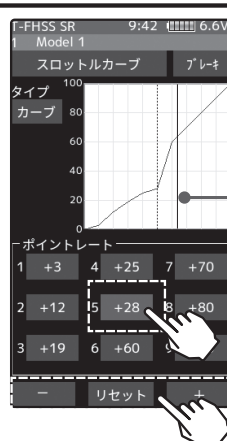
トリム/ダイヤル設定 (P67) を使って、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 で、スロットル前進側 EXP / VTR のレート調整ができます。

スロットルカーブの調整方法

(準備)

- カーブタイプをタッチして、**[カーブ]**を選びます。

- 設定するポイント (1 ~ 9) の**[レート設定値]**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチしてカーブポイントを調整します。



調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

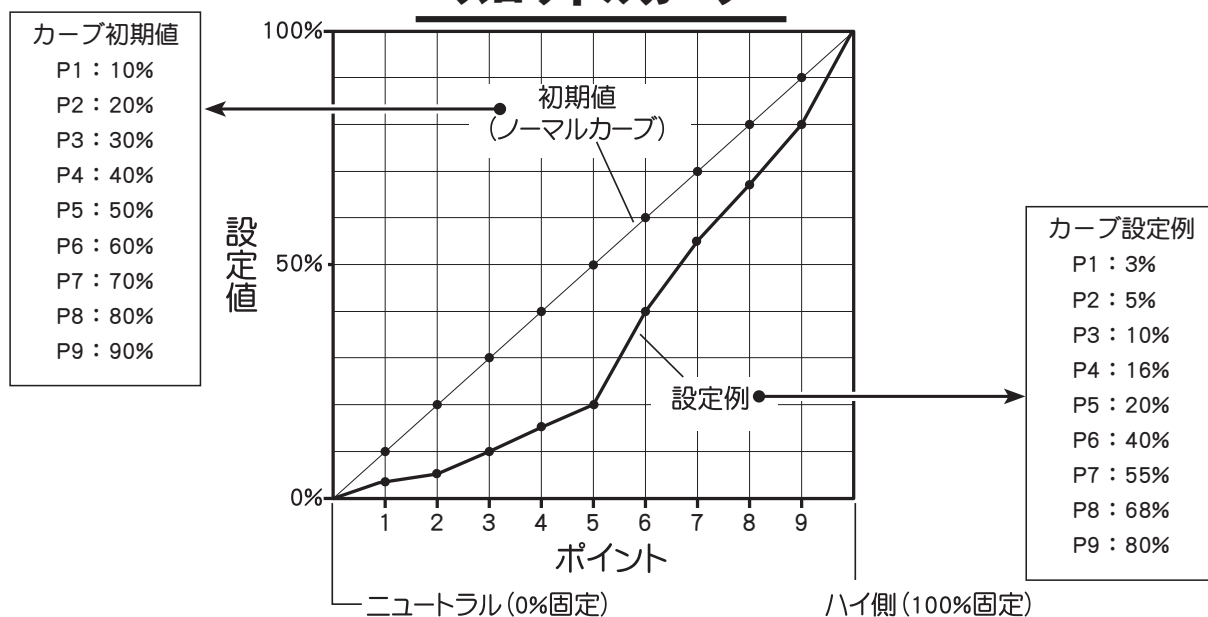
調整範囲

ポイント : 1 ~ 9
 レート : +0 ~ +100
 初期値 : 1:+10 / 2:+20 / 3:+30
 4:+40 / 5:+50 / 6:+60
 7:+70 / 8:+80 / 9:+90

* スロットルスティックの操作に連動して縦のカーソル線が移動します。

- 終了する場合は、ホームボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

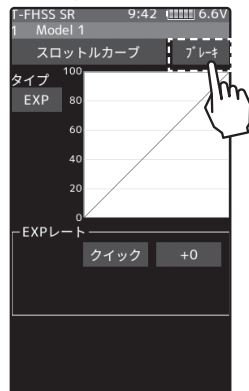
スロットルカーブ



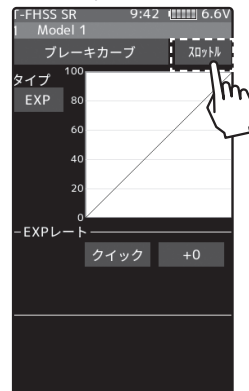
スロットル(前進側)カーブとブレーキカーブの画面切り替え

カーブ画面に戻らないで、スロットル(前進側)カーブ画面と、ブレーキカーブ画面を直接移動できます。

スロットルカーブ画面



ブレーキカーブ画面



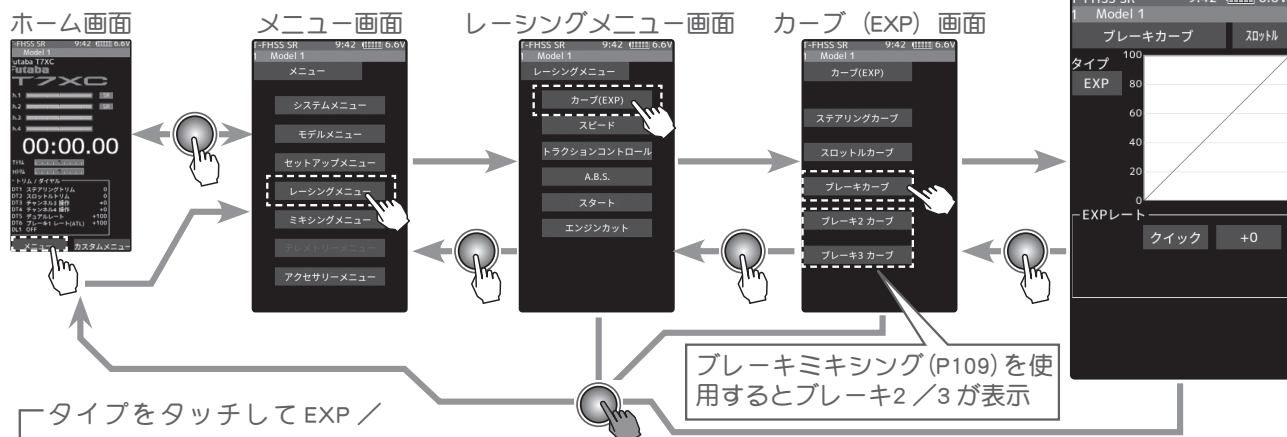
カーブ (EXP)

目次へもどる

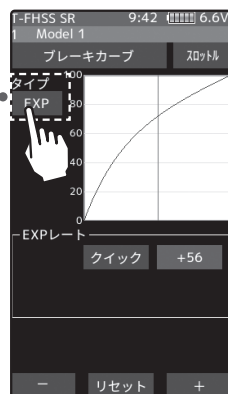
ブレーキカーブ

スロットルスティックのブレーキ側の、サーボ動作をクイックにしたり、マイルドにしたりする機能です。サーボの最大動作量には影響しません。3種類のカーブタイプ（EXP/VTR/カーブ）が選べます。ただし、スロットルモード（P62）を 100:0 に設定した場合、ブレーキ側機能は動作しません。各カーブの設定方法はスロットル（前進）側カーブと同じですので、P84～85 をお読みください。

ブレーキカーブ画面は、次の方法で表示します。



タイプをタッチして EXP / VTR / カーブを切り替える



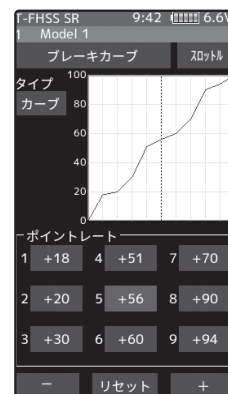
EXP

スロットルのニュートラルからフルブレーキまでを、曲線カーブで動作させるカーブタイプ。



VTR

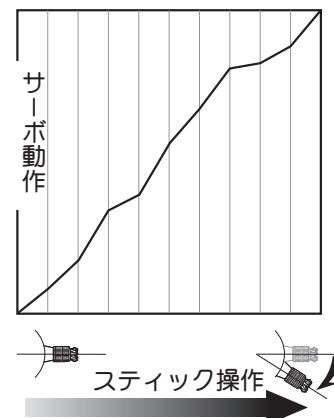
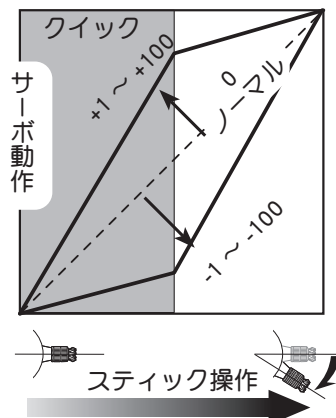
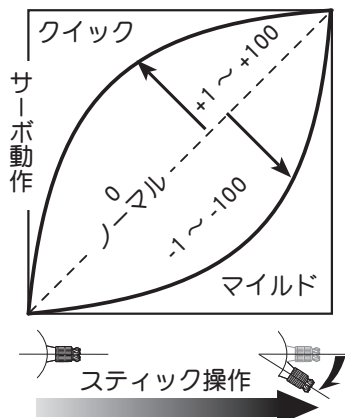
スロットルのニュートラルとフルブレーキ間に切り替わるポイントを設定し、2段階の直線的カーブで動作させるタイプ。



カーブ

スロットルのニュートラルとフルブレーキの間に、9ポイントを設定し動作させるカーブタイプ。

機能説明



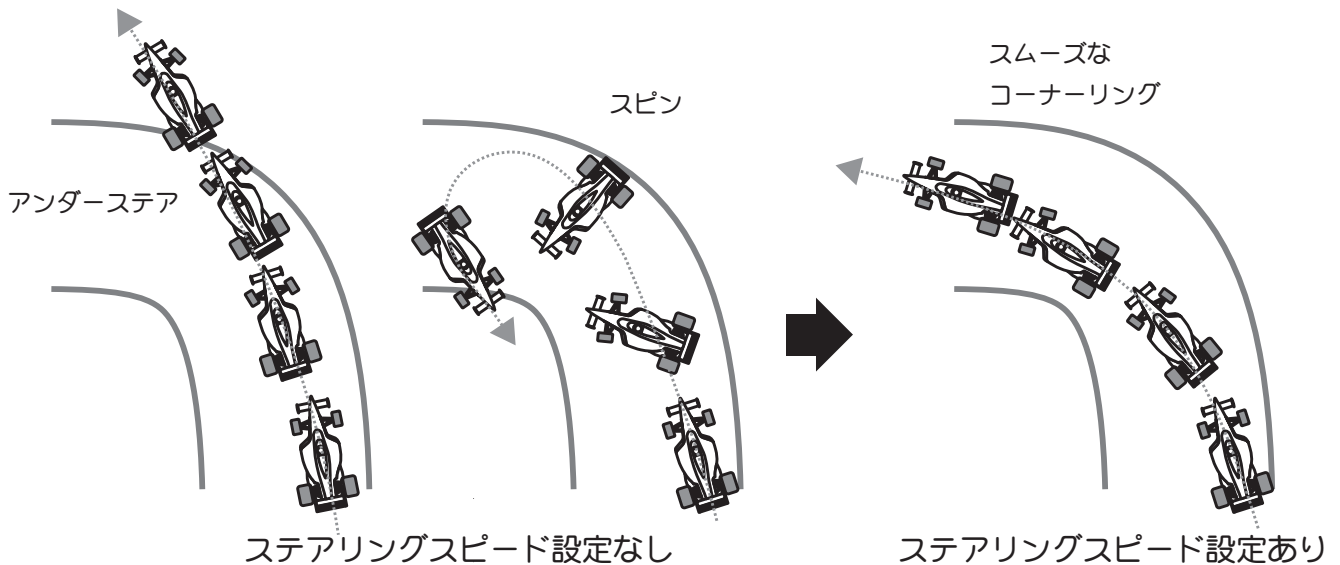
ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム/ダイヤル設定 (P67) を使って、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1～DT6 で、ブレーキ側 EXP / VTR のレート調整ができます。

スピード

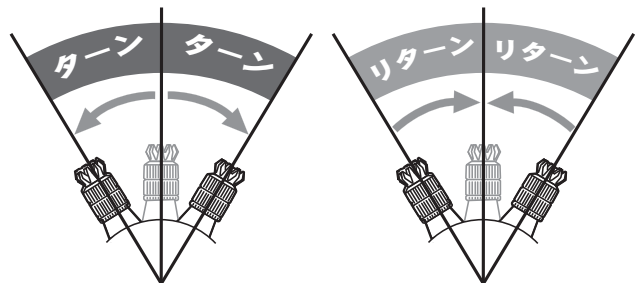
ステアリングスピード

すばいステアリング操作をした場合、一瞬アンダーステアや失速、またはスピンしてしまうことがあります。ステアリングスピード機能を使用することで、スムーズなコーナリングができます。

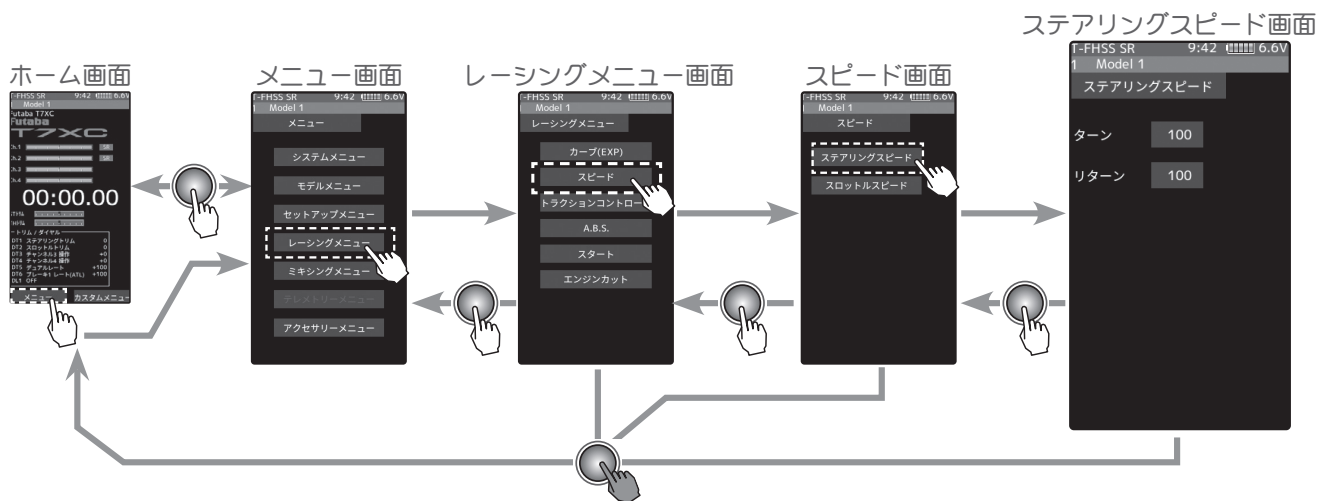


動作

- ステアリングサーボの最高スピードをおさえるように働きます。(ディレイ機能)
- ステアリングスティックを操作するとき（ターン方向）と、戻すとき（リターン方向）のスピードを別々に設定できます。
- 設定したスピードより遅いステアリング操作の場合は、ステアリング・サーボの動きには影響しません。



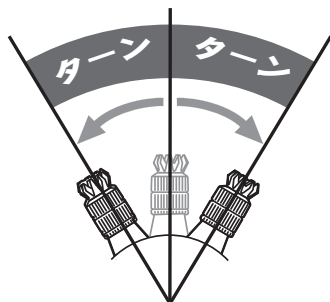
スピード画面は、次の方法で表示します。



ステアリングスピードの調整方法

1 (ターン方向のディレイ量の調整)

[ターン設定値] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。画面下の [+], [-] をタッチしてディレイ量を調整します。



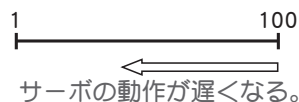
ターン : 操作時のスピード

調整範囲

1 ~ 100

100 のときディレイなし

初期値 : 100

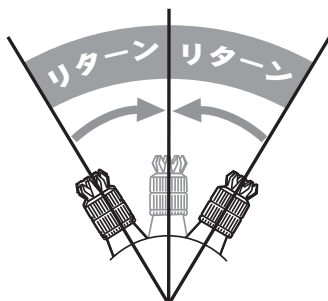


調整

- [+] / [-] をタッチで調整。
- [リセット] をタッチで初期値。

2 (リターン方向のディレイ量の調整)

[リターン設定値] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。画面下の [+], [-] をタッチしてディレイ量を調整します。



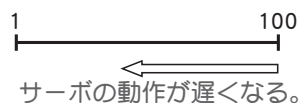
リターン : 戻りのスピード

調整範囲

1 ~ 100

100 のときディレイなし

初期値 : 100



調整

- [+] / [-] をタッチで調整。
- [リセット] をタッチで初期値。

3 終了する場合は、ホームボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム／ダイヤル設定 (P67) を使って、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 で、ステアリングのターンとリターンのディレイ量の調整ができます。

設定例 (ステアリングサーボ : BLS471 / BLS371 の場合) ・ ・ ・ (設定目安)

- | | | |
|------------|------------------|-------------------|
| ● オンロードの場合 | ターン ; 約 50 ~ 80 | リターン ; 約 60 ~ 100 |
| ● オフロードの場合 | ターン ; 約 70 ~ 100 | リターン ; 約 80 ~ 100 |

スロットルスピード

スリッピーな路面で急激なスロットルスティック操作は、無駄なホイールスピンを起こしスムーズな加速ができません。スロットルスピード機能を使用することでスムーズに加速でき、同時に無駄な電池の消耗を防げます。



SPEED あり/スムーズで速いスタートが可能



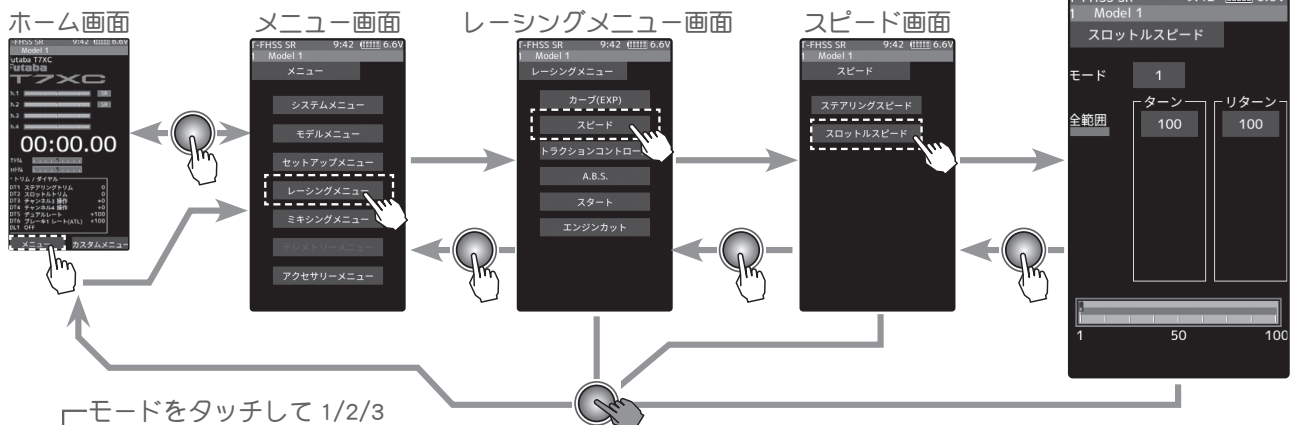
SPEED なし/タイヤがスリップして前に出ない

動作

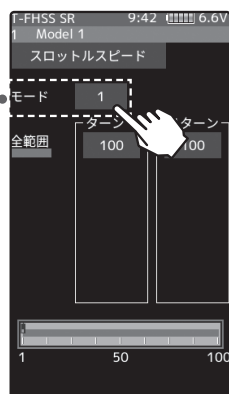
- 急激なスロットル操作に対して、スロットルサーボ（モーターコントローラー）にディレイ（遅れ）を持たせます。スティックを操作するとき（ターン方向）と、戻すとき（リターン方向）のスピードを別々に設定できます。設定したスピードより遅いスロットル操作や、ブレーキ操作時には、このディレイ機能は働きません。
- 1 スピード、2 スピード、3 スピードの選択ができます。

スロットルカーブ画面は、次の方法で表示します。

スロットルスピード画面

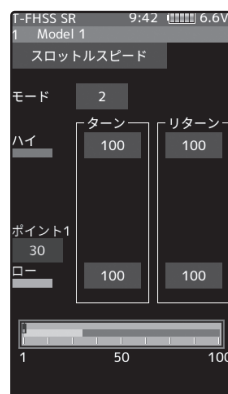
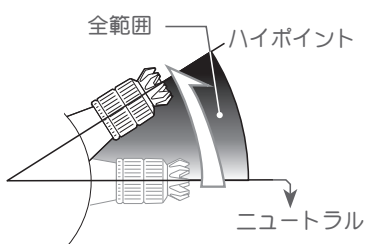


モードをタッチして 1/2/3
スピードを切り替える



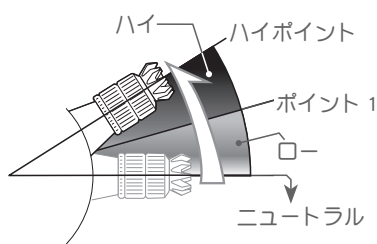
モード1 (1スピード)

スロットルの全範囲にディレイが設定される。



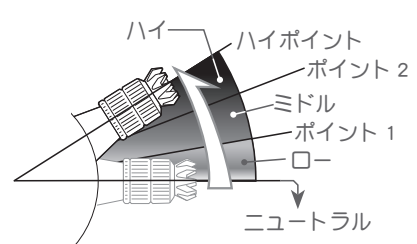
モード2 (2スピード)

ポイント 1 を境に 2 つの範囲でディレイが設定できる。



モード3 (3スピード)

ポイント 1, 2 を境に 3 つの範囲でディレイが設定できる。



機能説明

スピード

目次へもどる

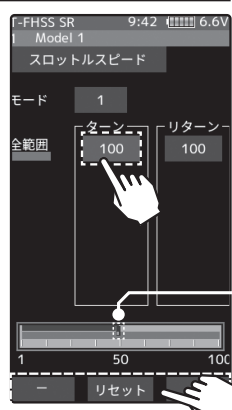
1 スピードの調整方法

(準備)

- ・モードをタッチして、**【モード1】**を選びます。

1 (ターン方向のディレイ量の調整)

【ターン設定値】をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】****【リセット】****【+】**が表示します。画面下の**【+】**、**【-】**をタッチしてスロットル全範囲のターン側ディレイ量を調整します。



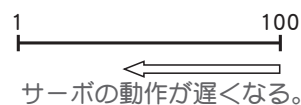
ターン : 操作時のスピード

調整範囲

1 ~ 100

100 のときディレイなし

初期値: 全範囲 100



サーボの動作が遅くなる。

調整

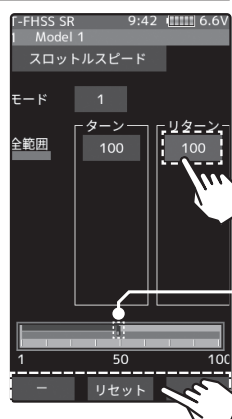
- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

*スロットルスティックの位置

2 (リターン方向のディレイ量の調整)

【リターン設定値】をタッチ、スロットルのリターン側にディレイを設定すると、**「スロットルの戻りが遅くなりますご注意ください」**の確認画面を表示します。確認したうえでリターンを使用する場合は、**【閉じる】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、ターン側と同じように、画面下の**【+】**、**【-】**をタッチしてスロットル全範囲のリターン側ディレイ量を調整します。

スロットルスピード
スロットルの戻りが遅くなります
ご注意ください



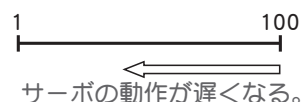
リターン : 戻りのスピード

調整範囲

1 ~ 100

100 のときディレイなし

初期値: 全範囲 100



サーボの動作が遅くなる。

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

*スロットルスティックの位置

- ### 3
- 終了する場合は、ホームボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

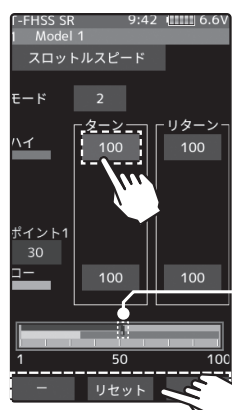
2 スピードの調整方法

(準備)

- ・モードをタッチして、**【モード2】**を選びます。

1 (ローまたはハイのターン方向のディレイ量の調整)

ローまたはハイの**【ターン設定値】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】****【リセット】****【+】**が表示します。画面下の**【+】**、**【-】**をタッチしてローまたはハイのターン側ディレイ量を調整します。



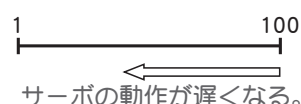
ターン : 操作時のスピード

調整範囲

□ : 1 ~ 100

ハイ : 1 ~ 100

100 の時ディレイなし



サーボの動作が遅くなる。

調整

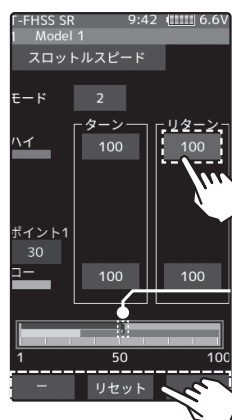
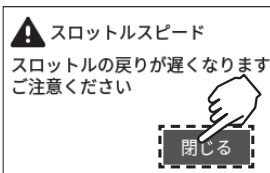
- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

*スロットルスティックの位置

2 (ローまたはハイのリターン方向のデレイ量の調整)

ローまたはハイの**【リターン設定値】**をタッチ、スロットルのリターン側にデレイを設定すると、「**スロットルの戻りが遅くなりますご注意ください**」

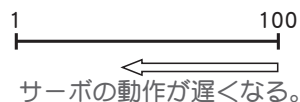
の確認画面が表示します。確認したうえでリターンを使用する場合は、**【閉じる】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】【リセット】【+】**が表示します。ターン側と同じように、画面下の**【+】【-】**をタッチしてローまたはハイのリターン側デレイ量を調整します。



リターン : 戻りのスピード

調整範囲

ロー : 1 ~ 100
ハイ : 1 ~ 100
100 の時デレイなし



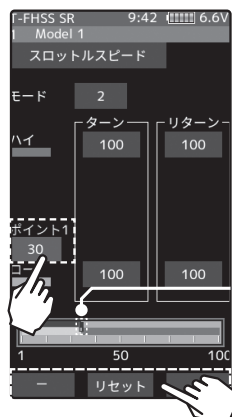
調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

* スロットルスティックの位置

3 (スピードの切り替わりポイントの調整)

ロー／ハイの切り替わりポイントを変更したい場合は、設定項目**【ポイント1設定値】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】【リセット】【+】**が表示します。画面下の**【+】【-】**をタッチして設定したいポイントに移動します。



**ポイント : ロー／ハイ
切り替え位置**

調整範囲

ポイント 1 : 1 ~ 100
初期値
ポイント 1 : 30

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

* スロットルスティックの位置

4 終了する場合は、ホームボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

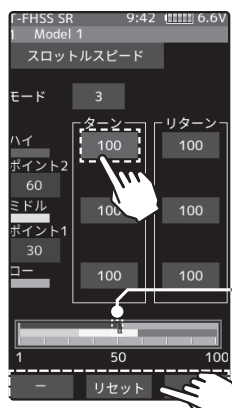
3 スピードの調整方法

(準備)

- ・ モードをタッチして、**【モード3】**を選びます。

1 (ロー／ミドル／ハイのターン方向のデレイ量の調整)

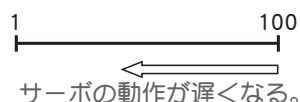
ロー／ミドル／ハイの**【ターン設定値】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】【リセット】【+】**が表示します。画面下の**【+】【-】**をタッチしてロー／ミドル／ハイのターン側デレイ量を調整します。



ターン : 操作時のスピード

調整範囲

ロー : 1 ~ 100
ミドル : 1 ~ 100
ハイ : 1 ~ 100
100 の時デレイなし



調整

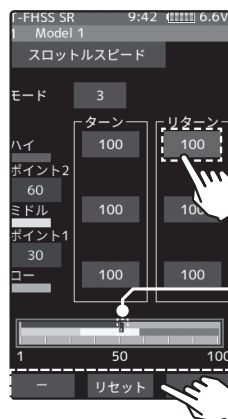
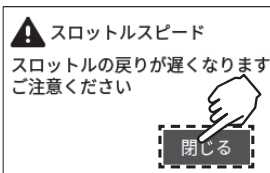
- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

* スロットルスティックの位置

2 (ローまたはハイのリターン方向のディレイ量の調整)

ローまたはハイの**【リターン設定値】**をタッチ、スロットルのリターン側にディレイを設定すると、**「スロットルの戻りが遅くなりますご注意ください」**

の確認画面を表示します。確認したうえでリターンを使用する場合は、**【閉じる】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】【リセット】【+】**が表示します。ターン側と同じように、画面下の**【+】**、**【-】**をタッチしてロー／ミドル／ハイのリターン側ディレイ量を調整します。



リターン：戻りのスピード

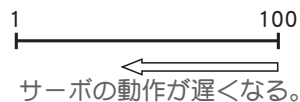
調整範囲

ロー : 1 ~ 100

ミドル : 1 ~ 100

ハイ : 1 ~ 100

100の時ディレイなし



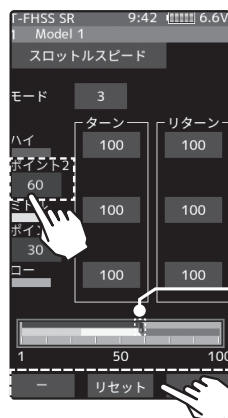
調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

* スロットルスティックの位置

3 (スピードの切り替わりポイントの調整)

ロー／ミドル／ハイの切り替わりポイントを変更したい場合は、設定項目**【ポイント1設定値】**または**【ポイント2設定値】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】【リセット】【+】**が表示します。画面下の**【+】**、**【-】**をタッチして、それぞれ設定したいポイントに移動します。



**ポイント：ロー／ミドル／ハイ
切り替え位置**

調整範囲

ポイント 1 : 1 ~ 100

ポイント 2 : 1 ~ 100

初期値

ポイント 1 : 30

ポイント 2 : 60

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

* スロットルスティックの位置

- ## 4
- 終了する場合は、ホームボタンを2回押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム／ダイヤル設定 (P67) を使って、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 で、スロットルのターンとリターンのディレイ量の調整ができます。

⚠ 注意

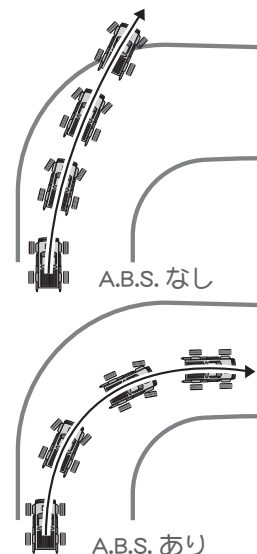
- ❶ リターン側にスピード機能を設定すると、車体の減速が遅くなりますので、十分に注意して設定してください。

A.B.S

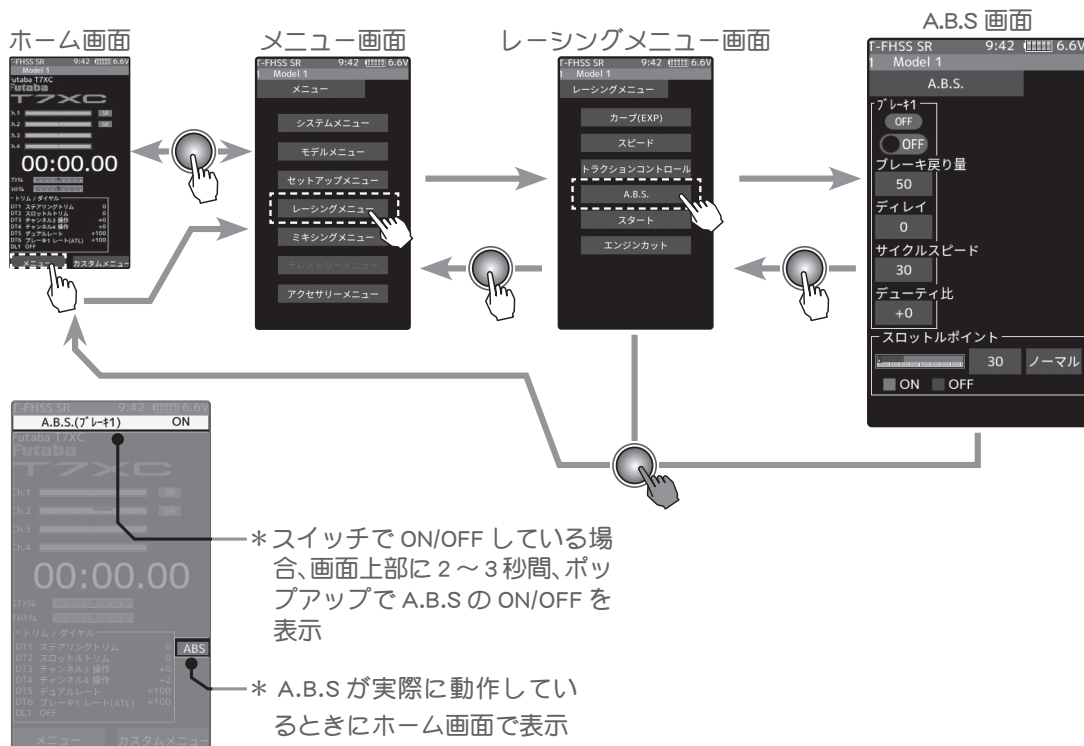
フルタイム 4WD 車などで、コーナリング中にブレーキをかけると、アンダーステアになりますが、この機能を使うことにより、スムーズにコーナーをクリアできます。

動作

- ブレーキ操作時、スロットルサーボを断続的にブレーキ動作させる、ポンピングブレーキです。
- ブレーキの戻り量、ディレイ量、ポンピングの速さ、動作ポイント、ポンピングのデューティー比を設定できます。
- ブレーキミキシング機能 (P109) を設定すると、ブレーキ 2/3 (3CH, 4CH) にも A.B.S が設定できます。



A.B.S 画面は、次の方法で表示します。

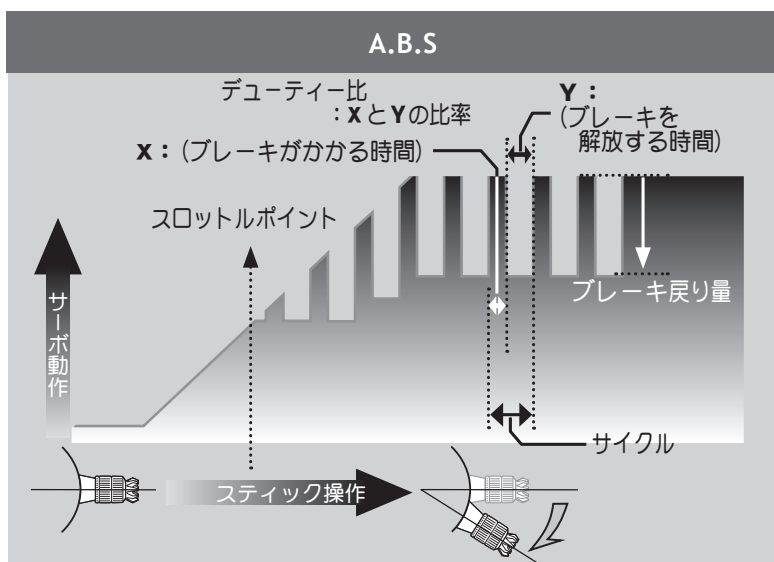


● ON/OFF

A.B.S 機能の ON/OFF 設定、A.B.S 機能を使用する場合は "ON" に設定します。

●ブレーキ戻り量

ブレーキ解放のために、スティック操作に対してサーボが戻る比率を設定します。0%に設定すると A.B.S 機能は動きません。50%でスティック操作量の 50% (半分)、100%でニュートラル位置まで戻ります。



●ディレイ

ブレーキ操作してから、A.B.S 動作が働くまでのディレイ（遅れ）を設定します。0%に設定すると遅れなしで A.B.S 機能が働きます。50%で約 0.5 秒遅れて A.B.S 機能が働き、100%で約 1.0 秒遅れて A.B.S 機能が働きます。

●サイクルスピード

ポンピングの速さ（サイクル）を設定します。設定数値が小さいほどポンピングサイクルが速くなります。

●デューティー比

ポンピング動作でブレーキのかかる時間と、解放する時間の比率を設定します。

比率は +4 ~ +0 ~ -4 の 9 段階の設定ができます。

●スティックポイント

ブレーキ操作で、A.B.S が働き始めるスロットルスティックの位置を設定します。

注意

スロットルモード（P62）を 100 : 0 に設定した場合、A.B.S 機能は動作しません。

A.B.S 機能の調整方法

1 (A.B.S 機能の ON/OFF)

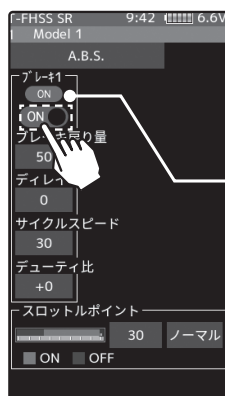
(ON●)または(●OFF)をタッチして、ON/OFF を選択します。

スイッチで ON/OFF する場合は、スイッチ設定機能（P70）でスイッチを設定します。

"(●OFF)" : 機能 OFF

"(ON●)" : 機能が ON の状態

●スイッチを設定している場合、スイッチ OFF で機能が動作しない状態でも ON と表示します。



設定

●(ON●) / (●OFF) をタッチ。

*実際にスロットルスティックの操作で A.B.S が働いている状態を ON/OFF で表示

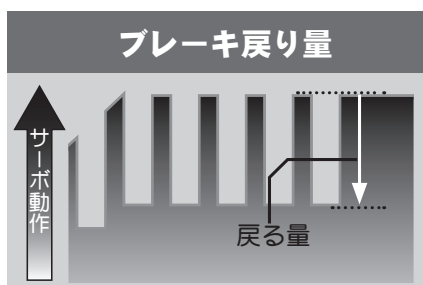
2 (ブレーキの戻り量の調整)

[ブレーキの戻り量設定値] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。画面下の [+], [-] をタッチして戻り量を調整します。

"0" : 戻りなし。

"50" : ブレーキ操作量の 50% の位置まで戻る。

"100" : ニュートラル位置まで戻る。



ブレーキの戻り量

0 ~ 50 ~ 100

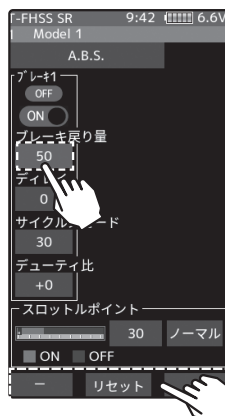
初期値 : 50

*ブレーキの戻り量はブレーキ側のカーブ設定により変化します。

調整

●[+] / [-] をタッチで調整。

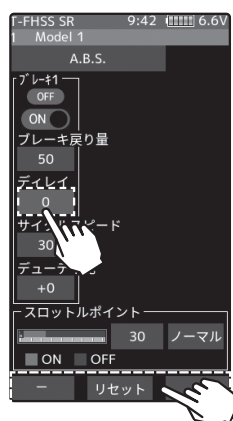
●[リセット] をタッチで初期値。



3 (ディレイ量の調整)

[ディレイ量設定値] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。画面下の **[+]**、**[-]** をタッチしてディレイ量を調整します。

- "0" : 遅れなしで A.B.S 機能が働く。
- "50" : 約 0.5 秒遅れて A.B.S 機能が働く。
- "100" : 約 1.0 秒遅れて A.B.S 機能が働く。



ディレイ量 (DELY)

0 ~ 100
初期値 : 0

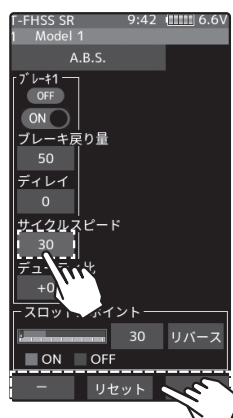
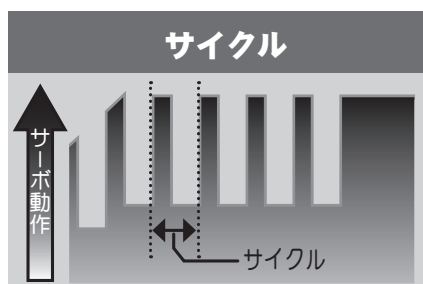
調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

4 (ポンピングの速さの調整)

[サイクルスピード設定値] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。画面下の **[+]**、**[-]** をタッチしてポンピングの速さを調整します。

- 設定数値が小さい程ポンピングの速さが速くなります。



ポンピングの速さの調整 (CYCL)

1 ~ 100
初期値 : 30

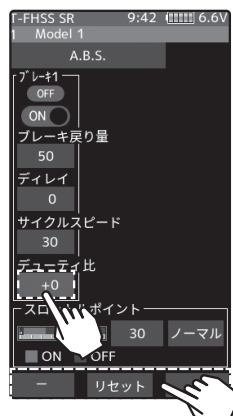
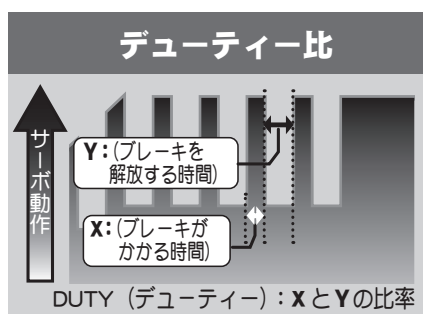
調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

5 (断続のデューティー比の調整)

[デューティー比設定値] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。画面下の **[+]**、**[-]** をタッチしてデューティー比を設定します。

- "-4" : ブレーキのかかる時間が一番短くなります。(ブレーキがロックしにくい)
- "+4" : ブレーキのかかる時間が一番長くなります。(ブレーキがロックしやすい)
- (参考) グリップの低い場合は-側、グリップが高い場合は+側に設定します。



デューティー比の設定

-4 ~ +0 ~ +4
初期値 : +0

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

6 (スティックポイントの設定)

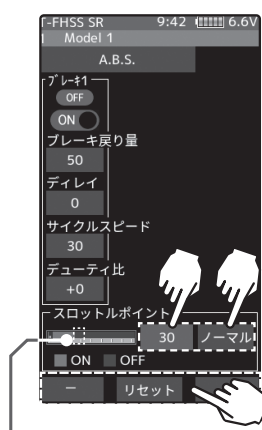
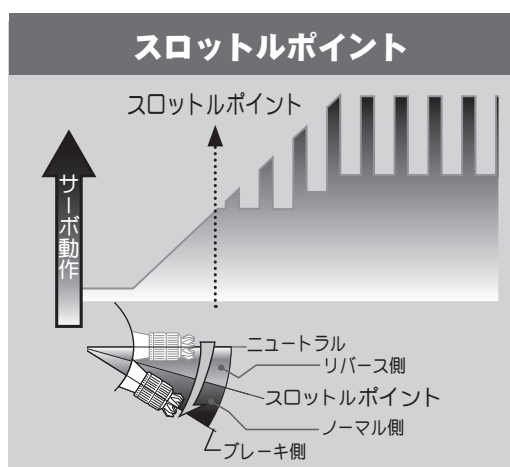
[スティックポイント設定値] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。画面下の **[+]**、**[-]** をタッチして、動作ポイントを設定します。

- スロットルスティックのどの位置から ABS 機能を働かせるかを設定できます。数値はフルブレーキの位置を 100 とした % 表示。

[ノーマル] または **[リバース]** をタッチして動作範囲の設定をします。

"ノーマル": スティックポイントからフルブレーキ側が動作範囲。

"リバース": ニュートラルからスティックポイントが動作範囲。



スロットルポイントの設定

5 ~ 95

初期値: 30

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

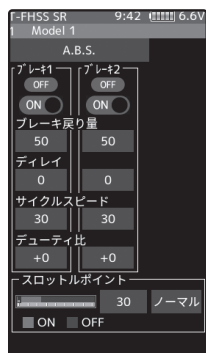
*スロットルスティックの位置

7 終了する場合は、ホームボタンを押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

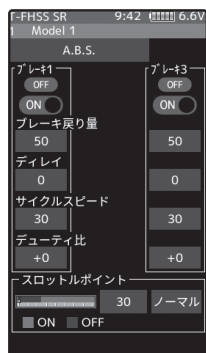
1/5 カーなどの単独ブレーキと ABS について

P109 で説明するブレーキミキシングを使用することにより、Ch.3 と Ch.4、またはその他の予備チャンネルで制御するブレーキ 2、ブレーキ 3 に単独で ABS を設定できます。

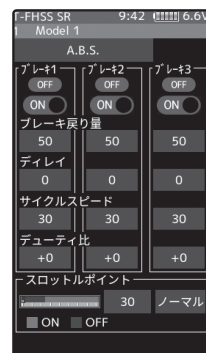
設定項目のスティックポイント以外はそれぞれ単独で調整ができます。



ブレーキミキシング
のブレーキ 2 "ON"



ブレーキミキシング
のブレーキ 3 "ON"



ブレーキミキシング
のブレーキ 2/3 "ON"

A.B.S

目次へもどる

スイッチの設定

スイッチ設定機能 (P70) で、A.B.S 機能の ON/OFF スイッチを設定できます。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム／ダイヤル設定 (P67) で、ブレーキの戻り量、ディレイ量およびサイクル (ポンピングの速さ) の設定をダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ～ DT6 で、コントロールすることができます。

フェイルセーフユニットについて

受信機設定のレスポンス (P40 ～ 41) で T-FHSS / S-FHSS / FASST が "**デジタル (ハイスピード)**" の場合と、受信機設定が **T-FHSS SR** の場合は、フェイルセーフユニットはシステムが異なるため使用できません。送信機側のフェイルセーフ機能を使用してください。また、T-FHSS / S-FHSS / FASST でレスポンスが "**アナログ (ノーマル)**" 場合、Futaba フェイルセーフユニット (FSU) を移用できますが、次のような動作となります。FSU をスロットルチャンネルに接続してある場合、A.B.S 機能のブレーキ動作により、サーボが動作する度に FSU の LED が点滅します。これは A.B.S 機能のポンピング動作による急激なデータ変化に対し、FSU が反応しているためで、フェイルセーフ機能が働いているわけではありません。サーボの動作には影響なく、そのままご使用になれます。

A.B.S 機能設定例 (S9373SV 使用時) * リンケージの状態で多少違いが出ます。

● 基本設定

ブレーキ戻り量 : 約 30% (この数値を増やしすぎると制動距離が伸びます)
サイクルスピード : 5 ～ 7
デューティー比 : 0 (グリップの低い場合は－側、グリップの高い場合は＋側が良い)
ディレイ : 10 ～ 15%
スティックポイント : 約 70%

● フルブレーキでタイヤがロックあるいはスピンする場合

ブレーキ戻り量 : 30% から増やす
デューティー比 : 0 から－側 $\xrightarrow{(-1,-2,-3,-4)}$ に変更
ディレイ : 量を減らす

● フルブレーキでブレーキの効きが悪く、制動距離が伸びてしまう場合

ブレーキ戻り量 : 30% から減らす
デューティー比 : 0 から＋側 $\xrightarrow{(+1,+2,+3,+4)}$ に変更
ディレイ : 量を増やす

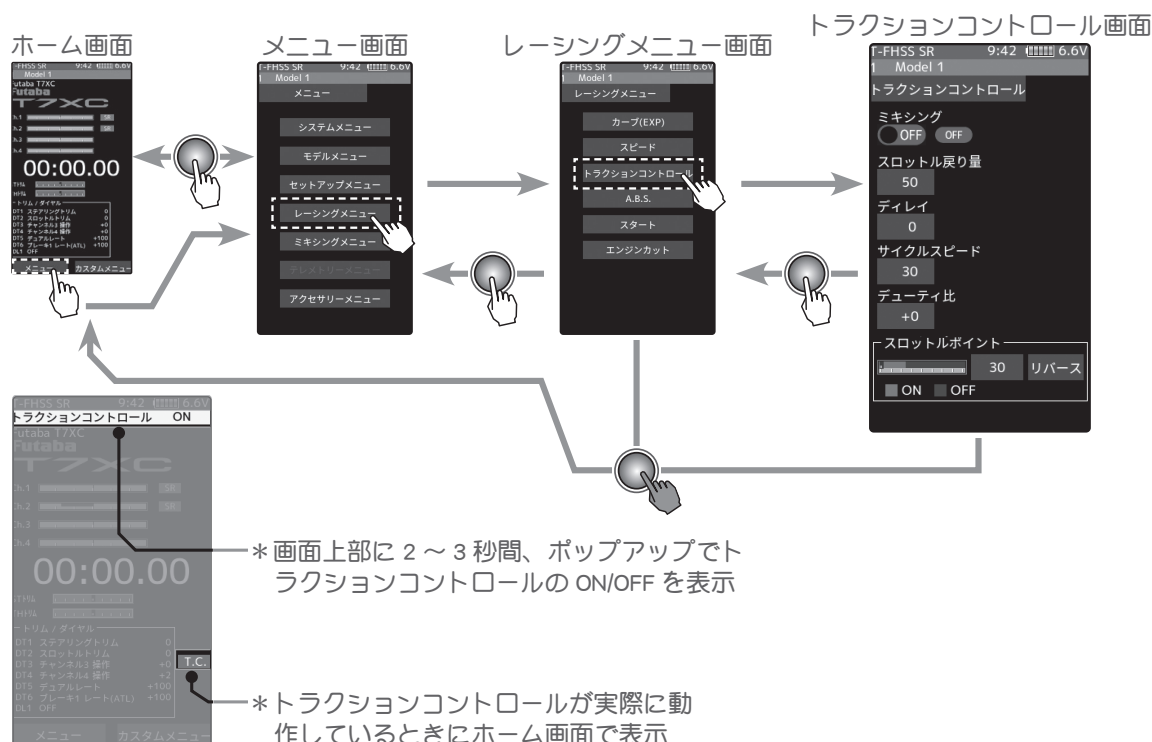
トラクションコントロール

スリッピーな路面でコーナリング中のスロットルスティック操作は、トラクションがかりにくく、スムーズなコーナリングができません。スロットルの動作を間欠動作させることで、スムーズなコーナリングができ、理想的なラインを走行できます。また、ドリフトカーでは、ハイポイント方向でモーターを間欠動作させることで、擬似的なレブリミッター音を再現できます。

動作

- スロットル操作時、スロットルサーボを断続的に前進方向へ動作させます。
- スロー側への戻り量、ディレイ量、ポンピングの速さ、動作ポイント、ポンピングのデューティー比を設定できます。
- ニュートラル付近のスロー側での動作と、ハイポイント側での動作を選べます。

トラクションコントロール画面は、次の方法で表示します。



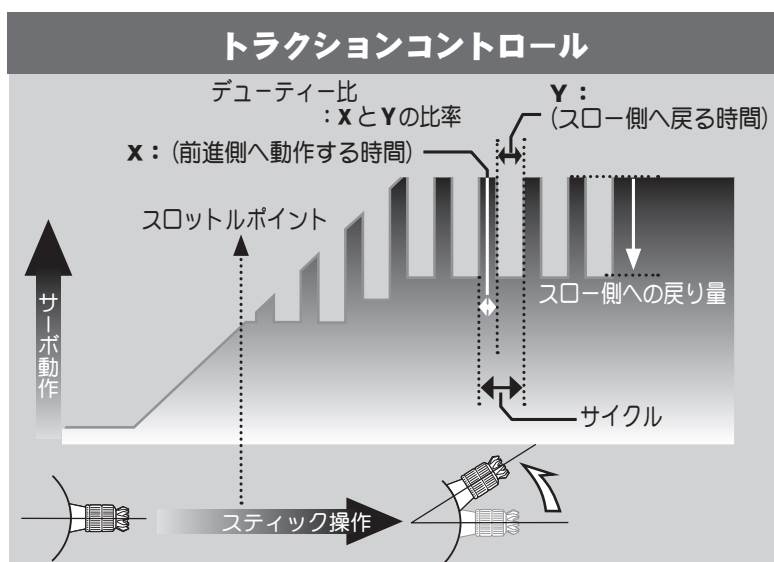
機能説明

● ON/OFF

トラクションコントロール機能のON/OFF設定、トラクションコントロール機能を使用する場合は"ON"に設定します。

● スロットル戻り量

スティック操作に対してサーボがスロー側へ戻る比率を設定します。0%に設定するとトラクションコントロール機能は動きません。50%でスティック操作量の50% (半分)、100%でニュートラル位置まで戻ります。



●ディレイ

スロットル操作してから、トラクションコントロール動作が働くまでのディレイ（遅れ）を設定します。0%に設定すると遅れなしでトラクションコントロール機能が働きます。50%で約 0.5 秒遅れてトラクションコントロール機能が働き、100%で約 1.0 秒遅れてトラクションコントロール機能が働きます。

●サイクルスピード

ポンピングの速さ（サイクル）を設定します。設定数値が小さいほどポンピングサイクルが速くなります。

●デューティ比

ポンピング動作でハイ側へ動作する時間と、スロー側へ動作する時間の比率を設定します。

比率は +4 ~ +0 ~ -4 の 9 段階の設定ができます。

●スティックポイント

スロットル操作で、トラクションコントロールが働き始めるスティックの位置を設定します。ノーマル／リバースで、トラクションコントロールが動作するスロットル操作範囲を、スティックポイントを境に逆転します。

トラクションコントロール機能の調整方法

1 (トラクションコントロール機能の ON/OFF)

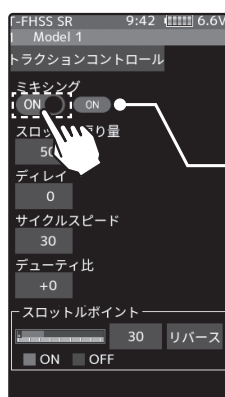
(ON●)または(●OFF)をタッチして、ON/OFF を選択します。

スイッチで ON/OFF する場合は、スイッチ設定機能（P70）でスイッチを設定します。

"(●OFF)" : 機能 OFF

"(ON●)" : 機能が ON の状態

●スイッチを設定している場合、スイッチ OFF で機能が動作しない状態でも ON と表示します。



設定

●(ON●)／(●OFF)をタッチ。

*実際にスロットルスティックの操作でトラクションコントロールが働いている状態を ON/OFF で表示

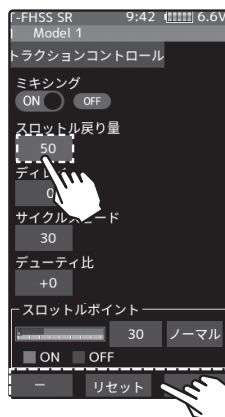
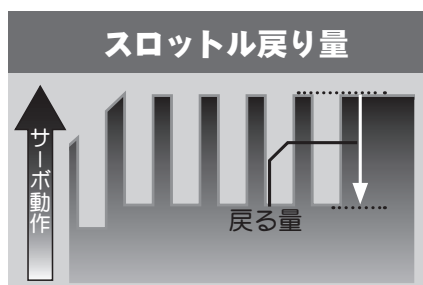
2 (スロットル戻り量の調整)

[スロットル戻り量設定値] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。画面下の [+], [-] をタッチして戻り量を調整します。

"1" : 戻りなし。

"50" : スロットル操作量の 50% の位置まで戻る。

"100" : ニュートラル位置まで戻る。



スロットルの戻り量

0 ~ 50 ~ 100

初期値 : 50

* スロットルの戻り量は、スロットルカーブの設定値により変化します。

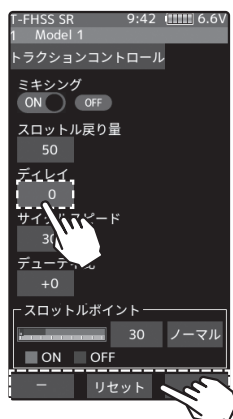
調整

● [+] / [-] をタッチで調整。

● [リセット] をタッチで初期値。

3 (ディレイ量の調整)

[ディレイ量設定値] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。画面下の [+], [-] をタッチしてディレイ量を調整します。



ディレイ量

0 ~ 100

初期値 : 0

調整

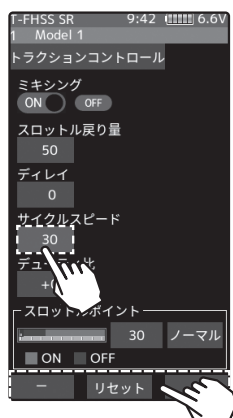
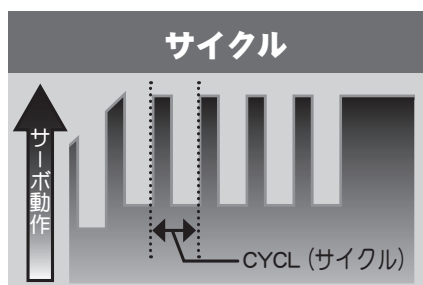
- [+] / [-] をタッチで調整。
- [リセット] をタッチで初期値。

- "0" : 遅れなしでトラクションコントロール機能が働く。
- "50" : 約 0.5 秒遅れてトラクションコントロール機能が働く。
- "100" : 約 1.0 秒遅れてトラクションコントロール機能が働く。

4 (ポンピングの速さの調整)

[サイクルスピード設定値] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。画面下の [+], [-] をタッチしてポンピングの速さを調整します。

- 設定数値が小さい程ポンピングの速さが速くなります。



ポンピングの速さの調整 (CYCL)

1 ~ 100

初期値 : 30

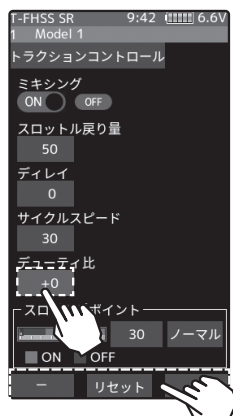
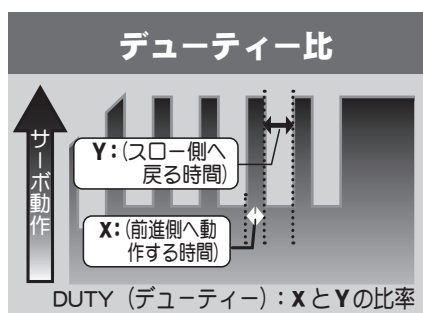
調整

- [+] / [-] をタッチで調整。
- [リセット] をタッチで初期値。

5 (断続のデューティー比の調整)

[デューティー比設定値] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。画面下の [+], [-] をタッチしてデューティー比を設定します。

- "-4" : ハイ側への動作時間が一番短くなります。
- "+4" : ハイ側への動作時間が一番長くなります。



デューティー比の設定

-4 ~ +0 ~ +4

初期値 : +0

調整

- [+] / [-] をタッチで調整。
- [リセット] をタッチで初期値。

6 (スティックポイントと動作範囲の設定)

[スティックポイント設定値] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。画面下の **[+]**、**[-]** をタッチして、動作ポイントを設定します。

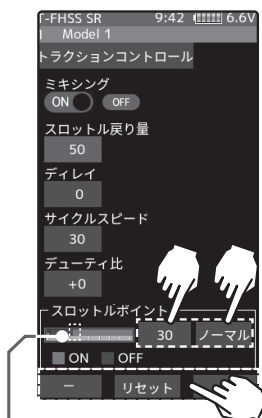
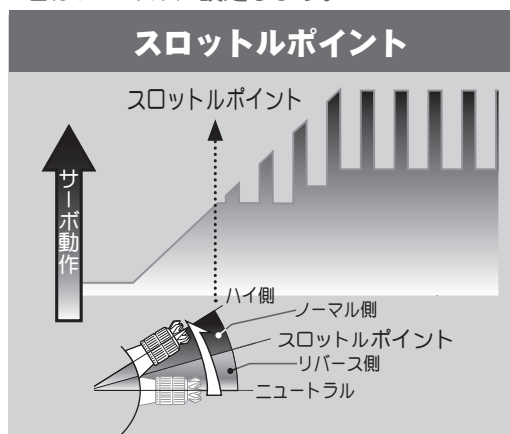
- スロットルスティックのどの位置からトラクションコントロール機能を働かせるかを設定できます。数値はフルハイの位置を 100 とした % 表示。

[ノーマル] または **[リバース]** をタッチして動作範囲の設定をします。

"ノーマル": スティックポイントからハイ側が動作範囲。

"リバース": ニュートラルからスティックポイントまでが動作範囲。

- (参考) ドリフトカーで、擬似的なレブリミッター音を再現したい場合はノーマルに設定します。



スロットルポイントの設定

5 ~ 95

初期値 : 30

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

動作範囲の設定

- **[ノーマル]** / **[リバース]** をタッチ。
- ノーマル/リバース

* スロットルスティックの位置

7 終了する場合は、ホームボタンを押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

スイッチの設定

スイッチ設定機能 (P70) で、トラクションコントロール機能の ON/OFF スイッチを設定できます。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム/ダイヤル設定 (P67) で、スロットル戻り量、ディレイ量およびサイクル (ポンピングの速さ) の設定をダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 で、コントロールすることができます。

フェイルセーフユニットについて

受信機設定のレスポンス (P40 ~ 41) で T-FHSS / S-FHSS / FASST が "**デジタル (ハイスピード)**" の場合と、受信機設定が **T-FHSS SR** の場合は、フェイルセーフユニットはシステムが異なるため使用できません。送信機側のフェイルセーフ機能を使用してください。また、T-FHSS / S-FHSS / FASST でレスポンスが "**アナログ (ノーマル)**" の場合、Futaba フェイルセーフユニット (FSU) を移用できますが、次のような動作となります。FSU をスロットルチャンネルに接続してある場合、トラクションコントロール機能の動作により、サーボが動作する度に FSU の LED が点滅します。これはポンピング動作による急激なデータ変化に対し、FSU が反応しているためで、フェイルセーフ機能が働いているわけではありません。サーボの動作には影響なく、そのままご使用になれます。

スタート

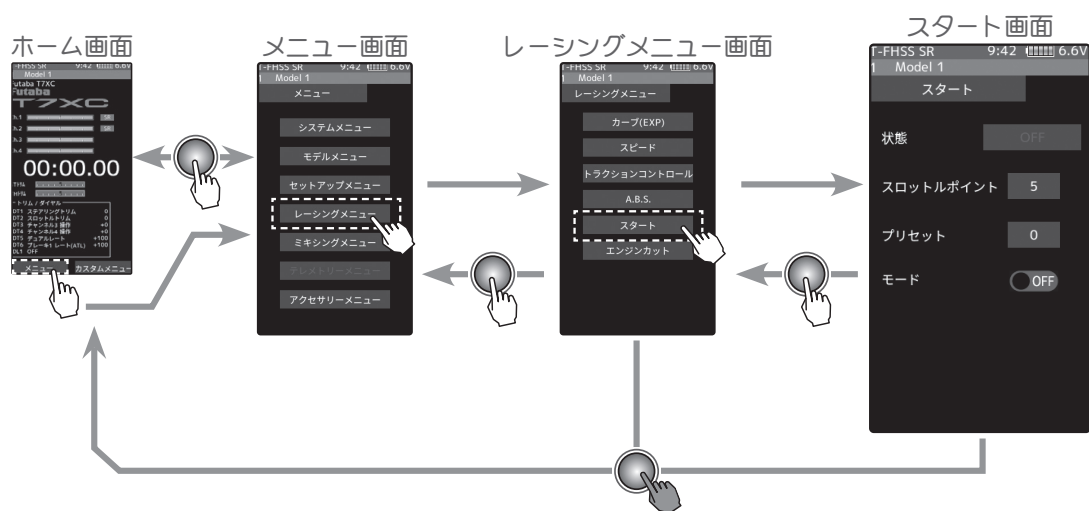
スリッピーな路面で、スタートと同時にスロットルスティックをフルスロットルにするとタイヤがホイールスピンしてうまく加速（スタート）できませんが、スタート機能を設定すると、グリップを失わない程度にゆっくりスロットルスティックを操作するだけで、設定したスティックポジションから自動的に、プリセットしたポイントに切り替わり、スムーズなスタートが可能となります。



動作

- スロットルスティックをスティックポイントまで操作すると、サーボは事前に設定したサーボ動作位置（プリセット）に動作します。
- スピンしないようにゆっくりスロットルスティックを操作していきだけで、自動的に車は設定したスピードまで加速していきます。
- この機能はスタート時の1回目のスロットルスティック操作に対してのみ働きます。スタートする前に毎回機能を動作可能状態にセットして使用する必要があります。
- スロットルスティックを少し戻してやるとスタート機能は自動解除され、通常のスロットルスティック操作となります。

スタート画面は、次の方法で表示します。



スタート機能の調整方法

1 (スタート機能の ON/OFF)

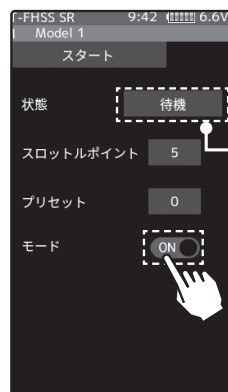
モードの(ON●)または(●OFF)をタッチして、ON/OFF を選択します。

状態の表示が【待機】に変わります。

スイッチで【待機】の状態にする場合は、スイッチ 設定機能 (P70) でスタートのスイッチを設定します。

待機操作

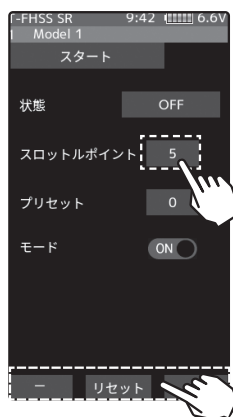
●(ON●) / (●OFF) をタッチ。



* 状態の表示が【待機】に変わる。

2 (スティックポイントの設定)

【スティックポイント設定値】をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]【リセット】【+】**が表示します。画面下の **【+】、[-】**をタッチして、動作ポイントを設定します。



スロットルポイントの設定

5 ～ 95
初期値：5

調整

- **【+】／【-】**をタッチで調整。
- **【リセット】**をタッチで初期値。

3 (サーボ動作位置の設定)

【プリセット設定値】をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]【リセット】【+】**が表示します。画面下の **【+】、[-】**をタッチして、サーボ動作位置（プリセット）を設定します。



プリセット（サーボ動作位置）

0 ～ 100
初期値：0

調整

- **【+】／【-】**をタッチで調整。
- **【リセット】**をタッチで初期値。

4 (スティック操作待ちとする方法)

再度スティック待ちの状態にするには、設定項目状態の **【OFF】** をタッチすると **【待機】** の表示に変わり、スティック操作待ちの状態となります。また、スイッチ設定機能（P70）で、スティック待ち状態にするスイッチを設定できます。



再スタート

【OFF】 をタッチで **【待機】**

状態表示

OFF : 機能 OFF
待機 : スティック操作待ち
動作中 : スタート機能動作中

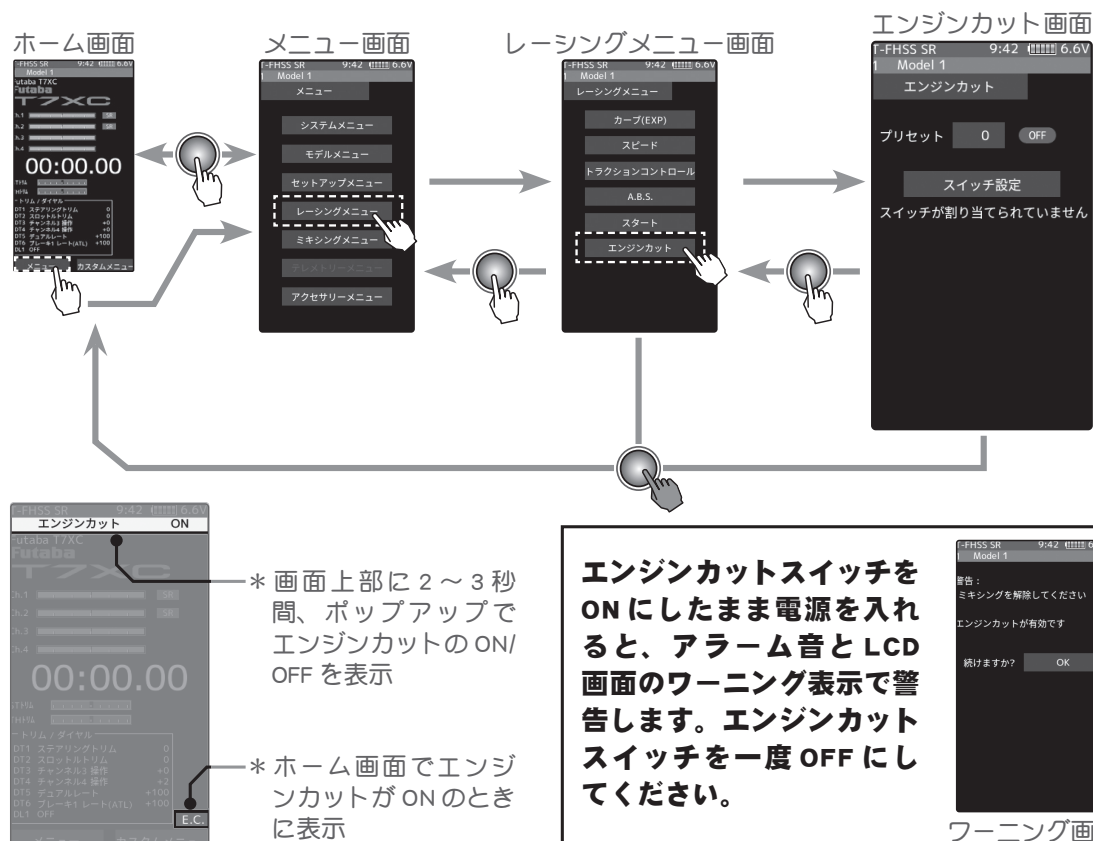
5 終了する場合は、ホームボタンを押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

上記 4 の **【待機】** のとき、スロットルスティックをスティックポジションの位置まで操作すると、3 で設定したサーボ動作位置までスロットルサーボが動作します。スロットルスティックを戻した時点で解除されます。

エンジンカット

この機能を使用するにはスイッチ設定機能（P70）でエンジンカットの ON/OFF スイッチを設定する必要があります。スイッチでエンジンが停止するように、スロットルサーボをプリセット位置（エンジンカットポジション）に動作させる機能です。

エンジンカット画面は、次の方法で表示します。



スロットルモードを 100 : 0 に設定した場合

スロットルモード（P62）を 100 : 0 に設定した場合、ブレーキ側機能は動作しません。ここで設定するプリセット位置がリンクージの基準となります。プリセット調整範囲で確実にキャブレターが全閉状態になり、エンジンが停止するようにリンクージを設定します。フルスロットル位置はエンドポイント機能の "前進" で設定します。アイドリング位置はスロットルトリムで調整します。

エンジンカットの調整方法

(準備)

- ・スイッチ 設定機能（P70）で、エンジンカット機能の ON/OFF スイッチを設定します。設定していない場合「**スイッチが割り当てられていません**」と表示しますので、**[スイッチ設定]**をタッチし、スイッチ設定画面に移動してスイッチを選びます。



1 (エンジンカットのサーボ位置設定)

設定項目**【プリセット設定値】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】【リセット】【+】**が表示します。**【+】【-】**をタッチしてエンジンカットのサーボ位置を調整します。

●サーボ位置は0～100の範囲で調整が可能。



機能動作表示
ON/OFF

プリセット (サーボ動作位置)

0～100

初期値：0

調整

●**【+】**／**【-】**をタッチで調整。

●**【リセット】**をタッチで初期値。

2 終了する場合は、ホームボタンを押してレーシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム／ダイヤル設定機能 (P67) で、エンジンカットのサーボ位置の調整をダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1～DT6 に設定することができます。

サーボ動作位置について

この設定によるスロットルサーボの動作位置 (プリセット位置) は、リバース機能以外の他の機能の設定とは無関係です。サーボの全舵角の最大から最小までの設定が可能です。

⚠ 警告

❶ この機能を使用する前に必ず動作確認を行ってください。

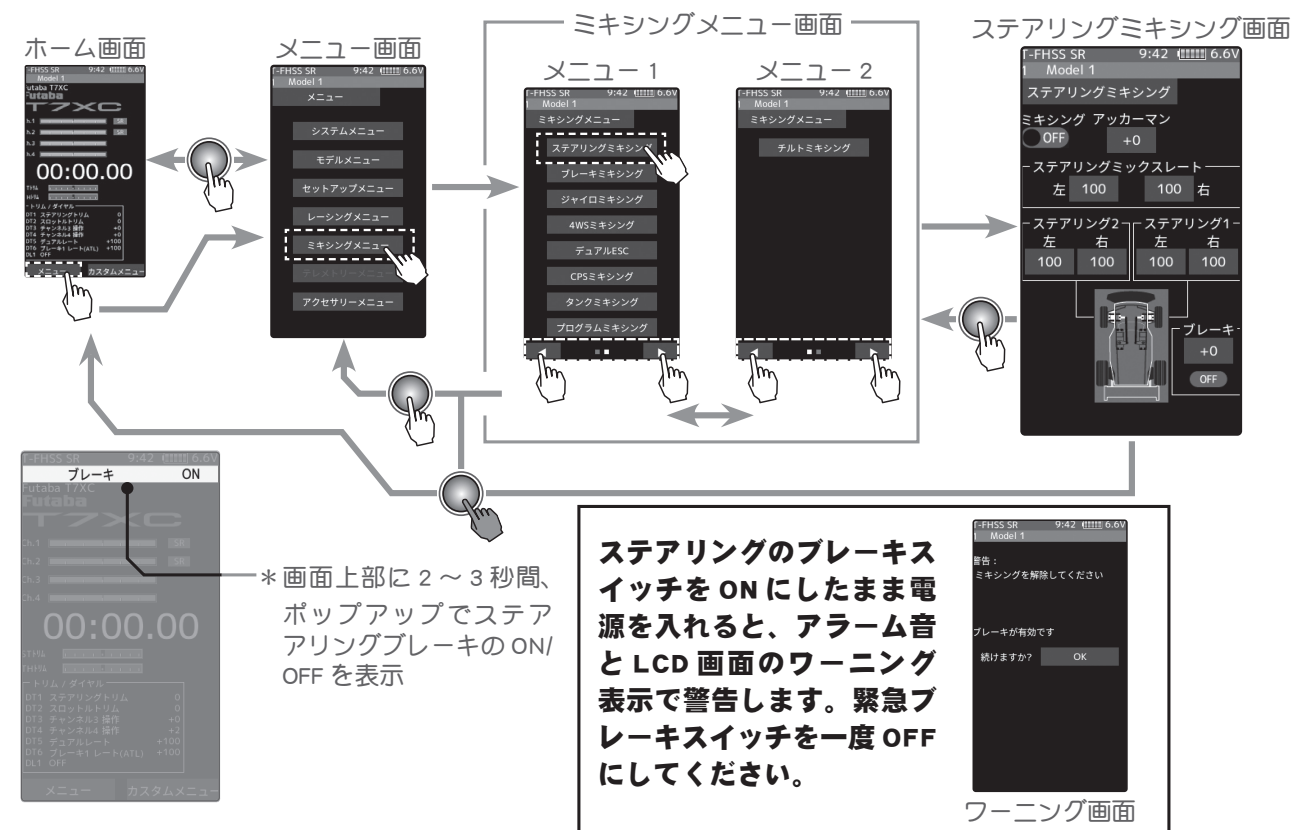
プリセット機能を設定したスイッチが "ON" の状態の間、サーボ (モーターコントローラー) は、プリセット位置に固定され、スロットルスティックを操作しても動作しません。間違った設定で動作させた場合、車体 (ボート) が暴走する危険があります。

ステアリングミキシング

この機能は、ステアリングの左右を別々に2個のサーボでコントロールするミキシング機能で、左右が完全に独立した設定ができスムーズなコーナリングを可能にします。

右側ステアリングサーボ、左側ステアリングサーボのどちらか片方を受信機の Ch.1、もう片方を Ch.3 か Ch.4、またはその他の空きチャンネルに接続します。左右のサーボは、接続するチャンネルに決まりはありません。左右別々に調整した後、アッカーマン調整でもできます。また、スイッチで左右のステアリングを両方とも内側に動作させ、ステアリングでブレーキ機能も設定できます。

ステアリングミキシング画面は、次の方法で表示します。



ミキシング機能は、Ch.3 / 4 またはその他の空きチャンネルに割り当てます。他のミキシングで使用しているチャンネルは使用できません。チャンネルが不足する場合は、他のミキシングを解除してください。ステアリング 1/2 両方のサーボをワイヤレス方式 (S.BUS/ サーボ機能) でパラメーター変更をしたい場合、ミキシング機能を Ch.2 に割り当て 1,2ch の両方をステアリングに設定します。スロットルは "チャンネル設定機能" (P76) で Ch.3 また Ch.4 に変更します。

ステアリングミキシングの使用方法

1 (ステアリングミキシング機能の ON/OFF)

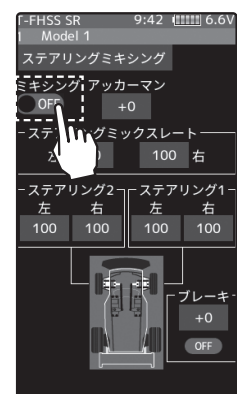
ミキシングの(ON●)または(●OFF)をタッチして、ON/OFFを選択します。

"(●OFF)" : 機能 OFF

"(ON●)" : 機能が ON の状態

設定

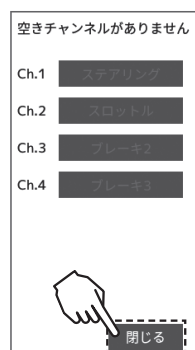
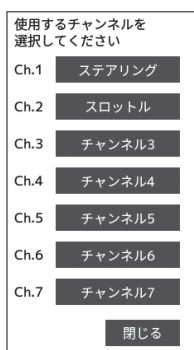
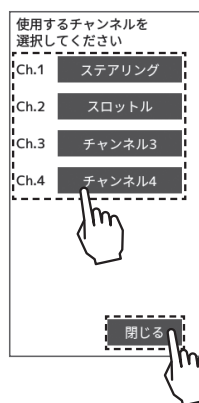
●(ON●) / (●OFF) をタッチ。



2 (使用チャンネルの設定)

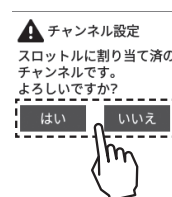
ステアリング 2 に使用するチャンネルを設定する画面を表示します。ステアリング 2 のサーボを接続した Ch.3 / 4、またはその他の空きチャンネルをタッチします。

- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面を表示しますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。チャンネル設定画面 (P76) で使用しているミキシングが確認できます。
- TXXC は、チャンネル設定機能 (P76) で Ch2. スロットルを別の Ch.3 や Ch.4 に移動させ、空きチャンネルとしてステアリング 2 に使用することもできます。



チャンネルの選択

- ポップアップ画面をタッチして選択。



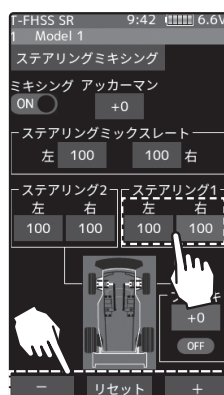
S-FHSS (アナログ) の場合は、Ch.1 ~ Ch.7 を表示します。

空きチャンネルがない場合、**【閉じる】**をタッチ。他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作る。

スロットルを別の空きチャンネルに移動させ、ステアリング 2 に使用する場合は**【はい】**、キャンセルする場合は**【いいえ】**をタッチ。

3 (ステアリング 1・受信機 Ch.1 サーボの舵角調整)

ステアリングスティックを左、または右いっぱいに操作した状態で、ステアリング 1 の左、または右の**【レート設定値】**をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】****【リセット】****【+】**が表示します。**【+】**、**【-】**をタッチして、左と右の舵角量を調整します。



ステアリング 1 左右レート

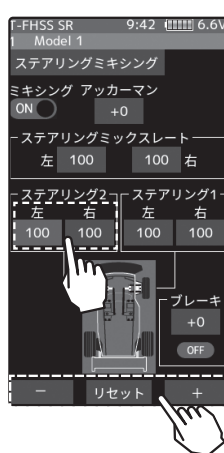
0 ~ 140
初期値：100

調整

- 【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- 【リセット】** をタッチで初期値。

4 (ステアリング 2・受信機 Ch.3 または Ch.4 サーボの舵角調整)

ステアリングスティックを左、または右いっぱいに操作した状態で、ステアリング 2 の左、または右の**【レート設定値】**をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】****【リセット】****【+】**が表示します。**【+】**、**【-】**をタッチして、左と右の舵角量を調整します。



ステアリング 2 左右レート

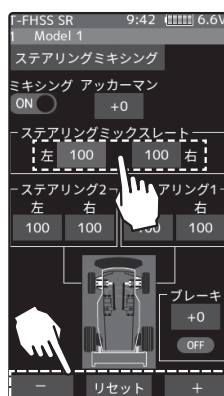
0 ~ 140
初期値：100

調整

- 【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- 【リセット】** をタッチで初期値。

5 (ステアリングミックスレートの調整)

左、または右の**【ステアリングミックスレート設定値】**をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】【リセット】【+】**が表示します。ステアリングスティックを左、または右いっぱいに操作した状態で、**【+】、【-】**をタッチして、左と右の舵角量を調整します。



ステアリングミックスレート

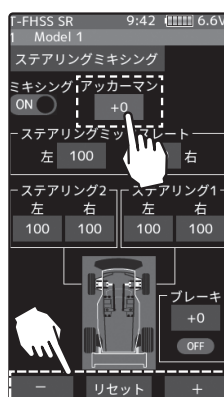
0 ~ 100
初期値：100

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

6 (アッカーマン調整)

【アッカーマンレート設定値】をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】【リセット】【+】**が表示します。**【+】、【-】**をタッチして、アッカーマンを調整します。



アッカーマンレート

-100 ~ +0 ~ +100
初期値：+0

調整

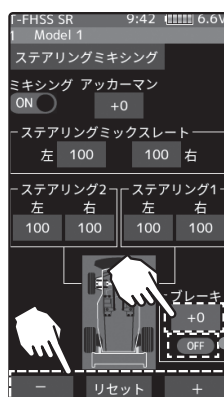
- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

7 (ブレーキ)

(準備)

- この機能を使用する場合は、スイッチ設定機能 (P70) でスイッチを設定します。

【ブレーキレート設定値】をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】【リセット】【+】**が表示します。**【+】、【-】**をタッチして、ステアリング1 / 2の動作位置を調整します。



ブレーキレート

-100 ~ +0 ~ +100
初期値：+0

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

* ステアリングブレーキの
N/OFF を表示

- 終了する場合は、ホームボタンを押してミキシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

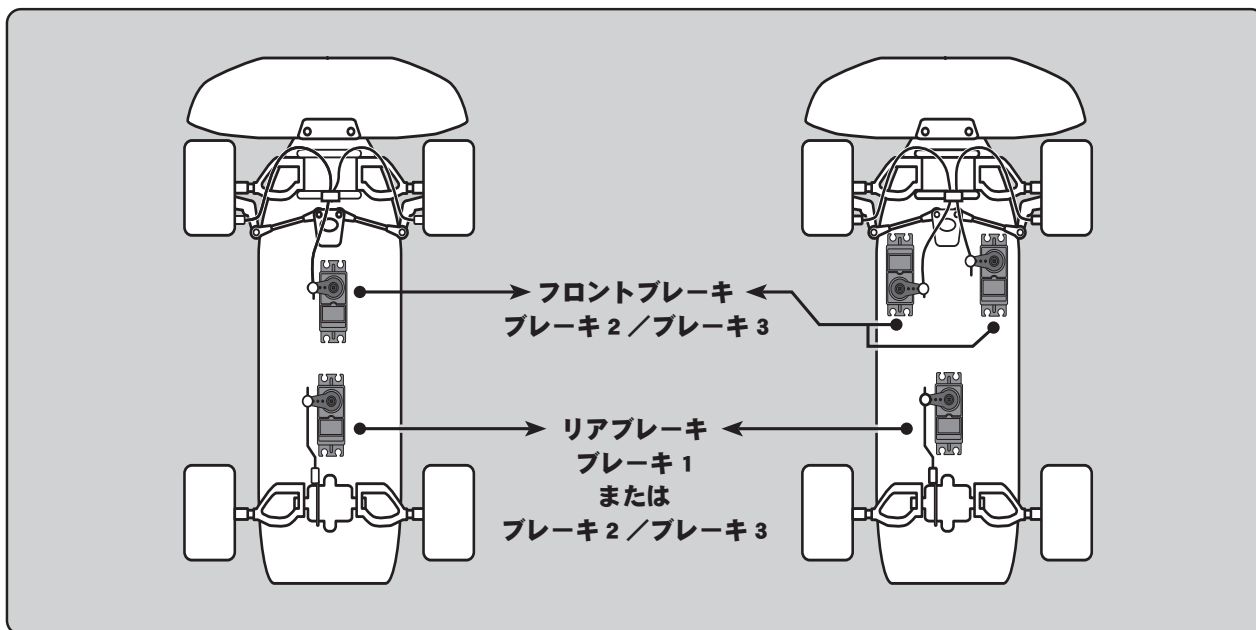
トリム／ダイヤル設定 (P67) を使って、アッカーマンを、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 などでもコントロールすることができます。

ブレーキミキシング

この機能は 1/5GP カーのようにフロントとリアのブレーキが独立し、別々に調整する場合に使用します。Ch.3 か Ch.4 またはその他の空きチャンネルでブレーキ 2,3 を設定し、ブレーキ 1 をリア側、ブレーキ 2 または 3 をフロント側ブレーキに使用したり、フロント側ブレーキをブレーキ 2,3 の 2 個のサーボで制御、またはスロットルを Ch.2 で制御しブレーキ 2,3 でリア側とフロント側ブレーキを制御するミキシングです。また、ステアリング操作に比例して、各ブレーキレートを可変するミキシングも可能です。

動作

- ブレーキ操作時、ブレーキ 1→ブレーキ 2,3 にミキシングがかかります。
- ブレーキ 1,2,3 のブレーキ量、ブレーキディレイ量、ブレーキの EXP の設定ができます。
- ステアリング操作に合わせてブレーキ 1,2,3 を可変する、ステアリングミキシングの設定ができます。ステアリングを右、または左への操作量に応じてブレーキ 1,2,3 を同時、または別々に弱めることができます。



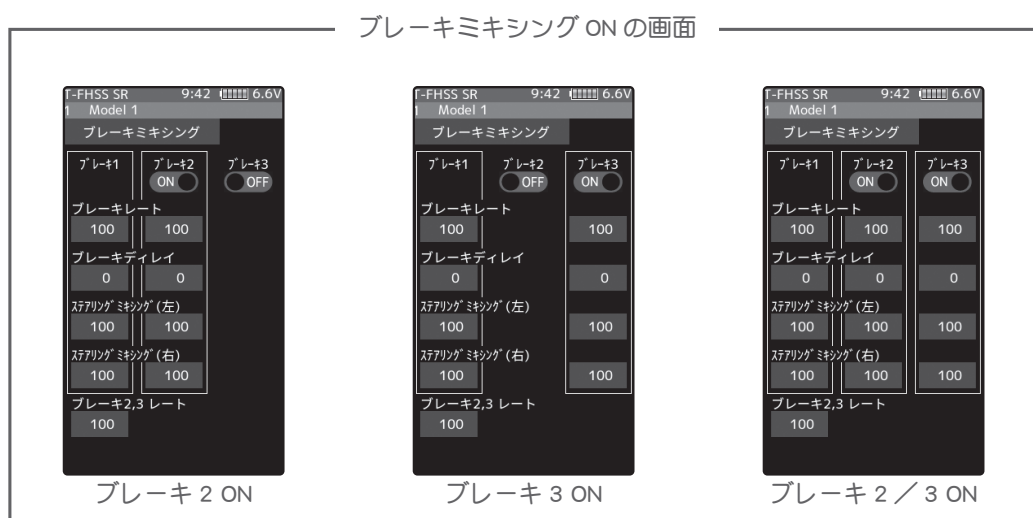
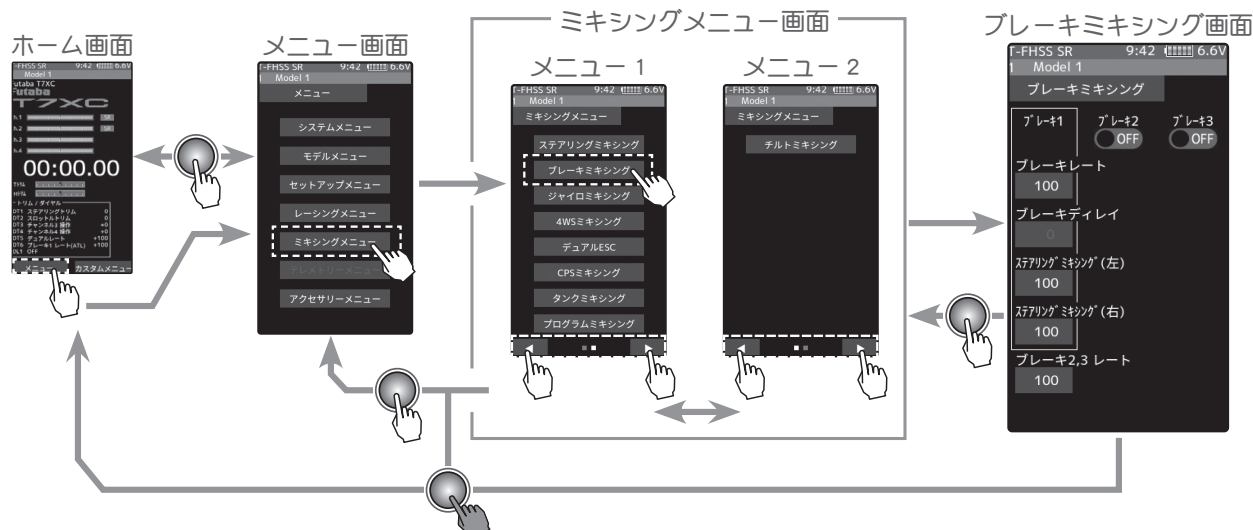
スロットルモードを 100 : 0 に設定した場合

スロットルモード (P62) を 100 : 0 に設定した場合、ブレーキ側の動作は停止していますので、ブレーキミキシングを使用する場合は、スロットルモードを 70 : 30 または 50 : 50 に設定してください。

ブレーキ 2 / 3 A.B.S 機能について

ブレーキミキシングでブレーキ 2,3 も A.B.S 機能 (P93) が使用できます。スティックポイントと、ステアリングミキシング以外はフロントブレーキ 2,3 側専用設定ができます。ブレーキ 1 (2 チャンネル) 側の A.B.S 機能が OFF の状態でもブレーキ 2,3 側単独で A.B.S 機能を使用することもできます。スイッチ設定機能 (P70) で A.B.S (ブレーキ 2,3) 機能の ON/OFF が設定できます。

ブレーキミキシング画面は、次の方法で表示します。



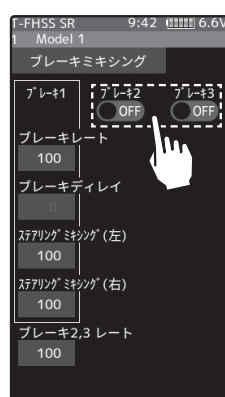
ミキシング機能は、Ch.3 / 4 またはその他の空きチャンネルに割り当てます。他のミキシングで使用しているチャンネルは使用できません。チャンネルが不足する場合は、他のミキシングを解除してください。

ブレーキミキシングの使用方法

1 (ブレーキミキシング機能の ON/OFF)

ブレーキ 2 またはブレーキ 3 の (ON●) または (●OFF) をタッチして、ON の状態にします。

"(●OFF)" : 機能 OFF
"(ON●)" : 機能が ON の状態



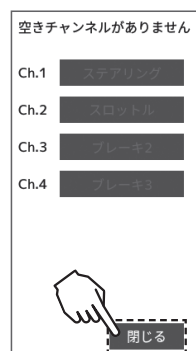
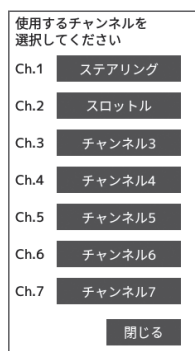
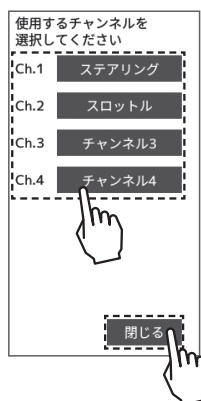
設定

● (ON●) / (●OFF) をタッチ。

2 (使用チャンネルの設定)

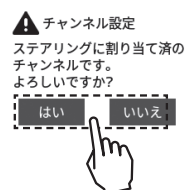
ブレーキ 2、またはブレーキ 3 に使用するチャンネルを設定する画面を表示します。ブレーキ 2、またはブレーキ 3 のサーボを接続した Ch.3 / 4、またはその他の空きチャンネルをタッチします。

- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面を表示しますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。チャンネル設定画面 (P76) で使用しているミキシングが確認できます。
- TXC は、チャンネル設定機能 (P76) で Ch.1 ステアリングを別の Ch.3 や Ch.4 に移動させ、空きチャンネルとしてブレーキ 2 に使用することもできます。



チャンネルの選択

- ポップアップ画面をタッチして選択。



ステアリングを別の空きチャンネルに移動させ、ブレーキ 2 に使用する場合は **はい**、キャンセルする場合は **いいえ** をタッチ。

S-FHSS (アナログ) の場合は、Ch.1 ~ Ch.7 を表示します。

空きチャンネルがない場合、**閉じる** をタッチ。他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作る。

3 (ブレーキ量の調整)

ブレーキ 1、ブレーキ 2、またはブレーキ 3 の **ブレーキレート** をタッチします。ブレーキ 2,3 を別々に調整の後、両方のブレーキ量を同時に調整する場合、**ブレーキ2,3 レート** をタッチします。

設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。 **[+]**、**[-]** をタッチして、ブレーキ量を調整します。

- ブレーキ量は 0 ~ 100% の範囲で調整が可能です。
- ブレーキ 1 のレートはスロットルチャンネル (ATL) の設定と連動しています。



ブレーキ量 (レート)

0 ~ 100
初期値 : 100

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

4 (ディレイ量の設定)

ブレーキ 1、ブレーキ 2、またはブレーキ 3 の **ブレーキディレイ** をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。 **[+]**、**[-]** をタッチして、ディレイ量を調整します。

- すべてのブレーキに遅れがあると危険なため、最後に調整しようとするブレーキにはディレイが働かないようになっています。
例えば、ブレーキ 1,2,3 をすべて使用している場合、ブレーキ 2/3 にディレイを設定するとブレーキ 1 はディレイが設定できません。ブレーキ 1 にディレイの設定が必要な場合は、ブレーキ 2 またはブレーキ 3 のどちらかのディレイを "0" にする必要があります。



ディレイ

0 ~ 100
初期値 : 0

"0" : 遅れなし。
"100" : 最大ディレイ量。

調整

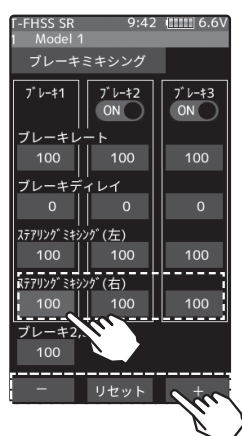
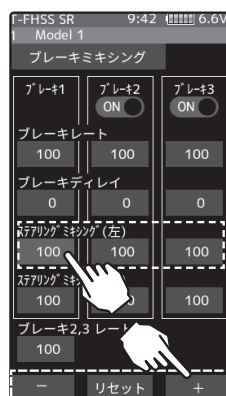
- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

5 (ステアリングミキシング)

ステアリングを操作したときに、ブレーキを弱めたいときに使用します。

ブレーキ 1、ブレーキ 2、またはブレーキ 3 の **【ステアリングミキシング(左)レート】**、または **【ステアリングミキシング(右)レート】** をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **【-】** **【リセット】** **【+】** が表示します。**【+】**、**【-】** をタッチして、ステアリング操作時のブレーキ量を調整します。数値が小さいほどブレーキが弱くなります。設定値 "100" はステアリングミキシングが働いていない状態で、ステアリングを操作したときに、ブレーキは弱くなりません。

- ミキシング量は 0 ～ 100 の範囲で調整が可能です。



ブレーキ量 (ステアリング操作時)

0 ～ 100
初期値：100

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

- 6 終了する場合は、ホームボタンを押してミキシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム／ダイヤル設定 (P67) を使って、ブレーキ 1,2,3 ブレーキ量 (ブレーキレート)、ブレーキ 1,2,3 デイレイ量を、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ～ DT6 などでコントロールすることができます。

ジャイロミキシング

この機能は、弊社製カー用レートジャイロの感度調整を T7XC 側で調整するリモートゲイン機能で Ch.3 か Ch.4、またはその他の空きチャンネルで、ジャイロの感度を調整するミキシングです。

4 ゲインタイプは、グループを 2 つ作り、各グループで 2 系統、全 4 系統のゲインが設定できます。

グループの切り替えや、グループ内の AVCS とノーマルのモードを切り替え、または同じモードで 2 系統の感度を切り替えて使用する場合、スイッチ設定機能 (P70) で使用するスイッチを設定します。また、ジャイロミキシング自体の ON/OFF スイッチも設定できます。また、切り替えスイッチをステアリングスイッチに設定すると、ニュートラル付近と左右にステアリングを振ったときのゲインを切り替えたり、スロットルスイッチに設定すると、ハイ側とロー側でゲインを切り替えたりできます。

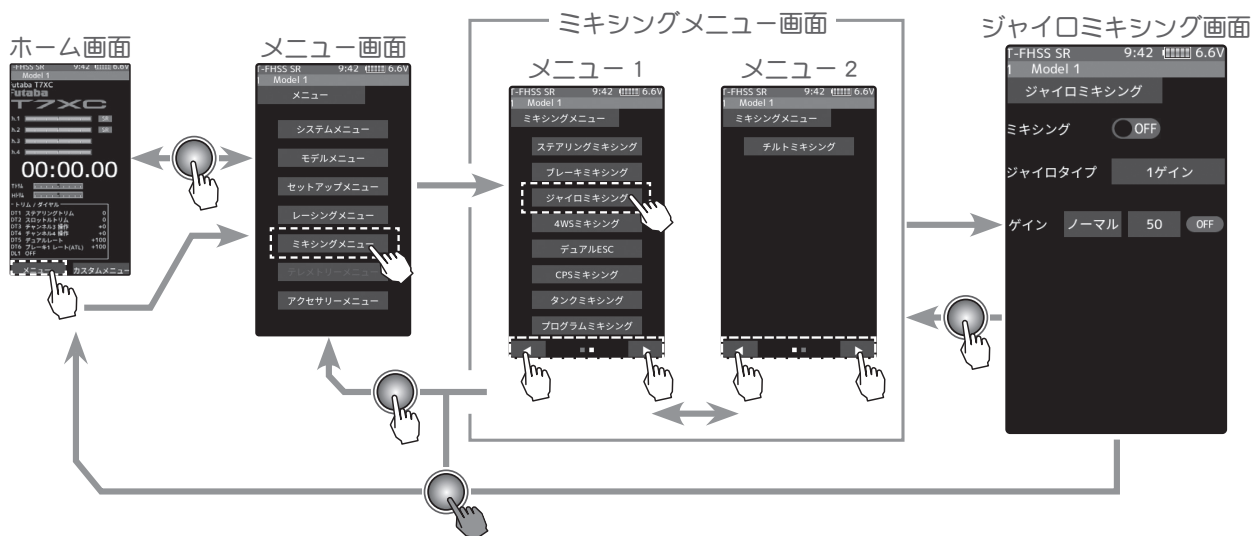
カー用レートジャイロの搭載方法や取り扱いについては、レートジャイロの説明書をお読みください。

SR モード対応ジャイロを SR モードのチャンネルで使用する場合、ステアリング入力とジャイロ感度入力を接続するチャンネルの両方を SR モードに設定してください。どちらか片方でもノーマルモードになっていると、ジャイロが正常に動作しません。

AVCS と ノーマルモード

弊社製ジャイロの動作モードは、ノーマルモードと AVCS モードがあります。AVCS モードでは、ノーマルモード時のレート（旋回速度）制御の他に角度制御も同時に行う動作をします。AVCS モードでは、ノーマルモード時より、直進安定性が増加します。操作フィーリングが異なるため、好みのモードを選択してください。

ジャイロミキシング画面は、次の方法で表示します。



ミキシング機能は Ch.3 / 4、またはその他の空きチャンネルに割り当てます。他のミキシングで使用しているチャンネルは使用できません。チャンネルが不足する場合は、他のミキシングを解除してください。

ジャイロミキシングの使用方法

(準備)

- ジャイロの説明書を参考にジャイロを受信機に接続します。リモートゲインを使用する場合は、ジャイロの感度調整を受信機のジャイロミキシングを割り当てたチャンネルに接続します。
- スイッチで ON/OFF する場合や、レートを切り替えて使用の場合は、スイッチ設定機能 (P70) で、使用するスイッチを選択します。プッシュスイッチ SW3 とステアリング / スロットルスイッチ以外を使用する場合は、スイッチの動作モードを **[ALT.]** に設定してください。

1 (ジャイロミキシング機能の ON/OFF)

ミキシングの **(ON●)** または **(●OFF)** をタッチして、ON/OFF を選択します。

"(●OFF)": 機能 OFF

"(ON●)": 機能が ON の状態



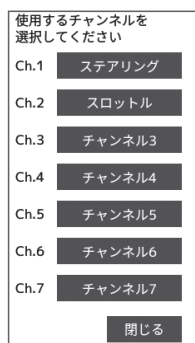
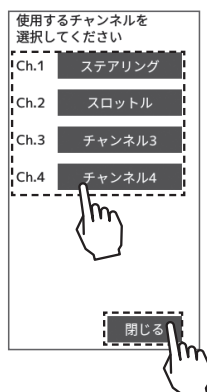
設定

● (ON●) / (●OFF) をタッチ。

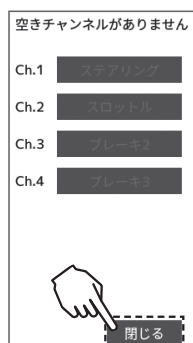
2 (使用チャンネルの設定)

ゲイン調整に使用するチャンネルを設定する画面を表示します。ゲイン調整コネクタを接続した Ch.3 / 4、またはその他の空きチャンネルをタッチします。

- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面を表示しますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。チャンネル設定画面 (P76) で使用しているミキシングが確認できます。



S-FHSS (アナログ) の場合は、Ch.1 ~ Ch.7 を表示します。



チャンネルの選択

- ポップアップ画面をタッチして選択。

空きチャンネルがない場合、**[閉じる]** をタッチ。他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作る。

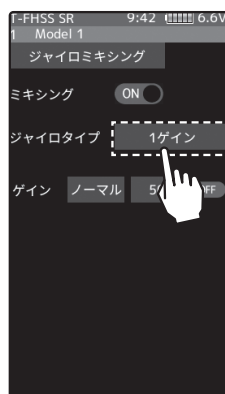
3 (ジャイロ ミキシングの設定)

設定項目**【ジャイロタイプ】**をタッチして、**タイプ**を設定します。

"1 ゲイン" : 固定ゲインで使用

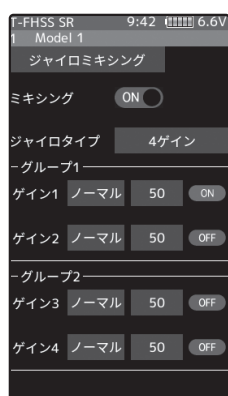
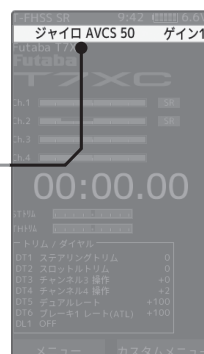
"2 ゲイン" : スイッチでゲインを切り替えて使用

"4 ゲイン" : グループの切り替えスイッチと、グループ内のゲインの切り替えスイッチの2つのスイッチを使用

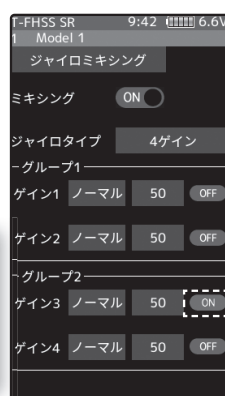


設定

- **【1ゲイン】／【2ゲイン】／【4ゲイン】**をタッチ。
- 1ゲイン／2ゲイン／4ゲイン



グループ切り替えスイッチでグループを切り替えることができます。



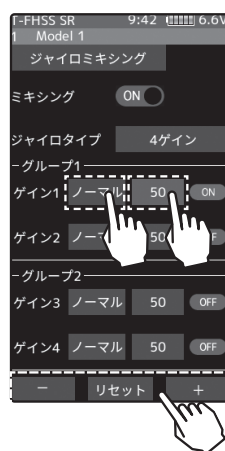
* スイッチで切り替えたとき、画面上部に2～3秒間ポップアップ画面が表示し、ゲインを知らせる。

* ゲイン切り替えのスイッチで、どのジャイロゲインになっているかを表示

4 (ジャイロゲインの調整)

設定する**【ゲインレート値】**をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】****【リセット】****【+】**が表示します。**【+】**、**【-】**をタッチして、ゲイン(感度)を調整します。

ゲインが"0"以外のときに**【ノーマル】**または**【AVCS】**をタッチして、ノーマルとAVCSを選択します。



ジャイロゲイン

AVCS : 0 ~ 120
ノーマル : 0 ~ 120
初期値 : ノーマル 50

調整

- **【+】**／**【-】**をタッチで調整。
- **【リセット】**をタッチで初期値。

5 終了する場合は、ホームボタンを押してミキシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

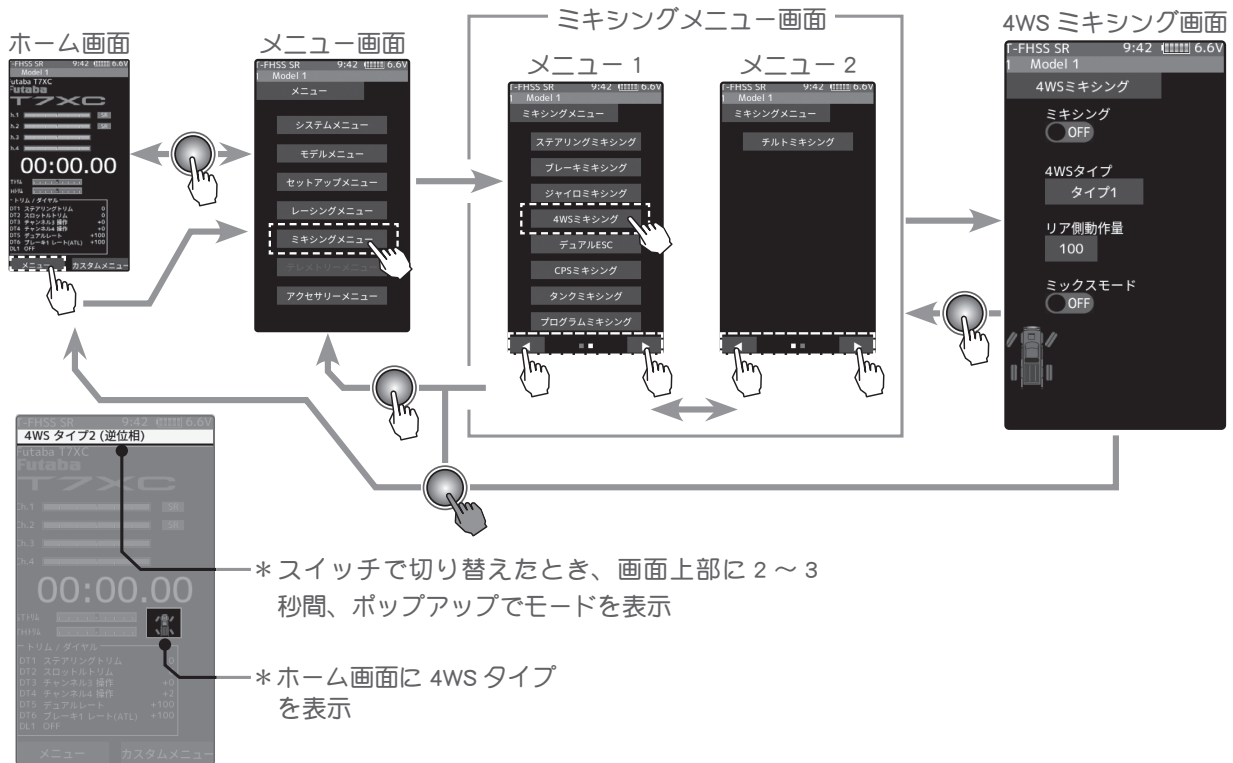
ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム／ダイヤル設定 (P67) を使って、ゲイン(感度)をダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 などで、コントロールすることができます。

4WS ミキシング

この機能は、クローラー等の 4WS タイプの車体に使用できます。Ch.1 でフロント側のステアリング、Ch.3 か Ch.4 またはその他の空きチャンネルで、リア側のステアリングを制御するミキシングです。OFF (フロント側のみ)、逆位相、同位相、リア側のみ等の 4WS タイプの切り替えスイッチは、スイッチ設定機能 (P70) で選択します。スイッチは各タイプを順送りで切り替える方法と、単独の指定したタイプに切り替える方法があります。

4WS ミキシング画面は、次の方法で表示します。



ミキシング機能は、Ch.3 / 4 またはその他の空きチャンネルに割り当てます。他のミキシングで使用しているチャンネルは使用できません。チャンネルが不足する場合は、他のミキシングを解除してください。

4WS ミキシングの調整方法

(準備)

- この機能はスイッチで 4WS のタイプを切り替えて使用しますので、スイッチ設定機能 (P70) で使用するスイッチを設定します。

1 (4WS ミキシング機能の ON/OFF)

ミキシングの (ON●) または (●OFF) をタッチして、ON/OFF を選択します。

"(●OFF)" : 機能 OFF
 "(ON●)" : 機能が ON の状態



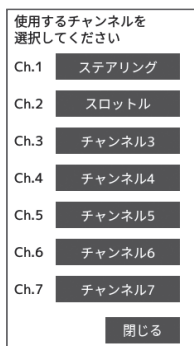
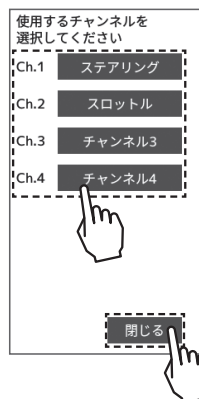
設定

● (ON●) / (●OFF) をタッチ。

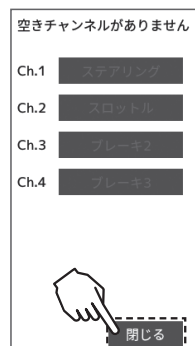
2 (使用チャンネルの設定)

リアステアリングに使用するチャンネルを設定する画面を表示します。リアステアリングのサーボを接続した Ch.3 / 4、またはその他の空きチャンネルをタッチします。

- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面を表示しますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。チャンネル設定画面 (P76) で使用しているミキシングが確認できます。



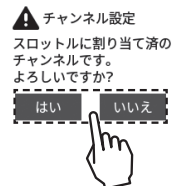
S-FHSS (アナログ) の場合は、Ch.1 ~ Ch.7 を表示します。



空きチャンネルがない場合、**【閉じる】**をタッチ。他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作る。

チャンネルの選択

- ポップアップ画面をタッチして選択。



スロットルを別の空きチャンネルに移動させ、リアステアリングに使用する場合は**【はい】**、キャンセルする場合は**【いいえ】**をタッチ。

3 (4WS タイプの選択)

設定項目**【4WSタイプ】**をタッチして、タイプを設定します。

- "タイプ 1": フロント側のみ (機能 OFF)。
- "タイプ 2": フロント側のみと逆位相の切り替え。
- "タイプ 3": フロント側のみ、逆位相と同位相の切り替え。
- "タイプ 4": フロント側のみ、逆位相、同位相とリア側をみの切り替え。

設定した**【4WSタイプ切り替えスイッチ】**で下の図の順に切り替わり、画面上でそのモードが赤く表示します。

単独で指定したタイプに切り替えるスイッチの場合は、直接そのタイプに切り替わります。

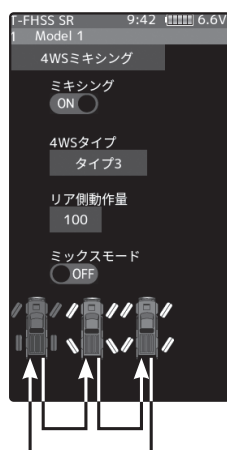
設定

- 【タイプ1】** / **【タイプ2】** / **【タイプ3】** / **【タイプ4】** をタッチ。
- タイプ 1 / タイプ 2 / タイプ 3 / タイプ 4 (タイプ 1 は OFF の状態です)

【タイプ2】の場合
フロント側のみと逆位相の切り替え。



【タイプ3】の場合
フロント側のみ、逆位相と同位相の切り替え。

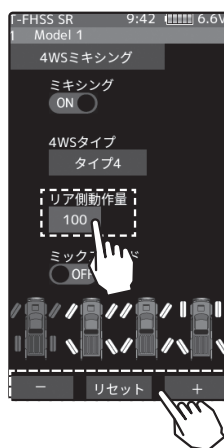


【タイプ4】の場合
フロント側のみ、逆位相、同位相とリア側をみの切り替え。



4 (リア側の動作量の調整)

[リア側動作量値]をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]****[リセット]****[+]**が表示します。**[+]**、**[-]**をタッチして、リア側の動作量を調整します。



リア側動作量

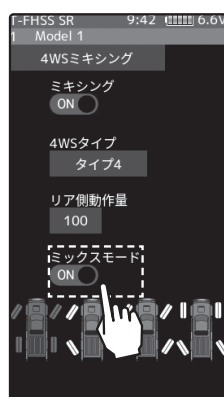
0 ~ 100
初期値：100

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

5 (ミックスモードの設定)

ミックスモードの **(ON●)** または **(●OFF)** をタッチして、ミックスモードの ON/OFF を選択します。



設定

- **(ON●)** / **(●OFF)** をタッチ。

ミックスモードの設定

OFF, ON
初期値：OFF

"**(●OFF)**": フロント側の EXP 機能などの設定をミックスしません。

"**(ON●)**": フロント側の EXP 機能などの設定をミックスします。

6 終了する場合は、ホームボタンを押してミキシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

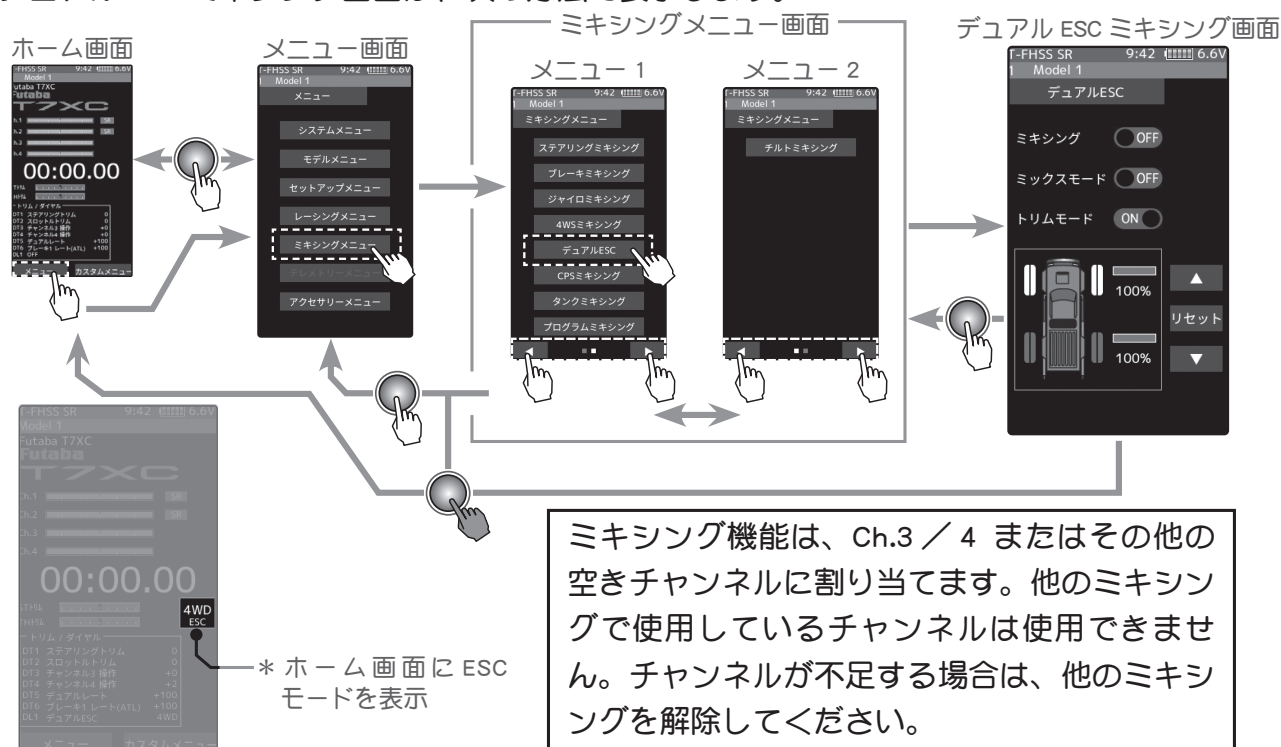
トリム／ダイヤル設定 (P67) を使って、リア側動作量をダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 などで、コントロールすることができます。

デュアル ESC ミキシング

この機能は、クローラー等の 4WD タイプの車体で Ch.2 でリア側の ESC(モーターコントローラー)、Ch.3 か Ch.4 またはその他の空きチャンネルで、フロント側のモーターコントローラーを制御するミキシングです。駆動をフロント側のみ、リア側のみ、フロント／リア側の両方 (4WD) の切り替えは、トリムダイヤルで切り替える方法と、モードごとにスイッチを設定して切り替える方法があります。

スロットルモード (P62) の設定は必ず 50 : 50 で使用してください。

デュアル ESC ミキシング画面は、次の方法で表示します。



ミキシング機能は、Ch.3 / 4 またはその他の空きチャンネルに割り当てます。他のミキシングで使用しているチャンネルは使用できません。チャンネルが不足する場合は、他のミキシングを解除してください。

デュアル ESC ミキシングの調整方法

(準備)

- この機能はどれか 1 箇所のデジタルトリム／ダイヤルで 4WD / フロント / リアの駆動タイプを切り替えて使用する方法と、4WD / フロント / リアのモードごとにスイッチを 1 個ずつ割り当てて切り替える方法があります。どちらの方法にするかは、ダイヤル設定機能 (P67) で DL1, DT1 ~ DT6、またはスイッチ設定機能 (P70) で SW1 ~ SW6 のいずれかより選択します。

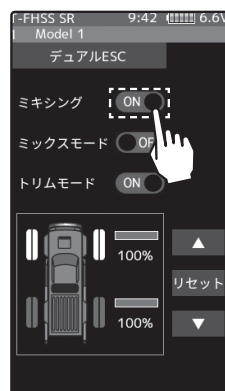
1 (デュアル ESC ミキシング機能の ON/OFF)

ミキシングの(ON●) または(●OFF) をタッチして、ON/OFF を選択します。

"(●OFF)" : 機能 OFF
"(ON●)" : 機能が ON の状態

ダイヤル設定で 1 箇所のデジタルトリムで切り替えを設定すると、設定したトリムの操作で下記のように切り替わります。

フロント駆動 ⇄ 4WD ⇄ リア駆動



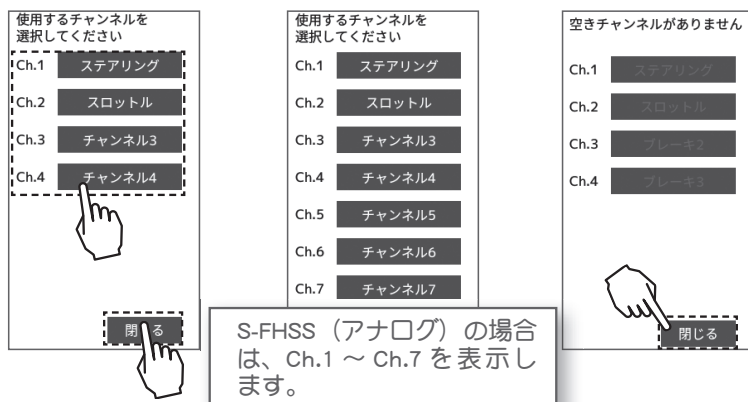
設定

●(ON●) / (●OFF) をタッチ。
● ON/OFF

2 (使用チャンネルの設定)

フロント側 ESC に使用するチャンネルを設定する画面を表示します。フロント側 ESC を接続した Ch.3 / 4 またはその他の空きチャンネルをタッチします。

- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面を表示しますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。チャンネル設定画面 (P76) で使用しているミキシングが確認できます。



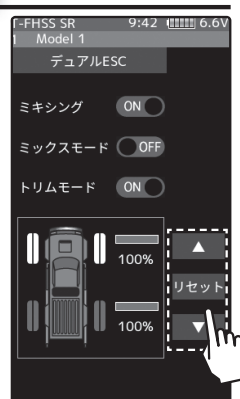
チャンネルの選択

- ポップアップ画面をタッチして選択。

空きチャンネルがない場合、[閉じる]をタッチ。他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作る。

3 (駆動比率の調整)

△▽をタッチして、フロント側とリア側のモーターコントローラーの動作量 (比率) を調整します。▽でリア側の比率が増え、△で減ります。フロント側かリア側どちらかが 100%になります。



フロント：リア駆動率

フロント 0%：リア 100%
～フロント 100%：リア 0%
初期値：
フロント 100%／リア 100%

調整

- △／▽をタッチで調整。
- [リセット]をタッチで初期値。

4 (ミックスモードの設定)

ミックスモードの(ON●)または(●OFF)をタッチして、ミックスモードを選択します。

"(●OFF)"：リア側の EXP 機能などの設定をミックスしません。

"(ON●)"：リア側の EXP 機能などの設定をミックスします。

設定

- (ON●)／(●OFF)をタッチ。

ミックスモードの設定

OFF, ON
初期値：OFF

5 (トリムモードの設定)

トリムモードの(ON●)または(●OFF)をタッチして、トリムモードを選択します。

"(●OFF)"：リア側のトリムデータは含みません。

"(ON●)"：リア側のトリムデータを含みます。

トリムモードの設定

OFF, ON
初期値：OFF

6 終了する場合は、ホームボタンを押してミキシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

注意

2 個の ESC を同時に駆動させるため、お互いに負荷がかかります。ESC が故障しないように充分注意してください。この機能による ESC、その他機材の故障に関し、弊社では一切の責任を負いません。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

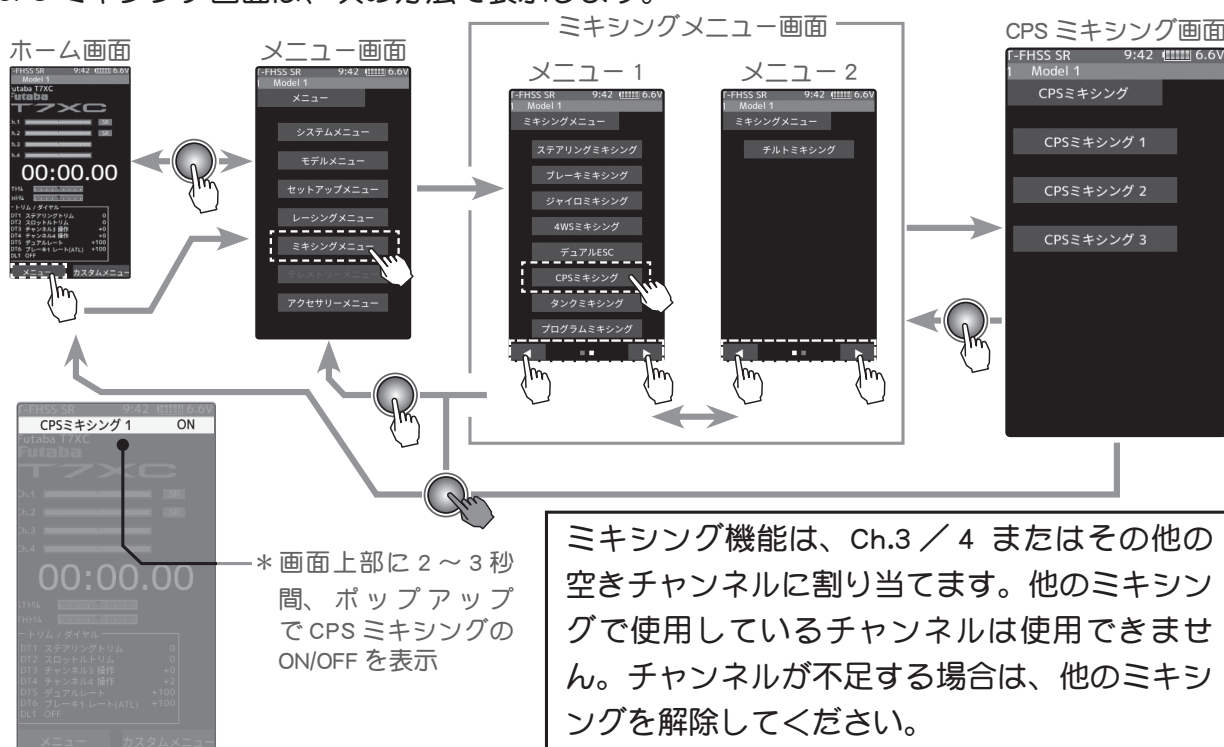
トリム／ダイヤル設定 (P67) を使って、フロント側／リア側 の動作量を、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ～ DT6 などでコントロールすることができます。

CPS ミキシング (1, 2, 3)

通常 CPS-1 ユニットを使用して、ドレスアップ等の電飾 (LED) を点灯させる場合、LED を接続した CPS-1 ユニットを空きチャンネルに接続し、スイッチで走行中に LED を ON/OFF しますが、CPS ミキシング機能を使用することで、スイッチ以外に、ステアリングやスロットル操作で ON/OFF できます。また、LED を点滅させることもでき、点滅のスピード (サイクル) も設定ができます。例えば、ブレーキランプとしてスロットルのブレーキ側操作で、LED を点滅させることができます。この CPS ミキシングは 3 系統使用できます。

CPS-1 ユニットは SR モードでは動作しません。T-FHSS SR システムで使用する場合、SR モードに設定していないチャンネルに接続してください。

CPS ミキシング画面は、次の方法で表示します。



CPS ミキシングの調整方法

(準備)

- CPS-1 を受信機の空きチャンネルに接続します。
- スイッチで LED を ON/OFF させる場合は、スイッチ設定機能 (P70) で、使用するスイッチを "CPS ミキシング (1,2,3) " に設定します。
- CPS ミキシング画面から **[CPSミキシング 1]** / **[CPSミキシング 2]** / **[CPSミキシング 3]** をタッチして設定画面に移動します。

1 (CPS ミキシング機能の ON/OFF)

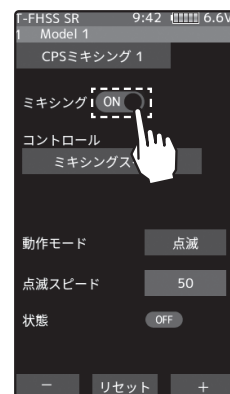
ミキシングの (ON●) または (●OFF) をタッチして、ON/OFF を選択します。

"(●OFF)" : 機能 OFF

"(ON●)" : 機能が ON の状態

設定

● (ON●) / (●OFF) をタッチ。



機能説明

2 (使用チャンネルの設定)

ミキシングチャンネルを設定する画面を表示します。CPS-1 を接続した Ch.3 / 4 またはその他の空きチャンネルをタッチします。

- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面を表示しますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。チャンネル設定画面 (P76) で使用しているミキシングが確認できます。

3 (コントロール方式の設定)

【コントロール】 をタッチ、コントロール方式のリストのポップアップ画面が表示しますので、使用する方式をリストから選びタッチします。キャンセルする場合は、**【取り消し】** をタッチします。

- | | |
|------------------------|---------------------------------|
| " ミキシングスイッチ " | : スイッチで ON/OFF |
| " ステアリングニュートラル " | : ステアリングがニュートラルで ON |
| " ステアリングエンドポイント " | : ステアリングの両サイドで ON |
| " スロットルニュートラル " | : スロットルがニュートラルで ON |
| " スロットル前進 " | : スロットルが前進側で ON |
| " スロットルブレーキ " | : スロットルがバック (ブレーキ) 側で ON |
| " スロットルニュートラル & ブレーキ " | : スロットルがニュートラルとバック (ブレーキ) 側で ON |

コントロール方式の選択

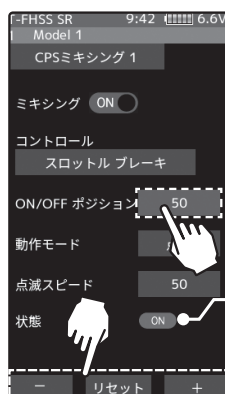
- ポップアップ画面をタッチして選択。



4 (ON/OFF 切り替えポジションの設定)

【ON/OFF ポジション設定値】 をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **【リセット】** **【+】** が表示します。**【+】**、**【-】** をタッチして、ON/OFF のポジションを設定します。" 状態 " に ON/OFF のマークを表示しますので、コントロールするファンクション (例えばスロットル) を操作しながら設定できます。

- コントロール方式が " ミキシングスイッチ " の場合 ON/OFF ポジションの設定はありません。



設定範囲

5 ~ 95
初期値 : 50

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

*実際にスロットルスティックの操作で CPS-1 が動いている状態を ON/OFF で表示

5 (動作モードの設定)

設定項目 **【動作モード】** をタッチして、LED 点灯のタイプを設定します。通常の ON/OFF のタイプと点滅タイプのどちらかを選ぶことができます。

- | | |
|-------------|------------------|
| " 点灯 / 消灯 " | : 通常の ON/OFF タイプ |
| " 点滅 " | : 点滅表示 |

設定

- **【点灯/消灯】** / **【点滅】** をタッチ。
- **【点灯/消灯】** / **【点滅】**

6 (点滅スピードの設定)

【動作モード】 で、**【点滅】** を設定した場合、点滅のスピードが設定できます。**【点滅スピード設定値】** をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **【リセット】** **【+】** が表示します。**【+】**、**【-】** をタッチして、点滅のスピード (サイクル) を設定します。

点滅スピード

1 ~ 100
初期値 : 50

調整

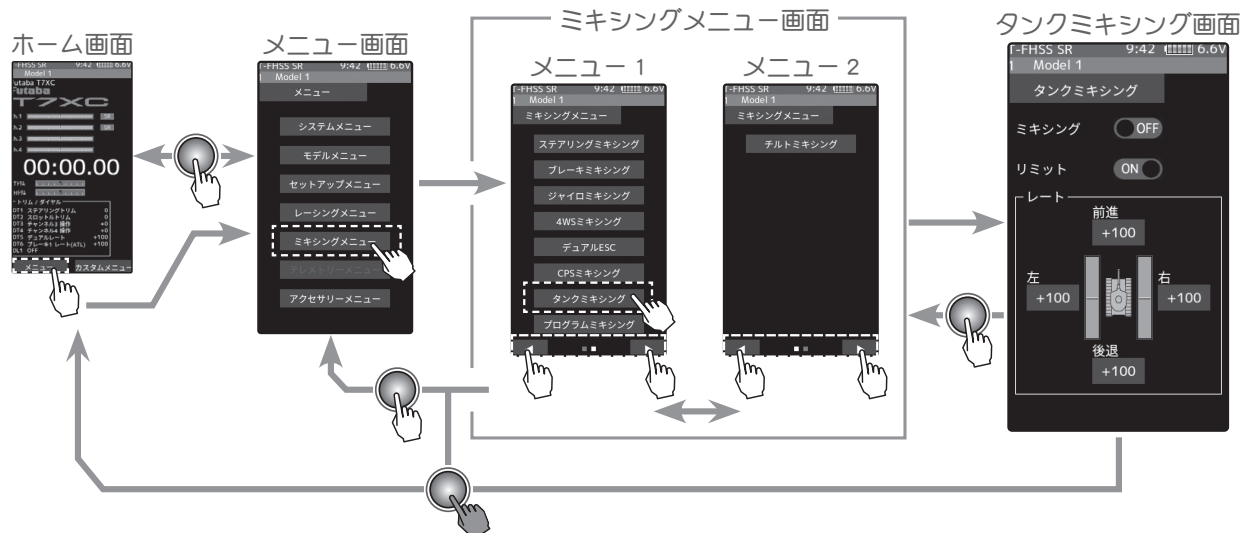
- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

7 終了する場合は、ホームボタンを押してミキシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

タンクミキシング

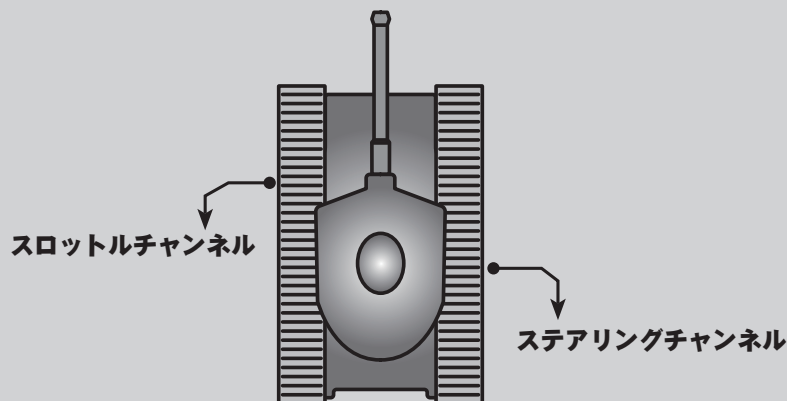
この機能は、戦車などの履帯車両向けのミキシングです。ステアリングチャンネルとスロットルチャンネルにミキシングがかかり、ステアリングとスロットルの操作で信地旋回および超信地旋回が行えます。

タンクミキシング画面は、次の方法で表示します。



接続チャンネル

左右のモーターコントローラーを接続するチャンネルは図のようになります。



タンクミキシングの調整方法

1 (タンクミキシング機能の ON/OFF)

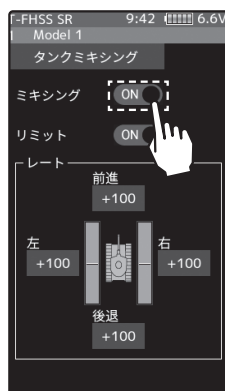
ミキシングの(ON●) または(●OFF) をタッチして、ON/OFF を選択します。

"(●OFF)" : 機能 OFF

"(ON●)" : 機能が ON の状態

設定

●(ON●) / (●OFF) をタッチ。

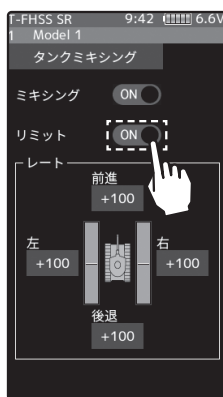


2 (リミットの ON/OFF)

ミキシング量により、ステアリングとスロットルチャンネルの最大動作量が限界を超えないように制限する機能です。リミットの(ON●)または(●OFF)をタッチして、ON/OFF を選択します。

"(●OFF)" : リミット機能 OFF

"(ON●)" : リミット機能が ON の状態



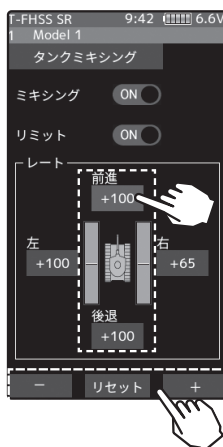
設定

- (ON●) / (●OFF) をタッチ。
- ON/OFF

3 (前進／後進レート調整)

[前進レート値]/[後進レート値] をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。[+], [-] をタッチして、前進側／後進側のスピードを調整します。

- スロットルチャンネルとステアリングチャンネルが連動して動作し、スティックをハイ側に操作で、「前進」レートで車体は前進します。スティックをブレーキ側に操作した場合は「後退」レートで動作します。



前進／後進動作量

-100 ~ +100

初期値 : +100

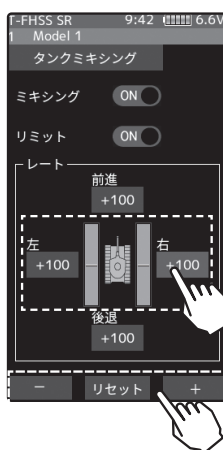
調整

- [+] / [-] をタッチで調整。
- [リセット] をタッチで初期値。

4 (左／右レート調整)

[左レート値]/[右レート値] をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。[+], [-] をタッチして、左旋回側／右旋回側の量を調整します。

- スロットルチャンネルとステアリングチャンネルが連動して動作し、ステアリングを右に操作した場合は、「右」のレートで車体は右方向に超信地旋回します。左に操作した場合は、「左」のレートで車体は左方向に超信地旋回します。



左／右動作量

-100 ~ +100

初期値 : +100

調整

- [+] / [-] をタッチで調整。
- [リセット] をタッチで初期値。

- 5 終了する場合は、ホームボタンを押してミキシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ステアリングとスロットルを同時に操作した場合

スティックをハイ側に操作し、ステアリングを右に操作した場合は、[前進].[右]のレートで車体は右方向に信地旋回します。
スティックをハイ側に操作し、ステアリングを左に操作した場合は、[前進].[左]のレートで車体は左方向に信地旋回します。
スティックをブレーキ側に操作しながらステアリングの操作は、後進方向で前進側と同じ動作をします。

プログラムミキシング（1, 2, 3, 4, 5）

ステアリング、スロットル、Ch.3、Ch.4、その他の空きチャンネルの任意のチャンネル間で、ミキシングをかけることができます。プログラムミキシングは5系統使用できます

付加機能

- マスターチャンネル（ミキシングをかける側）がステアリング、またはスロットルの場合、トリムのデータを加えることができます。（トリムモード）
- マスターチャンネルに関連する機能の設定の影響を選択できます。
関連機能は下記のとおりです。（ミックスモード）
ステアリング関連機能：エンドポイント、カーブ、D/R、およびスピード機能
スロットル関連機能：エンドポイント、ATL、カーブ、A.B.S、スピード、ブレーキ、ニュートラルブレーキおよびアクセレーション機能
- マスターチャンネルのミキシングに EXP,VTR、カーブを設定できます。（カーブ機能）

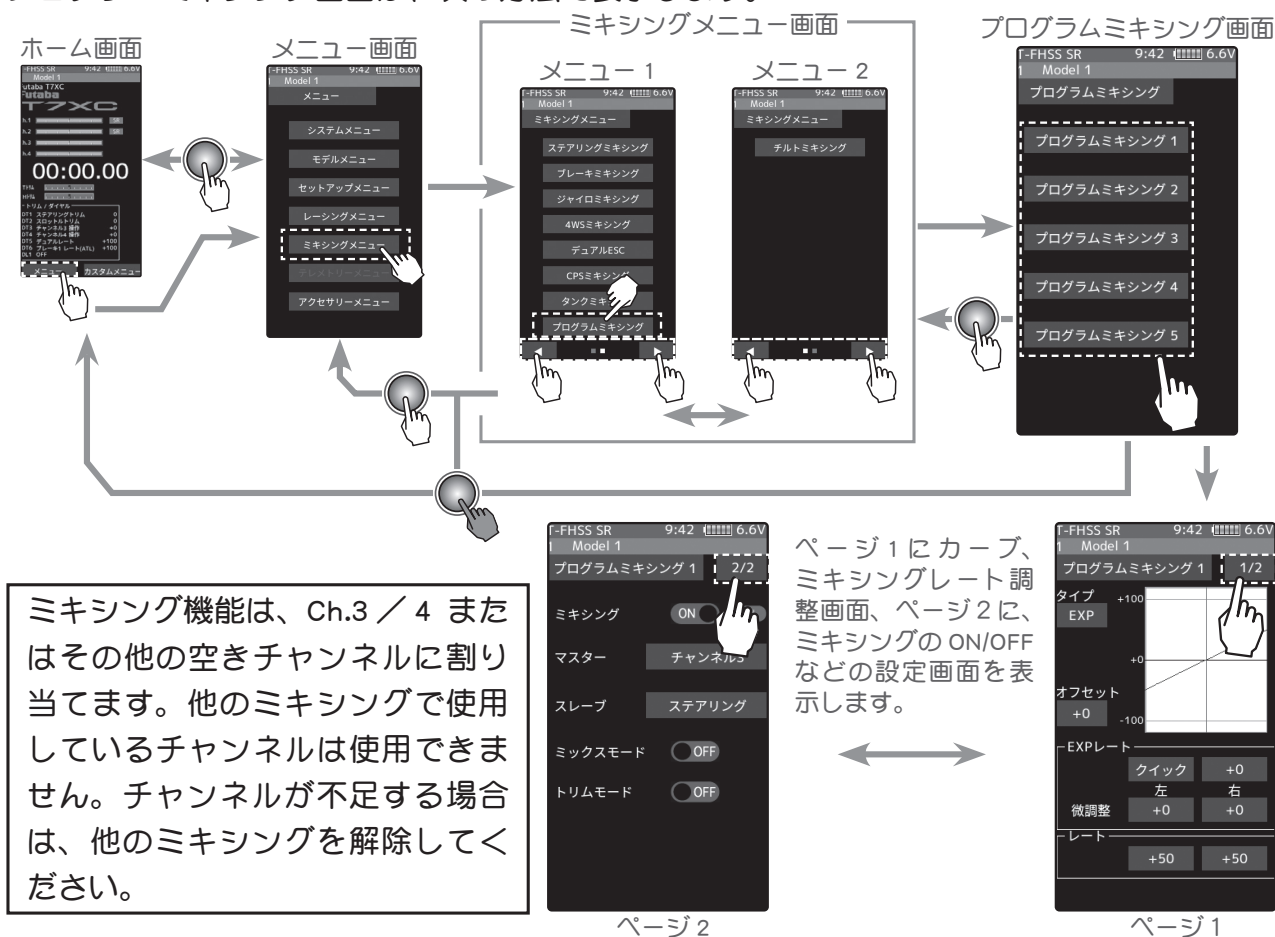
スレーブチャンネル側の動作

スレーブチャンネル側の操作、またはトリムにマスターチャンネル側からの動作が足された動作となります。

スロットルモードを 100 : 0 に設定した場合

スロットルモード（P62）を 100 : 0 に設定した場合、ブレーキ側の動作は停止していますので、マスターチャンネルをスロットルに設定すると、ミキシングは前進側のみ動作します。ブレーキ側は動作しません。

プログラムミキシング画面は、次の方法で表示します。



機能説明

プログラムミキシングの調整方法

(準備)

- ・プログラムミキシングをスイッチで ON/OFF する場合は、スイッチ設定機能 (P70) でスイッチを設定します。
- ・プログラムミキシング画面から使用する【プログラムミキシング1】～【プログラムミキシング5】をタッチして設定画面に移動します。

1 (プログラムミキシング機能の ON/OFF)

画面右上の【1/2】をタッチして、ページ2に移動します。

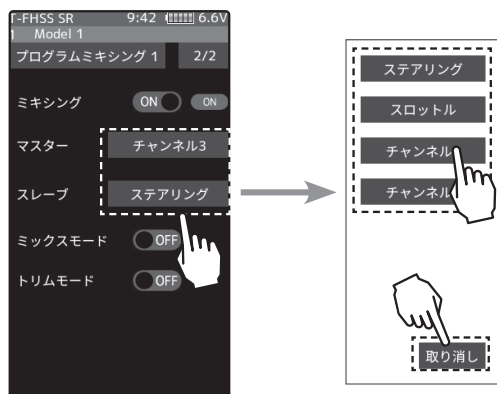
ミキシングの(ON●)または(●OFF)をタッチして、ON/OFFを選択します。

"(●OFF)" : 機能 OFF

"(ON●)" : 機能が ON の状態

2 (マスター/スレーブチャンネルの設定)

ミキシングをかける側の【マスター】、またはミキシングを受ける側の【スレーブ】チャンネルをタッチ、チャンネルリストのポップアップ画面が表示しますので、リストからタッチして選びます。キャンセルする場合は、【取り消し】をタッチします。



3 (ミックスモードの設定)

ミックスモードの(ON●)または(●OFF)をタッチして、ON/OFFを選択します。

"OFF" : マスターチャンネルの EXP 機能などをミックスしません。

"ON" : マスターチャンネルの EXP 機能などをミックスします。

4 (トリムモードの設定)

トリムモードの(ON●)また(●OFF)をタッチして、ON/OFFを選択します。

"OFF" : マスターチャンネルのトリムデータは含みません。

"ON" : マスターチャンネルのトリムデータを含みます。

設定

●(ON●) / (●OFF) をタッチ。



チャンネルの選択

●ポップアップ画面をタッチして選択。



S-FHSS (アナログ) の場合は、Ch.1 ~ Ch.7 を表示します。

設定

●(ON●) / (●OFF) をタッチ。

ミックスモードの設定

OFF, ON

初期値 : OFF

トリムモードの設定

OFF, ON

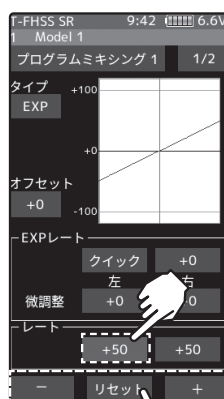
初期値 : OFF



- 5** (左／前進／A 側ミキシングレートの調整)
画面右上の **[2/2]** をタッチして、ページ 1 に移動します。

[左／前進／Aレート値] をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、左／前進／A 側のミキシング量を調整します。

- 7 で説明するカーブタイプが**[カーブ]**に設定されている場合、レート調整はありません。すべてカーブで調整します。



ミキシング量

-120 ~ +50 ~ +120

初期値：+50

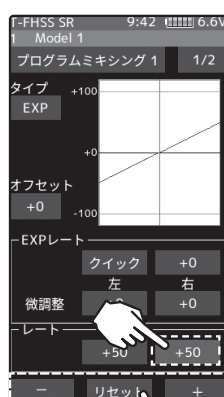
調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

- 6** (右／ブレーキ／B 側ミキシングレートの調整)

[右／ブレーキ／Bレート値] をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、右／ブレーキ／B 側のミキシング量を調整します。

- 7 で説明するカーブタイプが**[カーブ]**に設定されている場合のレート調整はありません。すべてカーブで調整します。



ミキシング量

-120 ~ +50 ~ +120

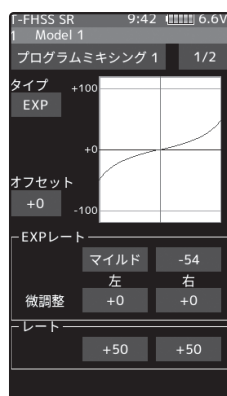
初期値：+50

調整

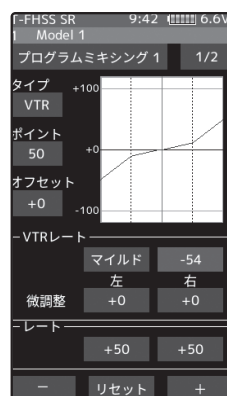
- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

- 7** (カーブの調整)

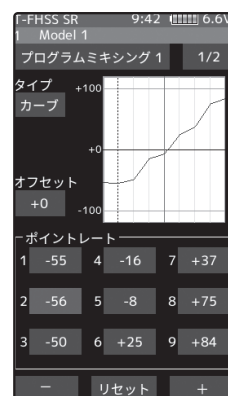
マスターチャンネルからスレーブチャンネルに EXP / VTR / カーブミキシングが設定できます。各カーブの設定方法はステアリングカーブとスロットルカーブをお読みください。(P81 ~ 86)



EXP



VTR



カーブ

- 8** 終了する場合は、ホームボタンを 2 回押してミキシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押ししてホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム／ダイヤル設定 (P67) を使ってミキシングレートを、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 などでコントロールすることができます。

チルトミキシング

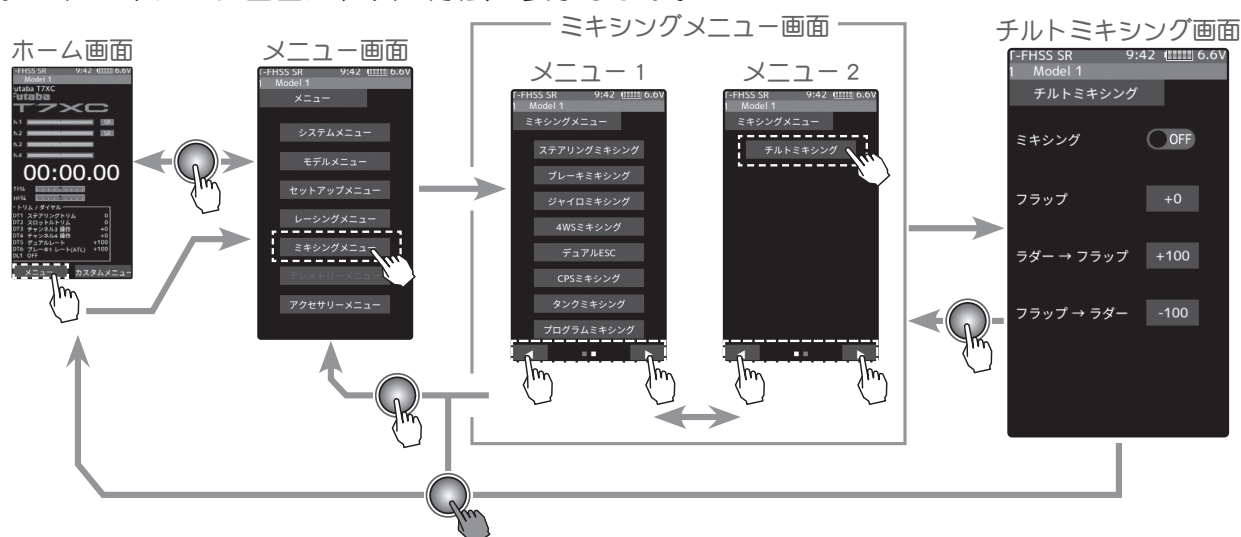
この機能は、ボートで船外エンジンを使用し、ラダー（ステアリング）からフラップ、および、フラップからラダーへの双方向のミキシングをかけ、ラダー動作とチルトミキシング動作を 2 サーボで操作できるようにするミキシングです。

ステアリングスティックでラダー操作、フラップチャンネル（Ch.3 か Ch.4 またはその他の空きチャンネル）でチルトミキシングが操作できます。

他の機能の設定値による、チルトミキシングへの影響について

ステアリング側のエンドポイント機能、カーブ機能、スピード機能、または D/R 機能の設定は、フラップチャンネル側の動作にも影響します。ただし、ステアリング側にリバース機能の設定をしてもフラップチャンネルはリバースにはなりません。

チルトミキシング画面は、次の方法で表示します。



ミキシング機能は、Ch.3 / 4 またはその他の空きチャンネルに割り当てます。他のミキシングで使用しているチャンネルは使用できません。チャンネルが不足する場合は、他のミキシングを解除してください。

チルトミキシングの調整方法

（準備）

- ダイヤル設定機能 (P67) でダイヤル DL1、またはデジタルトリム DT1 ~ DT6 のどれかを "フラップ" に設定してください。

1 (チルトミキシング機能の ON/OFF)

ミキシングの (ON●) または (●OFF) をタッチして、ON/OFF を選択します。

"(●OFF)": 機能 OFF
"(ON●)": 機能が ON の状態



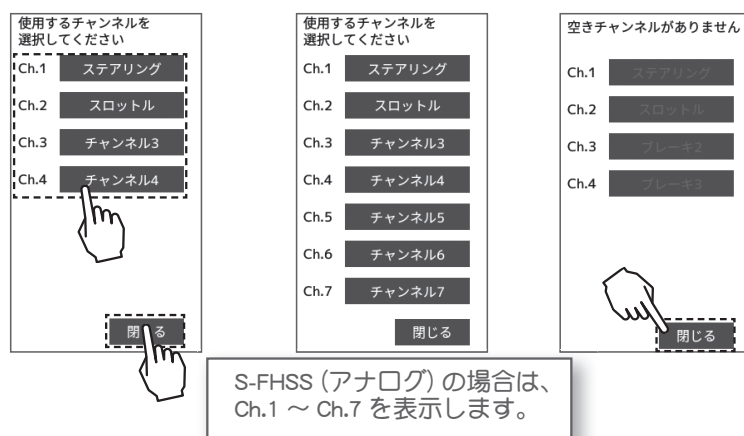
設定

● (ON●) / (●OFF) をタッチ。

2 (使用チャンネルの設定)

ミキシングチャンネルを設定する画面を表示します。Ch.3 / 4 またはその他の空きチャンネルをタッチします。

- すべてのチャンネルが、使用されていると「空きチャンネルがありません」という画面を表示しますので、他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作ってください。チャンネル設定画面 (P76) で使用しているミキシングが確認できます。



チャンネルの選択

- ポップアップ画面をタッチして選択。

空きチャンネルがない場合、**【閉じる】**をタッチ。他のミキシングを OFF にするなどして空きチャンネルを作る。

3 (フラップレート確認調整)

【フラップレート値】をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-] [リセット] [+]** が表示します。**【+】**、**【-】** をタッチして、フラップの動作量を調整します。

フラップレート

-100 ~ +100

初期値: +0

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

4 (ラダー⇒フラップへのミキシング量の調整)

【ラダー⇒フラップ値】をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-] [リセット] [+]** が表示します。**【+】**、**【-】** をタッチして、ミキシング量を調整します。

ミキシング量

(ラダー ⇒ フラップ)

-100 ~ +0 ~ +100

初期値: +100

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

5 (フラップ⇒ラダーへのミキシング量の調整)

【フラップ⇒ラダー値】をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-] [リセット] [+]** が表示します。**【+】**、**【-】** をタッチして、ミキシング量を調整します。

ミキシング量

(フラップ ⇒ ラダー)

-100 ~ +0 ~ +100

初期値: -100

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

- 6 終了する場合は、ホームボタンを押してミキシングメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ダイヤルやデジタルトリムでのレート調整

トリム／ダイヤル設定 (P67) を使ってミキシングレートを、ダイヤル DL1 やデジタルトリム DT1 ~ DT6 などでコントロールすることができます。



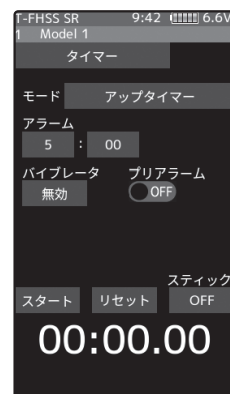
タイマー

アップタイマー、フューエルダウンタイマー、ラップタイマーおよびラップナビゲートタイマーの4種類のタイマーから1つを選んで使用します。

アップタイマー

アップタイマーの機能について

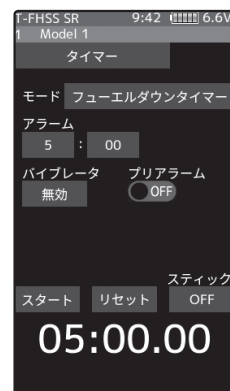
- スタート～ストップ間の時間の計測等に使用できます。
- スイッチを押すたびにスタート、ストップを繰り返し、各スタート～ストップ間の時間が積算されます。(99分59秒までカウントすると00分00秒に戻りカウントを繰り返します)
- スロットルスティックで、最初のスタート操作をさせることができます。
- アラーム音を設定できます。その他、スタートしてから1分ごとにブザー（「ピー」音）を鳴らして時間の経過を知らせます。
 - * アラーム：設定した時間（分）に「ピー」音を鳴らします。
 - * プリアラーム：アラームの予告音。アラーム設定時間より10秒前に鳴り始めます。(ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ)
- スタート後、他の画面に切り替えてもタイマーはカウントを続け、スイッチでストップできます。



フューエルダウンタイマー

ダウンタイマーの機能について

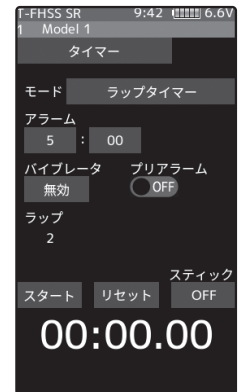
- おもにエンジンカーの給油時間の確認に使用します。(残り時間を表示)
- スイッチを押すたびにリスタートを繰り返し、設定時間がリセットされます。スタート時間はアラーム設定時間となります。(00分00秒までカウントすると以降アップタイマーの動作となります)
- スロットルスティックで、最初のスタート操作をさせることができます。
- アラーム音を設定できます。その他、スタートしてから1分ごとにブザー（「ピー」音）を鳴らして時間の経過を知らせます。
 - * アラーム：設定した時間（分）に「ピー」音を鳴らします。
 - * プリアラーム：アラームの予告音。アラーム設定時間より10秒前に鳴り始めます。(ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ)
- スタート後、他の画面に切り替えてもタイマーはカウントを続けます。



ラップタイマー

ラップタイマーの機能について

- スイッチ操作で各ラップタイムを記憶できます。(80 周分)
- レース時間を設定できます。アラームで設定した時間が経過した後のスイッチ操作でタイマーが自動的にストップします。プリアラームの設定もできます。その他、スタートしてから1分ごとにブザー（「ピー」音）を鳴らして時間の経過を知らせます。
 - * アラーム：設定した時間に「ピー」音を鳴らします。
 - * プリアラーム：アラームの予告音。アラーム設定時間より 10 秒前に鳴り始めます。（ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ）
- スロットルスティックで、最初のスタート操作をさせることができます。



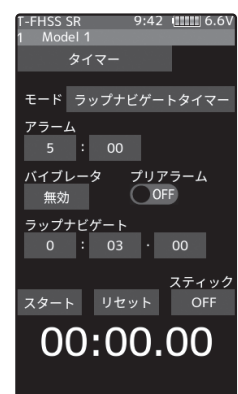
(ラップタイマーの動作)

- ラップタイマーを選択すると、設定画面上には周回数（ラップ）と現在の周回時間を表示します。
 - * 周回数（ラップ）：スタート後、スイッチを押すたびにカウントアップされます。また、スイッチを押した後ラップタイム表示が 3 秒間停止します。この間は誤カウントを防止するためスイッチを受け付けません。
 - * ラップメモリー：各周回時間はラップメモリーに 80 ラップ記憶されます。
 - * ラップメモリーに記憶された周回時間のデータはラップリスト（P137）の画面で確認できます。

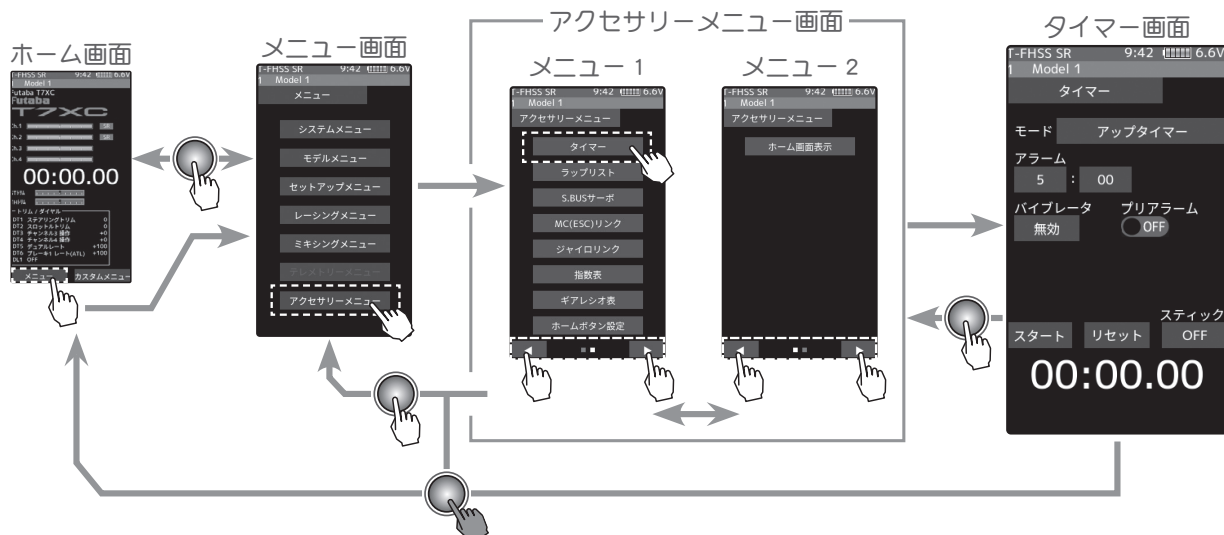
ラップナビゲートタイマー

ラップナビゲートタイマーの機能について

- タイマースタート後、一定時間ごとにブザーを鳴らす機能です。また、タイマー動作中にスイッチを押すとブザーのみをリスタートできるので、練習走行時等の目標タイムとして活用できます。（ラップナビアラーム）その他、スタートしてから1分ごとにブザー（「ピー」音）を鳴らして時間の経過を知らせます。
- スロットルスティックで、最初のスタート操作をさせることができます。
- 一定時間ごとのブザーとは別にアラーム音（アラーム／プリアラーム）を設定できます。
 - * アラーム：設定した時間（分）に「ピー」音を鳴らします。
 - * プリアラーム：アラームの予告音。アラーム設定時間より 10 秒前に鳴り始めます。（ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ、ピッ）
- スタート後、他の画面に切り替えてもタイマーはカウントを続け、スイッチでストップできます。



タイマー画面は、次の方法で表示します。



時間表示

- * 分表示 (m)
- * 秒表示 (s)
- * 1/100 秒表示

タイマーの選択 (モード)

最初に【モード】の項目でタイマーの種類を選びます。タイマーの種類によって設定画面が異なります。この図はアップタイマーの設定画面。

- アップタイマー
- フューエルダウンタイマー
- ラップタイマー
- ラップナビゲイトタイマー

タイマーのタイプ選択方法

(準備)

- ・スイッチ設定機能 (P70) で "タイマースタート" のスイッチを選び、"ノーマル方向"、"ノーマルタイプ" に設定します。タイマーリセットをスイッチで操作する場合は "タイマーリセット" も設定します。

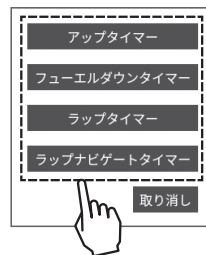
1 (リセットの実行)

タイマータイプをタッチすると、タイマータイプのポップアップ画面を表示します。使用するタイマータイプをタッチして選択します。キャンセルする場合は、【閉じる】をタッチします。



タイプの選択

- ポップアップ画面をタッチして選択。



- 2 終了する場合は、ホームボタンを押してアクセサリメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

アップタイマーの使用法

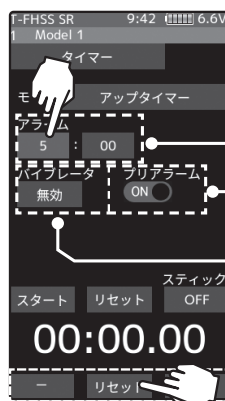
1 (アラーム時間の設定)

設定項目**【アラーム分/秒】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】****【リセット】****【+】**が表示します。**【+】**、**【-】**をタッチしてアラーム時間を設定します。

アラーム時間の左下の設定項目**バインド**です。**【バインド】**をタッチしてアラームのバインドを3タイプのパターンと無効 (OFF) から選びます。

(プリアラームの設定)

プリアラームの**(ON●)**または**(●OFF)**をタッチして、ON/OFF を選択します。



アラーム時間

0 ~ 99 (分)

初期値: 5 (分)

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

プリアラーム

ON/OFF

初期値: OFF

設定

- **(ON●)** / **(●OFF)** をタッチ。

バインド

無効, タイプ 1, 2, 3

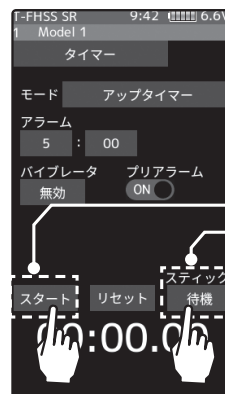
初期値: 無効

設定

- **【タイプ1~3】** / **【無効】** をタッチ。

2 (タイマーのスタート/ストップ操作)

スイッチ設定機能で設定した**スイッチ (タイマースタート)**、または画面上の**【スタート】**をタッチでタイマーがスタートします。タイマーの動作中に同じスイッチを押すとタイマーがストップします。画面上の**【リセット】**をタッチしてもストップします。



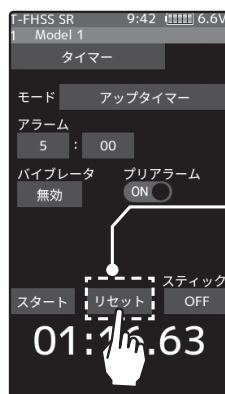
スタート/リスタート
スティック操作待ち

●スロットルスティックでスタートさせる方法

スティックの**【OFF】**をタッチすると、**【待機】**の表示になり、スティック操作待ちの状態となります。スティックを前進側に操作するとタイマーがスタートします。ストップは、スイッチでスタートする場合と同じです。

3 (タイマーのリセット操作)

タイマーが停止した状態で、スイッチ設定機能で設定した**スイッチ (タイマーリセット)**を押すか、または画面上の**【リセット】**をタッチします。ピッピッという音とともに、タイマーがリセットします。



タイマーリセット

フューエルダウタイマーの使用法

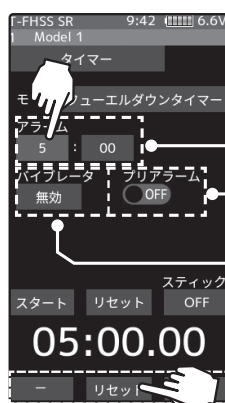
1 (アラーム時間の設定)

設定項目**【アラーム分/秒】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】****【リセット】****【+】**が表示します。**【+】**、**【-】**をタッチしてアラーム時間を設定します。

アラーム時間の左下の設定項目**バイブ設定**です。**【バイブ】**をタッチしてアラームのバイブを3タイプのパターンと無効 (OFF) から選びます。

(プリアラームの設定)

プリアラームの**(ON●)**または**(●OFF)**をタッチして、ON/OFF を選択します。



アラーム時間

0 ~ 99 (分)

初期値: 5 (分)

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

プリアラーム

ON/OFF

初期値: OFF

設定

- **(ON●)** / **(●OFF)** をタッチ。

バイブ

無効, タイプ 1, 2, 3

初期値: 無効

設定

- **【タイプ1~3】** / **【無効】** をタッチ

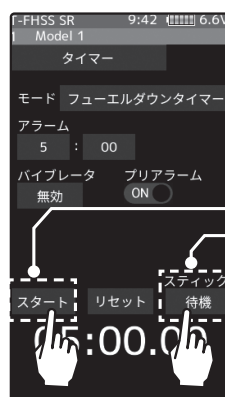
2 (タイマーのスタート/ストップ操作)

スイッチ設定機能で設定した**スイッチ (タイマースタート)**、または画面上の**【スタート】**をタッチでタイマーがスタートします。タイマーの動作中に同じスイッチを押すとタイマーがリセットされ、同時に再スタートします。

タイマーリセットを設定したスイッチを押すか、画面上の**【リセット】**をタッチするとストップします。

●スロットルスティックでスタートさせる方法

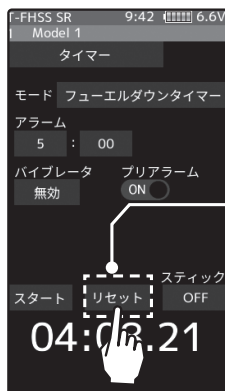
スティックの**【OFF】**をタッチして、**【待機】**の表示になり、スティック操作待ちの状態となります。スティックを前進側に操作するとタイマーがスタートします。リスタートは、スイッチのスタートの場合と同じです。



スタート/リスタート
スティック操作待ち

3 (タイマーのリセット操作)

タイマーが停止した状態で、スイッチ設定機能で設定した**スイッチ (タイマーリセット)**を押すか、または画面上の**【リセット】**をタッチします。ピッピッという音とともに、タイマーがリセットします。



タイマーリセット

ラップタイマーの使用方法

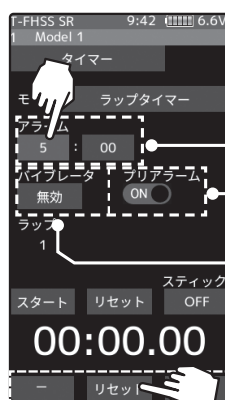
1 (アラーム時間の設定)

設定項目**【アラーム分/秒】**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**【-】【リセット】【+】**が表示します。**【+】**、**【-】**をタッチしてアラーム時間を設定します。

アラーム時間の左下の設定項目**バインド**です。**【バインド】**をタッチしてアラームのバインドを3タイプのパターンと無効 (OFF) から選びます。

(プリアラームの設定)

プリアラームの**(ON●)**または**(●OFF)**をタッチして、ON/OFF を選択します。



アラーム時間

0 ~ 99 (分)

初期値: 5 (分)

調整

- **【+】** / **【-】** をタッチで調整。
- **【リセット】** をタッチで初期値。

プリアラーム

ON/OFF

初期値: OFF

設定

- **(ON●)** / **(●OFF)** をタッチ。

バインド

無効, タイプ 1, 2, 3

初期値: 無効

設定

- **【タイプ1~3】** / **【無効】** をタッチ

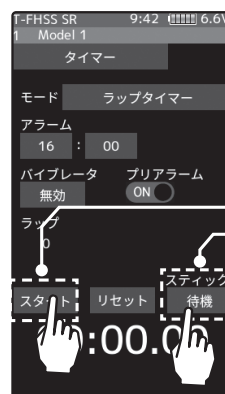
2 (タイマーのスタート/ラップカウント操作)

スイッチ設定機能で設定した**スイッチ (タイマースタート)**、または画面上の**【スタート】**をタッチでタイマーがスタートします。タイマーの動作中に同じスイッチを押すとラップカウントされます。

● スロットルスティックでスタートさせる方法

スティックの**【OFF】**をタッチして、**【待機】**の表示になり、スティック操作待ちの状態となります。スティックを前進側に操作するとタイマーがスタートします。

- 前回のラップタイマーをリセットしないとスタートできません。タイマーリセットでラップリスト (P137) が消去しますので注意してください。



スタート/リスタート スティック操作待ち

⚠ ラップリスト記録済です
スタート前にタイマーをリセット
して、ラップリストを消去して
ください。

閉じる

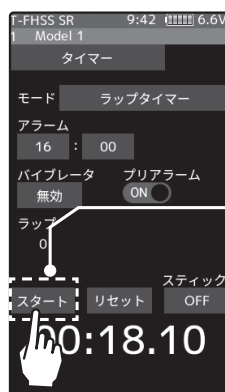
前回のラップリストをリセットしないでスタートしようとする则表示します。

3 (タイマーのストップ/リセット操作)

"アラーム" で設定した時間の経過後にラップカウントの**スイッチ**、または**タイマーリセット**を設定したスイッチを押すとタイマーがストップし、ラップタイム、トータルタイム、平均ラップタイムがメモリーされますので確認します。(ラップリスト P137)

タイマーが停止した状態で、スイッチ設定機能で設定した**スイッチ (タイマーリセット)**を押すとタイマーがリセットします。スイッチを設定していない場合は、画面上の**【リセット】**をタッチします。ピッピッという音とともに、タイマーがリセットします。

- タイマーリセットでラップリスト (P137) は消去します。



タイマーリセット

ラップナビゲートタイマーの使用法

1 (アラーム時間の設定)

設定項目 **[アラーム分/秒]** をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。 **[+]**、**[-]** をタッチしてアラーム時間を設定します。

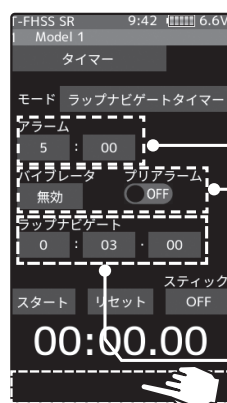
アラーム時間の左下の設定項目 **バインド** です。 **[バインド]** をタッチしてアラームのバインドを3タイプのパターンと無効 (OFF) から選びます。

(プリアラームの設定)

プリアラームの **(ON●)** または **(●OFF)** をタッチして、ON/OFF を選択します。

(ラップナビアラーム時間の設定)

設定項目 **[ラップナビゲート時間]** をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。 **[+]**、**[-]** をタッチしてラップナビアラーム (目標) 時間を設定します。



アラーム時間

0 ~ 99 (分)

初期値: 5 (分)

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

プリアラーム

ON/OFF

初期値: OFF

設定

- **(ON●)** / **(●OFF)** をタッチ。

バインド

無効, タイプ 1, 2, 3

初期値: 無効

設定

- **[タイプ1~3]** / **[無効]** を

タッチ **ラップナビゲート時間**

0 ~ 99 (分)

初期値: 3 (秒)

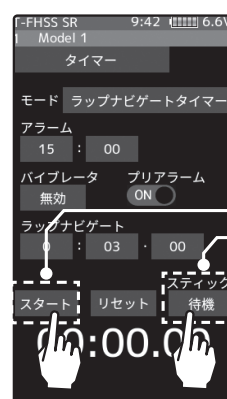
2 (タイマーのスタート/ナビリスタート操作)

スイッチ設定機能で設定した **スイッチ (タイマースタート)**、または画面上の **[スタート]** をタッチでタイマーがスタートします。 **タイマーリセット** を設定したスイッチを押すか、画面上の **[リセット]** をタッチするとストップします。

●スロットルスティックでスタートさせる方法

スティックの **[OFF]** をタッチして、**[待機]** の表示になり、スティック操作待ちの状態となります。スティックを前進側に操作するとタイマーがスタートします。ストップは、スイッチのスタートの場合と同じです。

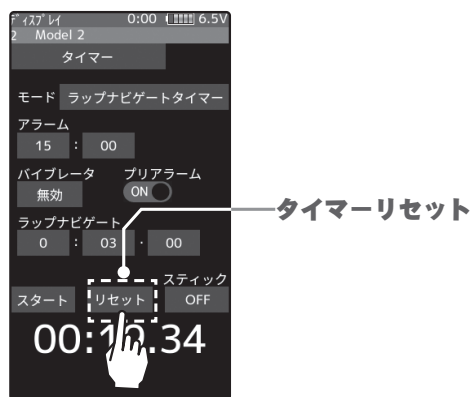
●自分のラップタイムが目標時間より遅れて周回数を重ねると、ラップナビアラームのタイミングが大きくなりずれてきます。計測中に **スイッチ(タイマースタート)** を押すとアラームのタイミングを修正できます。



スタート/リスタート
スティック操作待ち

3 (タイマーのリセット操作)

タイマーが停止した状態で、スイッチ設定機能で設定したスイッチ **(タイマーリセット)** を押すか、または画面上の **[リセット]** をタッチします。ピッピッという音とともに、タイマーがリセットします。

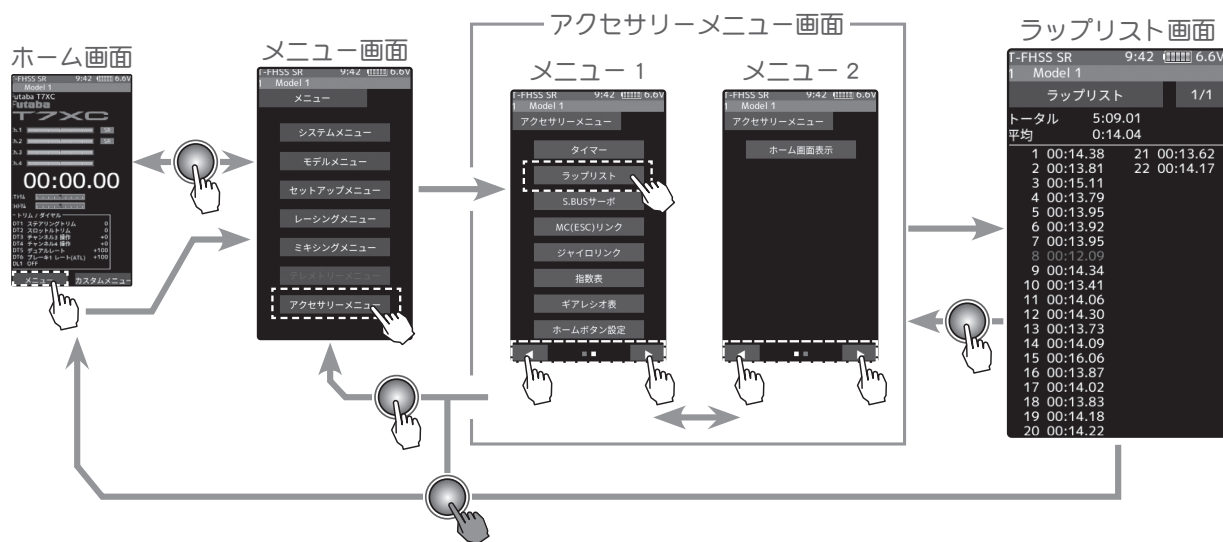


ラップリスト

このラップリストはラップタイマー (P135) の操作で記憶した、ラップメモリーのデータ (各周回タイム) を確認できます。

- ラップタイマーをスタート後、スイッチ操作のたびに周回時間が順に記憶されます。
- トータルタイムと平均タイムを表示します。最速タイムは赤字で表示します。
- ラップタイムデータは、モデルデータごとに保存されます。
- 最大 80 ラップまで保存できます。
- ラップタイマーをリセットすると、ラップリストもクリアされます。

ラップリスト画面は、次の方法で表示します。



ラップリストの使用方法

1 (ラップリストの確認)

ラップリストは 1 ページに 40 ラップ、2 ページで最大 80 ラップを表示します。2 ページにリストがある場合、画面右上の **[1/2] / [2/2]** をタッチしてページを移動します。

- #### 2 終了する場合は、ホームボタンを押してアクセサリメニュー画面に戻ります。または、ホームボタンを長押ししてホーム画面に戻ります。

S.BUS サーボ

T7XC 本体で弊社製 S.BUS / S.BUS2 サーボのパラメーター変更ができる専用機能です。一部の機能のデータ変更は PC と S-Link ソフトが必要です。

サーボを直接送信機のコミュニケーションポートに接続して設定する有線と、サーボを受信機に接続したままの状態を設定するワイヤレスの 2 通りの設定方法があります。有線で設定する場合は、必要に応じてオプションの各種サーボ用延長コードをご使用ください。なお、各設定項目の詳しい内容は、弊社ホームページで公開している、S-Link ソフトの説明書をお読みください。（SR モード設定は送信機からの専用パラメーターです。S-Link ソフトでは設定できません。）また、ワイヤレスでの設定では制限事項がありますので、下記「**使用上の注意**」をお読みください。

使用上の注意：

- パラメーターの書き込み中に遮断すると、サーボが故障する場合があります。バッテリー残量が十分ある状態でこの機能を使用してください。
- 安全のため、ワイヤレス設定ではサーボをノーマルモードから SR モードの変更や SR モードからノーマルモードの変更はできません。モードを切り替える場合は、サーボを送信機のコミュニケーションポートに接続して切り替えてください。ただし、SR モードに設定されたサーボは、ワイヤレス設定で SR1 / SR2 / SR3 の変更ができます。
- 受信機とサーボの間に、ジャイロや FSU（フェイルセーフユニット）のような信号を変換するデバイスが接続されていると、ワイヤレス設定は使用できません。
- ワイヤレス設定機能に対応した受信機が必要です。2020 年 6 月時点では、R334SBS / R334SBS-E のソフトウェアバージョン 2.0 以降がワイヤレス設定に対応しています。P35-36 の受信機設定画面で受信機バージョンの確認ができます。2.0 より前のバージョンの R334SBS / R334SBS-E はアップデートしてください。
- 有線の場合、送信機から電源がサーボに供給されますが、対応電圧がハイボルテージサーボ（HV）用です。それ以外のサーボは過電圧になりますので、サーボに対応したバッテリーを接続してください。バッテリーを接続すると送信機からの電源は自動的に停止します。

⚠ 警告

- ❶ ワイヤレス設定では、通信中はサーボが一時的に動作しなくなり、不意に車（ボート）が暴走する危険があります。安全のため、電動カー（ボート）の場合は駆動輪（スクリュー）が路面（水面）に接しない状態で設定してください。また、エンジンカー（ボート）の場合は、エンジンを停止させて設定してください。

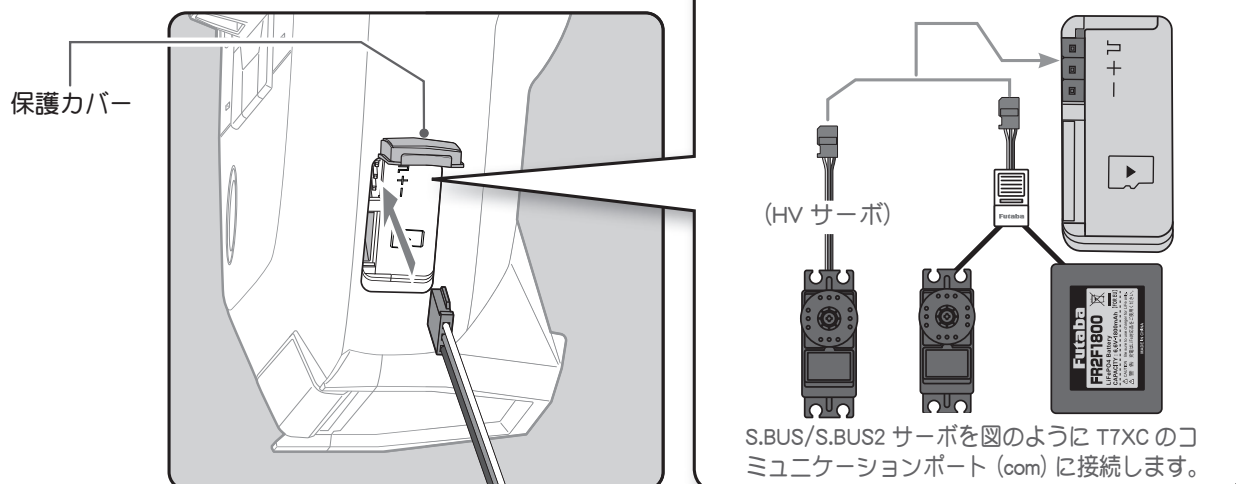
⚠ 注意

- ❶ ハイボルテージに対応していない S.BUS サーボを接続する場合は、サーボの規格にあったバッテリーを接続する。

送信機からはハイボルテージサーボ対応の電圧が供給されます。ハイボルテージに対応していないサーボを接続すると過電圧になり、サーボに無理がかかり、故障の原因になります。

- ⊖ パラメーターの書き込み中に、サーボのコネクターを抜いたり、送信機の電源を切ったりしない。サーボの故障の原因になります。

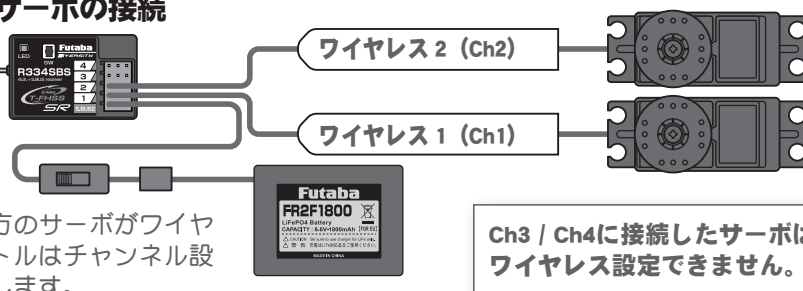
有線方式の送信機とサーボの接続



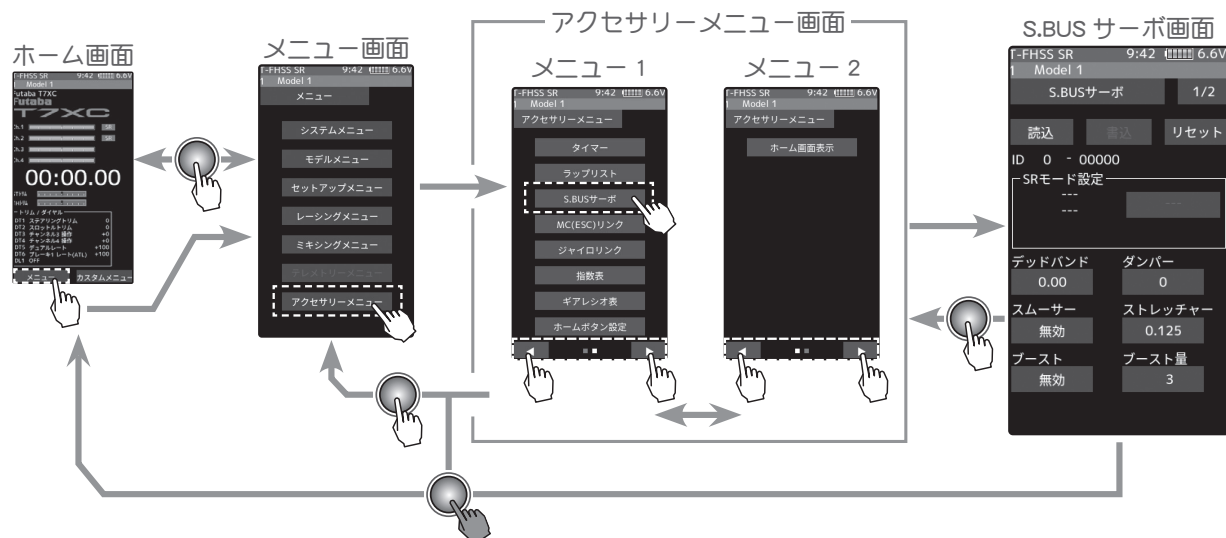
ワイヤレス(無線)方式の受信機とサーボの接続

●参考

S.BUS/S.BUS2 サーボを 1/5 カーなどの 2 サーボ仕様で、ステアリングミキシング (P106) を使用する場合、Ch.2 に割り当て 1,2ch の両方をステアリングに設定すると両方のサーボがワイヤレス設定を使用できます。スロットルはチャンネル設定機能 (P76) で Ch.3 また 4 に変更します。



S.BUS サーボ画面は、次の方法で表示します。



S.BUS サーボメニューの使用方法

(準備)

- 上の接続図にしたがって S.BUS または S.BUS2 サーボを接続します。
- ハイボルテージ (HV) 非対応の S.BUS / S.BUS2 サーボにはバッテリーを接続します。
- SR モードの設定変更をする場合は、必ず有線方式で行ってください。ワイヤレス設定ではサーボをノーマルモードと SR モードの変更はできません。

1 有線の場合送信機の電源スイッチ DSP または PWR を ON にします。ワイヤレスの場合は電源スイッチの PWR 側を ON にして電波を出力します。DSP 側ではワイヤレス設定は使用できません。受信機のバッテリースイッチを ON にして、サーボの動作を確認します。S.BUS サーボ画面を表示します。

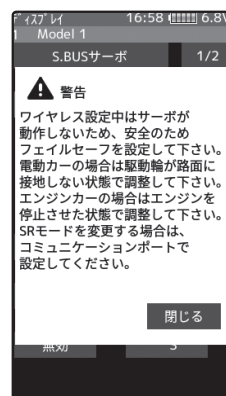
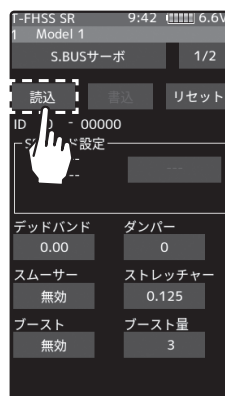
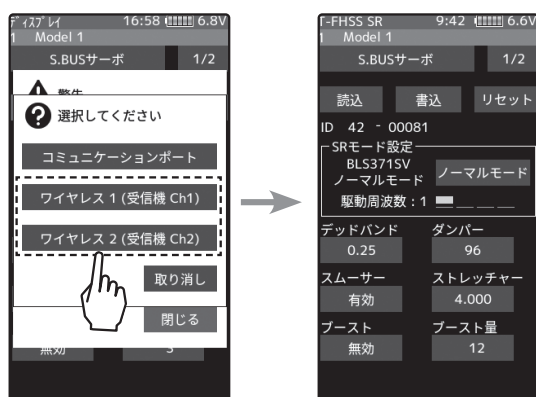
2 (S.BUS / S.BUS2 サーボの読み込み)

接続したサーボのタイプと、設定されているデータを読み込む場合に実行します。

設定項目 **【読み】** をタッチします。ワイヤレス設定に関する注意事項を表示します。本画面は、一度表示されると、電源を入れたおすまで再表示されません。注意事項をよく読み **【閉じる】** ボタンをタッチします。

次に、サーボの選択画面を表示しますので、接続されているチャンネルをタッチして、サーボから設定データを読み込みます。

- ・ **【コミュニケーションポート】** : T7XC のコミュニケーションポート (有線設定)
- ・ **【ワイヤレス 1 (受信機 Ch1)】** : 受信機のチャンネル 1
- ・ **【ワイヤレス 2 (受信機 Ch2)】** : 受信機のチャンネル 2



i データを読み込みました

x 失敗しました
データが読み込めません

- 画面に「データを読み込みました」が表示され、サーボの ID と現在の設定内容が読み込まれます。「失敗しました」と表示された場合は、サーボとの通信が正常に行われていません。T7XC とサーボの接続を確認し電源が必要なサーボは電源も確認して、再度 **【読み】** 操作を実行してください。

3 (サーボへの書き込み)

設定データをサーボに書き込む場合に実行します。設定データをサーボに書き込む場合に実行します。設定データの内容は P142 ~ 143 を参考にしてください。設定項目 **【書き】** をタッチします。「よろしいですか」と確認画面を表示しますので **【はい】** をタッチします。

- 画面に「データを書き込みました」と表示され、設定データがサーボに書き込まれます。「失敗しました」と表示された場合は、サーボとの通信が正常に行われていません。T7XC とサーボの接続を確認し電源が必要なサーボは電源も確認して、再度 **【書き】** 操作を実行してください。



i データを書き込みました

x 失敗しました
データを書き込めません

4 (リセット／初期化)

接続されているサーボに、工場出荷時の設定データを書き込みます。設定項目 **【リセット】** をタッチします。「よろしいですか」と確認画面を表示しますので **【はい】** をタッチします。ただし、SR モードの設定は初期化されません。

- 画面に「データを書き込みました」と表示され、初期データがサーボに書き込まれます。「失敗しました」と表示された場合は、サーボとの通信が正常に行われていません。T7XC とサーボの接続を確認し電源が必要なサーボは電源も確認して、再度 **【リセット】** 操作を実行してください。

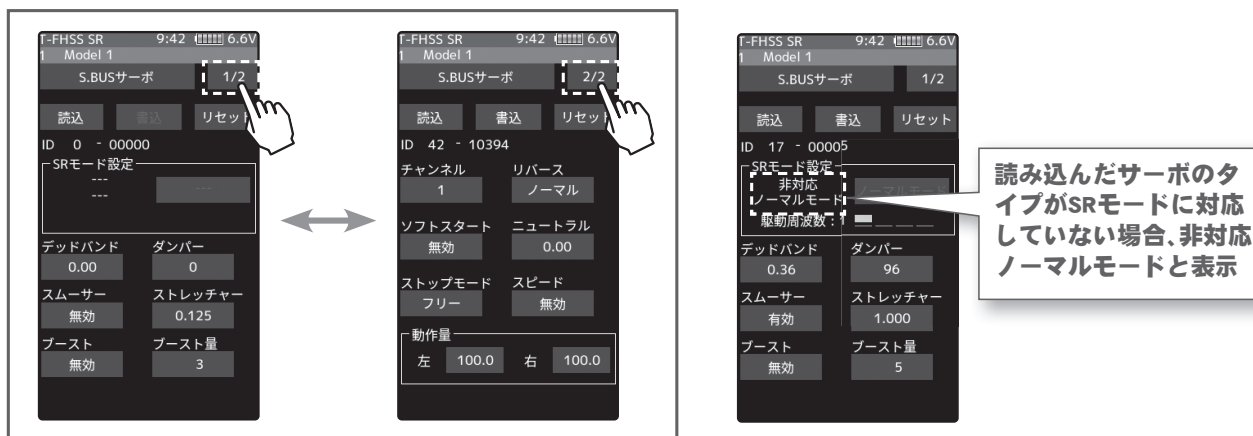


i データを書き込みました

x 失敗しました
データを書き込めません

データリスト表示

- 読み込んだサーボの種類とデータを表示します。
設定項目が2ページありますので、以下のようにページの移動をします。



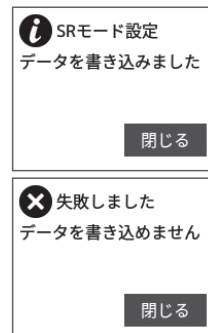
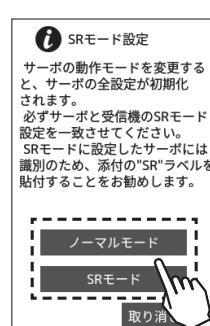
- **【読み】**でデータを読み込んだ画面のままサーボの抜き差し、または他のサーボを接続しないでください。必ず**【書き】**か**【リセット】**が終わった状態か、もしくはホームボタンを押してアクセサリメニュー画面の状態ですべてのサーボを抜き差ししてください。
- 読み込んだデータを、他のサーボに書き込むことはできません。

SRモードの設定

1 (サーボへの書き込み)

SRモードの**【ノーマルモード】**、または**【SRモード】**をタッチします。**【SR設定の注意】**の確認画面を表示しますので、良くお読みのうえ**【ノーマルモード】**か**【SRモード】**をタッチします。

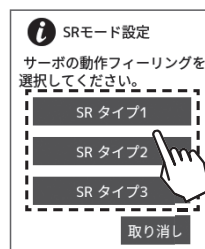
- **【ノーマルモード】**を選んだ場合は、画面に**「データを書き込みました」**と表示され、設定データがサーボに書き込まれます。**【失敗しました】**と表示した場合は、サーボとの通信が正常に行われていません。T7XCとサーボの接続を確認し、再度**【書き】**操作を実行してください。



2 (サーボへの書き込みでSRモードを選んだ場合)

【SR設定の注意】の確認画面で、**【SRモード】**をタッチすると、SRタイプを選ぶ画面を表示します。フィーリングの異なる3タイプが用意されていますので、実際に使用して好みのタイプを選んでください。

- 画面に**「データを書き込みました」**と表示され、設定データがサーボに書き込まれます。**【失敗しました】**と表示した場合は、サーボとの通信が正常に行われていません。T7XCとサーボの接続を確認し、再度**【書き】**操作を実行してください。
- SRモードに設定したサーボは、モードが認識できるように付属のSRラベルを貼ってください。



⊙ SRモードに設定したサーボは、すべての受信機のS.BUSチャンネルには、絶対接続しないでください。サーボが故障します。

サーボのタイプと設定したSRタイプを表示します。

- 1 **[数値]** をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。データは、**[+]**、**[-]** をタッチして設定します。選択式の場合、項目をタッチするとデータが切り替わります。

* ID

パラメーターを読み込んだサーボの ID を表示します。変更はできません。

* デッドバンド

停止位置の不感帯の範囲（角度）を設定できます。（設定範囲：0.00 度～ 3.98 度）

デッドバンドの設定値と、サーボの動作との関係

小さくする⇒停止位置の不感帯幅が小さくなる。小さな信号変化でサーボがすぐに動きだすようになる。
大きくする⇒停止位置の不感帯幅が大きくなる。小さな信号変化でサーボが動きださなくなる。

注意：不感帯幅の角度を小さく設定しすぎると、サーボが常に動作し続ける状態になりますので、消費電流が増えることになり、サーボの寿命も短くなる場合があります。

* ダンパー

サーボが停止する際の特性を設定できます。

標準値の数値より小さくすると、オーバーシュート（行き過ぎてから戻る）特性となります。数値を大きくすると、停止位置手前からブレーキがかかったように止まる設定となります。

特に、大きい負荷がかかるときに、慣性によるオーバーシュート等をおさえて、条件によって起こるハンチング（サーボが痙攣するように動く現象）を起こりにくくすることができます。デッドバンド、ストレッチャー、ブーストなどのパラメーターが適正であっても、ハンチングが起こる場合は、初期値より大きい値に調整してください。

ダンパー設定値とサーボ動作の関係

小さくする⇒オーバーシュートさせたい場合。ハンチングが起こらないような設定にしてください。
大きくする⇒ブレーキがかかるような動作にしたい場合。ただしサーボのレスポンスが下がったように感じる。

注意：ハンチングが発生した状態で使用すると、消費電流が多くなるばかりでなく、サーボの寿命も短くなります。

* スムーサー

サーボの動きを滑らかにする機能です。好みに応じて設定を行ってください。通常は有効 の設定でご使用ください。特にすばやい動作を希望する場合には無効にします。

* ストレッチャー

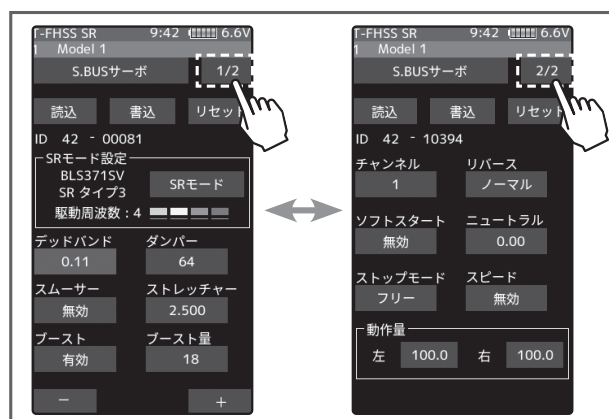
サーボの保持特性の設定ができます。

サーボの現在位置が目標位置とずれているときに、目標位置へ戻ろうとするトルクを調整することができます。ハンチングを止めるときなどに利用しますが、下記のように保持特性が変わります。

ストレッチャー設定値とサーボ動作の関係

小さくする⇒ サーボの保持力が弱くなります。
大きくする⇒ サーボの保持力が強くなります。

注意：ストレッチャーを大きくすると、消費電流が増えていきます。



*ブースト／ブースト量

サーボを低速で動作させた場合のみブーストモードと、常時ブーストを有効させるモードの切り替え設定とブースト量の設定ができます。

無効：低速のみモード（通常は無効 でお使いください）

有効：常時ブーストモード（すばやい動作を希望する場合）

ブーストはサーボを駆動するときに、内部のモーターにかかる最小動作量を設定できます。モーターは小さな動作量では起動しないので、感覚的にデッドバンドが拡大するように感じます。そこで起動できる最小動作量（ブースト）を調整して、モーターが直ぐに起動できるようにします。

*チャンネル

サーボに割り当てられた S.BUS システムのチャンネルです。S.BUS システムとして、受信機の S.BUS2 コネクタに接続して使用する場合は、送信機で使用するチャンネルの割り当てをします。通常の受信機チャンネルで使用する場合は特に設定をする必要はありません。

*リバース

サーボの回転する方向を変更することができます。

*ソフトスタート

電源投入時の瞬時に指定位置に動く動作を制限します。この設定を行うことにより、電源を立ち上げたときの最初の 1 動作だけゆっくりと指定位置に移動します。またそのときの動作速度を設定できます。

*ニュートラル

ニュートラル位置を変更することができます。ただし、ニュートラル位置を大きく変更した場合、最大舵角時にサーボの動作範囲を超え、サーボが動作しない不感帯が発生することがあります。

*ストップモード

サーボの入力信号が途絶えたときのサーボの状態を指定することができます。

ただし【フリー】のときは脱力し、【ホールド】のときは信号が途絶える直前の角度を保持します。AM および FM システムでも、サーボのホールド・モードを設定することができますようになります。ただし、フェイルセーフ機能ではありません。

*スピード

動作スピードを設定できます。使用電圧、負荷トルク、モーターのばらつき等の影響を受けることなく、複数のサーボのスピードを揃えることができます。

（設定範囲：最大 0.047 秒／60 度～ 12 秒／60 度、または【無効】）

ただし、各動作電圧におけるサーボの最大スピード以上の設定を行っても、最大スピード以上のスピードにはなりませんので注意してください。

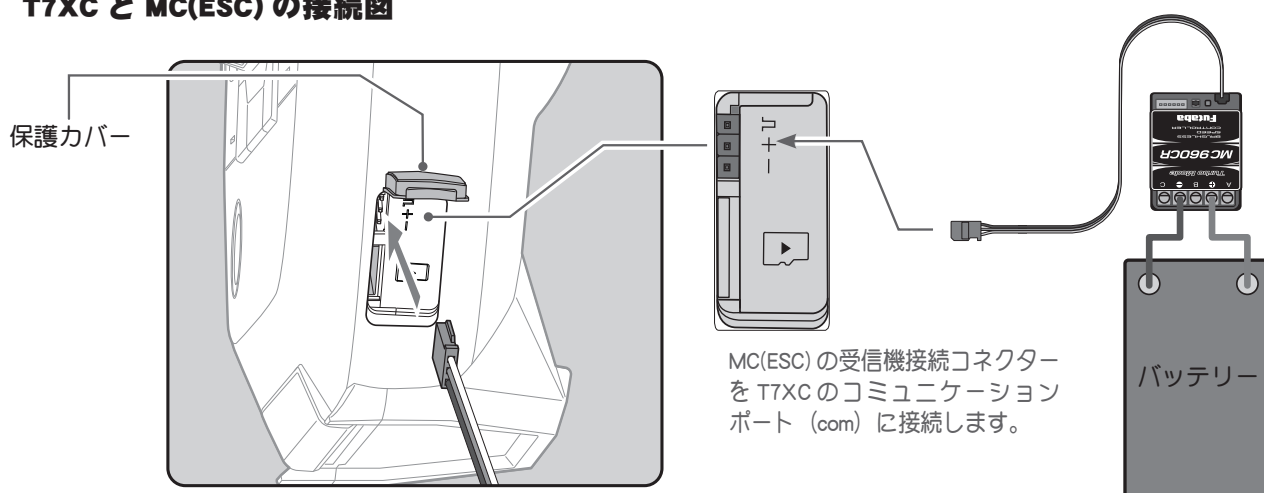
*動作量（左／右）

サーボの左右の動作量を別々に設定できます。

MC(ESC) リンク

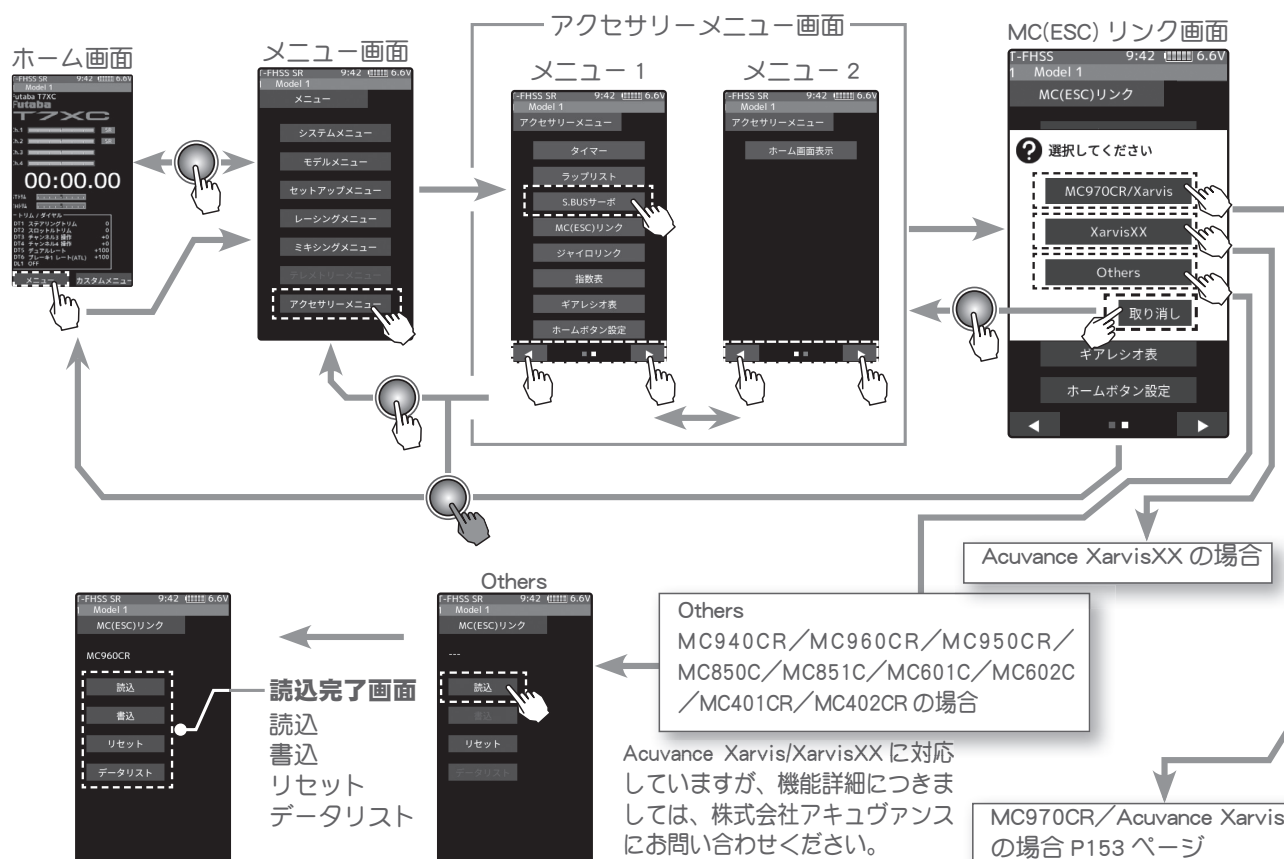
弊社製 ESC の MC970CR, MC940CR, MC960CR, MC950CR, MC850C, MC851C, MC601C, MC602C, MC401CR, MC402CR 等のデータ変更を T7XC 本体で設定できる専用機能です。MC970CR 以外の ESC は、一部の機能のデータ変更は PC と Link ソフトが必要です。ESC を直接送信機のコミュニケーションポートに接続して使用します。必要に応じて、オプションの各種サーボ用延長コードをご使用ください。MC970CR は、受信機に接続したままの状態を設定するワイヤレスの設定方法もあります (P153 からお読みください)。なお、各設定項目の詳しい内容は、弊社ホームページで公開している、各 MC Link ソフトの説明書をお読みください。(MC970CR は対象外です。)

T7XC と MC(ESC) の接続図



- MC(ESC) 側にもバッテリーを接続してください。

MC (ESC) リンク画面は、次の方法で表示します。



MC(ESC) リンクの使用法

(準備)

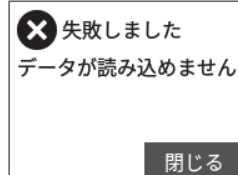
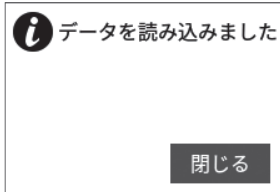
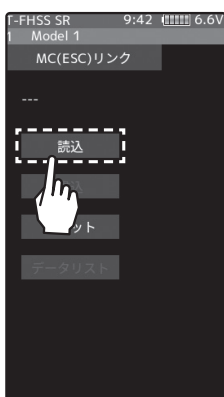
- P144 の接続図にしたがって送信機と MC(ESC) を接続します。
- MC(ESC) にバッテリーを接続します。

1 送信機の電源スイッチ DSP または PWR を ON にします。
MC(ESC) リンク画面を表示します。MC(ESC) の電源 SW を ON にします。

2 (MC(ESC) の読み込み)

接続した MC(ESC) のタイプと、現在 MC(ESC) に設定されているデータを読み込む場合に実行します。設定項目 **【読み】** をタッチします。

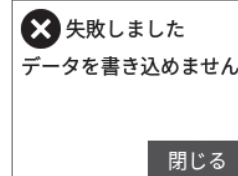
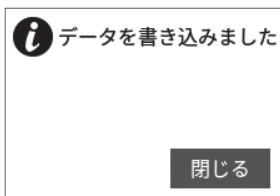
- 画面に「**データを読み込みました**」が表示され、MC(ESC) のタイプと現在の設定内容が読み込まれます。
「**失敗しました**」と表示した場合は、MC(ESC) との通信が正常に行われていません。T7XC と MC(ESC) の接続および MC(ESC) へのバッテリーの接続と MC(ESC) の電源 SW を確認して、再度 **【読み】** 操作を実行してください。



3 (MC(ESC) への書き込み)

設定データを MC(ESC) に書き込む場合に実行します。設定データを MC(ESC) に書き込む場合に実行します。設定データの内容は P147 ~ 152 を参考にしてください。設定項目 **【書き】** をタッチします。

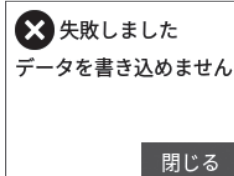
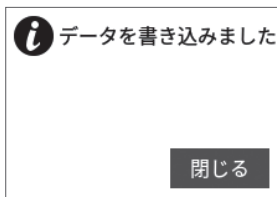
- 画面に「**データを書き込みました**」と表示され、設定データが MC(ESC) に書き込まれます。
「**失敗しました**」と表示した場合は、MC(ESC) との通信が正常に行われていません。T7XC と MC(ESC) の接続および MC(ESC) へのバッテリーの接続と MC(ESC) の電源 SW を確認して、再度 **【書き】** 操作を実行してください。
- タイプの異なる MC(ESC) データは書き込みできません。書き込もうとすると「失敗しました」と表示します。



4 (リセット／初期化)

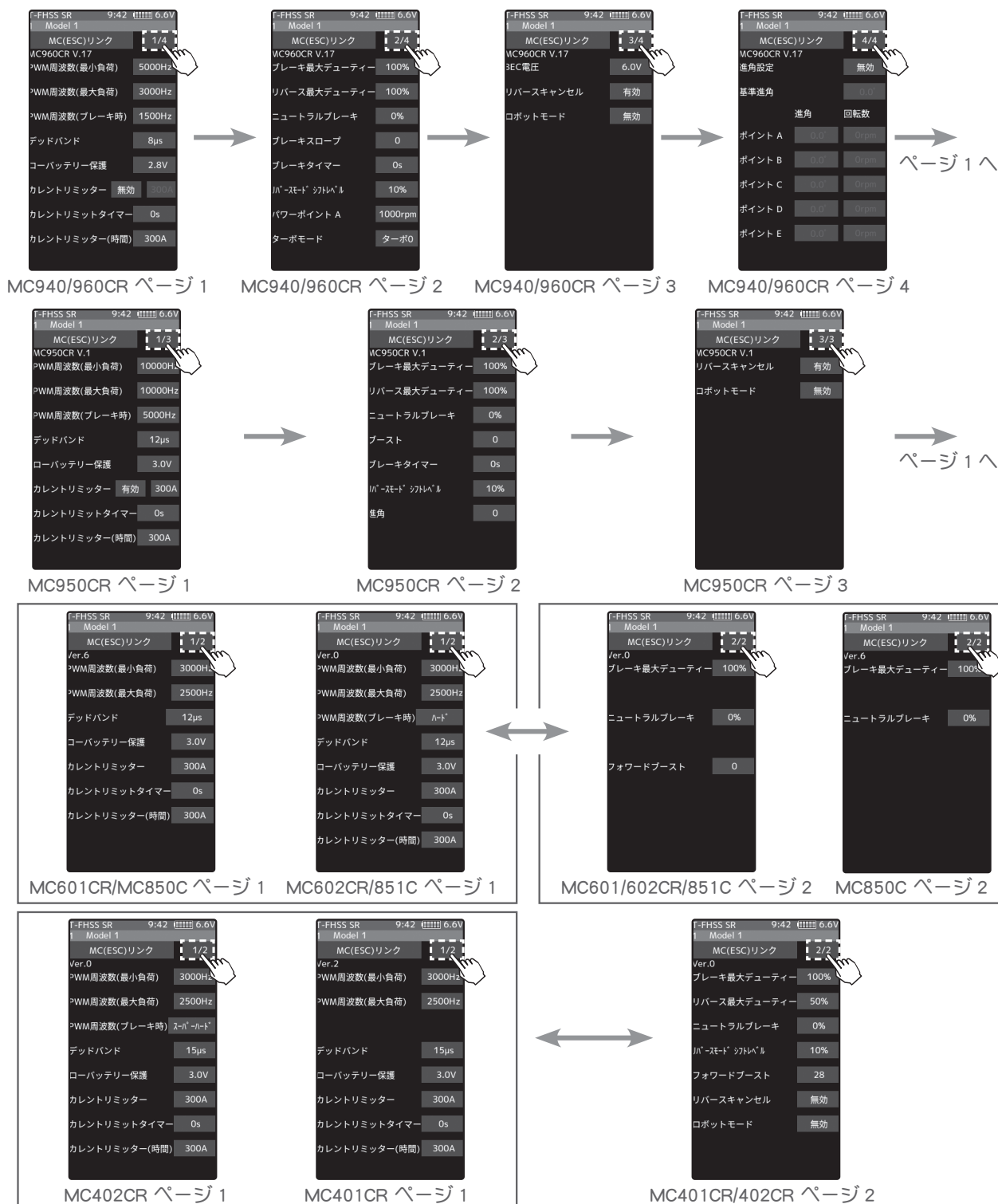
接続されている MC(ESC) に、工場出荷時の設定データを書き込みます。設定項目 **【リセット】** をタッチします。

- 画面に「**データを書き込みました**」と表示され、初期データが MC(ESC) に書き込まれます。「**失敗しました**」と表示した場合は、MC(ESC) との通信が正常に行われていません。T7XC と MC(ESC) の接続および MC(ESC) へのバッテリーの接続と MC(ESC) の電源 SW を確認して、再度 **【リセット】** 操作を実行してください。



データリスト表示

- 1 設定項目【データリスト】をタッチします。
読み込んだ MC(ESC) の種類とデータを表示します。
MC(ESC) のタイプにより、設定項目が異なります。
ページが複数ある場合、以下のようにページの移動をします。



各データの設定方法

- 1 **【数値】**をタッチ、設定値が青く表示され、画面下に **[-]** **[+]** が表示されるデータは、**[+]**、**[-]**をタッチして設定します。選択式の場合、項目をタッチするとデータが切り替わります。

* PWM 周波数 (最小負荷)

- MC401,402CR/601,602C/850,851C :0.1kHz (100Hz) ~ 10kHz (10000Hz)
- MC950CR :0.5kHz (500Hz) ~ 30kHz (30000Hz)
- MC940,960CR :1kHz (1000Hz) ~ 30kHz (30000Hz)
- Link ソフトの PWM frequency (at Min. load)

最小負荷時 (無負荷時 "0"A) の PWM 周波数を設定します。

* PWM 周波数 (最大負荷)

- MC401,402CR/601,602C/850,851C
:0.1kHz (100Hz) ~ 10kHz (10000Hz)
- MC950CR :0.5kHz (500Hz) ~ 30kHz (30000Hz)
- MC940,960CR :1kHz (1000Hz) ~ 30kHz (30000Hz)
- Link ソフトの PWM frequency (at Max. load)

最大負荷時 (CLM- (CURRENT LIMIT) で設定した出力電流制限値) の PWM 周波数を設定します。

* PWM 周波数 (ブレーキ時)

- MC402CR/602C/851C (MC401/601/850 は調整不可 2kHz 固定)
: ノーマル (2000Hz) / ハード (1000Hz) / スーパーハード (500Hz)
- MC950CR :0.5kHz (500Hz) ~ 30kHz (30000Hz)
- MC940,960CR :1kHz (1000Hz) ~ 30kHz (30000Hz)
- Link ソフトの Brake PWM at frequency

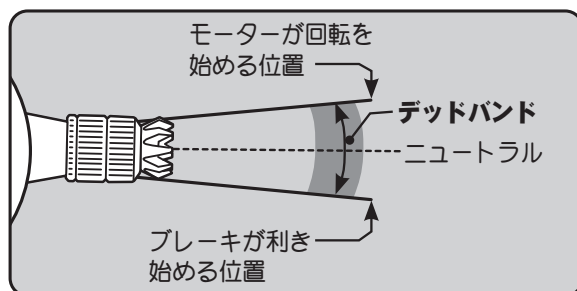
ブレーキの PWM 周波数を設定します。

負荷の少ないときの周波数を設定する **"PWM周波数(最小負荷)"** は、ストレートやコーナーをクリアした後の伸びを求める場合高周波側 (数値大きく) に設定します。
負荷の大きいときの周波数を設定する **"PWM周波数(最大負荷)"** は、低速からの立ち上がりを良くしたい場合に、低周波側 (数値小さく)、低速からの立ち上がりをおさえたい場合や、モーターの発熱やコンピューターの荒れが気になる場合は高周波側 (数値大きく) に設定します。**"PWM周波数(最大負荷)"** を低周波側に設定しても、低速からの立ち上がりが良くならない場合、瞬間的な電圧降下が考えられますので、**"PWM周波数(最大負荷)"** を高周波側に設定変更します。全体的にパワーをおさえたい、ランタイムを伸ばしたいなど効率を求める場合は、**"PWM周波数(最小負荷)"**、**"PWM周波数(最大負荷)"** ともに高周波側に設定します。負荷電流値に関係なく、フルレンジで一定 PWM 周波数を設定したい場合は、両方を同じ値に設定します。

* デッドバンド

- **全タイプ** : 2μs ~ 50μs
- Link ソフトの Dead Band

この設定は、送信機のスロットル操作に対して、MC(ESC) が反応しない範囲 (ニュートラルポイントの範囲) を設定します。数値が大きくなるほど、この範囲が広がります。



MC(ESC) リンク

目次へもどる

1-FHSS SR	9:42	6.6V
Model 1		
MC(ESC)リンク	1/4	
MC960CR V.17		
PWM周波数(最小負荷)	5000Hz	
PWM周波数(最大負荷)	3000Hz	
PWM周波数(ブレーキ時)	1500Hz	
デッドバンド	8μs	
ローバッテリー保護	2.8V	
カレントリミッター	無効	
カレントリミットタイマー	0s	
カレントリミッター(時間)	300A	
-	リセット	+

1-FHSS SR	9:42	6.6V
Model 1		
MC(ESC)リンク	1/4	
MC960CR V.17		
PWM周波数(最小負荷)	5000Hz	
PWM周波数(最大負荷)	3000Hz	
PWM周波数(ブレーキ時)	1500Hz	
デッドバンド	8μs	
ローバッテリー保護	2.8V	
カレントリミッター	無効	
カレントリミットタイマー	0s	
カレントリミッター(時間)	300A	

* ローバッテリー保護

- MC401,402CR/601,602C/850,851C :2.5V ~ 6.0V
- MC950CR/MC940,960CR : 2.5V ~ 7.5V
- Link ソフトの Low Bat Protection

この設定は、電源電圧の低下時にモーターへの出力電流を制限し、受信機への供給電圧を確保します。設定電圧まで低下すると保護回路動作アラームが働き、モーターへの出力をカットします。電源電圧の復帰により自動解除されます。

* カレントリミッター

- MC401,402CR/601,602C/850 :50A ~ 300A, OFF
- MC851C :50A ~ 300A (OFF 設定なし)
- MC950CR/MC940,960CR :50A ~ 500A, OFF
- Link ソフトの Current Limiter

最大負荷時の電流値をここで設定します。

PWM 周波数(最大負荷) の PWM 周波数は、この**カレントリミッター**で設定した出力電流制限値を元に設定されるため、設定範囲を超える電流値が発生する場合以外は、**カレントリミッター** を OFF にする必要はありません。

* カレントリミッター ON (有効) / OFF (無効) の設定

MC950CR/MC940,960CR は、カレントリミッター**[無効]/[有効]**をタッチして、**無効 / 有効**を設定します。

それ以外の MC(ESC) は**カレントリミッター**の最大値から**[+]**をタッチすると、**OFF (無効)**になります。MC851C は **OFF (無効)** の設定はありません。

* カレントリミットタイマー

- MC401,402CR/601,602C/850,851C :0sec (OFF) ~ 240sec
- MC940,960CR :0sec (OFF) ~ 240sec (MC950CR なし)
- Link ソフトの Current Limit timer

出力電流制限をする時間を設定します。
"0"sec に設定するとこの機能が解除されます。

スロットルを前進側に操作し、モーターに電流が出力されるとタイマーがスタートしますので、走行前にトリム調整などでモーターが回転した時点でこの機能が働き始めます。

* カレントリミッター (時間)

- MC401,402CR/601,602C/850,851C :50A ~ 300A
- MC940,960CR :50A ~ 500A (MC950CR なし)
- Link ソフトの Current Limiter (Time Limit)

出力電流制限する時間内の最大出力電流を設定します。

FH55 SR	9:42	6.0V
Model 1		
MC(ESC)リンク	1/4	
MC960CR V.17		
PWM周波数(最小負荷)	5000Hz	
PWM周波数(最大負荷)	3000Hz	
PWM周波数(ブレーキ時)	1500Hz	
デッドバンド	8μs	
ローバッテリー保護	2.8V	
カレントリミッター	無効	
カレントリミットタイマー	0s	
カレントリミッター(時間)	300A	

FH55 SR	9:42	6.0V
Model 1		
MC(ESC)リンク	1/4	
MC960CR V.17		
PWM周波数(最小負荷)	5000Hz	
PWM周波数(最大負荷)	3000Hz	
PWM周波数(ブレーキ時)	1500Hz	
デッドバンド	8μs	
ローバッテリー保護	2.8V	
カレントリミッター	無効	300A
カレントリミットタイマー	0s	
カレントリミッター(時間)	300A	

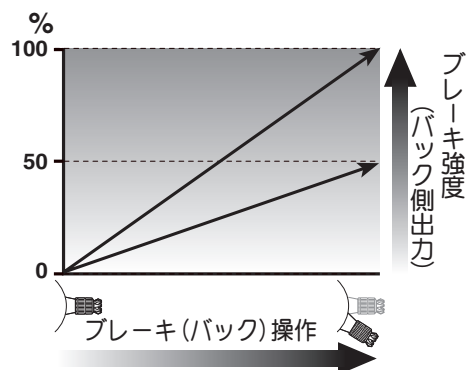
FH55 SR	9:42	6.0V
Model 1		
MC(ESC)リンク	1/2	
Ver.0		
PWM周波数(最小負荷)	3000Hz	
PWM周波数(最大負荷)	2500Hz	
PWM周波数(ブレーキ時)	スロー-ハード	
デッドバンド	15μs	
ローバッテリー保護	3.0V	
カレントリミッター	300A	
カレントリミットタイマー	0s	
カレントリミッター(時間)	300A	

* ブレーキ最大デューティー

・全タイプ：0%～100%

・Link ソフトの Brake Max. Duty

ニュートラルからブレーキ MAX ポイント間の、ブレーキ強度を設定できます。数値を大きくするほどブレーキが強くなります。"0%"に設定するとブレーキは効きません。



* リバース最大デューティー（動作時）

・MC401,402C/MC950CR/MC940,960CR：0%～100%

・Link ソフトの Reverse Max. Duty

ニュートラルからリバース（バック）側 MAX ポイント間の、リバース（バック）側の出力を設定できます。数値を大きくするほど出力がアップします。"0%"に設定するとリバース（バック）動作しません。

FHSS SR Model 1	
MC(ESC)リンク	2/2
Ver.0	
ブレーキ最大デューティー	100%
リバース最大デューティー	50%
ニュートラルブレーキ	0%
リバースモード シフトレベル	10%
フォワードブースト	28
リバースキャンセル	無効
MC401,402CR MC950CR MC940,960CR	

FHSS SR Model 1	
MC(ESC)リンク	2/2
Ver.0	
ブレーキ最大デューティー	100%
ニュートラルブレーキ	0%
フォワードブースト	0
MC601,602C MC850,851C	

* ニュートラルブレーキ

・全タイプ：0%～100%

・Link ソフトの Neutral Brake

スロットル操作で、ニュートラル（スロットルオフ）の位置でブレーキを使用したい場合に設定します。数値を大きくするほどブレーキが強くなります。ニュートラルブレーキを使用しない場合は"0%"に設定します。

* リバースモードシフトレベル

・MC401,402CR/MC950CR/MC940,960CR：0%～100%

・Link ソフトの Reverse mode shift level

リバース（バック）操作は、ブレーキ操作から一旦ニュートラルに戻すことにより可能となりますが、このときのリバース動作に切り替えるために必要なブレーキ量を設定できます。

FHSS SR Model 1	
MC(ESC)リンク	2/2
Ver.0	
ブレーキ最大デューティー	100%
リバース最大デューティー	50%
ニュートラルブレーキ	0%
リバースモード シフトレベル	10%
フォワードブースト	28
リバースキャンセル	無効
コボットモード	無効
MC401,402CR	

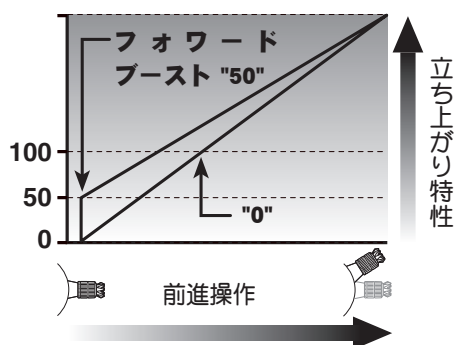
FHSS SR Model 1	
MC(ESC)リンク	2/4
Ver.0	
ブレーキ最大デューティー	100%
リバース最大デューティー	100%
ニュートラルブレーキ	0%
ブレーキスロープ	0
ブレーキタイマー	0s
リバースモード シフトレベル	10%
パワーポイント A	1000rpm
MC950CR MC940,960CR	

* フォワードブースト

・MC401,402CR/MC601,602C/851C：0～100

・Link ソフトの Forward Boost

この設定は、スロットル操作で、ニュートラル（スロットルオフ）から前進側の立ち上がりを調整できます。数値を大きくするほど急激な立ち上がりになります。



FHSS SR Model 1	
MC(ESC)リンク	2/2
Ver.0	
ブレーキ最大デューティー	100%
リバース最大デューティー	50%
ニュートラルブレーキ	0%
リバースモード シフトレベル	10%
フォワードブースト	28
リバースキャンセル	無効
コボットモード	無効
MC401,402CR	

FHSS SR Model 1	
MC(ESC)リンク	2/2
Ver.0	
ブレーキ最大デューティー	100%
ニュートラルブレーキ	0%
フォワードブースト	0
MC601,602C MC851C	

MC(ESC) リンク

目次へもどる

機能説明

* リバースキャンセル

- ・ MC401,402CR/MC950CR/MC940,960CR : 有効 / 無効
- ・ Link ソフトの Reverse Cancel

リバース（バック）機能をキャンセルしたい場合に**【有効】**にします。前進とブレーキ動作のみとなります。

* ロボットモード

- ・ MC401,402CR/MC950CR /MC940,960CR : 有効/無効
- ・ Link ソフトの Robot Mode

ロボット相撲等でブレーキ機能をキャンセルしたい場合に**【有効】**にします。前進とリバース（バック）の連続動作が可能となります。

MC(ESC)リンク	2/2
ブレーキ最大デューティ	100%
リバース最大デューティ	50%
ニュートラルブレーキ	0%
リバースキャンセル	無効
ロボットモード	無効

MC(ESC)リンク	3/4
MC960CR V.17	6.0V
3EC電圧	6.0V
リバースキャンセル	有効
ロボットモード	無効

MC(ESC)リンク	3/3
MC950CR V.1	
リバースキャンセル	有効
ロボットモード	無効

* ブレーキスロープ

- ・ MC940,960CR 専用機能 : 0 ~ 300
- ・ Link ソフトの Brake Slope

ターボモードの**【ターボ2】**で進角を大きく設定すると、前進側からニュートラルに戻したときに、強いブレーキが発生する場合があります。その場合、この値を大きくするとブレーキの効きを弱くできます。

*注意：値を大きくしすぎると、スロットルを戻しても減速しなくなるので、小さい値から設定してください。

MC(ESC)リンク	2/4
MC960CR V.17	
ブレーキ最大デューティ	100%
リバース最大デューティ	100%
ニュートラルブレーキ	0%
ブレーキスロープ	0
ブレーキタイマー	0s

* ブレーキタイマー

- ・ MC940,960CR/950CR 専用機能 : 0 秒 ~ 30 秒
- ・ Link ソフトの Brake timer

スロットルを戻したとき（スロットルオフ）のブレーキの効き具合を調整します。これは実車でいうエンジンブレーキのような動作を打ち消す機能です。設定値を大きくするほどブレーキが弱くなります。

リバース機能を使用している場合、通常はブレーキ操作から一旦ニュートラルにスロットルスティックを戻し、再度スティックをブレーキ（リバース）側に操作しないとリバース動作になりませんが、ニュートラルポイントの設定を故意に前進側に移動させて使用している場合、スティックをニュートラルに戻さなくてもブレーキ操作を繰り返すとリバース動作になる場合があります。それを防ぐために、リバース動作への切り替えに必要な時間を設定できます。

* 進角

- ・ MC950CR 専用機能 : 0 ~ 1500
- ・ Link ソフトの Lead Angle

MC950CR 側でモーターの進角が設定できますが、通常は "0" の設定を推奨します。この設定は Link ソフトで回転数のログを参考に設定することを推奨します。

MC(ESC)リンク	2/3
MC950CR V.1	
ブレーキ最大デューティ	100%
リバース最大デューティ	100%
ニュートラルブレーキ	0%
ブースト	0
ブレーキタイマー	0s
進角	0

* BEC 電圧

- ・ MC940,960CR 専用機能：6.0V/7.4V
- ・ Link ソフトの BEC Voltage

この設定は、受信機用 BEC 電圧を 6.0V と 7.4V から選択できますが、高い電源電圧を下げる機能で、低い電源電圧を高い電圧に上げる昇圧機能ではありません。使用する電源電圧より高くはなりませんので、注意してください。

例：7.4V 以上の電源電圧で、6.0V 仕様の受信機、サーボを使用するときに 6.0V に設定します。ハイボルテージ仕様の受信機、サーボを使用するときは 7.4V に設定します。



ここから先は MC940,960CR 専用の設定です。

これ以降の設定は Link ソフトで回転数のログを参考に設定することを推奨します。

* ターボモード (Link ソフトの Turbo Mode)

[ターボ 0] / [ターボ 1] / [ターボ 2]

ターボモードを設定します。ターボモードを活用することでより大きなパワーを発揮することが可能です。設定値によってはモーターや ESC を破損する危険がありますので設定は慎重に行ってください。

* 注意：ターボ 1、またはターボ 2 に設定されていても、進角設定が[無効]になっていると、進角設定機能は動作しません。

●ターボ 0 モード：(No Lead Angle mode) 進角設定 - なし

ESC で進角設定機能が禁止されているレースに使用する場合、このモードに設定してください。設定項目の進角設定を[無効]にすることで、同様に進角設定機能が OFF になります。

上記の方法で、進角設定を[無効]にした場合、MC940,960CR はニュートラルポイントで、LED が青の、ON 0.1 秒、OFF 0.9 秒の点滅をすることで進角設定機能が OFF であることを表示します。

●ターボ 1 モード：(Lead Angle mode) 進角設定 - 有

進角を設定することにより、出力アップできます。

設定の値によってはモーターや ESC を破損する場合がありますので、進角の値は小さい値から状況を見ながら少しずつ大きくしてください。

進角は、進角設定を[有効]にし、基準進角とポイント A ～ E の進角の値で調整します。

●ターボ 2 モード：(Power Mode) 進角設定 - 有

ターボよりさらに強力なパワーを発揮します。

設定の値によってはモーターや ESC を破損する場合がありますので、進角の値は小さい値から状況を見ながら少しずつ大きくしてください。

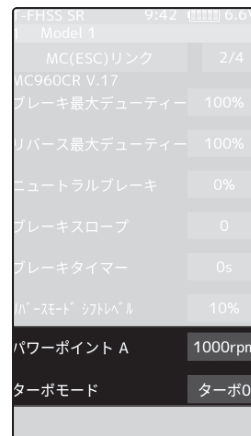
進角は、進角設定を[有効]にし、基準進角とポイント A ～ E の進角の値で調整します。

* 注意：基本的にはモデファイ・モーターに使用しないでください。モデファイ・モーターで使用する とモーターや MC940,960CR を破損する危険があります。

* パワーポイント A (Link ソフトの Power Point A)

- ・ 0 ～ 100000rpm

ターボモードが[ターボ2] (Power mode) で進角を大きくした場合、コースイン時などの極低回転でギクシャクした動きになることがあります。そのような場合、このパワーポイント A に設定した回転数以下で、スムーズな動きにします。通常は 0rpm に設定してください。[ターボ2] 以外のモードでは機能しません。



進角設定を【有効】にすると、基準進角設定ができるようになります。また、ポイント A～E の進角が設定できるようになります。

＊ **進角設定** (Link ソフトの Lead Use Angle)

- ・ **有効** (進角機能を使用します) / **無効** (進角機能を使用しません)

ターボモードがターボ 1 かターボ 2 のときに有効な機能で、進角設定を利用するかどうかをここで設定します。この設定が、ターボモードの設定より優先されます。ESC で進角設定機能が禁止されているレースに使用の場合は、【無効】に設定します。

＊ **基準進角** (Link ソフトの Lead Angle) ・ 0 ～ 59 度

進角設定を【有効】に設定すると、MC(ESC) 側 (MC940,960CR) でモーターの進角が設定できます。1 度単位で 59 度まで設定することができます。

＊ **ポイント A,B,C,D,E 進角** (Link ソフトの Boost Angle) ・ 0 ～ 59 度

＊ **ポイント A,B,C,D,E 回転数** (Link ソフトの Boost Angle rpm) ・ 0 ～ 120,000rpm

進角設定を「有効」に設定すると、MC(ESC) 側 (MC940,960CR) でモーターの回転数に対して A～E の 5 ポイントで進角が設定でき、1 度単位で 59 度まで設定することができます。

基準進角値とポイント A～E の進角の関係を下のグラフに表します。「グラフ 1」と「グラフ 2」の A,B,C,D,E のポイントに同じ数値を設定し、基準進角値を "0" に設定した場合を「グラフ 1」、基準進角に "0" 以外の数値を設定した場合を「グラフ 2」とします。

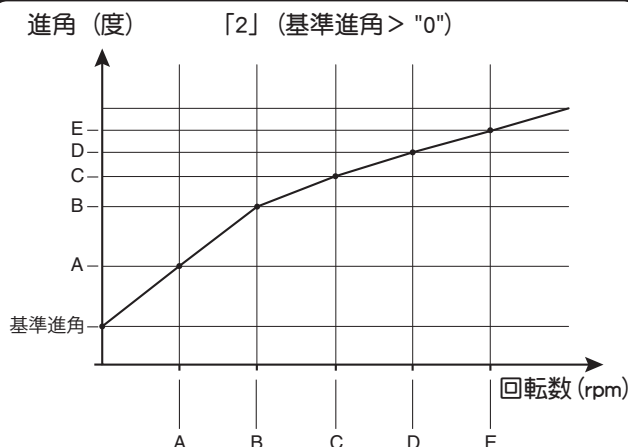
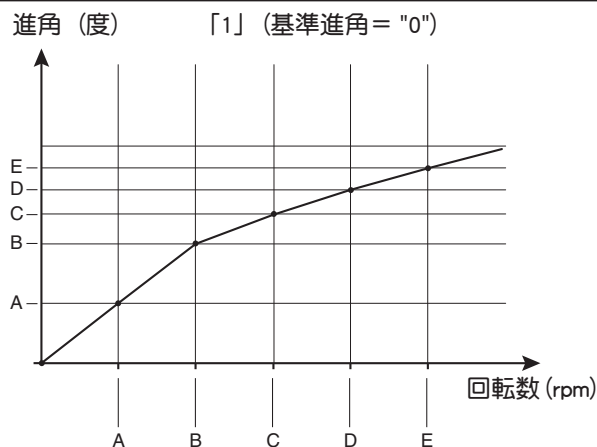
図で示すように「グラフ 2」は、ポイント A,B,C,D,E の設定した進角に、基準進角値で設定した進角が加算されます。例えば、ポイント A に "3" と設定し、「グラフ 2」の基準進角値を "2" に設定した場合、実際のポイント A は $3+2=5$ (度) になります。「グラフ 1」は基準進角値が "0" ですので、実際のポイント A も $3+0=3$ (度) となります。

注意：基準進角 + (ポイント A,B,C,D,E) 進角は "60" を超えないように設定してください。

進角設定を有効にする

1-FHSS SR 9:42 6.6V	
Model 1	
MC(ESC)リンク	4/4
MC960CR V.17	
進角設定	無効
基準進角	0.0
進角	回転数
ポイント A	0.0 0rpm
ポイント B	0.0 0rpm
ポイント C	0.0 0rpm
ポイント D	0.0 0rpm
ポイント E	0.0 0rpm

1-FHSS SR 9:42 6.6V	
Model 1	
MC(ESC)リンク	4/4
MC960CR V.17	
進角設定	有効
基準進角	0.0°
進角	回転数
ポイント A	0.0° 0rpm
ポイント B	0.0° 0rpm
ポイント C	0.0° 0rpm
ポイント D	0.0° 0rpm
ポイント E	0.0° 0rpm



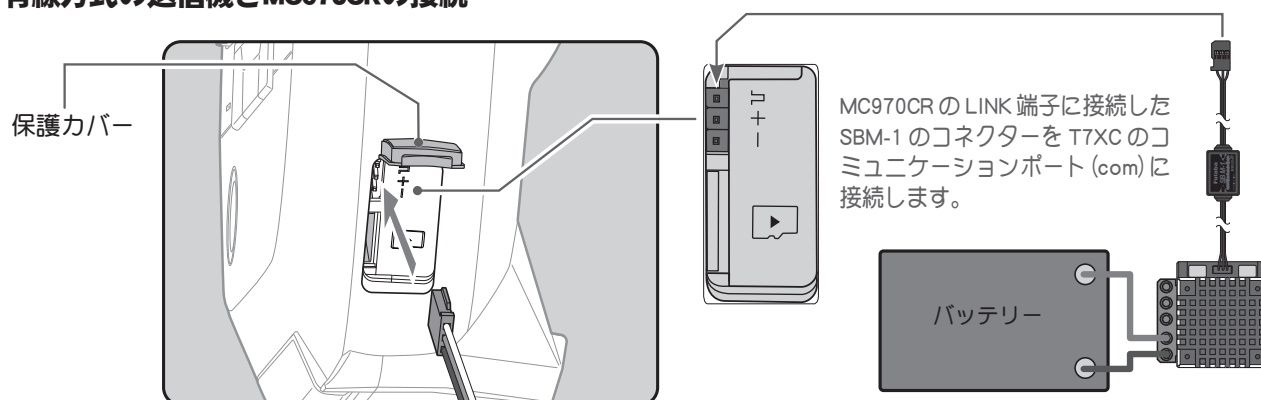
ESC で進角設定機能が禁止されているレースに使用の場合は、**進角設定**を無効にしてください。**進角設定**は、**ターボモード**の設定より優先されます。**ターボモード**が【ターボ 1】や【ターボ 2】に設定されていても**進角設定**を【無効】に設定すれば進角設定機能が OFF にできます。MC940,960CR は、進角設定機能が無効 ("0" タイミング) に設定されている場合、LED が点滅表示します。

MC970CR 専用の設定 (Acuvance Xarvis)

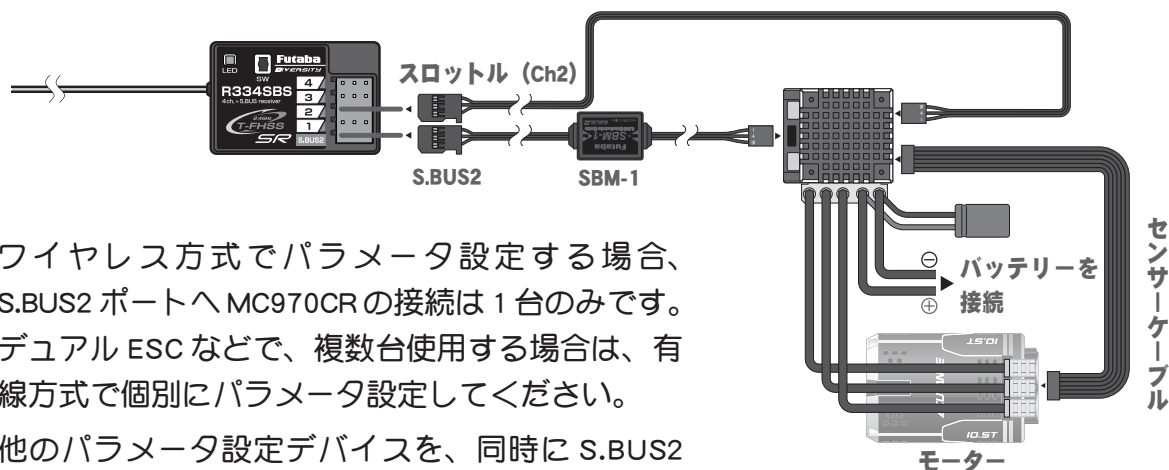
MC970CR は MC960CR 等と同じ有線方式と、受信機に接続した状態で設定できるワイヤレス方式 (T-FHSS / T-FHSS SR システム専用) が可能です。また、テレメトリーシステムで送信機へのモーター回転数や、ESC 本体温度などのデータ表示が可能 (T-FHSS システム専用) です。

- ワイヤレス方式はワイヤレス設定機能に対応した受信機が必要です。
対応受信機: R334SBS/R334SBS-E ソフトウェアはバージョン 3.0 以降 (2020 年 5 月現在) バージョンを確認の上、必要に応じて、受信機のアップデートをお願いいたします。
- MC970CR は、株式会社アキュヴァンスとの共同開発品です。
- Acuvance Xarvis は、株式会社アキュヴァンスの製品です。

有線方式の送信機とMC970CRの接続

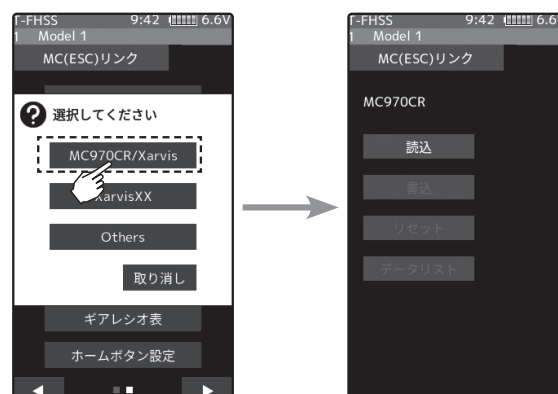


ワイヤレス(無線)方式の受信機とMC970CRの接続



- ワイヤレス方式でパラメータ設定する場合、S.BUS2 ポートへ MC970CR の接続は 1 台のみです。デュアル ESC など、複数台使用する場合は、有線方式で個別にパラメータ設定してください。
- 他のパラメータ設定デバイスを、同時に S.BUS2 ポートへ接続しないでください。
- MC(ESC) 側にもバッテリーを接続してください。
- センサーケーブルを必ず接続してください。

MC (ESC) リンク画面の表示は P144 を参照



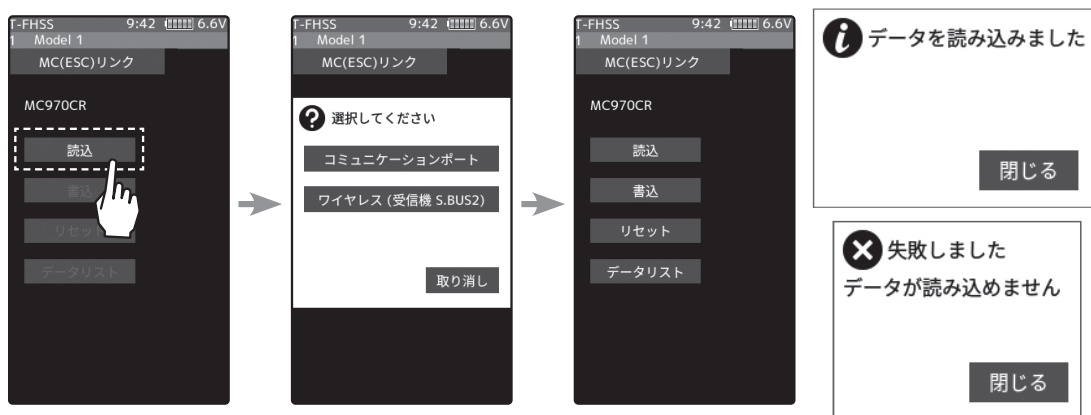
MC(ESC) リンクの使用方法

(準備)

- 接続図にしたがって ESC を接続します。
- 送信機の電源スイッチ PWR を ON にし、MC(ESC)リンク画面を表示します。(有線方式の場合は DSP 側でも可能)
- ESC にバッテリーを接続し、ESC の電源 SW を ON にします。
- MC970CR 側を【MC リンクモード】にします。(MC970CR 取扱説明書の P12 参照)

1 (ESC の読み込み)

現在 MC970CR に設定されているデータを読み込む場合に実行します。【読み】をタッチします。接続方法の選択画面が表示されますので、有線方式の場合は「コミュニケーションポート」を、ワイヤレス方式の場合は「ワイヤレス(受信機 S.BUS2)」をタッチします。



- 画面に「データを読み込みました」が表示され、ESC のタイプと現在の設定内容が読み込まれます。「失敗しました」と表示した場合は、ESC との通信が正常に行われていません。TXXC と ESC の接続および ESC へのバッテリーの接続と ESC の電源 SW を確認して、再度【読み】操作を実行してください。

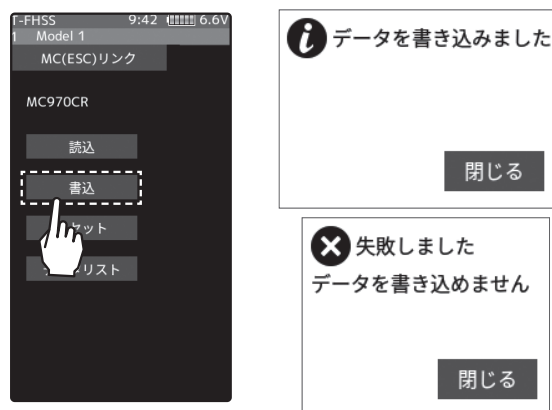
注意：

「ワイヤレス (受信機 S.BUS2)」をタッチするときは、MC970CR のニュートラルポイントで、スロットルトリガーまたは、スティックから完全に指を放し、スタンバイ LED (赤) が点灯している状態で行ってください。ニュートラルポイントから少しでも外れている場合は、正常に読み込みできません。(MC970CR 取扱説明書の P10 に記載しているスロットルポジションのスタンバイ LED は、MC リンクモードでは赤になり、ESC モードでは青になります。)

2 (ESC への書き込み)

設定データを ESC に書き込む場合に実行します。設定データを ESC に書き込む場合に実行します。設定データの内容は P156 ~ 159 を参考にしてください。設定項目【書き】をタッチします。

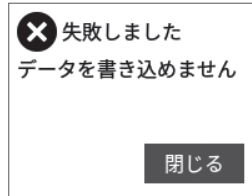
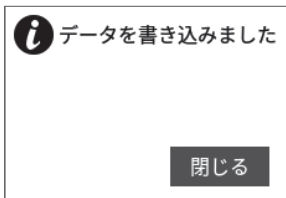
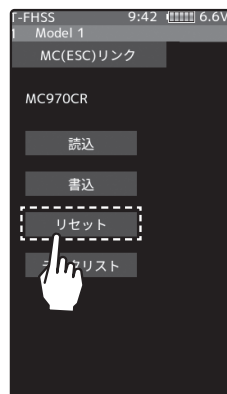
- 画面に「データを書き込みました」と表示され、設定データが ESC に書き込まれます。「失敗しました」と表示した場合は、ESC との通信が正常に行われていません。TXXC と ESC の接続および ESC へのバッテリーの接続と ESC の電源 SW を確認して、再度【書き】操作を実行してください。



3 (リセット／初期化)

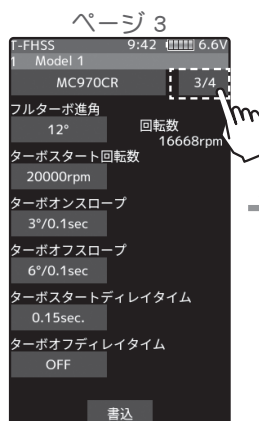
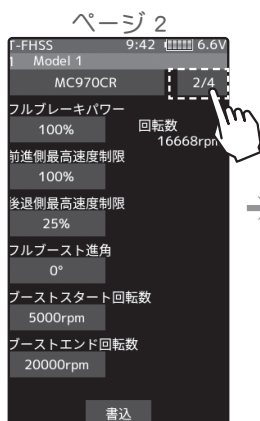
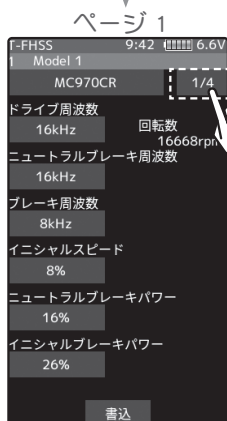
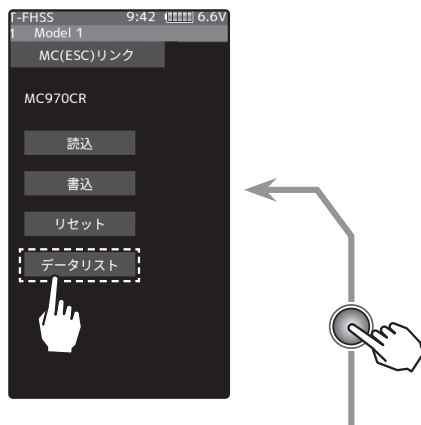
接続されている MC(ESC) に、工場出荷時の設定データを書き込みます。設定項目 **[リセット]** をタッチします。

- 画面に「データを書き込みました」と表示され、初期データが ESC に書き込まれます。「失敗しました」と表示した場合は、ESC との通信が正常に行われていません。T7XC と ESC の接続および ESC へのバッテリーの接続と ESC の電源 SW を確認して、再度 **[リセット]** 操作を実行してください。



データリスト表示

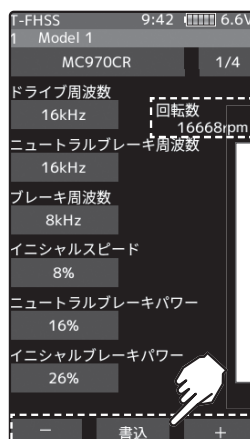
- 1 設定項目 **[データリスト]** をタッチし、読み込んだ MC970CR のデータを表示します。以下のようにページの移動をします。



1 【数値】をタッチ、設定値が青く表示され、

画面下に【-】【+】が表示されるデータは、【+】、【-】をタッチして設定します。選択式の場合、項目をタッチするとデータが切り替わります。

データの設定変更後、画面下の【書込】ボタンをタッチして、各データ画面で書き込みができます。



モーター回転数の表示は、テレメトリーの設定(P160-161参照)が必要です。(T-FHSSシステムのみT-FHSS SRでは、表示しません。また、テレメトリーについては、P173から参照)

* ドライブ周波数 (kHz)

- ・ 1kHz (1000Hz) ～ 32kHz (32000Hz)
(1-16=1kHz step, 16-32kHz=2kHz step)

加速のフィーリングを決定します。

数値が低いほど【加速力=増/リニア感=減】となり、高いほど【加速力=減/リニア感=増】となります。

* ニュートラルブレーキ周波数 (kHz)

- ・ 0.5kHz (500Hz), 1kHz (1000Hz) ～ 32kHz (32000Hz) (1-16=1kHz step, 16-32kHz=2kHz step)

走行中にスロットルをニュートラル位置に戻した際にかかるブレーキフィーリングを決定します。数値が低いほど【制動力=増/ブレーキングの滑らかさ=減】となり、高いほど【制動力=減/ブレーキングの滑らかさ=増】となります。

* ブレーキ周波数 (kHz)

- ・ 0.5kHz (500Hz), 1kHz (1000Hz) ～ 32kHz (32000Hz) (1-16=1kHz step, 16-32kHz=2kHz step)

走行中にスロットルをブレーキ側に入れた際にかかるブレーキフィーリングを決定します。数値が低いほど【制動力=増/ブレーキングの滑らかさ=減】となり、高いほど【制動力=減/ブレーキングの滑らかさ=増】となります。

* イニシャルスピード (%)

- ・ 0 ～ 50% (2% step)

停止状態から加速し始める際の初速を決定します。数値が大きいほど唐突な走り出しになります。過度な設定はモーターやギヤ等に負担がかかるためご注意ください。

* ニュートラルブレーキパワー (%)

- ・ 0 ～ 100% (2% step)

走行中にスロットルをニュートラル位置に戻した際にかかるブレーキパワーを決定します。数値が低いほど緩やかなブレーキングになり、高いほど唐突感のあるブレーキングになります。

* イニシャルブレーキパワー (%)

- ・ 0 ～ 50% (2% step)

走行中にスロットルをブレーキ側に入れた瞬間にかかるブレーキパワーを決定します。数値が低いほど緩やかなブレーキングになり、高いほど唐突感のあるブレーキングになります。

*フルブレーキパワー (%)

・ 0 ～ 100% (2% step)

走行中にスロットルをフルブレーキに入れた際にかかるブレーキパワーを決定します。数値が低いほど緩やかなブレーキングになり、高いほど唐突感のあるブレーキングになります。

*前進側最高速度制限 (%)

・ 50 ～ 100% (2% step)

前進側の最高速度を制限する機能です。

*後進側最高速度制限 (%)

・ 25 ～ 100% (25% step)

後進側の最高速度を制限する機能です。

*フルブースト進角 (deg.)

・ 初期値 (0) ～ 60deg. (1deg. step)

ブースト機能により上昇する進角の最高到達値です。

ブーストとターボにて増幅可能な進角は最大 60deg. です。フルブースト進角値とフルターボ進角値の合計が 60deg. を超える場合は、自動的に 60deg. で頭打ちします。

* モーター本体で機械的進角が設定可能な場合、60deg. に機械的進角が加算されます。各機器に大きな負荷がかかりますので、モーターの機械的進角値には十分ご注意ください。

*ブーストスタート回転数 (rpm)

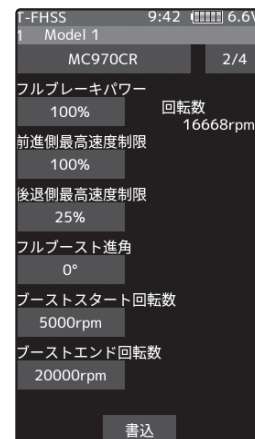
・ 1,000 ～ 40,000rpm (500rpm step)

ブーストが掛かり始めるモータ回転数です。この回転数に達するまでは、スロットルに対しリニアな加速となります。

*ブーストエンド回転数 (rpm)

・ 10,000 ～ 100,000rpm (500rpm step)

「フルブースト進角」にて設定した進角値に到達するモータ回転数です。この回転数を超えるとブーストがかからなくなり、フルブースト進角で設定した進角をキープしたまま、スロットルに対しリニアな加速となります。



ブーストスタート回転数／ブーストエンド回転数

この2項目により進角の上昇率が決まります。ブーストスタート回転数とブーストエンド回転数の間隔が狭いほど進角の上昇が急激に、間隔が広いほど進角の上昇が緩やかになります。

【注】初めてこの機能を使用する際は、両回転数の間隔を十分に空けた設定で走行し、徐々に狭めながらベストポイントを探るようにしてください。【重要】必ずブーストスタート回転数よりブーストエンド回転数の方が十分に大きくなるように設定してください。

*フルターボ進角 (deg.)

- ・ 0 ～ 30deg. (1deg. step)

ターボ機能により上昇する進角の最高到達値です。

ブーストとターボにて増幅可能な進角は最大 60deg. です。フルブースト進角値とフルターボ進角値の合計が 60deg. を超える場合は、自動的に 60deg. で頭打ちします。

* モータ本体で機械的進角が設定可能な場合、60deg. に機械的進角が加算されます。各機器に大きな負荷がかかりますので、モータの機械的進角値には十分ご注意ください。

*ターボスタート回転数 (rpm)

- ・ 10,000 ～ 50,000rpm (500rpm step)

ターボが作動し始める回転数です。

この項目は、ターボアクティベーションにて【RPM】・【Full Throttle & RPM】に設定した場合のみ有効です。

*ターボオンスロープ (deg./0.1sec.)

- ・ 1 ～ 25deg./0.1sec. (1deg./0.1sec. step)

ターボが作動し始めてからフルターボ進角に到達するまでの進角上昇率です。数値が大きいほど、より急激に進角が上昇します。

数値を 1 段階変化させただけで走行フィーリングが急激に変化するので、初めてこの機能を使用する際は 0.1sec に設定して走行し、徐々に上げながらベストポイントを探るようにしてください。

*ターボオフスロープ (deg./0.1sec.)

- ・ 1 ～ 25deg./0.1sec. (1deg./0.1sec. step)

フルターボ進角からターボが解除されるまでの減速感を調整します。数値が小さいほどフルターボ状態からの減速が緩やかになります。

*ターボスタートディレイタイム (sec.)

- ・ OFF(0) ～ 1.00sec. (0.05sec. step)

フルスロットルに入れてからターボが作動し始めるまでの時間です。

(例) 0.50sec に設定した場合、フルスロットルに入れてから 0.5 秒後にターボが作動する。

この項目は、ターボアクティベーションにて【Full Throttle】・【Full Throttle & RPM】に設定した場合のみ有効です。

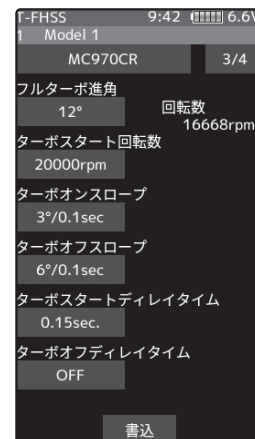
*ターボオフディレイタイム (sec.)

- ・ OFF(0) ～ 1.00sec. (0.05sec. step)

フルスロットルを緩めた瞬間からターボが OFF になるまでの時間。

(例) 0.50sec に設定した場合、フルスロットルを緩めてから 0.5 秒後にターボが OFF になる。

この項目は、ターボアクティベーションにて【Full Throttle】・【Full Throttle & RPM】に設定した場合のみ有効です。



* オペレーションモード

- ・ N/F/B ・ N/F/B/R ・ N/F/R
R/F/B ・ R/F/B/R ・ R/F/R

N=Norma (正回転) / 最左の R=Reverse(逆回転) / F=Forward(前進) /
B=Brake(ブレーキ) / 最右の R=Reverse(後退)

【重要】"B" の表記がない項目は、スロットルを後退側に入れた際、ブレーキがかからずに突然後退回転を始めます。クローラー向けの設定となりますので、クローラー以外では絶対にご使用にならないでください。



* カットオフ電圧 (V)

- ・ NONE, 2.6 ~ 3.6V/cell (0.1V/cell step)

バッテリー電圧が設定値まで低下した際に超低速での定速走行となることで、バッテリー電圧が低下していることをドライバーに知らせ、受信機がノーコン状態に陥ることを防ぎます。過放電に弱いバッテリーをご使用の場合は、バッテリー破損電圧(バッテリーにより異なります) より高い値に設定していただくことで、バッテリーの破損を未然に防ぐことができます。

* スロットルブーストコントロール

- ・ ON / OFF

ブースト機能を使用する際、急激なスロットル操作をした場合でも、回転数が急激に変化しないよう自動制御するセーフティ機能です。

* フリーゾーンアジャスト (%)

- ・ 1 ~ 10% (1% step)

ブースト機能を使用する際、急激なスロットル操作をした場合でも、回転数が急激に変化しないよう自動制御するセーフティ機能です。

* ターボアクティベーション

- ・ Full Throttle & RPM ・ RPM ・ Full Throttle

ターボが作動する要因を決定します。

【Full Throttle】・・スロットルをフルスロットルに入れた時点でターボが作動します。

【RPM】・・モーター回転数が「ターボスタート回転数」に達した時点でターボが作動します。

【Full Throttle & RPM】・・フルスロットルとターボスタート回転数のいずれか先に到達した方を切っ掛けにターボが作動します。

* レブリミット (rpm)

- ・ OFF, 10,000-100,000rpm (1,000rpm step)

モーター回転数の上限を設定する機能です。

スロットル位置に応じて出力を制限する「最高速度制限」に対し、こちらはモータ回転数に応じて出力を制限します。高回転のモータをご使用の際等、思わぬ速度上昇を防ぐことができます。

MC970CR（テレメトリーセンサーの登録）

MC970CR は、以下のデータをテレメトリーで表示することができ、回転数は MC リンクのパラメータ設定画面にも表示できます。

●回転数／●ESC 内部温度／●モーター温度＊／●バッテリー電圧

＊MC970CR のモーター温度測定機能に対応しているモーターは、（株）アキュヴァンス製の「LUXON AGILE」シリーズです。その他のモーターを接続した場合はモーター温度測定は保証外となります。

●テレメトリーで表示するには、MC970CR 側を【MC リンクモード】にします。【ESC モード】では表示できません。MC970CR 取扱説明書（P12）

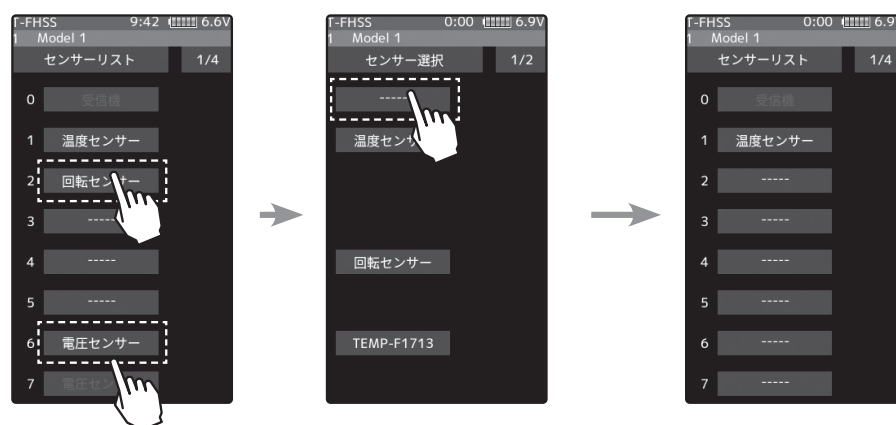
●MC970CR は連続する 7 つのスロットを使用します。初期設定でスタートスロットは 1 です。スタートスロットに割り当て可能なスロットナンバーは 1, 8, 9, 16, 17, 24, 25 です。

センサーリストで MC970CR を割り当てる方法（MC970CR 初期設定の、スロット 1 で使用する場合）

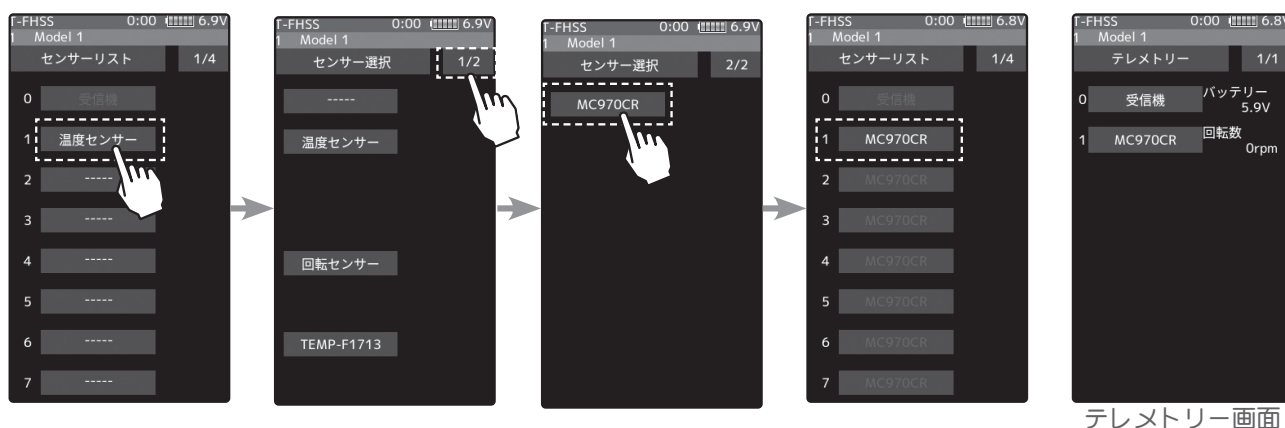
1 センサーリストの画面を表示します。（P185 参照）

2 スタートスロットを設定します。

MC970CR は、スロット・ナンバー 1 に設定されて出荷されています。T7XC に初期設定されているスロット 2【回転センサー】とスロット 6【電圧センサー】をセンサー選択画面で[----]を選択して、センサーの割り当てを解除します。



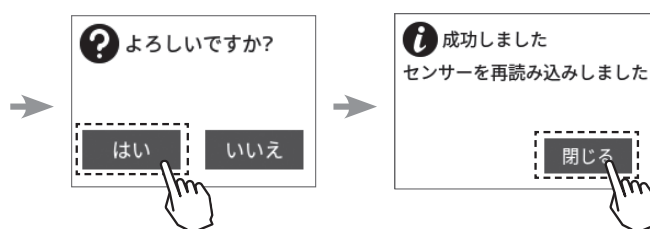
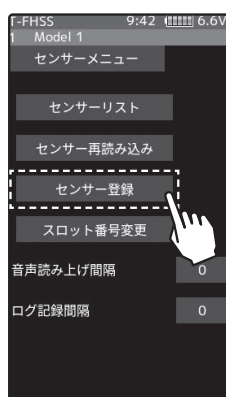
3 センサーリストのスロット 1【温度センサー】を選択し、センサー選択画面の 2 ページ目に表示される【MC970CR】を選びます。テレメトリー画面のスロット 1 に【MC970CR】が表示されます。



テレメトリー画面

センサー登録機能を使用する方法（送信機の空きスロットに自動的に登録する場合）

- 1 SBM-1 のみを送信機のコミュニケーションポートに接続します。
MC970CR を接続したまま SBM-1 のセンサー登録もできますが、その場合 MC970CR にバッテリーを接続し電源を ON にした状態で、送信機のコミュニケーションポートに接続してください。
- 2 センサーメニュー画面を表示します（P187 参照）。
センサーメニュー画面で【センサー登録】を行います。
MC970CR のスロット・ナンバーが自動設定され、テレメトリー画面に【MC970CR】が表示されます。



テレメトリー画面



MC970CR がテレメトリーセンサーとして登録されると、他の温度センサーや回転センサー等と同じようにリミット、アラーム、バイブの設定が可能です（P177 参照）。

他のテレメトリーセンサーと同じ方法で、スロット番号の変更もできます（P190 参照）。

ジャイロリンク

弊社製 カー用ジャイロのデータ変更を T7XC 本体で設定できる専用機能です。

- ジャイロのデータを送信機からワイヤレスで設定することができます。

※対応ジャイロ：GYD550（2020 年 6 月現在）

- ジャイロデータ切り替え機能で最大 5 種類のデータを、走行中に切り替えることができます。
- S.BUS サーボのデータを、ジャイロに接続したままの状態、送信機からワイヤレスで設定することができます。

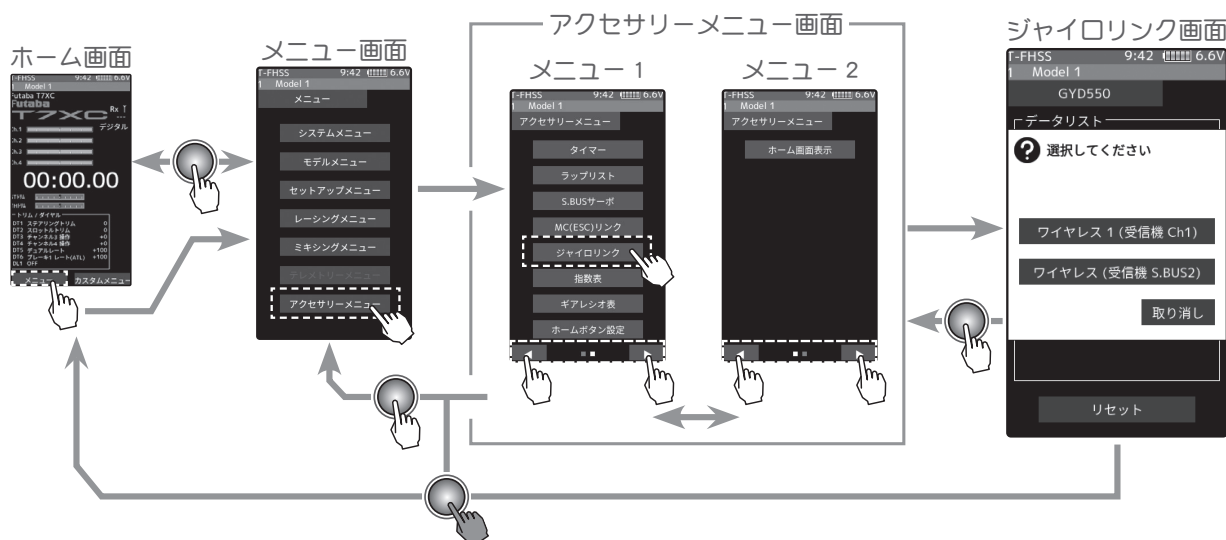
※ワイヤレス方式はワイヤレス設定機能に対応した受信機が必要です。

※対応受信機：R334SBS/R334SBS-E ソフトウェアはバージョン 4.0 以降（2020 年 6 月現在）バージョンを確認の上、必要に応じて、受信機のアップデートをお願いいたします。

※受信機の S.BUS 接続の場合は、ワイヤレスでサーボの設定はできません。

- 送信機からジャイロゲイン等をコントロール可能にするために、送信機のジャイロミキシング機能を ON にする必要があります。

ジャイロリンク画面は、次の方法で表示します。



ジャイロリンクの使用方法

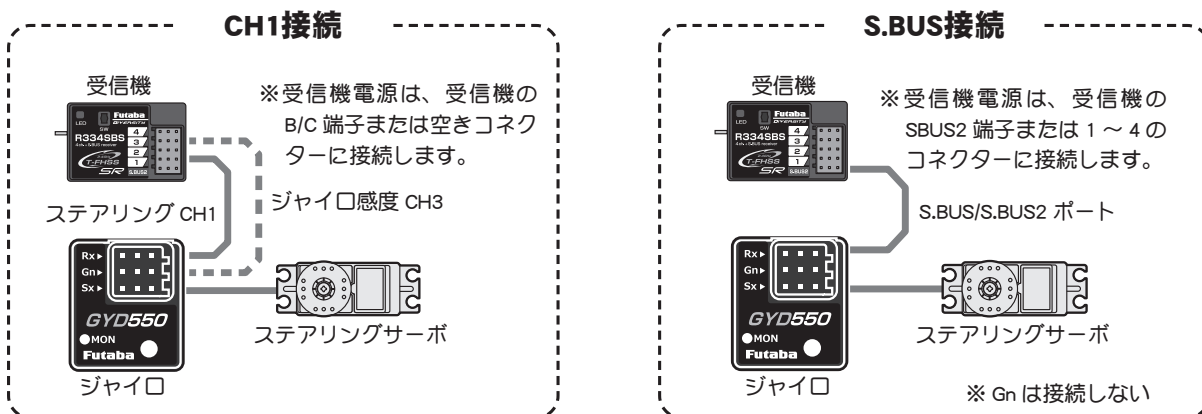
- ・下の接続図にしたがって ジャイロ を接続します。

※接続図は、ジャイロリンクの接続方法を選ぶ際の参考図です。SR モードや、S.BUS 接続の詳細または、注意については、ジャイロの説明書をお読みください。

- ・送信機の電源スイッチ PWR を ON にし、ジャイロリンク画面を表示します。

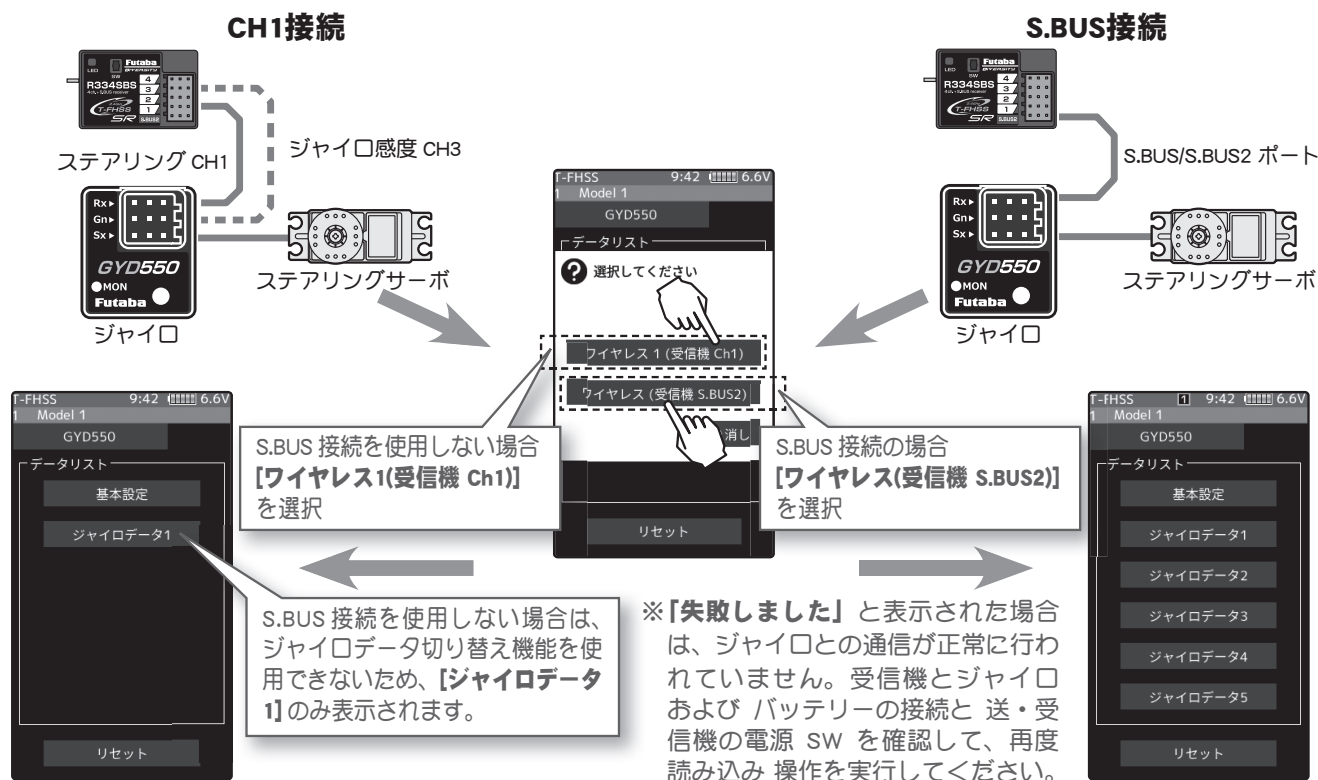
※ディスプレイスイッチ DSP では使用できませんので注意してください。

- ・受信機の電源 を ON にします。



1 (ジャイロデータの読み込み)

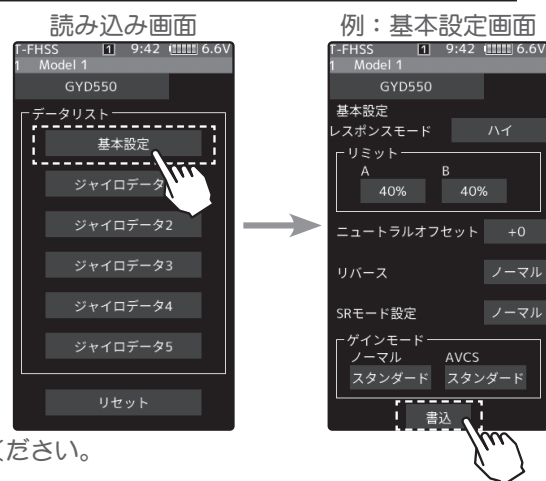
現在 ジャイロ に設定されているデータを読み込む場合に実行します。アクセサリメニューまたはカスタムメニューからジャイロリンク画面を開くと、接続方法の選択画面が表示されますので、ジャイロと受信機の接続方法に合わせて、ボタンをタッチします。ジャイロからデータが読み込まれます。



2 (ジャイロへのデータ書き込み)

設定データをジャイロに書き込む場合に実行します。基本設定画面とジャイロデータ画面の両方にある、設定項目【書き込み】をタッチします。「書き込み お待ちください」と表示した後、電子音が鳴り書き込みが終了します。設定を変更したら必ず書き込みをしてください。

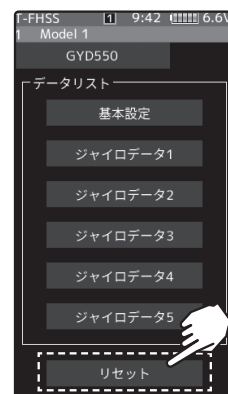
- 「失敗しました」と表示した場合は、ジャイロとの通信が正常に行われていません。ジャイロの接続、電源等を確認し、再度【書き込み】操作を実行してください。
- 設定データの内容は「各項目の設定方法」を参考にしてください。



3 (リセット／初期化)

接続されているジャイロに、工場出荷時の設定データを書き込みます。ジャイロ読み込み画面にある、設定項目【リセット】をタッチします。「よろしいですか」と確認画面を表示しますので【はい】をタッチします。(中止する場合は【いいえ】をタッチ)「リセット お待ちください」と表示した後、電子音が鳴り「データを書き込みました」と表示し、リセットが完了します。【閉じる】をタッチします。

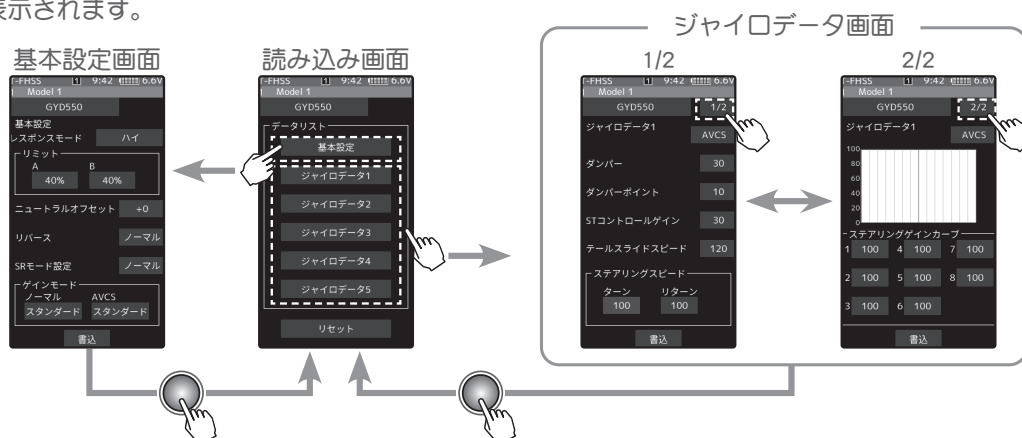
- 「失敗しました」と表示された場合は、ジャイロとの通信が正常に行われていません。ジャイロの接続、電源等を確認し、再度【リセット】操作を実行してください。



各データ画面の表示

ジャイロの設定データは、基本設定とジャイロデータ（1～5）の画面に別れ、下図の方法で表示します。

※S.BUS 接続を使用しない場合は、ジャイロデータ切り替え機能を使用できないため、**【ジャイロデータ1】**のみ表示されます。



各データの設定方法

【数値】 をタッチ、設定値が青く表示され、画面下に **[-] [+]** が表示されるデータは、**【+】、【-】** をタッチして設定します。選択式の場合、項目をタッチするとデータが切り替わります。設定を変更したら必ず **【書込】** をします。

基本設定

※T-FHSS SR モードでは、下記の**リミット**と**ニュートラルオフセット**機能は、**【+】、【-】** で調整しても、**【書込】** するまでサーボ位置は移動しません。

* レスポンスモード

ジャイロセンサーレスポンス設定

※ロー → ミドル → ハイでレスポンスが速くなる。

※ハイモードで、デッドバンドを極端に狭く設定したサーボを使用すると、若干ジッタが発生しますが走行に問題はありません。ただし、強いジッタが発生する場合は、ミドルまたは、ローモードに設定してください。

* リミット

ステアリング最大舵角の調整機能

※ステアリング操作して、タイヤがアーム等に干渉しない範囲で最大舵角になるよう左右別々に調整する。

※リミットの調整値が少ない（最大舵角まで調整が取れていない）とスピンしやすくなります。

※リミット調整時は、ステアリング舵角が 1.5 倍に増幅されますが異常ではありません。ただし、走行はリミット調整を終了してから行ってください。

* リバース

ジャイロの制御方向の設定

※電源を入れて車体を持って左に振ってみます。ステアリングが右に切れると OK です。

※反対の場合はジャイロ・リバースで方向を変更します。

* SR モード設定

SR モードの設定

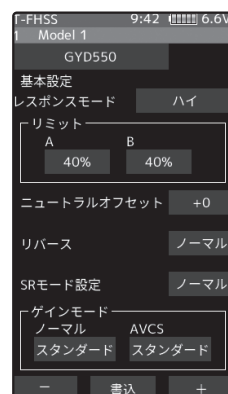
※SR 対応サーボを SR モード使用時のみ SR に設定します。

* ゲインモード

ジャイロの内部制御ゲイン（感度）の切替

※ハイゲインはスタンダードゲインに対して 1.5 倍の感度となります。

※通常はスタンダードに設定、送信機の感度設定を最大値にしても足りない場合にハイゲインに設定します。



基本設定画面



ジャイロデータ

ジャイロデータ設定画面は2ページあり、右上のページ切り替えボタンでページを切り替えることができます。また、ジャイロの各動作モード(ノーマル/AVCS)で独立にデータを設定することができます。

ジャイロデータ 1/2

* AVCS とノーマルモード切り替えボタン

ジャイロ動作モード設定

- ※ノーマルモードは、ドリフト中に送信機からカウンター舵を打つような操縦になります。ドライバーのコントロール優先モードとなります。
- ※AVCS モードは、ドリフト中にジャイロから大きなカウンター舵が入るため、コーナリング時は進行方向に舵を打つ感覚となります。ジャイロ優先モードとなり、強固にドリフト中の車体の姿勢をコントロールします。
- ※ドライビングスタイルに合ったモードを選択してください。

* ダンパー

ハンチング抑制機能

- ※数値を大きくするほど、ハンチングの抑制力は強くなりますが、サーボの動きは遅くなります。

* ダンパーポイント

ジャイロの回転方向のスピードに対してサーボへの出力信号にダンパーが働く割合を調整

- ※数値を小さくするとダンパーの影響が強くなり動き、スピードが遅く感じます。
- ※数値を大きくするとダンパーが遅く働き、レスポンスが上がりますが、ハンチングが出やすくなります。

* STコントロールゲイン

ジャイロ制御に対して、送信機からステアリング操作量の割合を調整

- ※数値を小さくすると操縦者のステアリング操作が大きく反映される(ステアリングレスポンスが速く感じます)

* テールスライドスピード

走行させた時のテールスライド(テールを振る)のスピード調整

- ※数値を小さくすると、テールスライドのスピードが遅くなり、数値を大きくすると速くなる。
- ※ステアリング操作時の、テールスライド量の調整にも有効です。

* ステアリングスピード

ステアリング操作に対してサーボの動作スピードを調整する機能(送信機のサーボスピードと同等機能)

- ※数値を小さくするとサーボスピードが遅くなります。



ジャイロデータ 1/2 画面

ジャイロデータ 2/2

* ステアリングゲインカーブ

ニュートラルを基準に、エンドポイントまで8ポイントのゲイン設定可能

- ※左右対称に連動して設定されます。

*ステアリングの操作に連動して縦のカーソル線が移動します。



ジャイロデータ 2/2 画面

ジャイロデータ切り替え機能

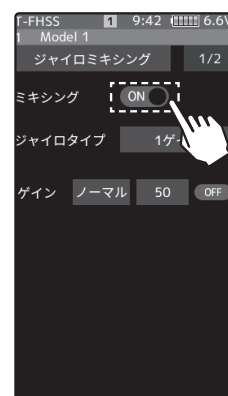
ジャイロデータを、送信機のプッシュスイッチまたはトリムレバー / ダイヤルで切り替えることができます。(最大 5 ジャイロデータまで) また、送信機のコンディションに連動させて、ジャイロデータを切り替えることも可能です。(最大 4 ジャイロデータまで)

※対応ジャイロ：GYD550 (2020 年 6 月現在)

- ジャイロを受信機の S.BUS2 端子に接続してください。
- ジャイロミキシング機能を ON にする必要があります。

プッシュスイッチで切り替える場合

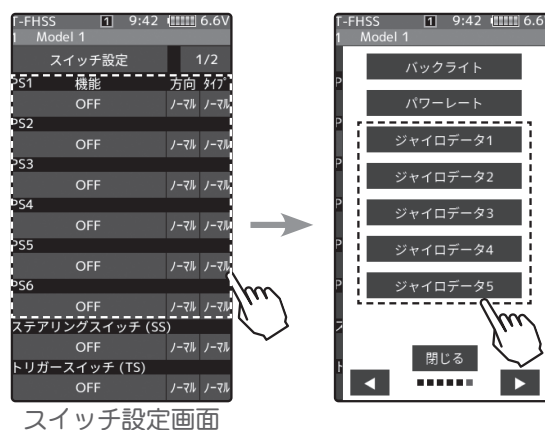
- 1 ジャイロミキシング画面で、機能を ON に設定します。



ジャイロ MIX 1/2 画面

- 2 スイッチ設定画面を開き、データ切り替えに使用したいスイッチを選択します。

- 3 機能選択画面で、[ジャイロデータ1] ~ [ジャイロデータ5]の中から、使用するジャイロデータを割り当てます。



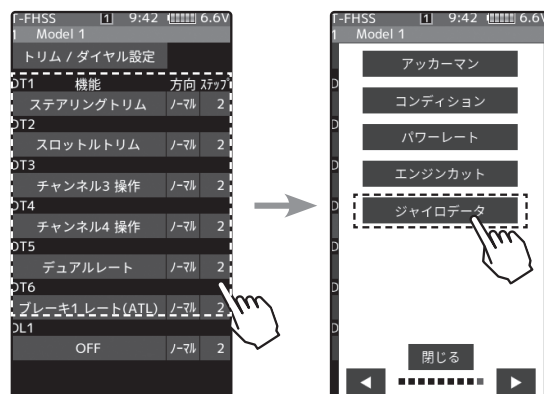
スイッチ設定画面

トリムレバー / ダイヤルで切り替える場合

- 1 ジャイロミキシング画面で、機能を ON に設定します。

- 2 トリム / ダイヤル設定画面を開き、データ切り替えに使用したいトリムレバー / ダイヤルを選択します。

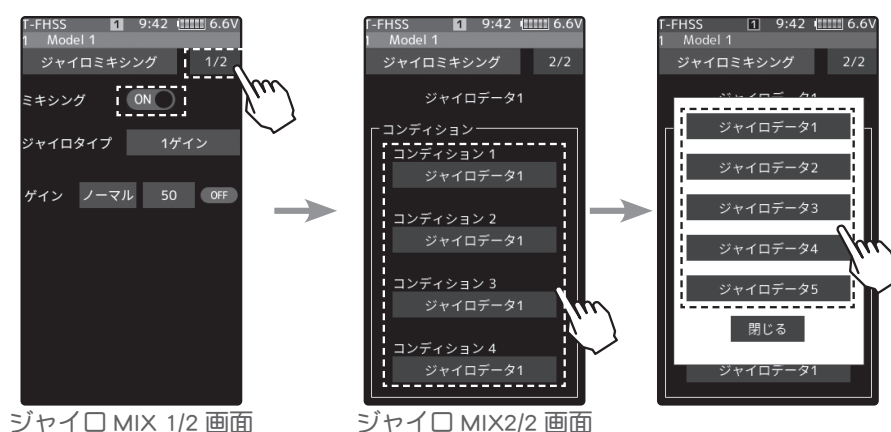
- 3 機能選択画面で、[ジャイロデータ]を選択します。



トリム / ダイヤル設定画面

コンディションで切り替える場合

- 1 ジャイロミキシング画面で、機能を ON に設定します。
- 2 ジャイロミキシング画面の 2 ページ目を開きます。コンディションとジャイロデータ
のリストが表示されます。設定するコンディションをタッチします。
- 3 そのコンディションに割り当てる、ジャイロデータを選択します。



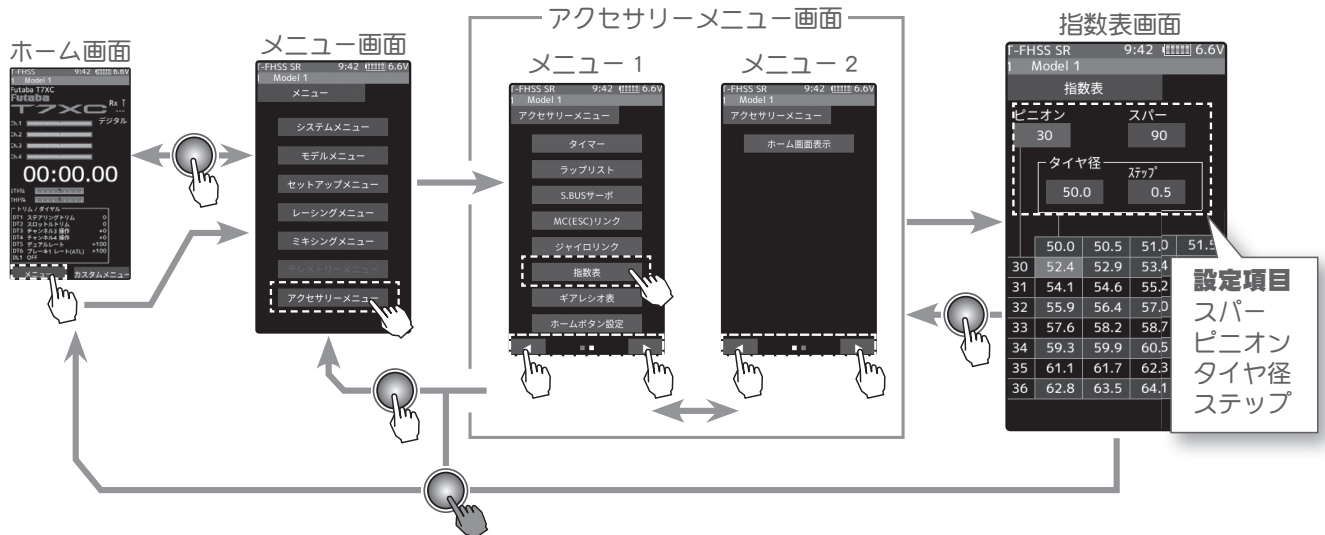
ホーム画面にジャイロの現在の動作モード (ノーマル / AVCS) と、選択されているジャイロデータインジケータを表示します。

* ホーム画面にジャイロミキシング
の状態を表示

指数表

DD カー用の指数表を表示できます。入力したスパーギヤ、ピニオンギヤの歯数とタイヤの直径から指数を算出し、一覧表で表示することができます。

指数表画面は、次の方法で表示します。



指数表機能の使用方法

1 (タイヤ径入力のステップ量設定)

[ステップ] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、タイヤ径入力のステップ量を設定します。

- ステップ量は 0.1 mm から 1.0 mm の範囲で設定できます。

2 (スパーギヤの歯数の設定)

[スパー] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、スパーギヤの歯数を設定します。

- 自動計算され、一覧表が更新されます。表の中に赤く表示された数値が、入力値から求められた指数です。

3 (ピニオンギヤの歯数の設定)

[ピニオン] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、ピニオンギヤの歯数を設定します。

- 自動計算され、一覧表が更新されます。表の中に赤く表示された数値が、入力値から求められた指数です。

4 (タイヤ径の設定)

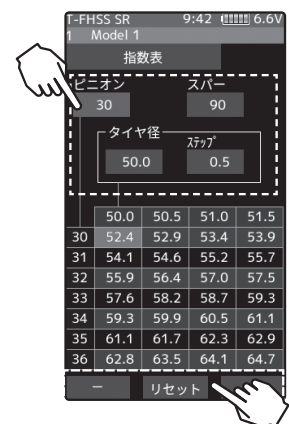
[タイヤ径] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、タイヤ径を設定します。

- 自動計算され、一覧表が更新されます。表の中に赤く表示された数値が、入力値から求められた指数です。

5 終了する場合は、ホームボタンを押してアクセサリーメニュー画面に戻ります。または、ホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

設定

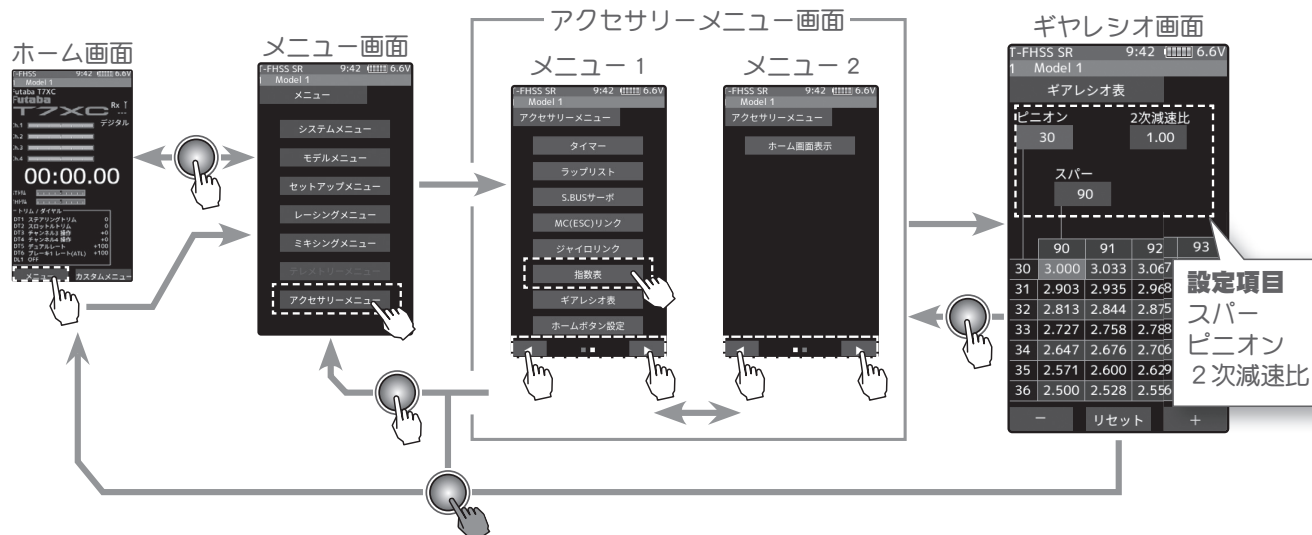
- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。



ギヤレシオ表

ギヤレシオ表を表示できます。入力したピニオンギヤ、スパーギヤ、ギヤボックスの2次減速比から最終減速比を算出し、一覧表で表示することができます。

ギヤレシオ表画面は、次の方法で表示します。

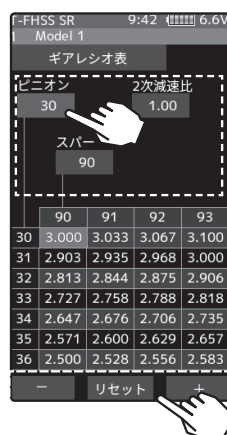


ギヤレシオ機能の使用方法

1 (ピニオンギヤの歯数の設定)

[ピニオン]をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]****[リセット]****[+]**が表示します。**[+]**、**[-]**をタッチして、ピニオンギヤの歯数を設定します。

- 最終減速比が計算され、一覧表が更新されます。表の中に赤く表示された数値が、入力値から求められた最終減速比です。



設定

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

2 (スパーギヤの歯数の設定)

[スパー]をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]****[リセット]****[+]**が表示します。**[+]**、**[-]**をタッチして、スパーギヤの歯数を設定します。

- 最終減速比が計算され、一覧表が更新されます。表の中に赤く表示された数値が、入力値から求められた最終減速比です。

3 (2次減速比の設定)

[2次減速比]をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]****[リセット]****[+]**が表示します。**[+]**、**[-]**をタッチして、2次減速比を設定します。

- 最終減速比が計算され、一覧表が更新されます。表の中に赤く表示された数値が、入力値から求められた最終減速比です。

4 終了する場合は、ホームボタンを押してアクセサリメニュー画面に戻ります。または、ホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ホームボタン設定

ホーム画面に状態から、ホームボタンの通常の短押しと、長押しで移動する画面を設定できます。

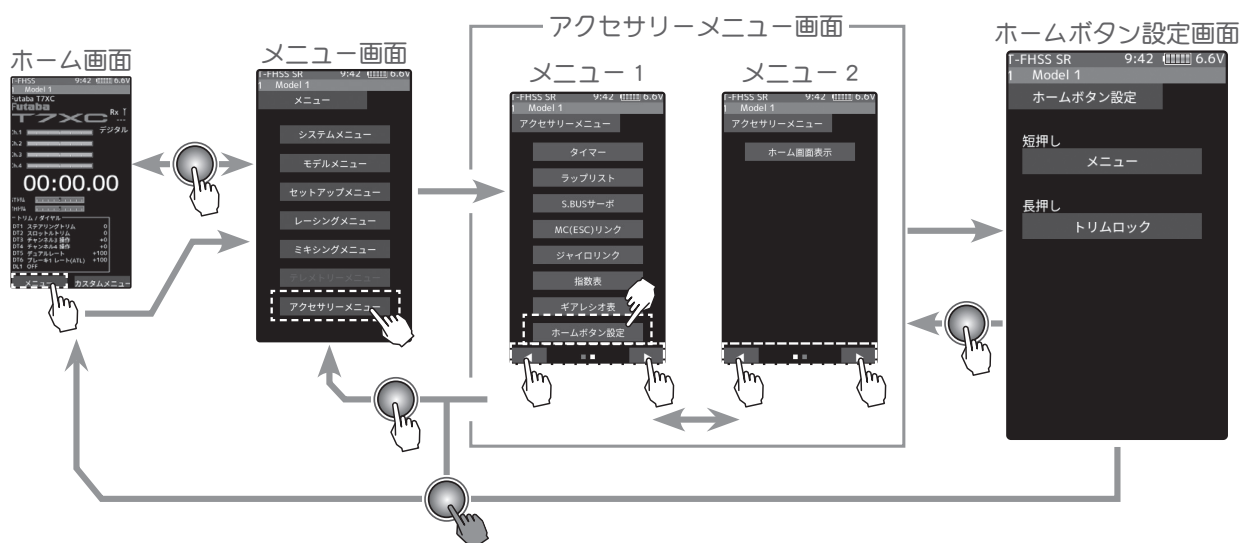
●短押し設定

ホーム画面でホームボタンを押した場合に、標準のメニューを呼び出すかカスタムメニュー (P47) を呼び出すかを設定します。

●長押し設定

ホーム画面でホームボタンを長押しした場合に呼び出す画面を設定できます。画面を登録していない場合は、トリムロックの ON/OFF 切り替え動作となります。

ホームボタン設定画面は、次の方法で表示します。



ホームボタンの設定方法

1 (短押しの設定)

短押しの【メニュー】または【カスタムメニュー】をタッチして、表示メニューを設定します。

設定

- 【メニュー】／【カスタムメニュー】をタッチ。
- メニュー／カスタムメニュー

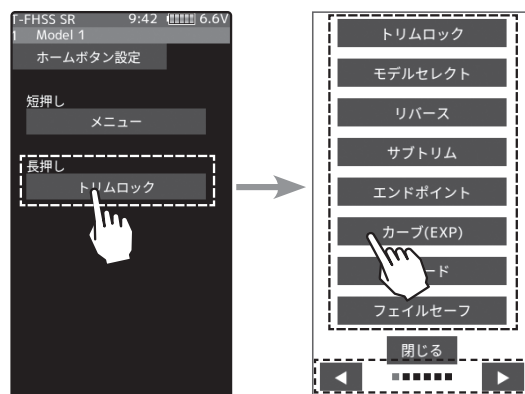
2 (長押しの設定)

長押しの【トリムロック】または【各種メニュー名】をタッチし、設定できる画面リストをポップアップ画面で表示します。使用する画面をタッチして設定します。

- ◀▶をタッチしてページを移動、◀▶の中央にある■の数だけページがある

機能の選択

- ポップアップ画面をタッチして選択。



- 3 終了する場合は、ホームボタンを押してアクセサリメニュー画面に戻ります。または、ホームボタンを長押ししてホーム画面に戻ります。

ホーム画面表示設定

ホーム画面にテレメトリーメーターや画像を表示することができます。

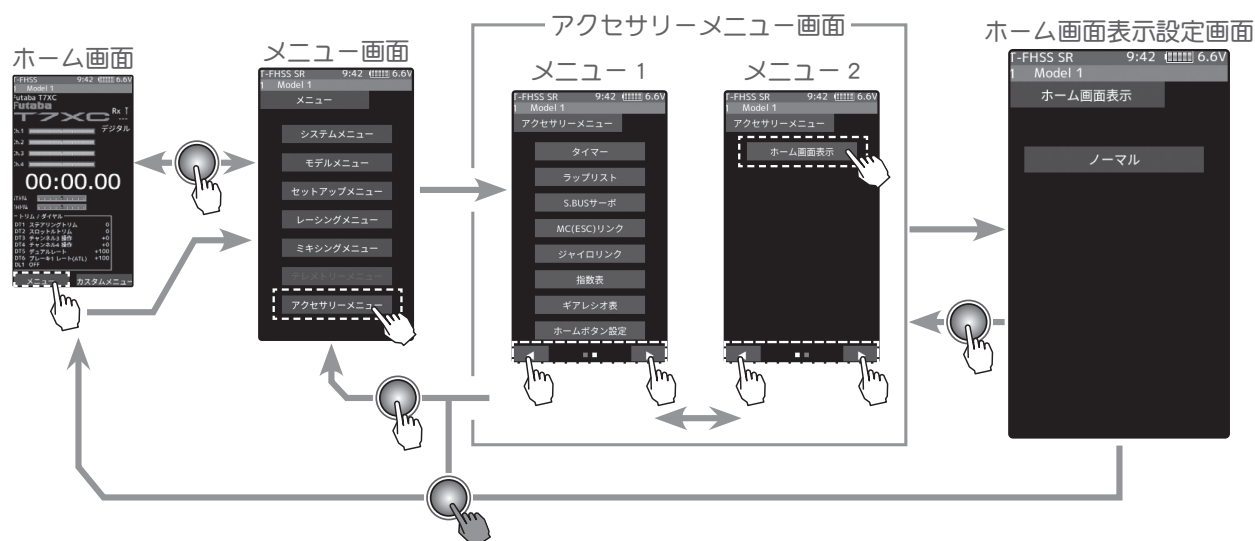
●ノーマル

工場出荷時のホーム画面の表示設定です。

●メーター

ホーム画面にテレメトリー情報を確認できる、グラフィックメーターや、ステアリング、スロットルの動作メーターを表示できます。メーターは最大5つ表示されます。

ホーム画面表示設定画面は、次の方法で表示します。



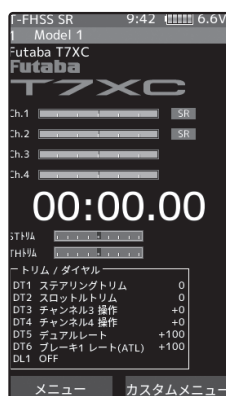
ホーム画面表示の設定方法

1 (ホーム画面表示の変更)

ホーム画面表示の【ノーマル】または【メーター】をタッチして選びます。

設定

●【ノーマル】／【メーター】をタッチ。



ノーマル



メーター

2 ホームボタンを押してアクセサリメニュー画面に戻ります。

メーターの選択方法

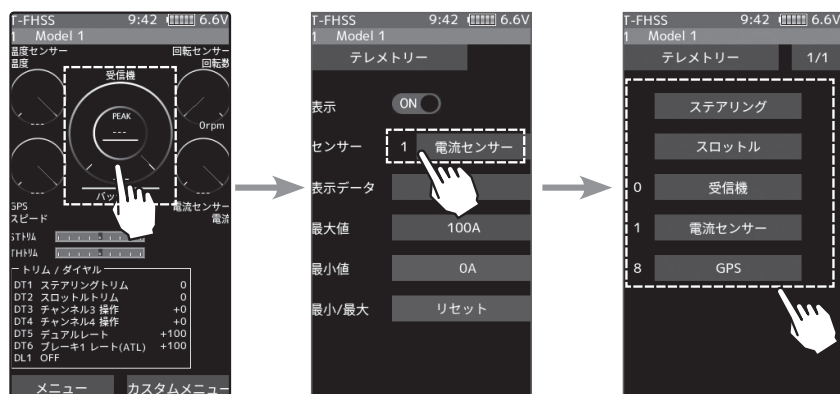
1 (メーターの種類の設定)

ホーム画面表示の設定で**【メーター】**を選びます。

ホーム画面で設定するメーターをタッチして選びます。

以下の手順で、表示するデータを選びます。

テレメトリーの表示設定の詳細な説明は P191 を参照してください。



設定

● **【ステアリング】** / **【スロットル】** / **【各種センサー】** をタッチ。

"ステアリング":

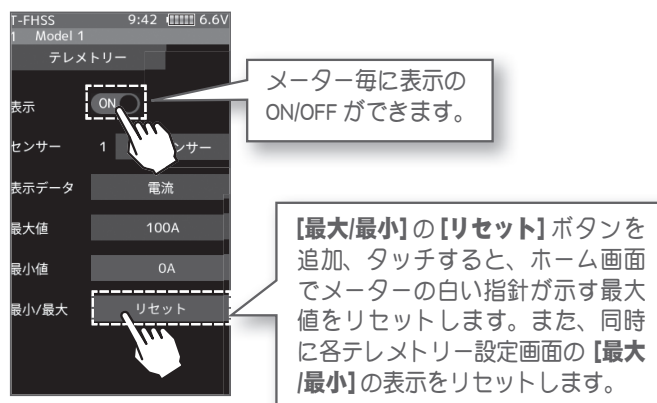
ステアリングホイールの操作に追従してメーター表示

"スロットル":

スロットルトリガーの前進操作に追従してメーター表示

"各種センサー":

テレメトリーのデータをメーター表示



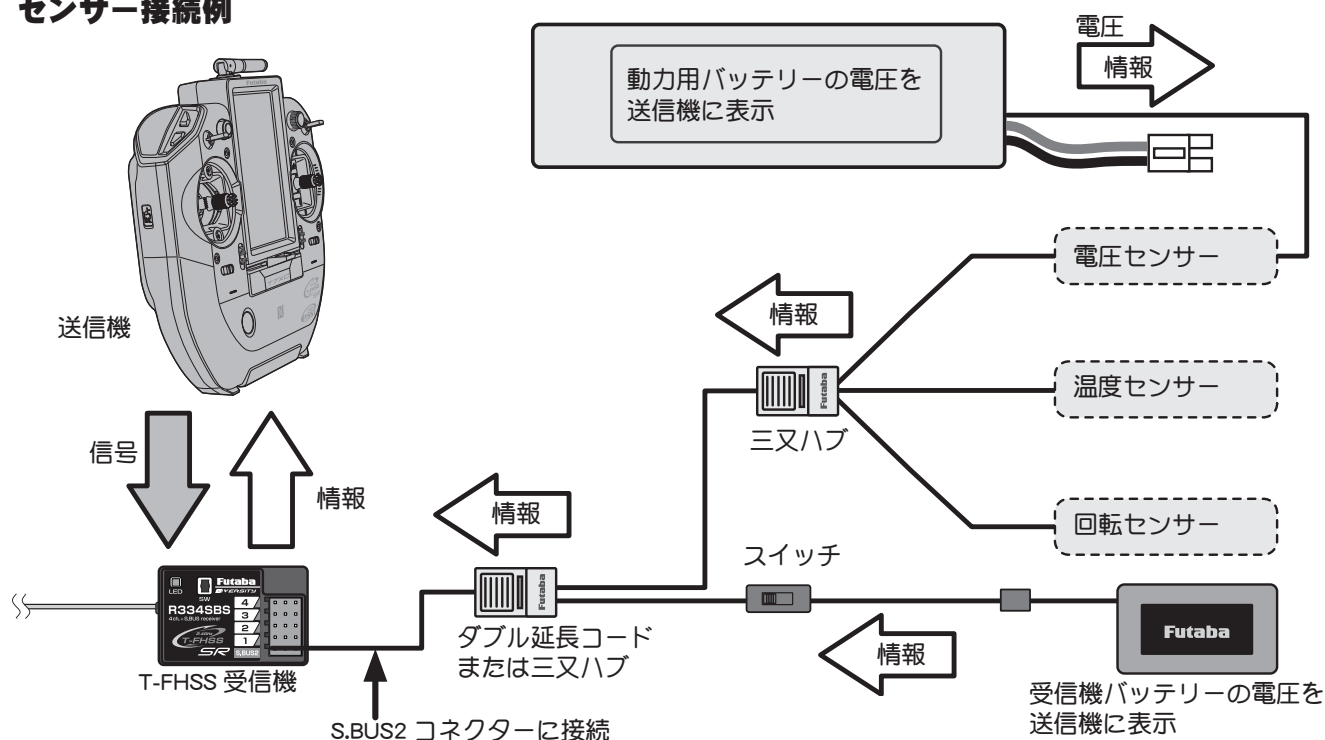
2 ホームボタンを押してホーム画面に戻ります。

テレメトリーシステム

T-FHSS システム専用のテレメトリーシステムは、車体に各種センサーユニットを搭載することにより走行中の状態を送信機に表示することができ、ログデータとして記録することもできます。(T-FHSS SR、S-FHSS、FASST システムに、テレメトリー機能はありません。)

- 各種別売のテレメトリーセンサーを R334SBS / R334SBS-E の「S.BUS2」コネクタに接続することにより、センサーの情報を送信機で確認することができます。
- テレメトリーの情報をログデータとして市販の microSD カードに記録できます。ログを実行するためには、スイッチ設定 (P70) でスタート/ストップのスイッチを設定します。microSD カードに記録したログデータは、弊社ホームページで公開しているテレメトリーログコンバーターで、CSV 形式に変換することができます。ログファイルをコピー、移動する場合は、必ず .FLI と .FLD ファイルの両方を選択してください。
- 図はテレメトリーセンサーの接続例です。別売の三又コードやダブル延長コードを使用すると、最大で以下の 3 種類のセンサーと受信機電源の情報をデータ通信できます。受信機電源は S.BUS2 コネクタ、または Ch.1 ~ 4 のどこに接続しても使用できます。受信機電源電圧用のセンサーは必要ありません。

センサー接続例



●使用できるセンサーオプション (2020 年 6 月現在)

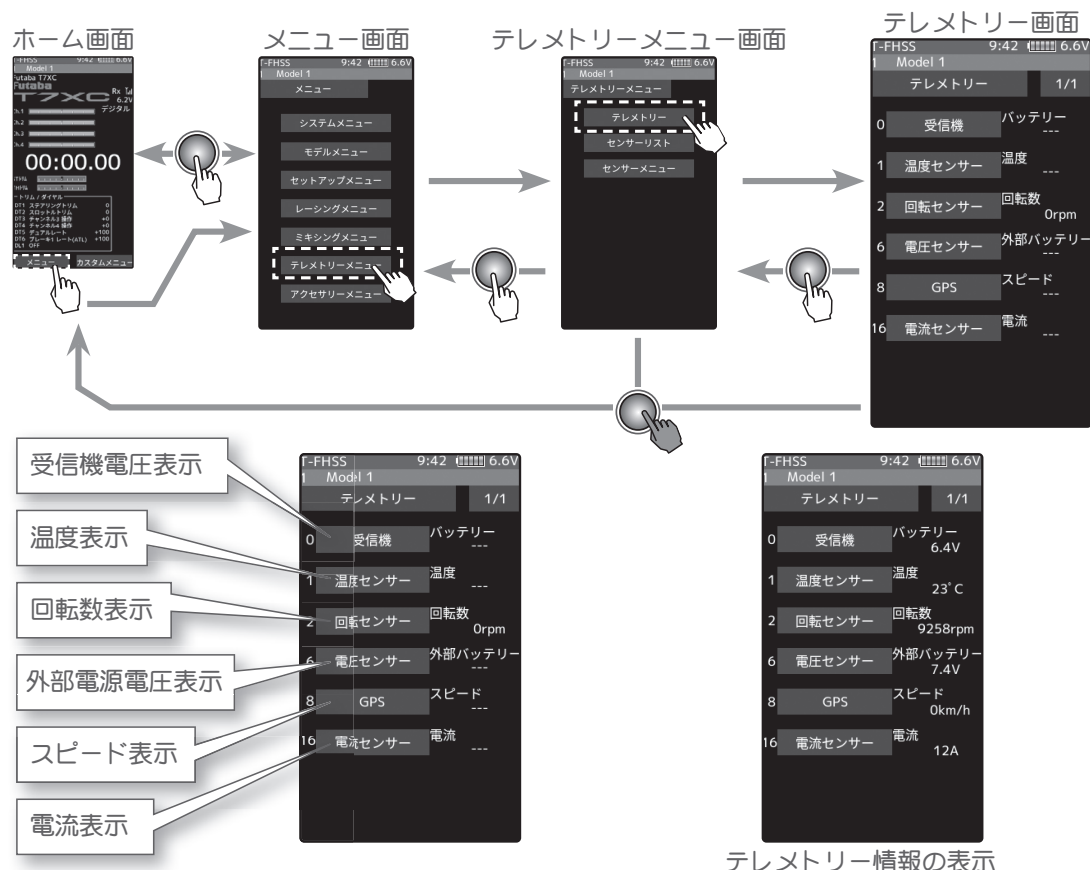
- * 温度センサー (SBS-01T) エンジンヘッド等に最適です。-20 ~ 200℃の範囲で測定できます。
- * 温度センサー (SBS-01TE) モーター等に張り付けて使用します。0 ~ 125℃の範囲で測定できます。
- * 磁気回転センサー (SBS-01RM) 回転数 360 ~ 100,000rpm の範囲で測定できます。
- * ブラシレス回転センサー (SBS-01RB) 回転数 360 ~ 300,000rpm の範囲で測定できます。
- * 電圧センサー (SBS-01V) 100V までの外部電源の電圧が計れます。
- * 電流センサー (SBS-01C) 外部電源の 70V までの電圧と 150A までの電流および消費容量が計れます。
- * GPS センサー (SBS-01G / 02G) GPS を検知して、車体の位置、スピードを測定します。
- * 社外製 Castle TL0 センサーに対応 (弊社ではこのセンサーの取り扱いはありません。)

テレメトリー

テレメトリー機能を使用するために受信機設定画面でテレメトリーをONにする必要があります。(P52) 受信機からの各種情報を表示、設定する画面です。各情報に応じてアラームやバイブを起動することができます。例えば車体に積んだ受信機バッテリーの電圧が低下したことを送信機でアラーム警告することができます。各テレメトリーの画面で設定します。

テレメトリーの各情報は、最後に受信した情報を記憶します。そのため、受信機の電源をOFFにしても、情報の表示、音声ガイド、警告アラームは送信機の電源をOFFにするまで続きます。

テレメトリー画面は、次の方法で表示します。



テレメトリーの使用方法

(準備)

- 使用するセンサーを P173 の接続図を参考に受信機に接続します。

1 (テレメトリー ON)

受信機設定画面でテレメトリーを ON にします。(P52)

テレメトリー情報の表示ができるようになります。



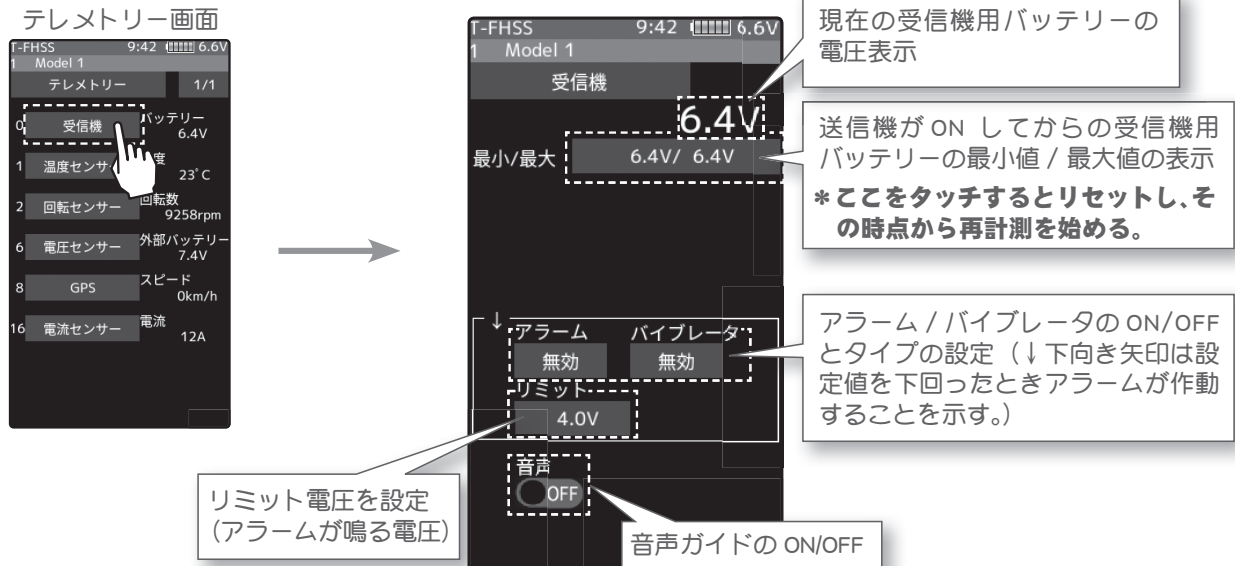
設定

●(ON●) / (●OFF) をタッチ。

- 終了する場合は、ホームボタンを押してセットアップメニュー画面に戻ります。または、ホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

テレメトリー：受信機電圧

受信機の電源/バッテリーの表示/設定です。別売センサーの取り付けは不要で、送信機も初期状態で電圧表示します。電圧低下時のアラーム設定はこのページの手順を参照してください。



アラーム/バイブの設定方法

1 (リミットの設定)

[リミット] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、リミット電圧を設定します。

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

2 (アラーム/バイブレーションの設定)

アラームの **[ブザー]** / **[音声]** / **[無効]** をタッチしてアラームを選びます。

- "無効" : 警告音はしません
- "ブザー" : アラーム音で知らせます
- "音声" : 音声ガイドで警告します

[バイブ] をタッチしてアラームのバイブを 3 タイプのパターンと無効 (OFF) から選びます。

- "無効" : バイブは動作しません
- "タイプ 1" : 連続振動
- "タイプ 2" : 長い時間で断続振動
- "タイプ 3" : 短い時間で断続振動

アラーム

無効 (OFF), ブザー, 音声

設定
● **[ブザー]** / **[音声]** / **[無効]** をタッチで設定。

バイブ

無効, タイプ 1, 2, 3

設定
● **[タイプ 1~3]** / **[無効]** をタッチ。

3 (音声ガイドの設定)

音声の **(ON●)** または **(●OFF)** をタッチして、ON/OFF を選択します。

- "(●OFF)" : 音声ガイドはしません
- "(ON●)" : 音声で情報を読み上げます

設定

● **(ON●)** / **(●OFF)** をタッチ。

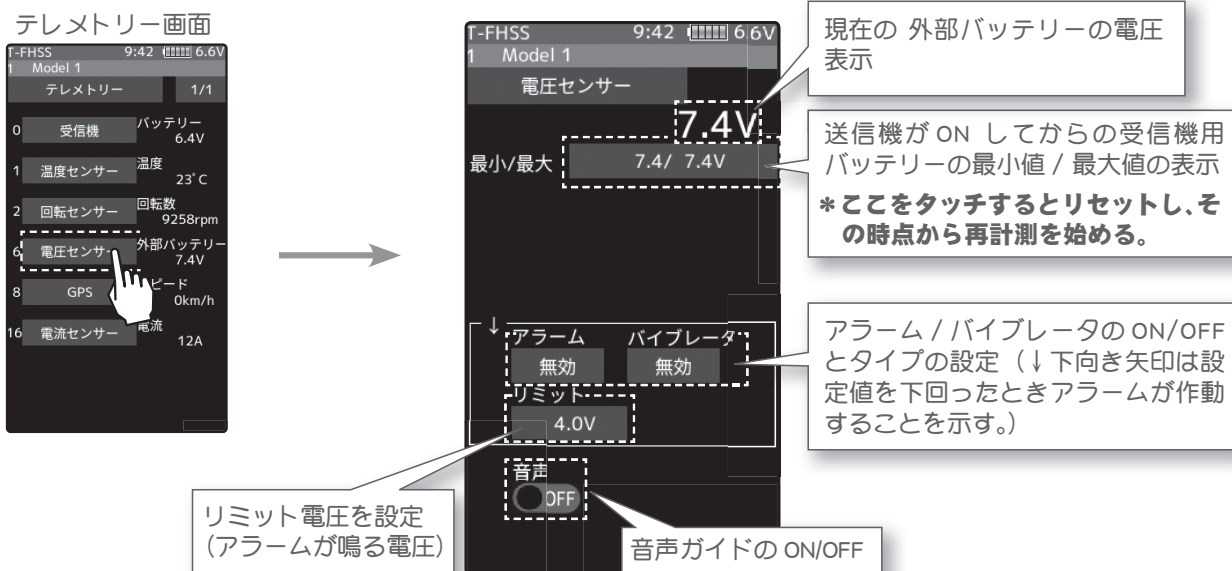
音声ガイドの読み上げ間隔は、センサーメニューで設定します。

4 ホームボタンを押してテレメトリー画面に戻ります。

テレメトリー：外部電圧

外部電圧は、受信機用バッテリーとは別に車体に積まれたバッテリー（動力用バッテリー、サーボ用別電源バッテリーなど）の電圧を、送信機に表示できます。受信機の S.BUS2 コネクターを使用し SBS-01V とバッテリーを接続します。

- 必ず別売の SBS-01V を使用してください。搭載／接続／使用方法は SBS-01V の説明書にしたがってください。（はんだ付け作業が必要です。）



アラーム／バイブの設定方法

1 (リミットの設定)

[リミット] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、リミット電圧を設定します。

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

2 (アラーム／バイブレーションの設定)

アラームの **[ブザー]** / **[音声]** / **[無効]** をタッチしてアラームを選びます。

- "無効" : 警告音はしません
- "ブザー" : アラーム音で知らせます
- "音声" : 音声ガイドで警告します

[バイブ] をタッチしてアラームのバイブを 3 タイプのパターンと無効 (OFF) から選びます。

- "無効" : バイブは動作しません
- "タイプ 1" : 連続振動
- "タイプ 2" : 長い時間で断続振動
- "タイプ 3" : 短い時間で断続振動

アラーム

無効 (OFF), ブザー, 音声

設定

- **[ブザー]** / **[音声]** / **[無効]** をタッチで設定。

バイブ

無効, タイプ 1, 2, 3

設定

- **[タイプ 1~3]** / **[無効]** をタッチ。

3 (音声ガイドの設定)

音声の **(ON●)** または **(●OFF)** をタッチして、ON/OFF を選択します。

- "(●OFF)" : 音声ガイドはしません
- "(ON●)" : 音声で情報を読み上げます

設定

- **(ON●)** / **(●OFF)** をタッチ。

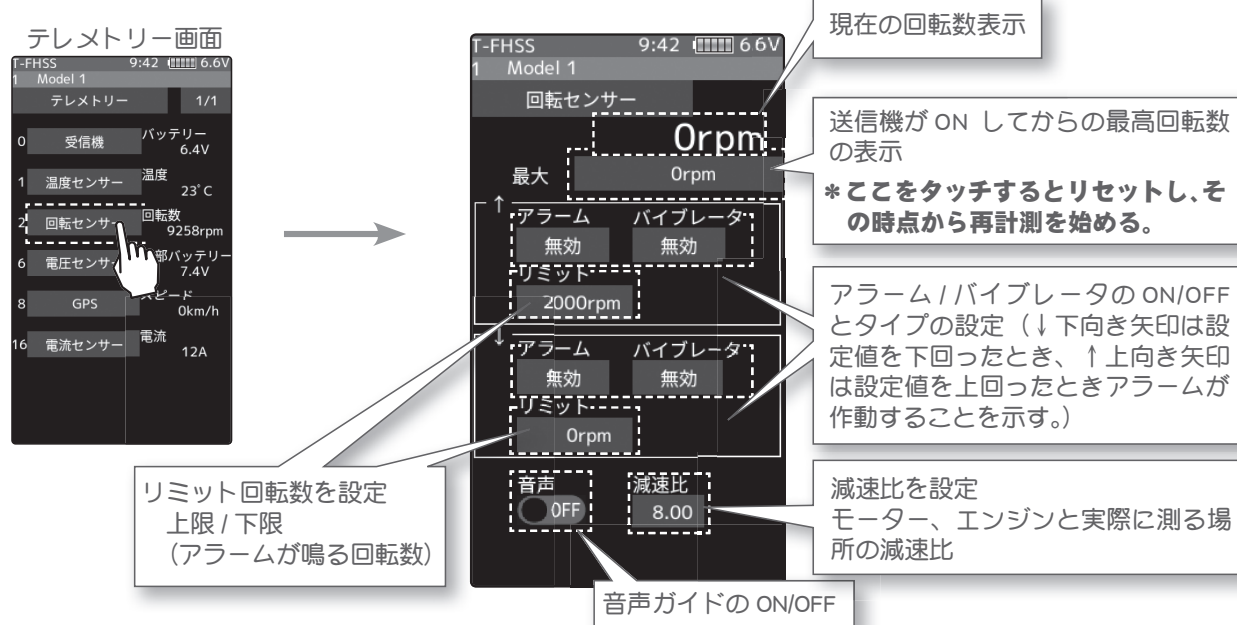
音声ガイドの読み上げ間隔は、センサーメニューで設定します。

4 ホームボタンを押してテレメトリー画面に戻ります。

テレメトリー：回転数

回転数は別売の SBS-01RM / SBS-01RB（テレメトリー回転センサー）からの回転数情報を表示／設定する画面です。走行中の車体のエンジンやモーターなどの回転数を送信機で見ることができます。設定回転数より高く（低く）なるとアラームや振動で知らせることができます。

●別売の回転センサーが必要です。搭載／接続／使用方法はセンサーの説明書にしたがってください。



減速比、アラーム／パイプの設定方法

1 (減速比の設定)

[減速比] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。[+], [-] をタッチして、センサーが実際に測定する場所と、モーター、エンジンの減速比を設定します。

調整

- [+] / [-] をタッチで調整。
- [リセット] をタッチで初期値。

2 (リミットの設定)

↑ / ↓ の [リミット] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。[+], [-] タッチして、上限と下限のリミット電圧を設定します。

3 (アラーム／バイブレーションの設定)

↑ / ↓ のアラームの [ブザー] / [音声] / [無効] をタッチしてアラームを選びます。

"無効" : 警告音はしません / "ブザー" : アラーム音で知らせます / "音声" : 音声ガイドで警告します

↑ / ↓ の [パイプ] をタッチしてアラームのバイブを 3 タイプのパターンと無効 (OFF) から選びます。

"無効" : バイブは動作しません /

"タイプ 1" : 連続振動 / "タイプ 2" : 長い時間で断続振動 / "タイプ 3" : 短い時間で断続振

4 (音声ガイドの設定)

音声の (ON●) または (●OFF) をタッチして、ON/OFF を選択します。

"(●OFF)" : 音声ガイドはしません

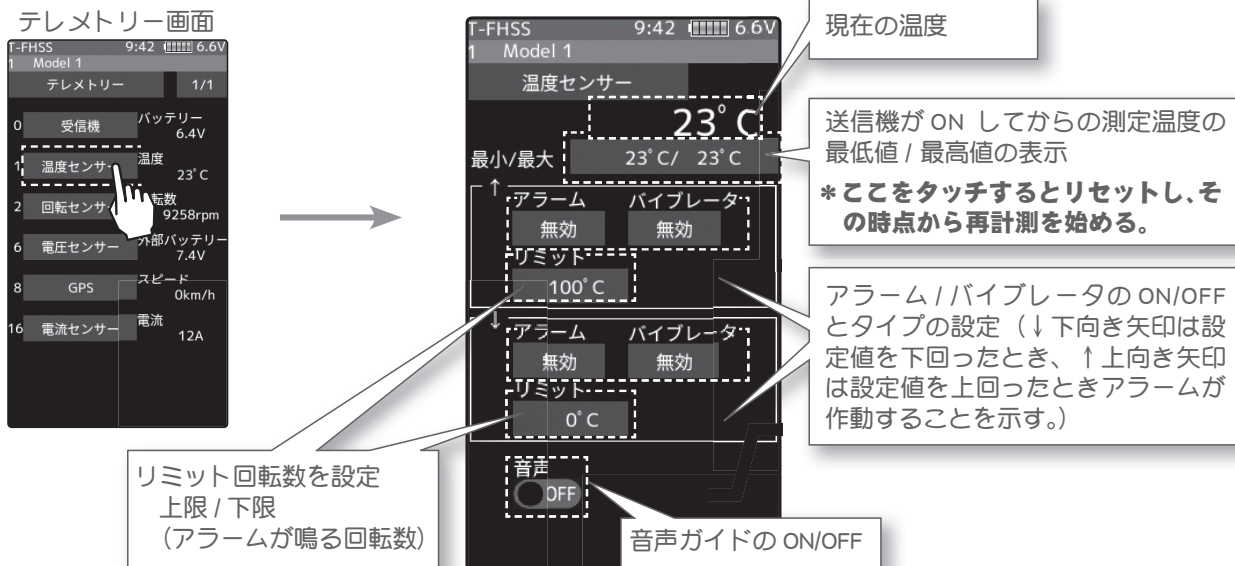
"(ON●)" : 音声で情報を読み上げます

5 ホームボタンを押してテレメトリー画面に戻ります。

テレメトリー：温度

温度は別売の SBS-01T（テレメトリー温度センサー）からの温度情報を表示／設定する画面です。走行中の車体のエンジンやモーター、モーターコントローラーなどの温度を送信機で見ることができます。設定温度より高く（低く）なるとアラームや振動で知らせることができます。

●別売の温度センサーが必要です。搭載／接続／使用方法はセンサーの説明書にしたがってください。



アラーム／バイブの設定方法

1 (リミットの設定)

↑／↓の[リミット]をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。[+], [-] をタッチして、上限と下限のリミット温度を設定します。

調整

- [＋] / [－] をタッチで調整。
- [リセット] をタッチで初期値。

2 (アラーム／バイブレーションの設定)

↑／↓のアラームの[ブザー] / [音声] / [無効] をタッチしてアラームを選びます。

- "無効" : 警告音はしません
- "ブザー" : アラーム音で知らせます
- "音声" : 音声ガイドで警告します

↑／↓の[バイブ] をタッチしてアラームのバイブを 3 タイプのパターンと無効 (OFF) から選びます。

- "無効" : バイブは動作しません
- "タイプ 1" : 連続振動
- "タイプ 2" : 長い時間で断続振動
- "タイプ 3" : 短い時間で断続振動

アラーム

無効 (OFF), ブザー, 音声

設定

- [ブザー] / [音声] / [無効] をタッチで設定。

バイブ

無効, タイプ 1, 2, 3

設定

- [タイプ 1～3] / [無効] をタッチ。

3 (音声ガイドの設定)

音声の (ON●) または (●OFF) をタッチして、ON/OFF を選択します。

- "(●OFF)" : 音声ガイドはしません
- "(ON●)" : 音声で情報を読み上げます

設定

- (ON●) / (●OFF) をタッチ。

音声ガイドの読み上げ間隔は、センサーメニューで設定します。

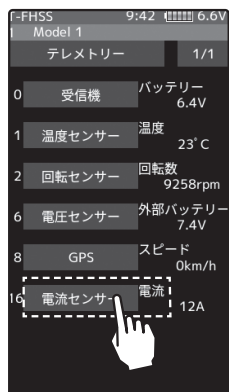
4 ホームボタンを押してテレメトリー画面に戻ります。

テレメトリー：電流

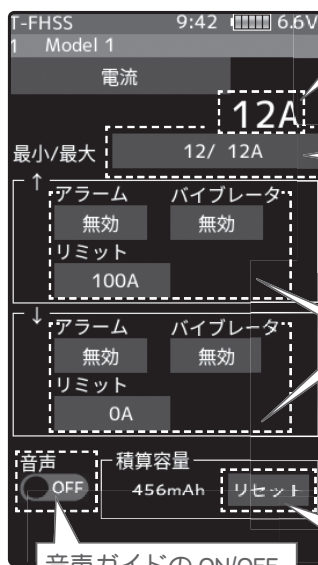
別売の SBS-01C（テレメトリー電流センサー）を車体に搭載すると、動力用バッテリーなどの電流・電圧・消費容量を送信機で見ることができます。設定電流より高く（低く）なるとアラームや振動で知らせることができます。

- 別売の電流センサーが必要です。搭載／接続／使用方法はセンサーの説明書にしたがってください。

テレメトリー画面



- 上段：現在の電流 / 電圧 / 消費容量表示
- 下段：送信機が ON してからの測定電流 / 電圧 / 消費容量の最低値 / 最高値の表示
- *最低値/最高値の表示ボタンをタップすると計測をリスタートします。



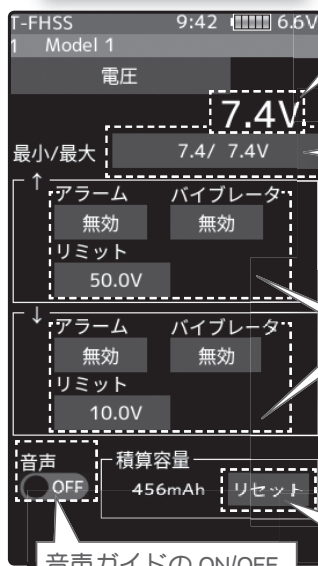
現在の電流表示

送信機が ON してからの測定電流の最低値 / 最高値の表示
*ここをタッチするとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラーム / バイブレータの ON/OFF とタイプの設定（↓下向き矢印は設定値を下回ったとき、↑上向き矢印は設定値を上回ったときアラームが作動することを示す。）
リミット電流を設定
上限 / 下限（アラームが鳴る電流）

積算容量のリセット

音声ガイドの ON/OFF



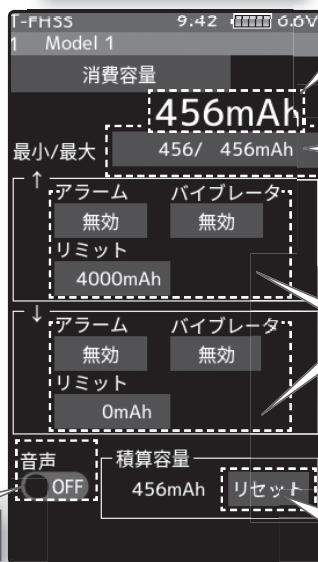
現在の電圧表示

送信機が ON してからの測定電圧の最低値 / 最高値の表示
*ここをタッチするとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラーム / バイブレータの ON/OFF とタイプの設定（↓下向き矢印は設定値を下回ったとき、↑上向き矢印は設定値を上回ったときアラームが作動することを示す。）
リミット電圧を設定
上限 / 下限（アラームが鳴る電圧）

積算容量のリセット

音声ガイドの ON/OFF



現在の消費容量表示

送信機が ON してからの測定消費容量の最低値 / 最高値の表示
*ここをタッチするとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラーム / バイブレータの ON/OFF とタイプの設定（↓下向き矢印は設定値を下回ったとき、↑上向き矢印は設定値を上回ったときアラームが作動することを示す。）
リミット消費容量を設定
上限 / 下限（アラームが鳴る容量）

積算容量のリセット

テレメトリー

目次へもどる

機能説明

アラーム／バイブの設定方法

1 (リミットの設定)

↑／↓の[リミット]をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に [-] [リセット] [+] が表示します。[+], [-] をタッチして、上限と下限のリミット電流／電圧／消費容量を設定します。

2 (アラーム／バイブレータの設定)

↑／↓のアラームの[ブザー]／[音声]／[無効]をタッチしてアラームを選びます。

"無効": 警告音はしません／"ブザー": アラーム音で知らせます／

"音声": 音声ガイドで警告します

↑／↓の[バイブ]をタッチしてアラームのバイブを3タイプのパターンと無効 (OFF) から選びます。

"無効": バイブは動作しません／

"タイプ1": 連続振動／"タイプ2": 長い時間で断続振動／

"タイプ3": 短い時間で断続振

3 (音声ガイドの設定)

音声の(ON●)または(●OFF)をタッチして、ON/OFF を選択します。

"(●OFF)": 音声ガイドはしません

"(ON●)": 音声で情報を読み上げます

4 ホームボタンを押してテレメトリー画面に戻ります。

調整

- [+] / [-] をタッチで調整。
- [リセット] をタッチで初期値。

アラーム

無効 (OFF), ブザー, 音声

設定

- [ブザー] / [音声] / [無効] をタッチで設定。

バイブ

無効, タイプ 1, 2, 3

設定

- [タイプ1~3] / [無効] をタッチ。

設定

- (ON●) / (●OFF) をタッチ。

音声ガイドの読み上げ間隔は、センサーメニューで設定します。

消費容量表示のリセット方法

SBS-01C で測定した消費容量は SBS-01C のリセットボタンを押さない限り保持され、画面に "積算容量" として表示します。一走行毎の消費容量を測定するような場合は、送信機側の消費容量表示を次の操作でリセットすることができます。ただし、送信機の表示をリセットする機能で、SBS-01C 本体の積算容量の記録はリセットできません。

1 (リセット操作)

電流／電圧／消費容量のどの画面でも構いませんので、[積算容量リセット]をタッチします。消費容量表示が "0" にリセットされます。その後、再度リセットを行うまで、消費容量の再計測を始めます。また、SBS-01C のリセットボタンを押して、消費容量をリセットすると、送信機側の消費容量表示もリセットします。

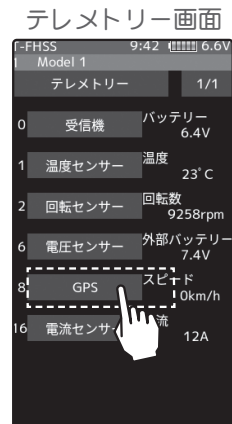
送信機側でのリセット操作は、T7XC 側の積算容量表示をリセットする機能で、SBS-01C 側の積算消費容量測定をリセットするものではありません。SBS-01C の消費容量測定範囲は最大 32767mAh です。これを超えた場合、送信機の消費容量表示も自動的にリセットされます。タイミングによっては計測中にリセットされてしまう場合がありますので、積算容量の表示が 32767mAh になる前に、SBS-01C 側の積算をリセットしてください。



テレメトリー：GPS

別売の SBS-01G/02G（GPS センサー）を車体に搭載すると、GPS 衛星からの電波を受信して、車体の位置、スピードの情報を送信機で見ることができます。

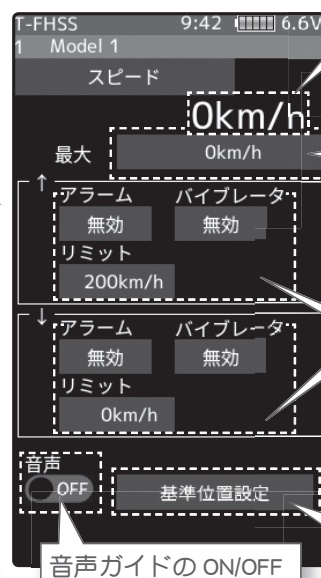
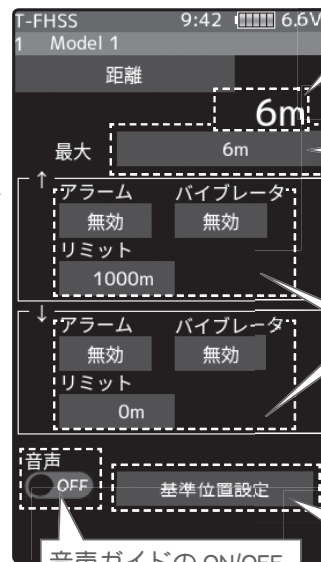
- 別売の GPS センサーが必要です。搭載／接続／使用法はセンサーの説明書にしたがってください。
- 電源投入後に GPS を測位するまでにしばらく時間がかかります。車体を動かさずに、GPS センサーの LED が緑点灯になるまでお待ちください。LED が緑点灯後も距離表示が安定しない場合は、基準位置設定をしてください。
- 基本的に GPS 衛星を使用しますので、室内では受信できません。また、周囲環境やコースなどの条件により、正確な距離とスピードを表示できない場合があります。



衛星の受信状況

測定基準位置
(緯度 / 経度) の表示

- 上段：
現在の距離／スピード表示
- 下段：
送信機が ON してからの測定最長距離／最高スピードの表示
- *ここをタッチするとリセットその時点から再計測を始める。



機能説明

アラーム／バイブの設定方法

1 (リミットの設定)

[リミット] をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、リミット距離またはスピードを設定します。

2 (アラーム／バイブレータの設定)

↑／↓ のアラームの **[ブザー]**／**[音声]**／**[無効]** をタッチしてアラームを選びます。

"無効": 警告音はしません／"ブザー": アラーム音で知らせます／"音声": 音声ガイドで警告します

↑／↓ の **[バイブ]** をタッチしてアラームのバイブを 3 タイプのパターンと無効 (OFF) から選びます。

"無効" : バイブは動作しません

"タイプ 1": 連続振動

"タイプ 2": 長い時間で断続振動

"タイプ 3": 短い時間で断続振動

3 (音声ガイドの設定)

音声の **(ON●)** または **(●OFF)** をタッチして、ON/OFF を選択します。

"(●OFF)": 音声ガイドはしません

"(ON●)": 音声で情報を読み上げます

調整

- **[+]**／**[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

アラーム

無効 (OFF), ブザー, 音声

設定

- **[ブザー]**／**[音声]**／**[無効]** をタッチで設定。

バイブ

無効, タイプ 1, 2, 3

設定

- **[タイプ 1~3]**／**[無効]** をタッチ。

設定

- **(ON●)**／**(●OFF)** をタッチ。

音声ガイドの読み上げ間隔は、センサーメニューで設定します。

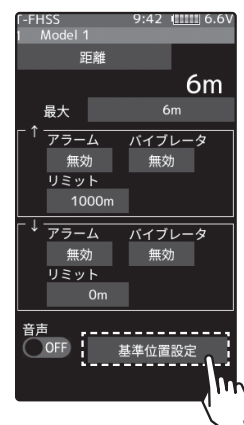
4 ホームボタンを押してテレメトリー画面に戻ります。

基準位置の設定方法

電源投入後に GPS を測位するまでにしばらく時間がかかります。車体を動かさずに、GPS センサーの LED が緑点灯になるまでお待ちください。LED が緑点灯後も距離表示が安定しない場合、また、車体が移動した場所を新たに基準値に設定する場合は、基準位置の再設定をしてください。

1 (リセット操作)

距離／スピードのどちらの画面でも構いませんので、**[基準位置設定]** をタッチします。距離がリセットされます。その後、再度、**[基準位置設定]** をタッチするまで、リセットを行った地点からの距離を表示します。



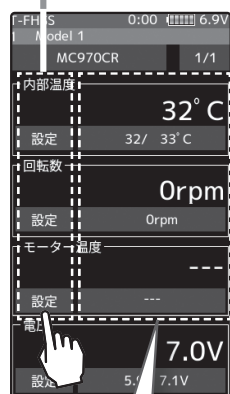
テレメトリー：MC970CR

MC970CR は、●回転数／●ESC 内部温度／●モーター温度＊／●バッテリー電圧を表示することができます。

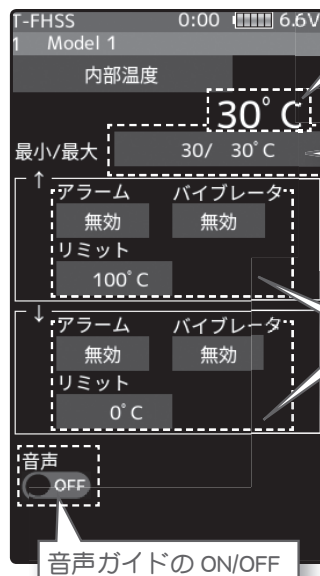
＊MC970CR のモーター温度測定機能に対応しているモーターは、(株)アキュヴァンス製の「LUXON AGILE」シリーズです。その他のモーターを接続した場合はモーター温度測定は保証外となります。

●テレメトリーで表示するには、MC970CR 側を【MC リンクモード】にします。【ESC モード】では表示できません。MC970CR 取扱説明書 (P12)

テレメトリー画面



- 上段：
現在の電流 / 電圧 / 消費容量表示
 - 下段：
送信機が ON してからの測定電流 / 電圧 / 消費容量の最低値 / 最高値の表示
- ＊最低値/最高値の表示ボタンをタップすると計測をリスタートします。



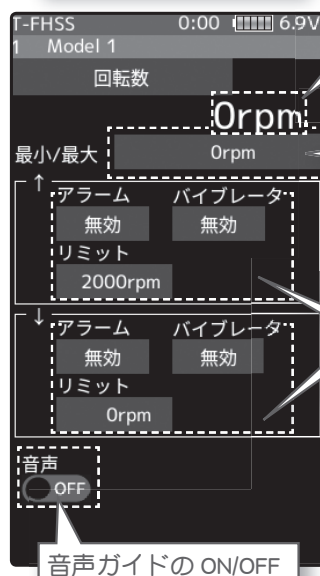
現在の ESC 内部温度表示

送信機が ON してからの測定温度の最低値 / 最高値の表示

＊ここをタッチするとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラーム / バイブレータの ON/OFF とタイプの設定 (↓ 下向き矢印は設定値を下回った時、↑ 上向き矢印は設定値を上回った時アラームが作動することを示す。) リミット温度を設定 上限 / 下限 (アラームが鳴る電流)

音声ガイドの ON/OFF



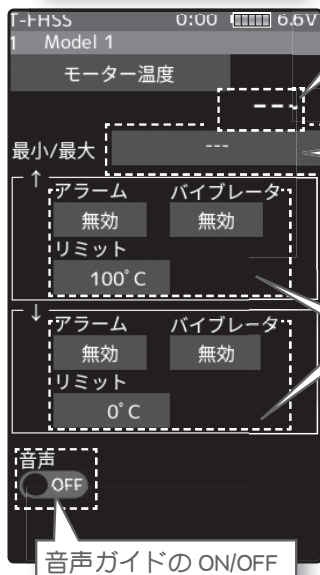
現在のモーター回転数表示

送信機が ON してからの測定回転数の最低値 / 最高値の表示

＊ここをタッチするとリセットし、その時点から再計測を始める。

アラーム / バイブレータの ON/OFF とタイプの設定 (↓ 下向き矢印は設定値を下回った時、↑ 上向き矢印は設定値を上回った時アラームが作動することを示す。) リミット回転数を設定 上限 / 下限 (アラームが鳴る電圧)

音声ガイドの ON/OFF



現在のモーター温度表示

送信機が ON してからの測定モーター温度の最低値 / 最高値の表示

＊ここをタッチするとリセットし、その時点から再計測を始める。

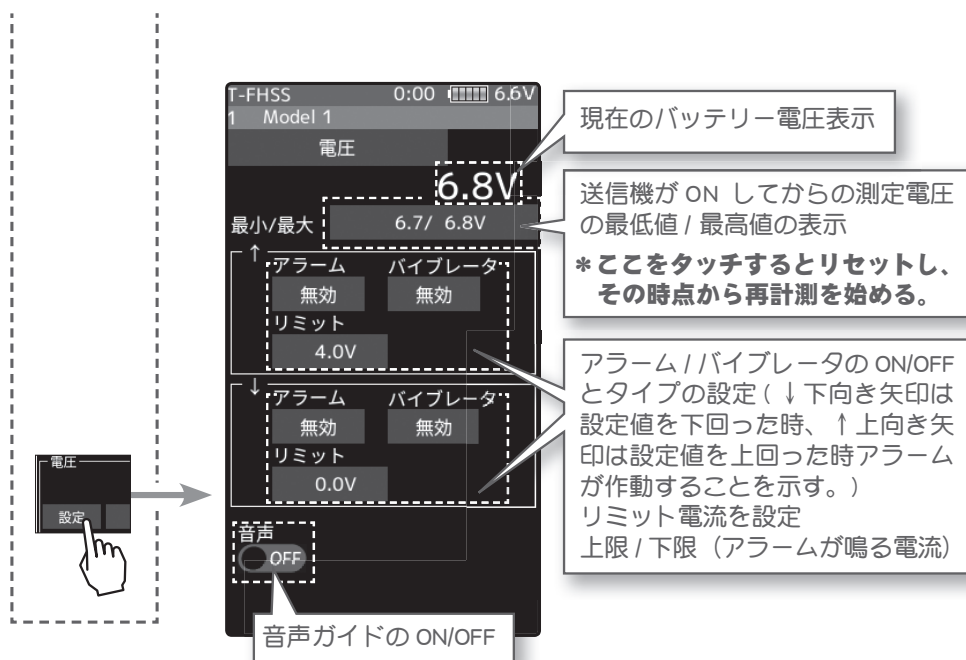
アラーム / バイブレータの ON/OFF とタイプの設定 (↓ 下向き矢印は設定値を下回った時、↑ 上向き矢印は設定値を上回った時アラームが作動することを示す。) リミット温度を設定 上限 / 下限 (アラームが鳴る電流)

音声ガイドの ON/OFF

テレメトリー

目次へもどる

機能説明



アラーム／バイブの設定方法

1 (リミットの設定)

↑／↓の**[リミット]**をタッチ、設定値の表示が青くなり、画面下に**[-][リセット][+]**が表示します。**[+]**、**[-]**をタッチして、上限と下限のリミット電流／電圧／消費容量を設定します。

調整

- **[+]**／**[-]**をタッチで調整。
- **[リセット]**をタッチで初期値。

2 (アラーム／バイブレータの設定)

↑／↓のアラームの**[ブザー]**／**[音声]**／**[無効]**をタッチしてアラームを選びます。

"無効": 警告音はしません／"ブザー": アラーム音で知らせます／"音声": 音声ガイドで警告します

↑／↓の**[バイブ]**をタッチしてアラームのバイブを3タイプのパターンと無効 (OFF) から選びます。

"無効": バイブは動作しません／

"タイプ 1": 連続振動／"タイプ 2": 長い時間で断続振動／"タイプ 3": 短い時間で断続振動

アラーム

無効 (OFF), ブザー, 音声

設定

- **[ブザー]**／**[音声]**／**[無効]**をタッチで設定。

バイブ

無効 (OFF), タイプ 1, 2, 3

設定

- **[タイプ 1~3]**／**[無効](OFF)**をタッチ。

3 (音声ガイドの設定)

音声の**(ON●)**または**(●OFF)**をタッチして、ON/OFF を選びます。

"(●OFF)": 音声ガイドはしません

"(ON●)": 音声で情報を読み上げます

設定

- **(ON●)**／**(●OFF)**をタッチ。

音声ガイドの読み上げ間隔は、センサーメニューで設定します。

4 ホームボタンを押してテレメトリー画面に戻ります。

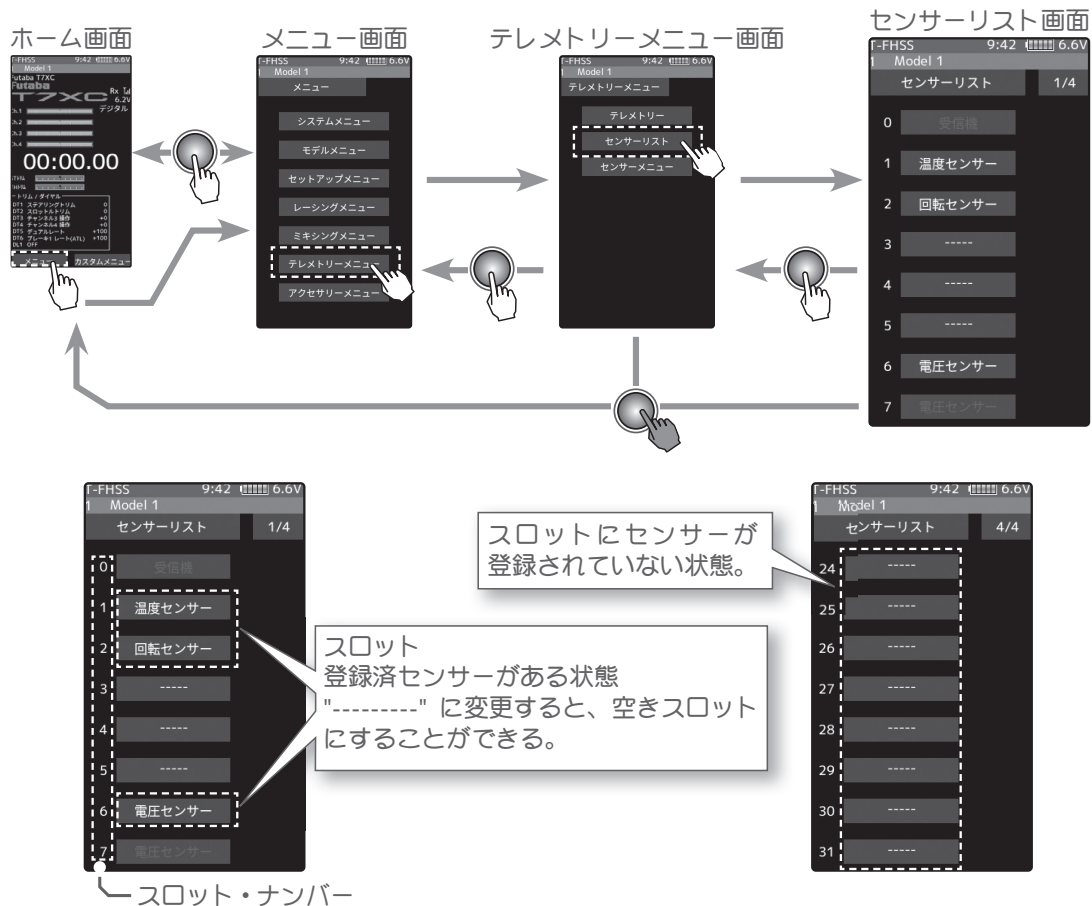
センサーリスト

この画面は、テレメトリーセンサーをご使用の送信機に登録することができます。初期設定の各センサーを各種 1 個ずつ使用する場合ここでの設定は不要で、購入されたセンサーを受信機の S.BUS2 ポートに接続するだけで使用できます。同じ種類のセンサーを複数使用する場合そのセンサーの送信機への登録が必要となります。

スロットとは？

サーボは CH で分けられますが、センサーは「**スロット**」という単位で分けられます。各センサーにはあらかじめ T7XC の初期値スロット・ナンバーが設定されていますので接続すればそのまま使用できます。NO.1 から No.31 までのスロットがあります。センサーの初期設定では同じ種類のセンサーは、同じスロット・ナンバーが設定されています。そのため、同じ種類のセンサーを複数使用する場合は、センサーメニュー（P187）でセンサーの登録をする必要があります。

センサーリスト画面は、次の方法で表示します。



割当て可能スロットについて

下表のように電流計は連続する 3 スロットが必要で、GPS センサーは連続する 8 スロットが必要です。また GPS センサー（SBS-01/02G）は開始スロットが 8,16,24 です。

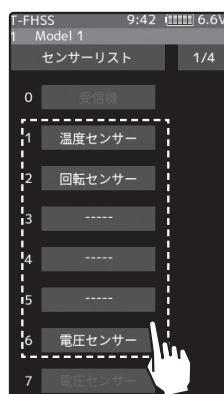
センサー	必要スロット数	割当て可能な開始スロット
温度計（SBS-01T）	1 個	1 ～ 31
回転計（SBS01RM）	1 個	1 ～ 31
電圧計（SBS-01V）	2 個	1,2,3,4,5,6,8,9,10,11,12,13,14,16,17,18,19,20,21,22,24,25,26,27,28,29,30
電流計（SBS-01C）	3 個	1,2,3,4,5,6,8,9,10,11,12,13,16,17,18,19,20,21,24,25,26,27,28,29
GPS（SBS-01/02G）	8 個	8, 16, 24

スタートスロットの変更と空きスロットの設定方法

1 (スタートスロットの選択)

【スロット】をタッチ、スタートスロットに登録できるセンサーの**センサー選択画面**を表示します。

変更できないセンサーは表示されません。



スタートスロットの選択

●スロットをタッチして選択。

2 (センサーの選択)

センサーのリストから、スタートスロットに登録するセンサーをタッチします。空きスロットに設定する場合は**【-----】**をタッチします。これで変更は完了です。



センサーの選択

●センサーをタッチして選択。

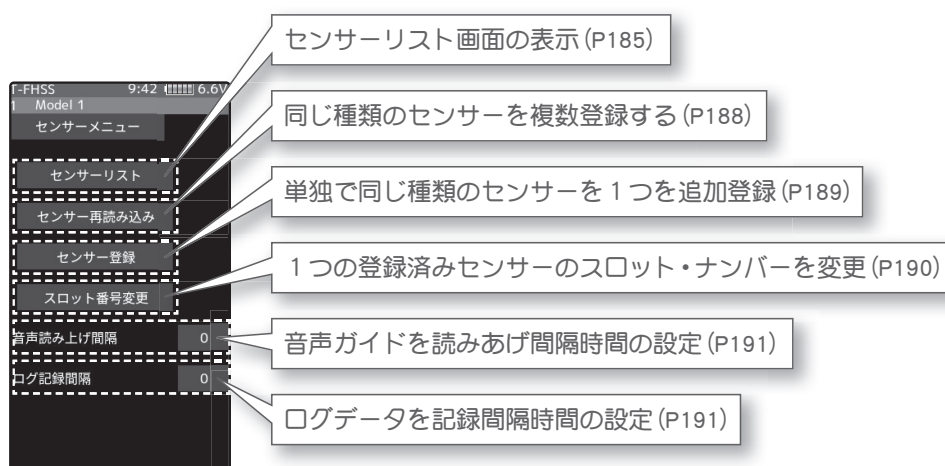
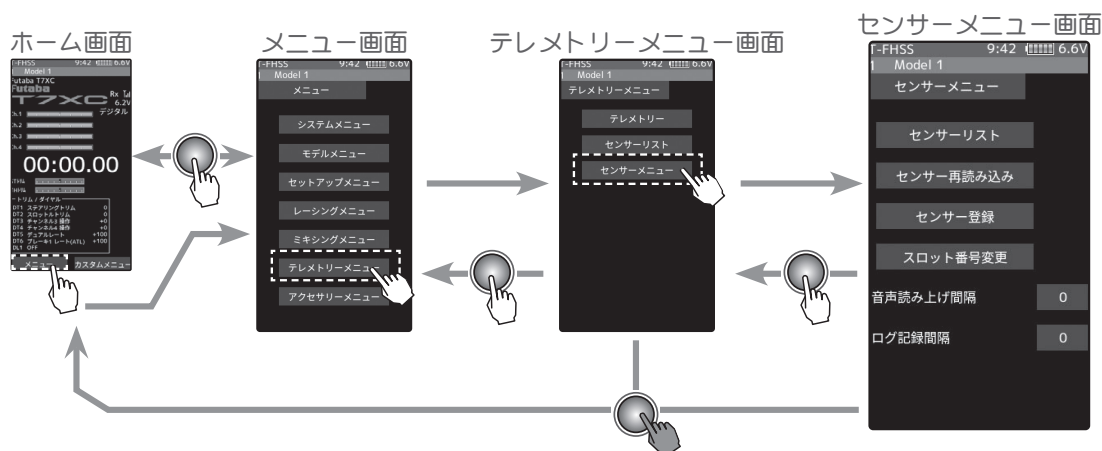
3 ホームボタンを押してセンサーリスト画面に戻ります。

センサーメニュー

このメニューで、ホーム画面にテレメトリメーターを表示できます。

また、テレメトリセンサーをご使用の送信機に登録することができます。初期設定のセンサーを各種 1 個ずつ使用する場合は、ここでの設定は不要です。購入されたセンサーを受信機の S.BUS2 ポートに接続するだけで使用できます。同じ種類のセンサー、例えば温度センサーをバッテリーと、モーターの両方に使用するなど複数使用する場合、そのセンサーを送信機に登録する必要があります。

センサーメニュー画面は、次の方法で表示します。

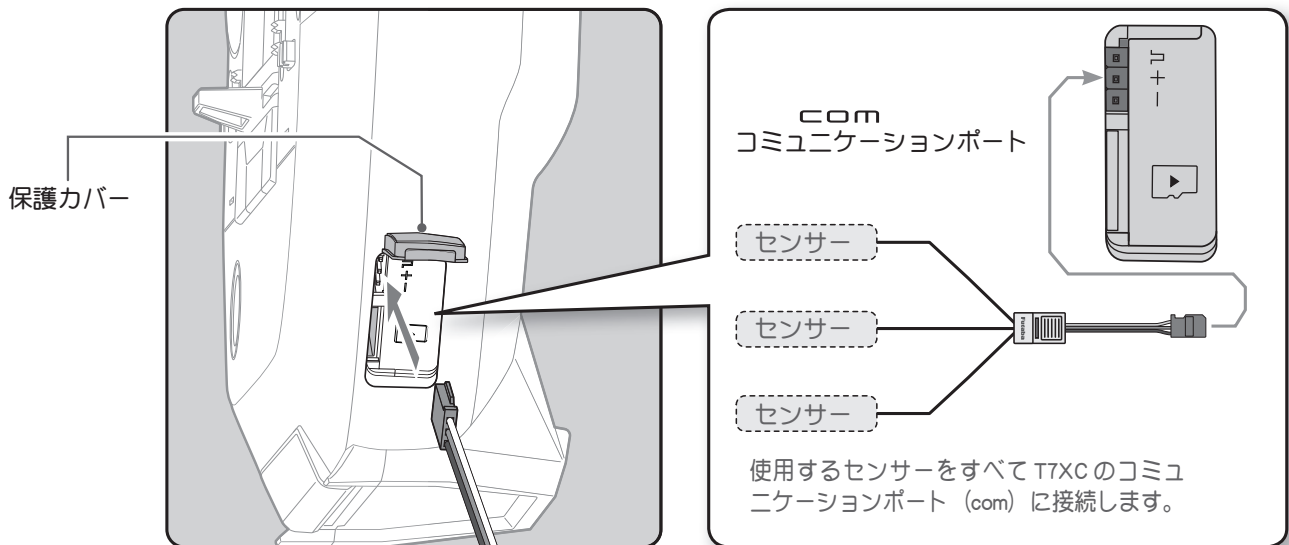


センサー再読み込み

同じ種類のセンサーを複数使用する場合、センサーを送信機に登録する必要があります。それぞれのセンサー ID が送信機に登録されます。

●センサーの再読み込みは、下図のように使用するセンサーをすべて、T7XC のコミュニケーションポートに接続します。電源は必要ありません。また、センサーの登録をすべてクリアしたい場合は、センサーを接続しないで、この再読み込みを実行します。登録がクリアされ、センサーリストの-slotが、すべて未登録の状態になります。

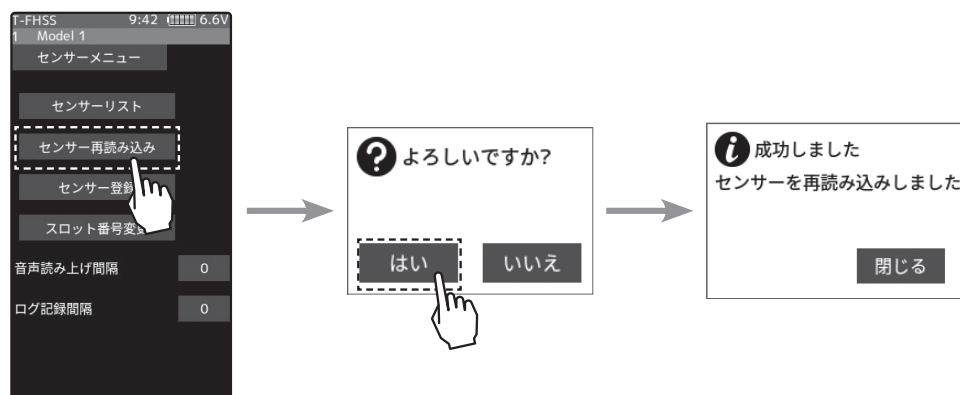
T7XC とセンサーの接続図



センサー再読み込み

1 (再読み込み)

[センサー再読み込み] をタッチします。**[よろしいですか]** と確認メッセージを表示しますので、実行する場合は **[はい]** をタッチ、キャンセルする場合は **[いいえ]** をタッチします。**[成功しました]** とメッセージが表示されると、再読み込みが完了です。

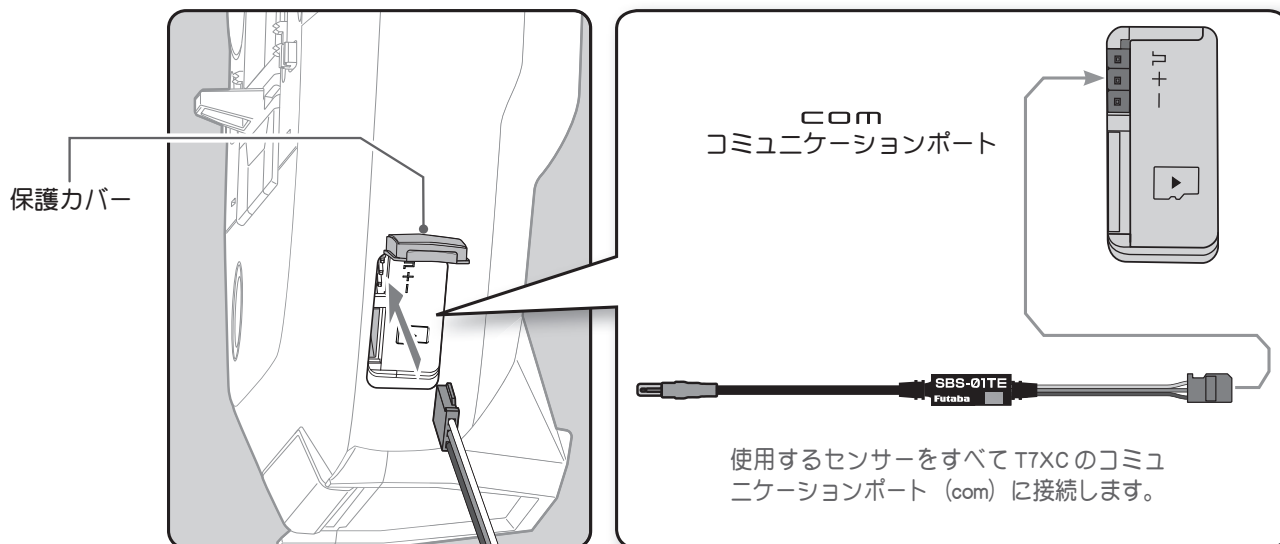


2 ホームボタンを押してテレメトリーメニュー画面に戻ります。

センサー登録

単独で同じ種類のテレメトリーセンサー1つを追加登録する機能です。下図のようにセンサーを接続して次の手順で登録します。センサーIDが送信機に登録されます。

T7XC とセンサーの接続図

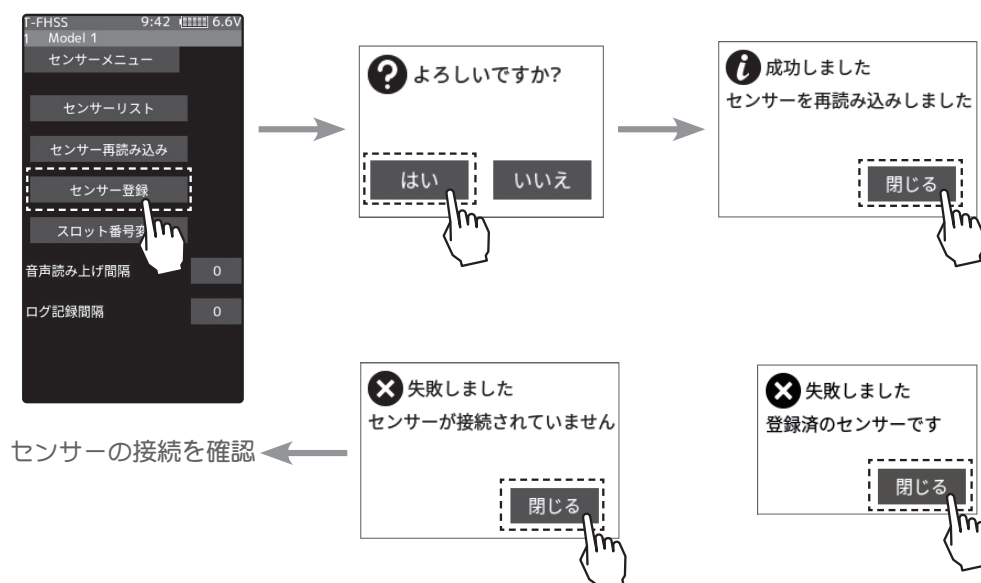


センサー登録

1 (登録)

[センサー登録]をタッチします。「よろしいですか」と確認メッセージを表示しますので、実行する場合は**[はい]**をタッチ、キャンセルする場合は**[いいえ]**をタッチします。「**成功しました**」とメッセージが表示されると、登録が完了です。すでに登録済みのセンサーを登録しようとする、と「**失敗しました センサー済みのセンサーです**」とメッセージを表示します。

「**失敗しました センサーが接続されていません**」というメッセージが表示された場合、センサーの接続を確認してください。確実に接続されている場合は、センサーまたは送信機の故障が考えられます。



2 ホームボタンを押してテレメトリーメニュー画面に戻ります。

スロット番号変更

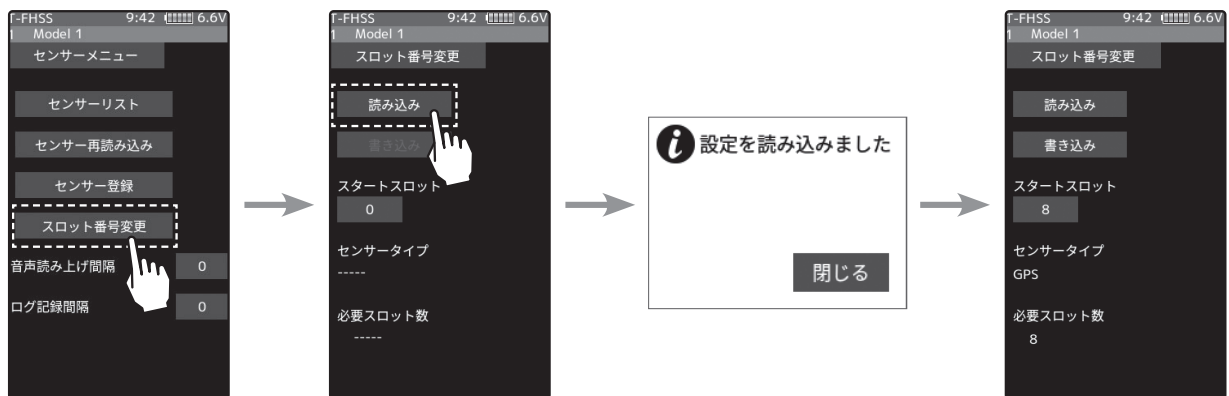
1つの登録済みセンサーに記憶されている、スタートスロット・ナンバーを変更するメニューです。P189を参考にセンサーを接続して次の手順で変更します。センサーのスロット・ナンバーが変更されます。

センサーのスロット No. 変更

1 (変更)

[スロット番号変更]をタッチします。センサー詳細画面を表示します。

[読み込み]をタッチします。「設定を読み込みました」とメッセージが表示され、現在のセンサー情報を表示します。



2 (ナンバーの設定)

[スタートスロット]をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]**が表示します。**[+]**、**[-]**をタッチして、新しいスタートスロット・ナンバーを設定します。



調整

● **[+]** / **[-]** をタッチで設定。

3 **[書き込み]**をタッチします。「設定を書き込みました」

とメッセージが表示されると、番号の変更が完了です。



4 ホームボタンを押してセンサーメニュー画面に戻ります。

音声ガイドの間隔とログデータ間隔の設定

テレメトリー情報の音声ガイドを読み上げる間隔と、ログデータを記録する間隔を設定できます。

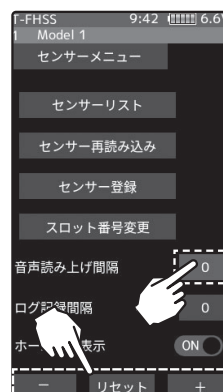
間隔時間の設定

1 (音声ガイドを読みあげ間隔時間の設定)

【音声読み上げ間隔】をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、時間を設定します。

読み上げ間隔
0 ~ 30 / 秒
初期値 : 0

調整
● **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
● **[リセット]** をタッチで初期値。

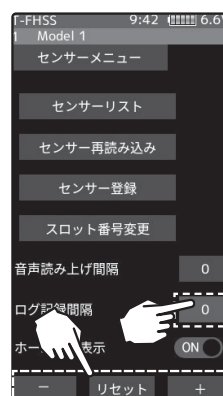


2 (ログ記録間隔時間の設定)

【ログ記録間隔】をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、時間を設定します。

記録間隔
0 ~ 30 / 秒
初期値 : 0

調整
● **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
● **[リセット]** をタッチで初期値。



3 ホームボタンを押してテレメトリーメニュー画面に戻ります。

ホーム画面にテレメトリーメーターの表示

アクセサリメニューのホーム画面表示設定でホーム画面にテレメトリー情報を確認できる、グラフィックメーターを表示できます。メーターは最大5つ表示されます。表示方法はP171 ~ 172 を参照してください。

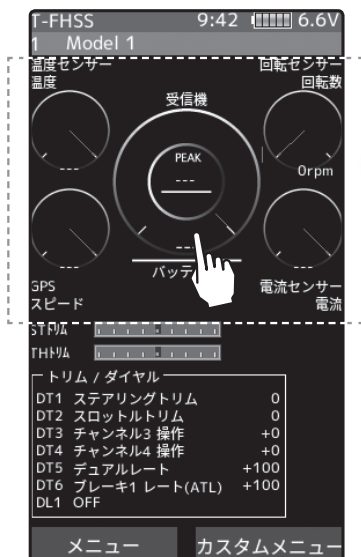
ホーム画面に表示されるメーターは、白い指針が最大値を示し、赤い指針は現在の値を示します。



テレメトリーメーターの表示設定

ホーム画面に表示したテレメトリーメーターは5つ表示します。表示するセンサーを選んだり、表示データの範囲を設定したりできます。それぞれメーターごとに設定できます。

ホーム画面



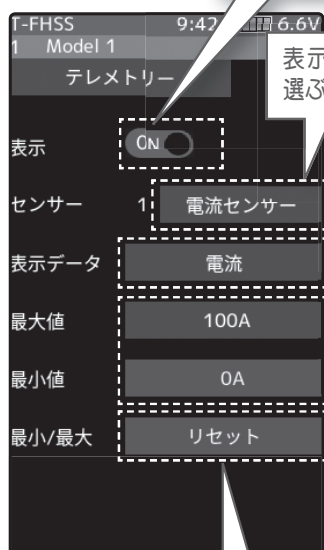
設定するメーターをタッチ

テレメトリー以外にステアリングとスロットルの動作メーターを表示



表示するセンサーをタッチして選ぶ

メーター毎に表示のON/OFFができる。



表示するセンサーを選ぶ画面を表示する。

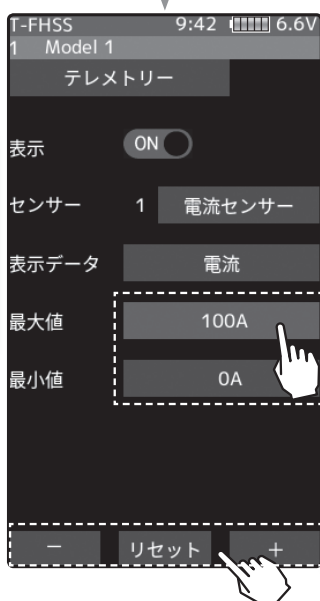
表示するセンサーが、複数のデータを測定できる場合、どのデータを表示するか選びます。

メーターに表示する上限/下限を設定する。



複数のデータから、表示するデータを選ぶ、例えば電流センサーの場合、電流 / 電圧 / 消費容量から選ぶことができます。
3つのデータをすべて、別々のメーターで表示することもできます。

【最大/最小】の【リセット】をタッチすると、ホーム画面でメーターの白い指針が示す最大値をリセットします。また、同時に各テレメトリー設定画面の【最大/最小】の表示をリセットします。(P174 ~ 184)

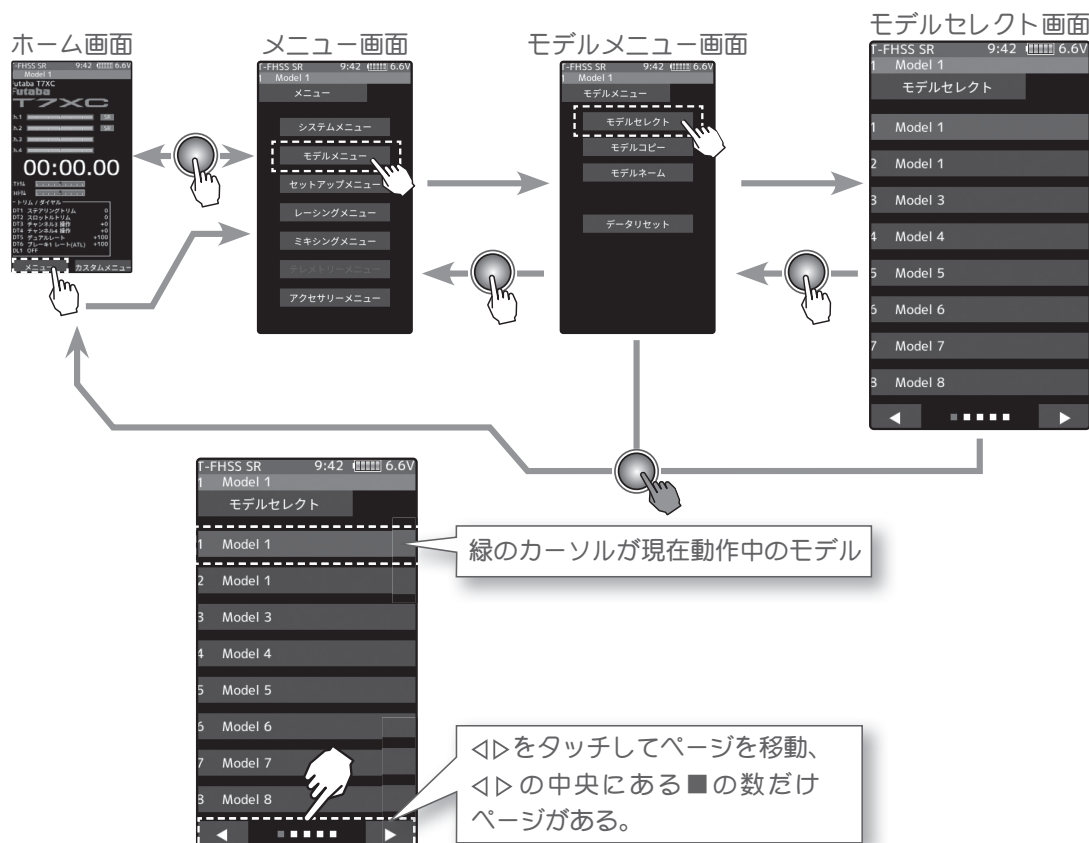


【最大値】/【最小値】をタッチ、設定値が青く表示され、画面下に【-】【リセット】【+】が表示する。
【+】、【-】をタッチして、表示範囲を設定。

モデルセレクト

T7XC 送信機に 40 通りのモデルデータ (R/C カー 40 台分のデータ) を保存でき、そのモデルデータと呼び出すときに使用します。ただし microSD カード内にコピーしたモデルはカードから直接呼び出して使用できません。使用する場合は T7XC 本体にコピーしてください。

モデルセレクト画面は、次の方法で表示します。



モデルセレクト機能の使用方法

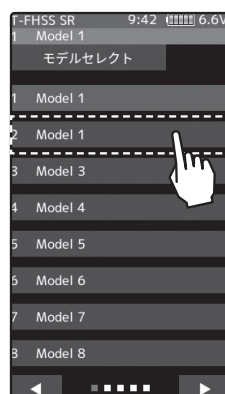
1 (モデル No. の選択)

1 ページに 8 モデル、5 ページで全 40 モデルから選べます。画面下の ◀▶ をタッチしてページを移動します。

2 (モデルセレクトの実行)

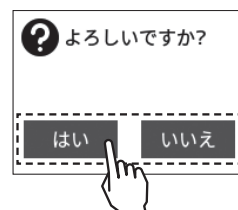
使用する **【モデル名】** をタッチ、**「よろしいですか」** と確認画面を表示します。実行する場合は **【はい】** をタッチ、ピピッという電子音がして変更が終了し、ホーム画面を表示します。キャンセルする場合は **【いいえ】** を選びタッチします。

- ホーム画面のモデル名が変更されればモデルセレクトは完了です。



モデルの選択

- **【モデル名】** をタッチ。

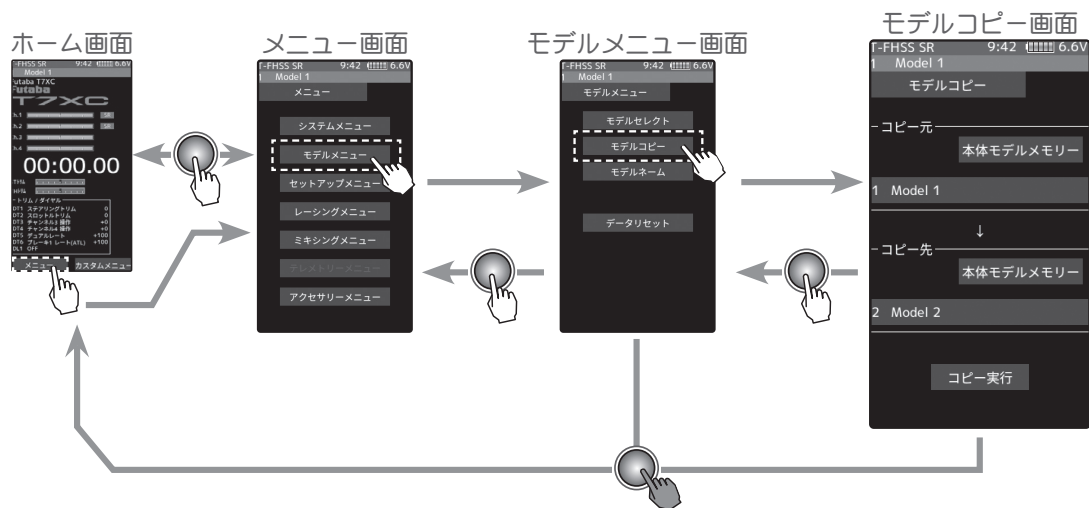


3 **【いいえ】** で変更しない場合は、ホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

モデルコピー

モデルメモリーの内容を別のモデルメモリーにコピーできます。また、バックアップ用に保存、または別の T7XC にコピーするために microSD カードに保存することができます。

モデルコピー画面は、次の方法で表示します。



モデルコピーの方法

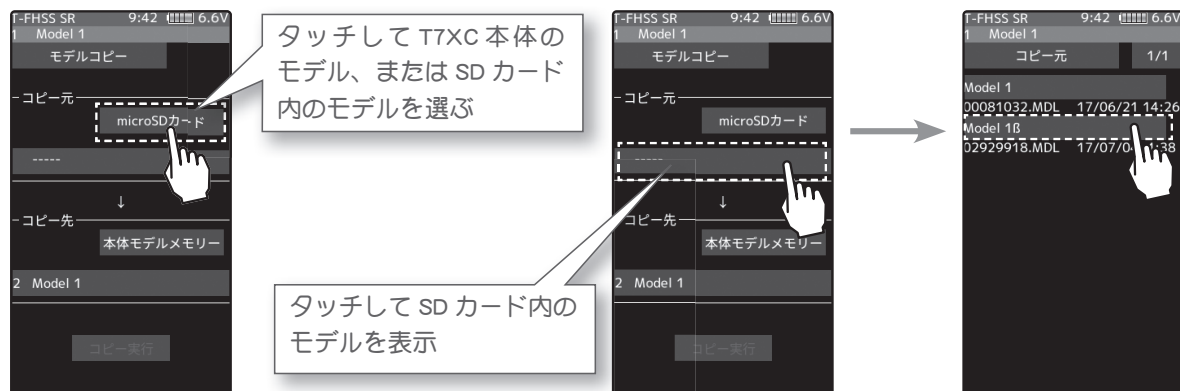
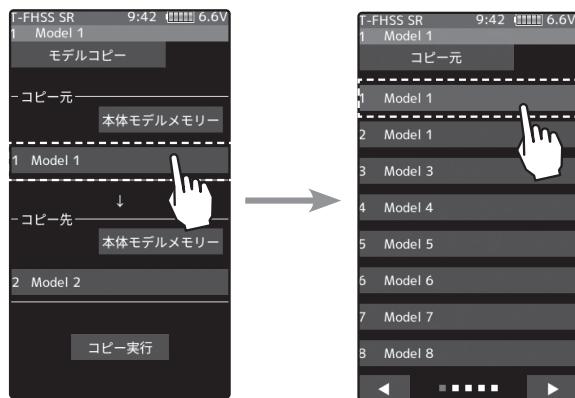
1 (コピー元モデルの選択)

コピー元【モデルネーム】をタッチ、モデルリストを表示しますのでコピーするモデルを選んでタッチします。コピー元モデルが選ばれ、モデルリストが閉じます。

リストはモデルセレクトと同じデザインでページの移動方法も同じです。T7XC 本体に microSD カードを取付けている場合、T7XC 本体内のモデル、または microSD カード内のモデルのどちらかを選ぶボタンを表示しますので、タッチして T7XC 本体か microSD カードを選びます。キャンセルする場合は、ホームボタンを押してモデルコピー画面に戻ります。

モデルの選択

●ポップアップ画面をタッチして選択。

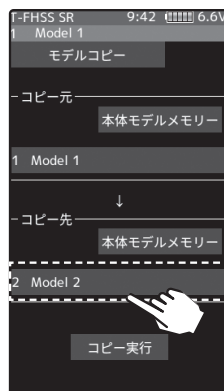


2 (コピー先モデルの選択)

コピー先 **【モデルネーム】** をタッチ、モデルリストを表示しますのでコピー先を選んでタッチします。コピー先モデルが選ばれ、モデルリストが閉じます。キャンセルする場合は、ホームボタンを押してモデルコピー画面に戻ります。

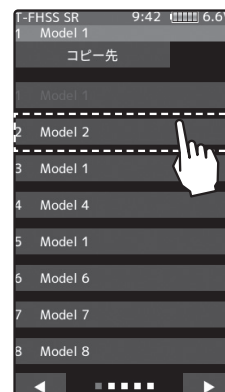
●現在使用中のモデルは選択できません。

●コピー先が microSD カードの場合は、上書きできませんので、モデルのリストは表示しません。直接 microSD カードに保存されます。



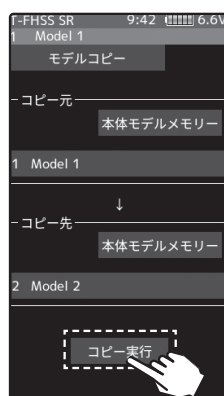
モデルの選択

●ポップアップ画面をタッチして選択。



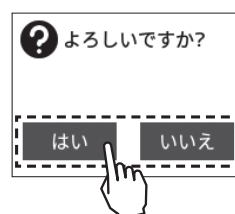
3 (コピーの実行)

モデルコピー画面で **【コピー実行】** をタッチ、「よろしいですか」と確認画面を表示します。実行する場合は **【はい】** をタッチ、キャンセルする場合は **【いいえ】** を選びタッチします。**【はい】** をタッチして実行すると、ピピッという電子音がしてモデルコピーが完了、「**データをコピーしました**」と表示します。**【閉じる】** をタッチします。



コピー

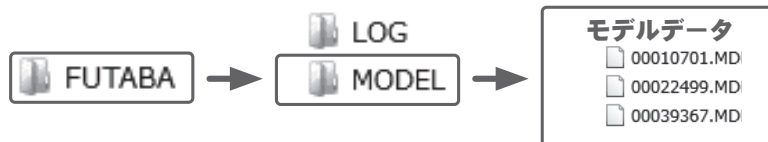
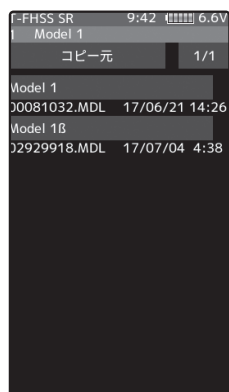
● **【コピーの実行】** をタッチ。



4 終了する場合は、ホームボタンを押してモデルメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押ししてホーム画面に戻ります。

microSD カードの保存先

microSD カードを T7XC に取付けると "Futaba" という名前のフォルダが作成され、その中に "LOG" と "MODEL" というフォルダが作成されます。モデルデータはこの "MODEL" というフォルダの中に保存されます。

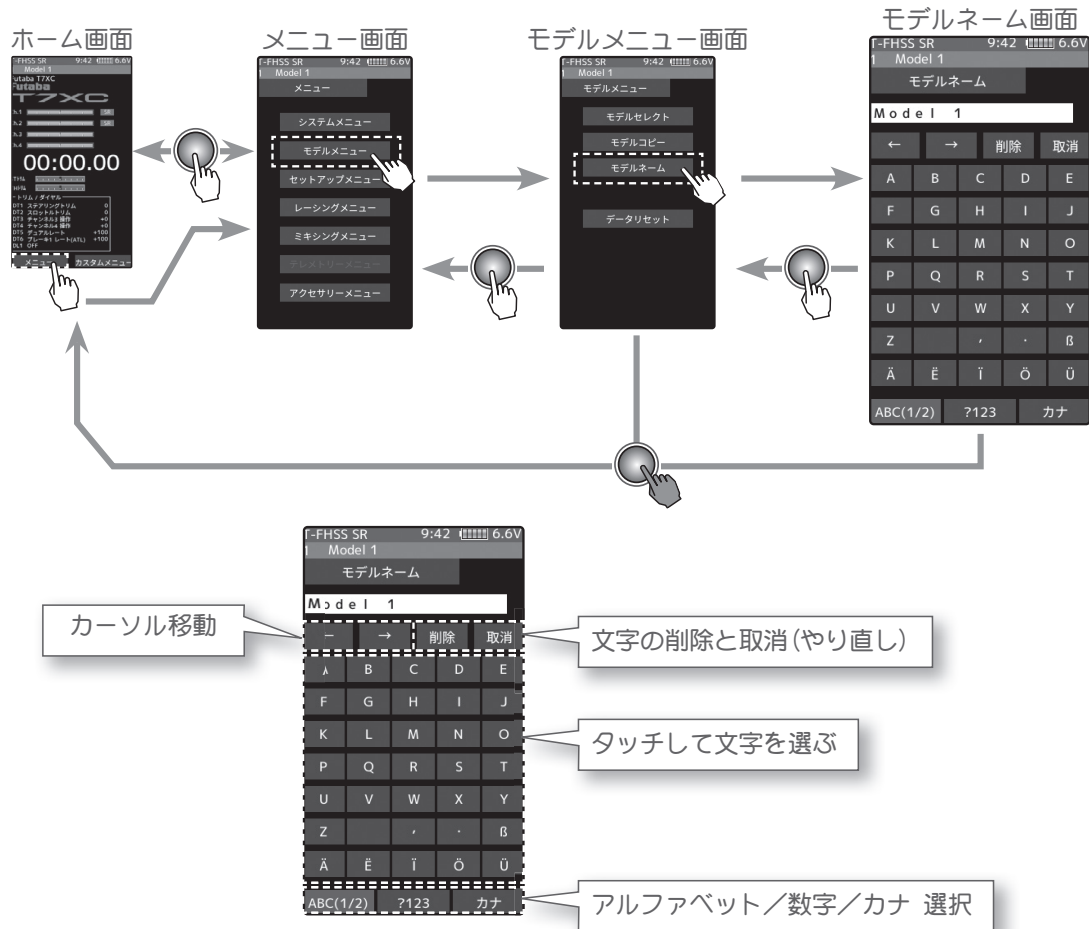


モデルコピーをするときに、コピー元のデータを microSD カードに保存したモデルデータから選ぶと、モデルのリストは左図のように表示します。

モデルネーム

各モデルメモリーごとにモデル名（15 文字迄）を登録することができます。アルファベット、記号、カタカナおよび数字が使用できます。

モデルネーム画面は、次の方法で表示します。



モデルネームの設定方法

1 (変更したい文字にカーソルを移動)

モデルネームは、[←]、[→]をタッチしてカーソルを移動し、設定または変更したいモデルネームの文字を選択します。選択された文字の前に縦線カーソルを表示します。

2 (使用する文字の選択)

画面下側の文字リストから使用する文字を選びます。使用する文字が決まったらタッチします。文字が決定され、モデルネームの文字列が右に移動します。また、[削除]をタッチすると、縦線カーソルの左文字が削除されます。やり直す場合は[取消]をタッチします。

3 終了する場合は、ホームボタンを押してモデルメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ネームカーソル移動ボタン

● [←]/[→] タッチでカーソル移動します。また、文字を決定するとモデルネームのカーソル位置が右へ移動するとモデルネームのカーソル位置が右へ移動

文字の選択 / 決定

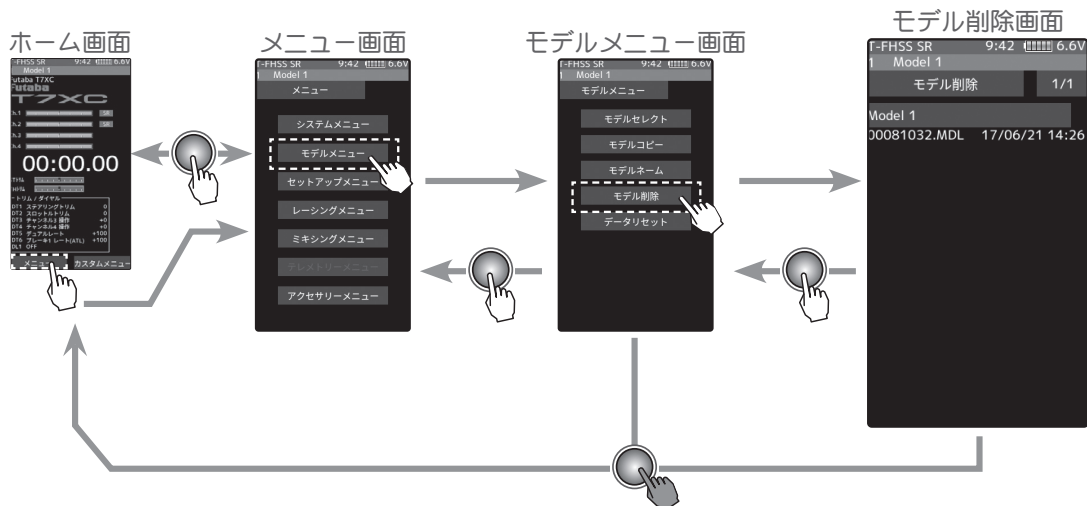
● 文字を選択しタッチ、文字を決定

モデル削除 (SD カード内)

SD カードに保存されたモデルデータを、削除する機能です。

SD カードを送信機のカードスロットにセットしている場合のみ、メニューに**モデル削除**を表示します。

モデル削除画面は、次の方法で表示します。モデル削除



SD カード内のモデルデータ削除方法

1 (モデルデータの選択)

1 ページに収まらないモデル数が記憶されている場合、右上段の**[1/2]**をタッチしてページを移動します。

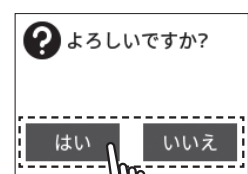
- 2 ページある場合は **[1/2]** / **[2/2]**、5 ページある場合は **[1/5]** ~ **[5/5]** と表示します。

モデルの削除実行

- 削除するモデルをタッチ

2 (モデル削除の実行)

削除するモデルをタッチします。**「よろしいですか」**と確認メッセージを表示します。削除を実行する場合は**「はい」**をタッチ、キャンセルする場合は**「いいえ」**をタッチします。**「はい」**をタッチして実行すると、ピピッという電子音がして削除が完了、**「データを削除しました」**と表示します。**「閉じる」**をタッチします。



- #### 3
- 終了する場合は、ホームボタンを押してモデルメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

データリセット

現在選んでいるモデルメモリーの内容をリセットする機能です。

リセット方法は次の4タイプから選択できます。どのリセットタイプも、アジャスター機能、システムメニューの設定は、初期化されません。

●モデルデータ

機能の設定データのみを初期化、ダイレクトメニューは初期化されません。

●カスタムメニュー

カスタムメニューを初期化します。そのほかの設定は初期化されません。

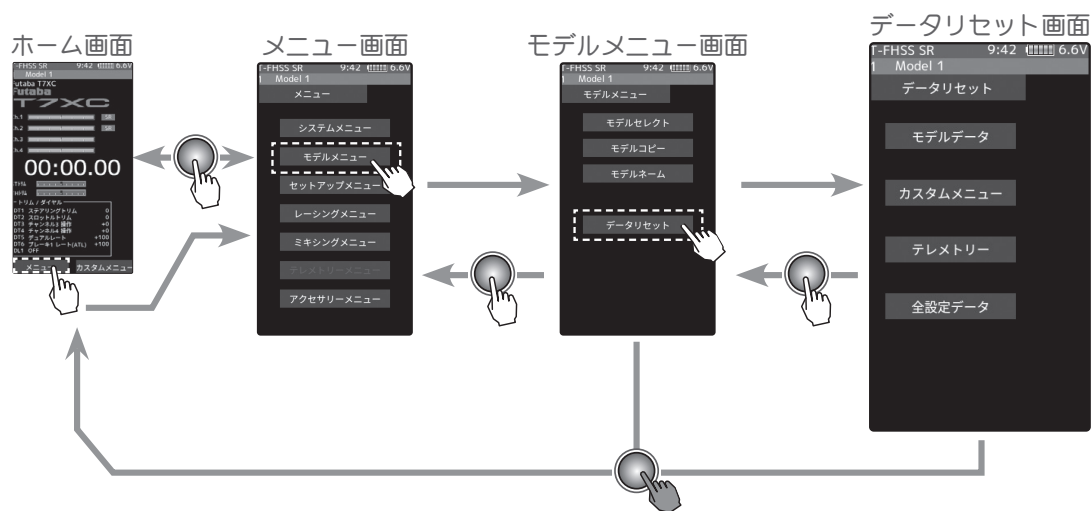
●テレメトリー

テレメトリー関連の設定データが初期化されます。

●全設定データ

システムメニューの設定以外がすべて初期化されます。

モデルネーム画面は、次の方法で表示します。

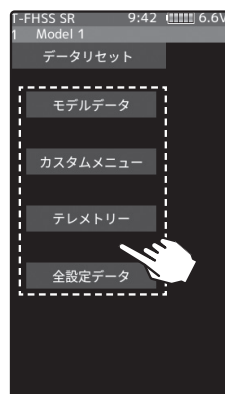


リセットの方法

1 (リセットの実行)

リセットするタイプをタッチ、「よろしいですか」と確認メッセージを表示しますので、実行する場合は**【はい】**でキャンセルする場合は**【いいえ】**をタッチします。

【はい】をタッチして実行すると、ピピッと電子音がして、リセットは完了です。

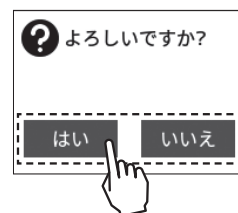


タイプ

モデルデータ
ダイレクトメニュー
テレメトリー
全設定データ

リセット実行

●リセットのタイプをタッチ

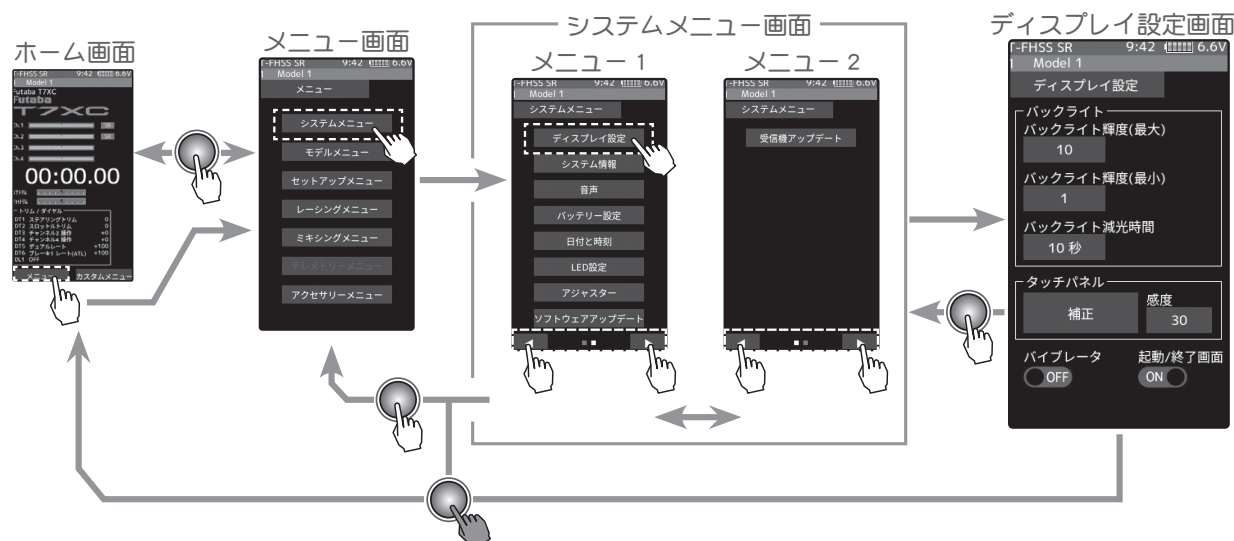


2 終了する場合は、ホームボタンを押してモデルメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ディスプレイ設定

バックライト輝度、減光時間などの設定と、タッチパネル補正をするメニューです。
また、タッチパネルの感度調整もあります。

ディスプレイ設定画面は、次の方法で表示します。



ディスプレイの設定方法

1 (バックライト輝度 (最大) 設定)

[バックライト輝度(最大)]をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、バックライトの明るさの最大を調整します。

バックライト輝度 (最大)

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

2 (バックライト輝度 (最小) 設定)

[バックライト輝度(最小)]をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、バックライトの明るさの最小を調整します。

バックライト輝度 (最小)

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

3 (バックライト減光時間の調整)

T7XC は時間が経過すると画面の輝度を落とす減光機能が働き **[バックライト輝度(最小)]** で設定した輝度になります。この減光機能の輝度を落とすまでの時間を設定します。**[バックライト減光時間]** をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、減光時間を調整します。

バックライト減光時間

1 ~ 240 秒 / 無効 (OFF)
初期値: 10 秒

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

4 (タッチパネル補正)

[タッチパネル補正]をタッチします。画面のセンターに白い+マークがある黒い画面になります。その+マークの交差部分を順番に、弊社オプションのスタイラスペンなどを使って5か所タッチします。

キャンセルする場合はホームボタンを押してディスプレイ設定画面に戻ります。

- 補正用のタッチには、弊社スタイラスペンのように先の細い硬めのゴムのような素材でタッチしてください。あまり柔らかすぎるものや、面積の広いものでタッチすると補正がズれます。
- 通常使用しません。長期間使用してタッチ位置がずれた場合に補正します。



5 (タッチパネル感度調整)

タッチパネルの感度を調整できます。

[タッチパネル感度]をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、タッチパネルの感度を調整します。

タッチパネル感度

10 ~ 100

初期値：30

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

6 (タッチパネルバイブ ON/OFF)

タッチパネルとホームボタンの操作でバイブを動作させることができます。

バイブレータの **(ON●)** または **(●OFF)** をタッチして、ON/OFF を選択します。

"**(●OFF)**" : 機能 OFF

"**(ON●)**" : 機能が ON の状態

設定

- **(ON●)** / **(●OFF)** をタッチ。

7 (起動／終了画面の設定)

起動と終了時の画面に FutabaT7XC のロゴマークを表示するかしないか設定します。OFF に設定すると表示しなくなります。起動／終了時画面の **(ON●)** または **(●OFF)** をタッチして、ON/OFF を選択します。

"**(●OFF)**" : 表示しない

"**(ON●)**" : 表示する

設定

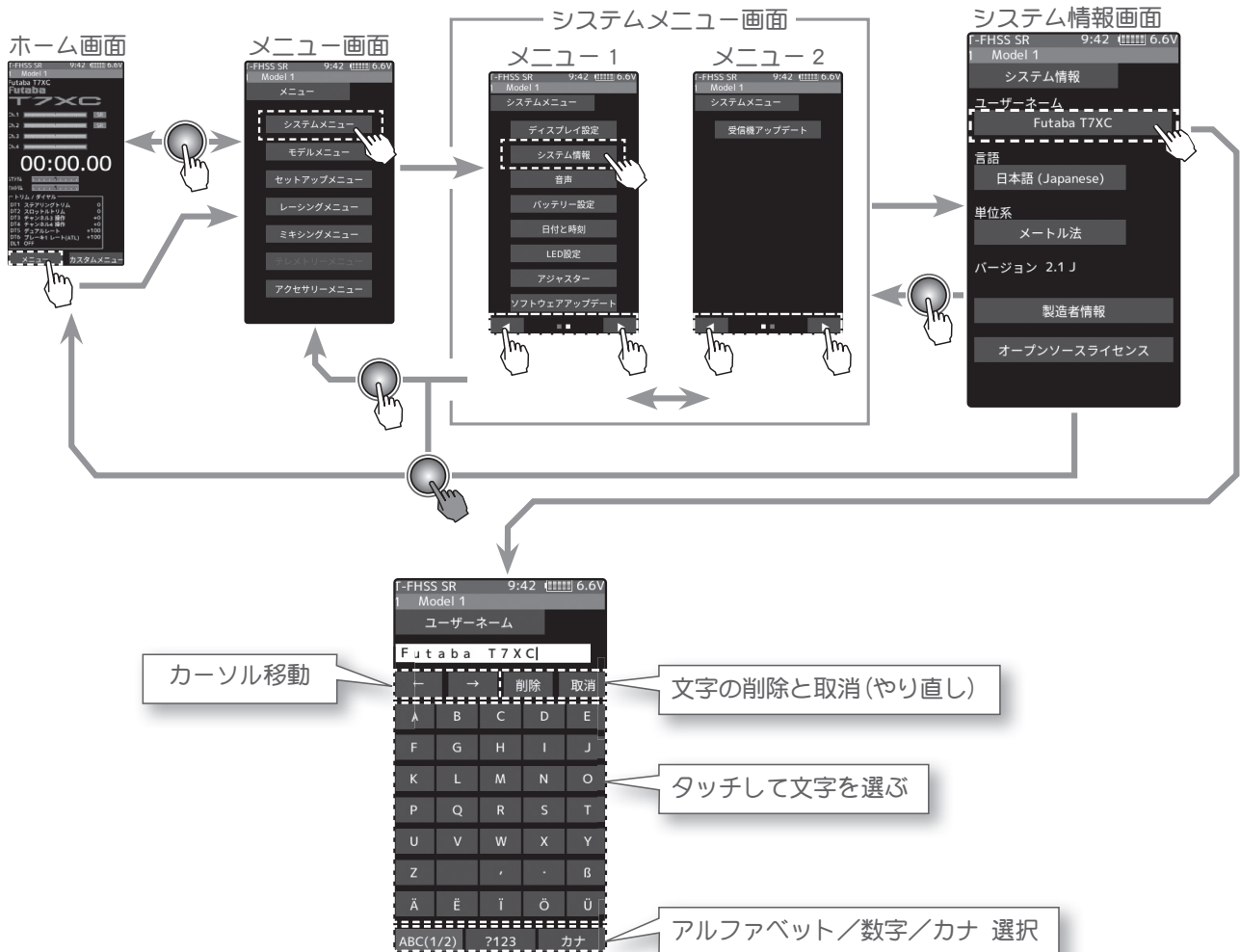
- **(ON●)** / **(●OFF)** をタッチ。

8 終了する場合は、ホームボタンを押してシステムメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

システム情報

このシステム情報では、ユーザーネームの設定や、表示言語、テレメトリー情報の使用単位を選択できます。また、ソフトバージョンを表示します。

ディスプレイ設定画面は、次の方法で表示します。



1 (変更したい文字にカーソルを移動)

ユーザーネームは、[←]、[→]をタッチしてカーソルを移動し、設定または変更したいモデルネームの文字を選択します。選択された文字の前に縦線カーソルを表示します。

2 (使用する文字の選択)

画面下側の文字リストから使用する文字を選びます。使用する文字が決まったらタッチします。文字が決定され、モデルネームの文字列が右に移動します。また、[削除]をタッチすると、縦線カーソルの左文字が削除されます。やり直す場合は[取消]をタッチします。

3 終了する場合は、ホームボタンを押してシステムメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ネームカーソル移動ボタン

- [←]/[→] タッチでカーソル移動します。また、文字を決定するとモデルネームのカーソル位置が右へ移動するとモデルネームのカーソル位置が右へ移動

文字の選択 / 決定

- 文字を選択しタッチ、文字を決定

言語の設定方法

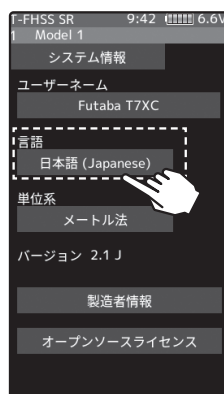
1 (言語の設定)

[言語] をタッチ、画面に言語のリストを表示しますので、[日本語 (Japanese)]/[英語 (English)]/[ドイツ語 (German)]/[フランス語 (French)]/[スペイン語 (Spanish)]/[イタリア語 (Italian)] から選択して、タッチすると表示言語が変更され、ホーム画面に移動します。

●使用できる言語は、今後追加される予定です。

言語の設定

●ポップアップ画面をタッチして選択。



単位の設定方法

1 (単位の設定)

[単位系] の [メートル法] または [ヤード・ポンド法] をタッチして変更します。



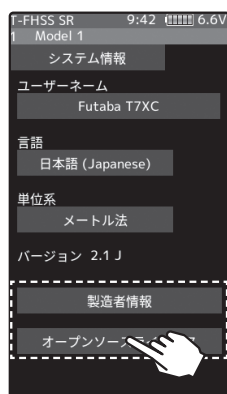
設定

●[メートル法]/[ヤード・ポンド法] をタッチ。

製造者情報とオープンソースライセンスの表示

1 (製造者情報とオープンソースライセンスの表示)

製造者情報と、システムで使用しているフォントのライセンス情報を表示します。



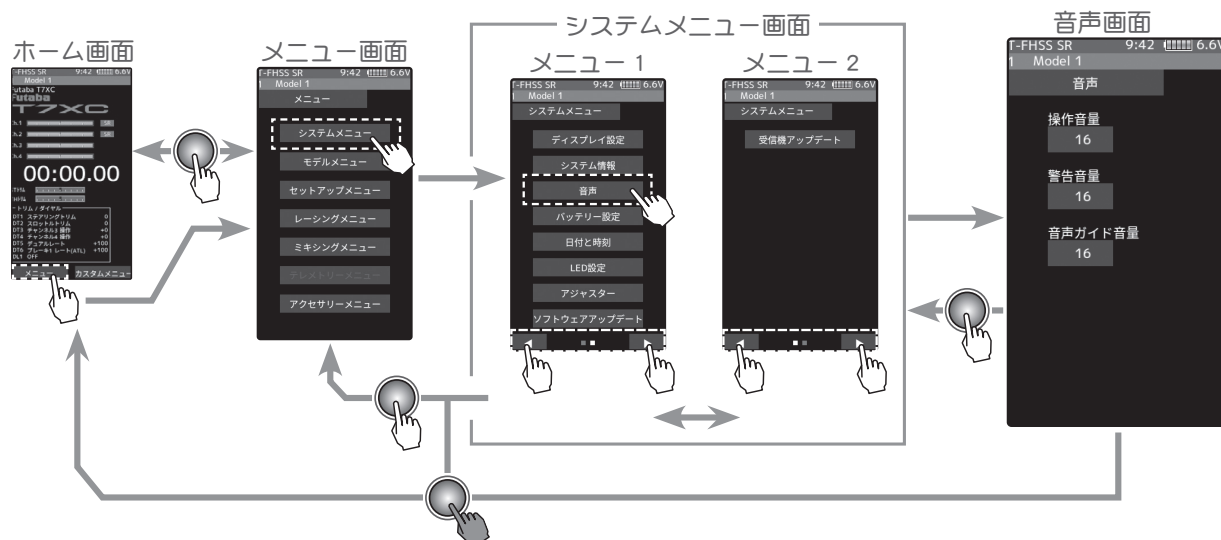
2 終了する場合は、ホームボタンを長押ししてホーム画面に戻ります。

音声

スイッチ／トリム／ホームボタンやタッチパネルの操作音、警告アラーム音およびテレメトリーガイドの音量を調整するメニューです。

- スイッチ／トリム／ホームボタンやタッチパネルを操作したときの操作音の音量を調整できます。
- 各警告アラームのアラーム音の音量を調整できます。
- テレメトリー機能を使用すると、温度、回転数、電圧などを一定間隔でアナウンスします。そのときの音声音量を調整できます。

音声画面は、次の方法で表示します。



音量の設定方法

1 (操作音量の設定)

[操作音量] をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、音量を調整します。

設定範囲

0 ～ 32 (初期値：16)

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

2 (警告音量の設定)

[警告音量] をタッチします。設定値の表示が青くなり、設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、音量を調整します。

設定範囲

1 ～ 32 (初期値：16)

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

3 (テレメトリー音声ガイドの音量の設定)

[音声ガイドの音量] をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、音量を調整します。

設定範囲

0 ～ 32 (初期値：16)

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

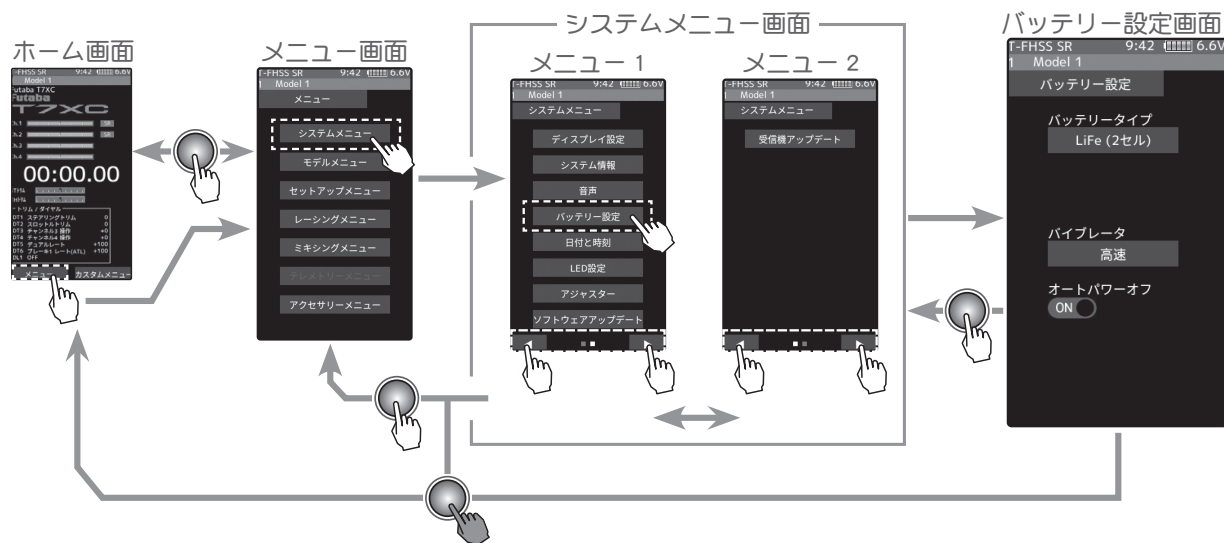
- 4 終了する場合は、ホームボタンを押してシステムメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

バッテリー設定

□-バッテリーアラームの設定がバッテリーのタイプによって異なりますので、バッテリータイプの設定を使用する電源に必ず合わせてください。弊社製充電タイプのバッテリーを使用する場合は、必ず**【リチウムフェライト(2セル)】**または**【ニッケル水素(5セル)】**に設定してください。間違った設定の場合、□-バッテリーアラームから、システム停止までの時間が極端に短くなり大変危険です。

例外的に、それ以外のバッテリーを使用する場合は、**【その他】**に設定し、□-バッテリーアラームの電圧は自己責任の上で設定してください。指定バッテリー以外によるトラブルにつきましては、弊社では一切責任を負いません。

バッテリー設定画面は、次の方法で表示します。



音量の設定方法

1 (バッテリータイプの設定)

【バッテリータイプ】をタッチ、画面にバッテリーのリストを表示しますので、**【LiFe(2セル)】**／**【ニッケル水素(5セル)】**／**【その他】**から、タッチして選びます。

●**【その他】**に設定した場合、アラーム電圧を自分で設定してください。

2 (バイブレーションの設定)

【バイブ】をタッチしてアラームのバイブを3パターンと無効(OFF)から選びます。

"無効": バイブは動作しません／"低速": 長い時間で断続振動／
"高速": 短い時間で断続振動／"連続振動": 連続で振動

3 (オートパワーオフの設定)

オートパワーオフの**(ON●)**または**(●OFF)**をタッチして、ON/OFFを選択します。

"(●OFF)": 機能 OFF
"(ON●)": 機能が ON の状態

4 終了する場合は、ホームボタンを押してシステムメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

バッテリータイプ

LiFe (2セル)
ニッケル水素 (5セル)
その他
初期設定: LiFe (2セル)

バイブ

無効, 低速, 高速, 連続振動
設定

●**【無効】**／**【低速】**／**【高速】**／
【連続振動】をタッチ。

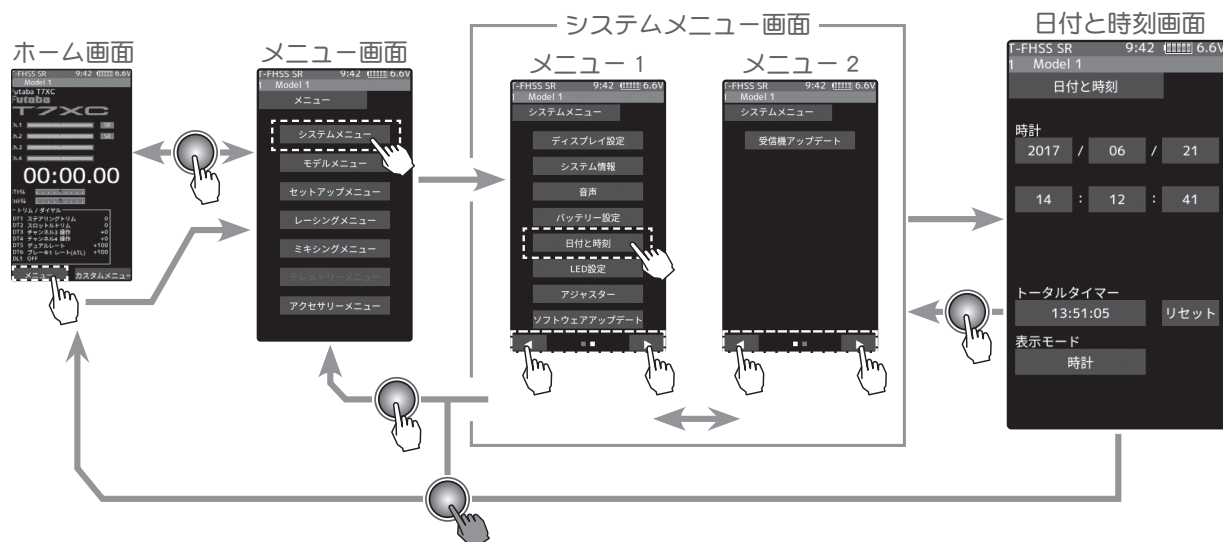
設定

●**(ON●)**／**(●OFF)**をタッチ。

日付と時刻

T7XC のシステムクロックの調整ができます。ご購入時や調整が必要になったときに設定してください。また、ホーム画面に時刻を表示するか、トータルタイマー（積算タイマー）のどちらを表示するか設定できます。トータルタイマーのリセットはこのメニューでできます。

日付と時刻画面は、次の方法で表示します。



日付と時刻の設定方法

1 (日付と時刻の設定)

設定する【年】／【月】／【日】・【時】：【分】：【秒】をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に【-】【リセット】【+】が表示します。【+】、【-】をタッチして、日付と時刻を設定します。設定を変更すると【時刻設定】ボタンを表示しますので、タッチしてシステムクロックを更新します。

- 送信機本体から、バッテリーを抜いた状態で長時間経過すると日付と時刻はリセットされます。



日付と時刻

調整

- 【+】／【-】をタッチで調整。
- 【リセット】をタッチで初期値。

設定

- 【リセット】をタッチ。

2 (トータルタイマーリセット)

【リセット】をタッチすると、トータルタイマーがリセットされます。

表示モード

時計
トータルタイマー

3 (ホーム画面の表示設定)

表示モードの【トータルタイマー】または【時計】をタッチして、時計またはトータルタイマーのどちらかに設定します。

設定

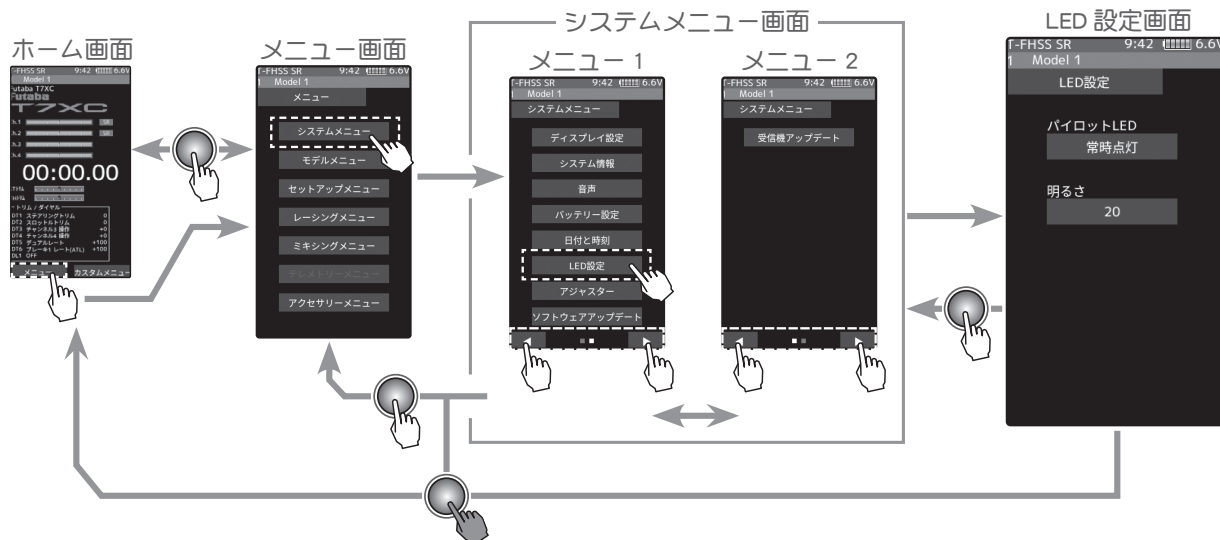
- 時計／トータルタイマーをタッチ。

4 終了する場合は、ホームボタンを押してシステムメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

LED 設定

パイロット LED ライトの明るさと、点灯方法を常時点灯、消灯、バックライト連動から設定できます。

LED 設定画面は、次の方法で表示します。

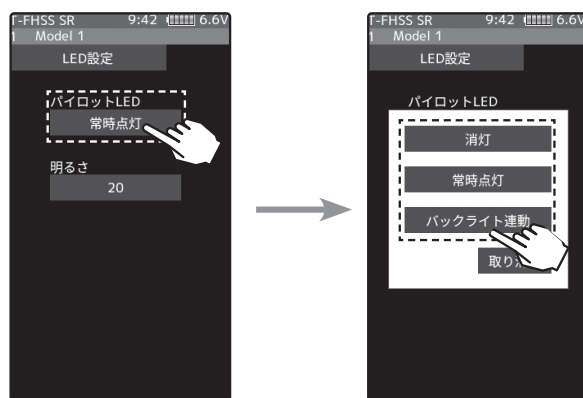


LED の設定方法

1 (パイロット LED の点灯設定)

[パイロットLED] をタッチ、画面に点灯方式のリストを表示しますので、**[消灯]** / **[常時点灯]** / **[バックライト連動]** から、タッチして選びます。

- " 消灯 " : パイロット LED ライト OFF
- " 常時点灯 " : パイロット LED ライト ON
- " バックライト連動 " : 液晶画面のバックライトの減光時間の設定に連動して、輝度が落ちると消灯し、ホームボタンと画面操作で点灯。



設定タイプ

消灯
常時点灯
バックライト連動

設定

- **[常時点灯]** / **[消灯]** / **[バックライト連動]** をタッチ。

2 (パイロット LED の輝度設定)

[明るさ] をタッチします。設定値の表示が青くなり、画面下に **[-]** **[リセット]** **[+]** が表示します。**[+]**、**[-]** をタッチして、LED の明るさの最小を調整します。

LED 輝度

0 ~ 20
初期値 : 20

調整

- **[+]** / **[-]** をタッチで調整。
- **[リセット]** をタッチで初期値。

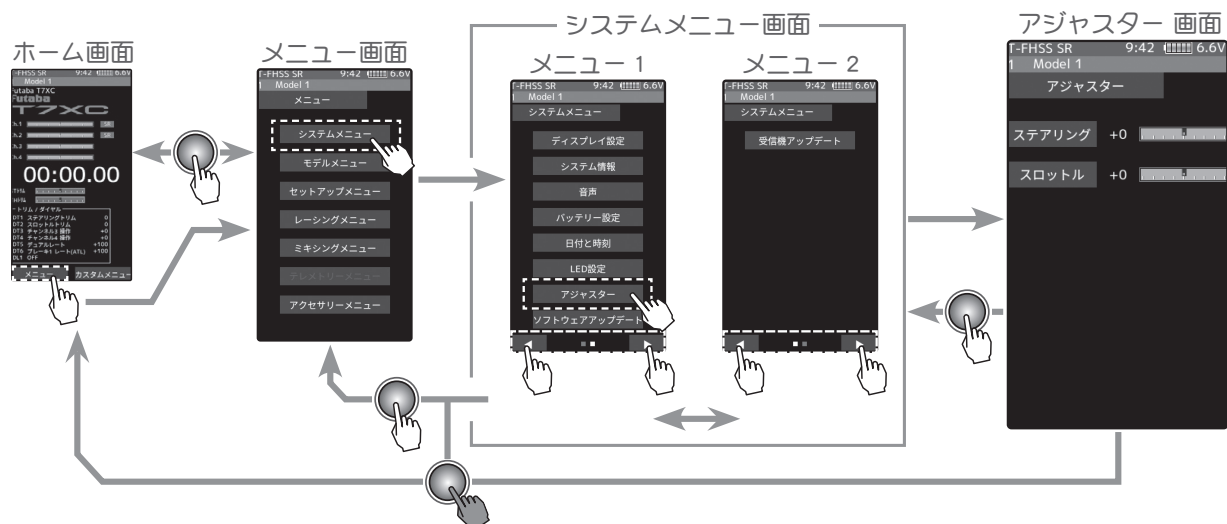
3 終了する場合は、ホームボタンを押してシステムメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

アジャスター

ステアリングスティックとスロットルスティックのニュートラル位置および、動作角の補正することができます。何らかの原因でメカ的なズレを生じた場合に使用します。

補正を実行した場合は、すべての設定機能の設定値を再確認する必要があります。

アジャスター設定画面は、次の方法で表示します。



スティック（ステアリング）の調整

(準備)

- ・[ステアリング]をタッチして、スティック(ステアリング)のニュートラル補正画面にします。

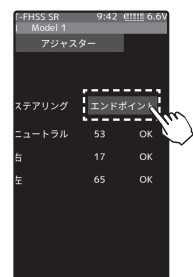
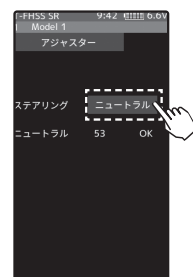
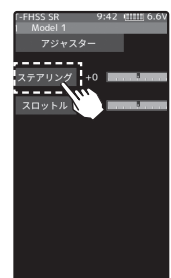
1 (ステアリングのニュートラルの調整)

ステアリングスティックを左右に軽く弾いた後、スティックに触れない状態で、[ニュートラル]をタッチ、ニュートラル補正が OK になるとエンドポイント補正画面になります。補正範囲に入っていないとエンドポイント補正画面になりません。

2 (ステアリングの振り幅の調整)

エンドポイントの補正画面(右図)の状態、スティックを左、右いっばいに軽く操作し左右とも OK の表示になったら、[エンドポイント]をタッチ、補正が OK になるとアジャスター画面に戻ります。補正範囲に入っていないとアジャスター画面に戻りません。この場合ホームボタンを押して、アジャスター画面に戻ります。再度補正を実行しても正常に終了できない場合は、弊社カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

- 3 終了する場合は、ホームボタンを押してシステムメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。



機能説明

スティック（スロットル）の調整

（準備）

- ・**【スロットル】**をタッチして、スティック（スロットル）のニュートラル補正画面にします。

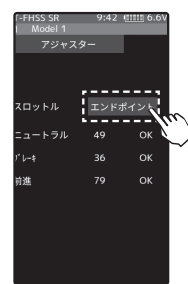
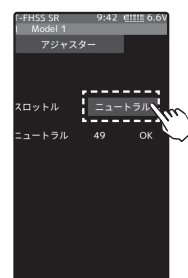
1 （スロットルのニュートラルの調整）

スロットルスティックスティックを前進側、ブレーキ側に軽く弾いた後、スティックに触れない状態で、**【ニュートラル】**をタッチ、ニュートラル補正が OK になるとエンドポイント補正画面になります。

補正範囲に入っていないとエンドポイント補正画面になりません。

2 （スロットルの振り幅の調整）

エンドポイントの補正画面（右図）の状態、スティックを前進側、ブレーキ側いっばいに軽く操作し、両方とも OK の表示になったら、**【エンドポイント】**をタッチ、補正が OK になるとアジャスター画面に戻ります。補正範囲に入っていないとアジャスター画面に戻りません。この場合ホームボタンを押して、アジャスター画面に戻ります。再度補正を実行しても正常に終了できない場合は、弊社カスタマーサービスセンターへご連絡ください。

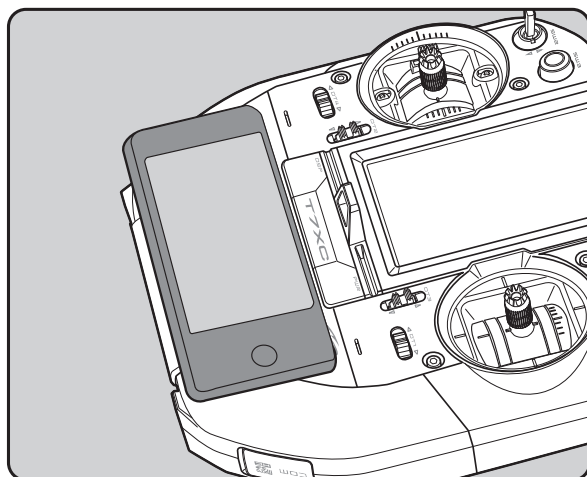
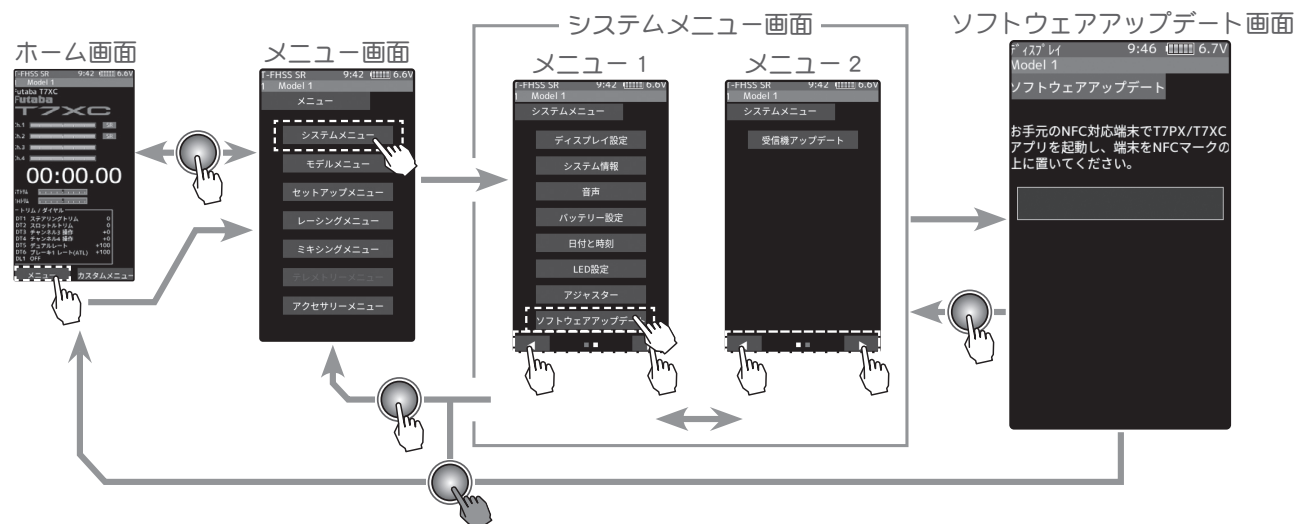


- ### 3
- 終了する場合は、ホームボタンを押してシステムニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

ソフトウェアアップデート

今後将来的にソフトウェアアップデートが必要になった場合、microSD を使用する方法と、NFC 通信を使用する方法の 2 種類の方法があります。このメニューは、NFC に対応した Android 搭載端末でソフトウェアアップデートをします。

ソフトウェアアップデート画面は、ディスプレイモードで起動し、次の方法で表示します。



すべての端末でアップデートは、保証はしていません。端末の機種によっては、アップデートが開始されない場合があります。その場合は SD カードでのアップデートをお願いいたします。

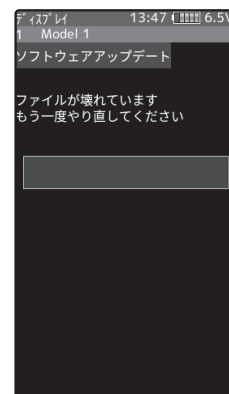
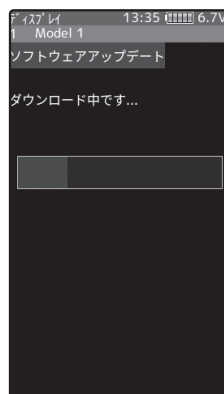


*Nマークは、NFC Forum, Inc. の米国その他の国における商標または登録商標です。

アップデート方法

- 1 NFC に対応した Android 搭載端末で、**「T7PX/T7XC」**アプリを起動し、上の図を参考に、端末の NFC マークを T7XC の NFC マークの上に置いてください。アップデートデータのダウンロードが開始されます。

*「ファイルが壊れていますもう一度やり直してください」と表示された場合は、通信が正常に行われていません。T7XC と端末の画面を再表示してもう一度実行してください。



- 2 正常にアップデートが完了すると T7XC が再起動します。

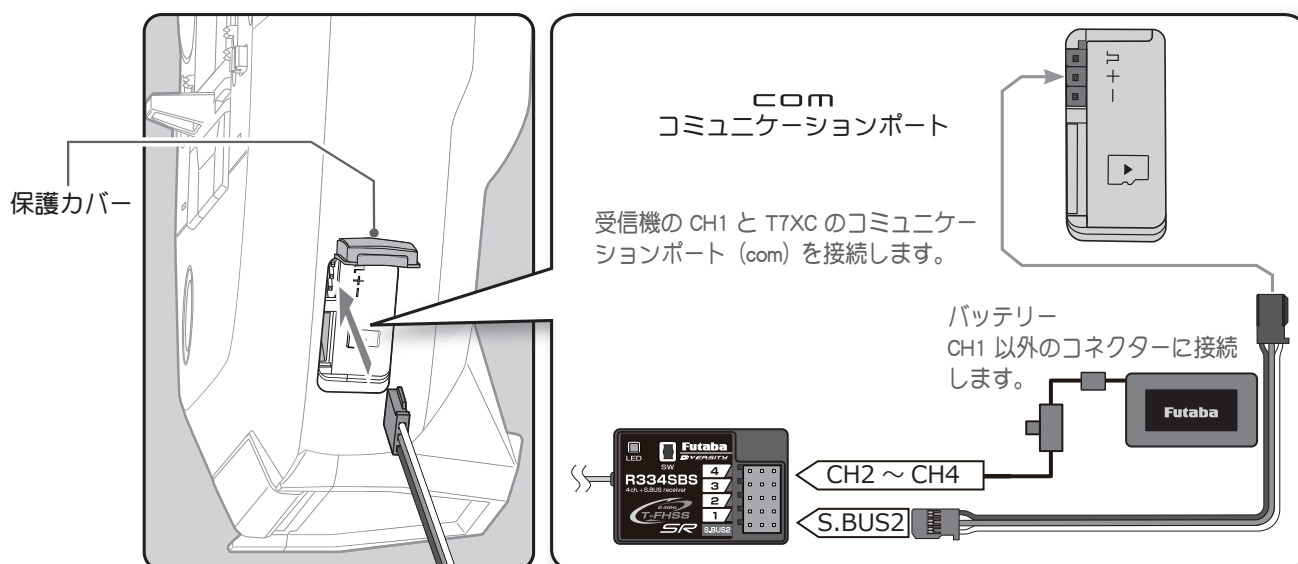
受信機アップデート

受信機 (R334SBS / R334SBS-E) のソフトウェアアップデートを、T7XC から行う機能です。受信機のアップデートには、インターネットに接続可能なパソコンおよび、ミニドライバー (受信機のリンク SW 用)、microSD カード (別売) と CGY750 / GY701 / GY520 用コード (別売)、またはアップデート用 DSC コードが必要です。

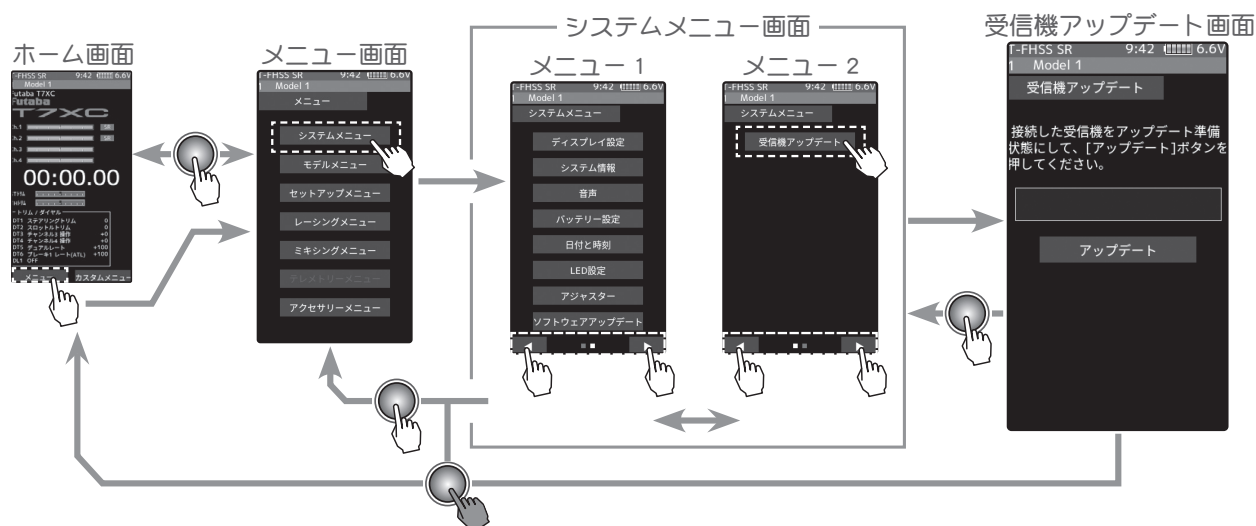
アップデートの準備

- 受信機のアップデートファイルを、Futaba WEB (<http://www.rc.futaba.co.jp/dl/index.html>) より、お持ちの PC にダウンロードします。
- ダウンロードしたアップデートファイル (zip 圧縮形式) を展開 (解凍) します。「FUTABA」という名前のフォルダが作成されますので、その「FUTABA」フォルダを、microSD カードにコピーします。
- 「FUTABA」フォルダをコピーした microSD カードを T7XC に挿入します。(P29)

T7XC と 受信機の接続図



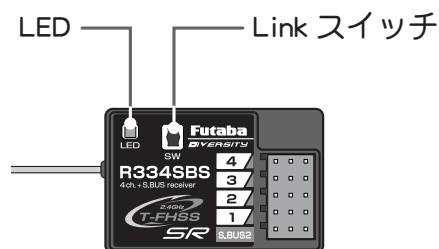
T7XC の DSP または PWR スイッチを ON にして、受信機アップデート画面を、次の方法で表示します。



アップデート方法

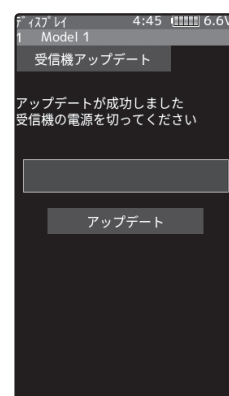
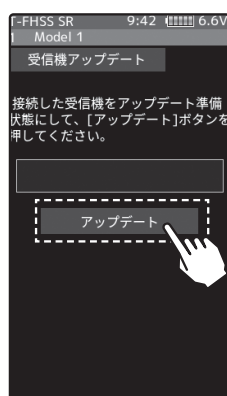
- 1 受信機をアップデート準備状態にします。
 - ・リンクスイッチを押したまま受信機電源を ON します。
 - ・LED が「赤に点灯」し、約 3 秒後に「赤が 1 回点滅」します。この点滅を確認したら、リンクスイッチを離して 1 秒以内にすぐ押し直し、そのまま押し続けます。
 - ・押し続けて約 4 秒経過すると、LED が「赤緑同時点灯」に変わるので、変わったらスイッチを離します。この状態がアップデート準備状態 となります。

※もし赤緑同時点灯にならない場合は、最初からやり直してください。



- 2 画面の【アップデート】ボタンをタッチします。アップデートが開始されます。プログレスバーが表示され、進行状況を示します。受信機の LED が緑点灯となり、T7XC からデータを受け付けるたびに一瞬だけ緑点滅となります。

※アップデート中は、T7XC の電源を OFF にしないでください。



- 3 アップデートが完了するとメッセージが表示され、受信機の LED は緑点灯のままとなります。受信機の電源を OFF にしてください。

走行（走航）前に、正常に動作することを確認してください。
- 4 終了する場合は、ホームボタンを押してシステムメニュー画面に戻ります。またはホームボタンを長押しでホーム画面に戻ります。

エラーメッセージ表示

次のような場合にはエラーメッセージを表示します。状況を確認して、最初からやり直してください。

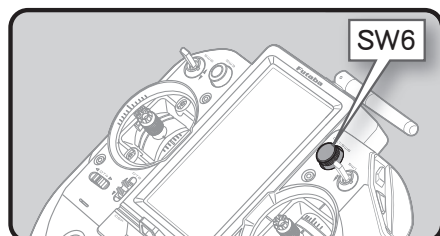
- 受信機がアップデート準備状態（LED が「赤緑同時点灯」）になっていない。
- ケーブルが接続されていない（外れた）。
- 電源が切れた。
- micro SD カードが挿入されていない。
- micro SD カードにアップデートファイルが正常にコピーされていない。

強制的な初期化

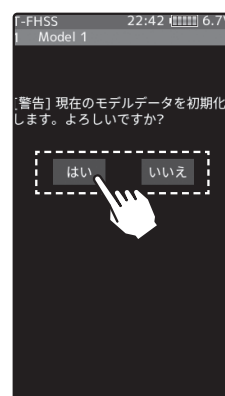
モデルデータが破損して正常に動作しなくなった場合に、現在のモデルデータを初期化することができます。

注意: モデルデータが完全に初期化されます。データ破損時以外は、使用しないでください。

- 1 電源 OFF の状態から SW6 スイッチを押したまま、送信機電源を ON します。



- 2 「[警告] 現在のモデルデータを初期化します。よろしいですか?」と、確認画面を表示します。



- 3 「はい」をタッチすると初期化されて電源が OFF になります。

「いいえ」をタッチすると、データの初期化を行わず電源が OFF になります。

※ 初期化した場合は、現在のモデルデータが初期化されますので、データを再設定して、十分動作確認してからご使用ください。

仕様

* 仕様・規格は予告なく変更することがあります。

- 2.4GHz 帯スペクトル拡散方式採用
- 動作可能範囲：約 100m（条件により異なります。）

送信機 T7XC スティック式、7 チャンネル (S-FHSS のアナログモード以外は 4 チャンネル)

- 送信周波数：2.4GHz
- 送信モード：T-FHSS SR (R334SBS, R334SBS-E)
T-FHSS (R334SBS, R334SBS-E, R304SB, R304SB-E, R314SB, R314SB-E, R324SBS)
S-FHSS (R2104GF, R204GF-E) / FASST-C2 (R614FS/FF/FF-E, R604FS/FS-E)
- 使用電源：FT2F1700BV2 リチウムフェライトバッテリー (6.6V)
- 消費電流：300mA 以下 (T-FHSS 時、バンプ停止、LED バックライト ON の状態)
- LCD 画面：4.3 インチ バックライト付きカラーTFT 液晶タッチパネル
* TFT カラー液晶ディスプレイは、非常に高度な技術を駆使して作られておりますが、表示に画素欠け、常時点灯などが存在することがあります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。

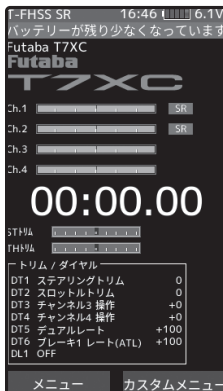
受信機 R334SBS / R334SBS-E 4 チャンネル受信機

- 受信周波数：2.4GHz
- システム：T-FHSS/T-FHSS SR システム ダイバーシティーアンテナ / S.BUS 2 対応
- 使用電源：規格電圧 3.7V ~ 7.4V
実際はサーボと共用で使用するため、サーボの規格を考慮した電源を使用してください。
- サイズ (突起部を除く)：R334SBS (33.9x22.3x11.3mm) R334SBS-E (33.9x22.3x11.3mm)
- 重量：R334SBS (7.5g) R334SBS-E (7.2g)

ワーニング表示

ローバッテリーアラーム

LCD 画面



送信機のバッテリー電圧が使用可能範囲より下がると、警告音とともに、LCD 画面に「**バッテリーが少なくなっています**」と表示が現われて警告します。

すぐに車（ボート）を回収し、走行（走航）を中止してください。

警告音：
ピピピピッ．．．．．（連続）

⚠ 注意

❶ ローバッテリーアラームが発生した場合、すぐに車（ボート）を回収し、走行（走航）を中止してください。

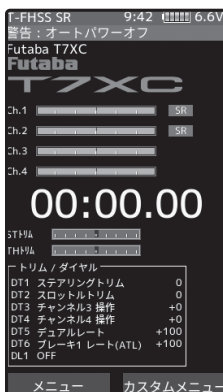
走行（走航）中に電池がなくなると、車（ボート）が暴走する危険があります。

使用電源とローバッテリーについて

ローバッテリーアラームの設定は使用電池によって異なります。システムメニューで使用する電源に合ったバッテリータイプの設定を必ず行ってください。誤った設定で使用する、正常なローバッテリーアラームが働かなくなり、システムが停止する場合があります。また使用時間が極端に短くなる場合もあります。（バッテリータイプの詳細は P204）

電源切り忘れワーニング

LCD 画面

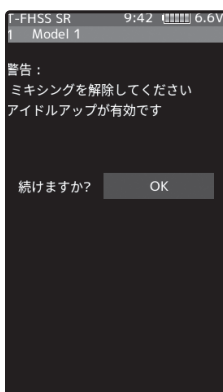


T7XC を何も操作していない時間が 10 分継続すると、警告音とともに、LCD 画面に「**警告：オートパワーオフ**」と表示します。ステアリングスティック、スロットルスティック、または各ダイヤル、スイッチ、エディットボタンを操作すると警告音は止ります。また使用しないのであれば電源を切ってください。（システムメニューで設定が解除できます P204）

警告音：
ピピピピッ．．．．．（連続）

MIX ワーニング

LCD 画面



アイドルアップ、スロットルオフ（エンジンカット）、ニュートラルブレーキの機能のスイッチが入っている状態で、電源スイッチを入れたときに、警告音が鳴り、LCD 画面に「**警告：ミキシングを解除してください**」と表示します。

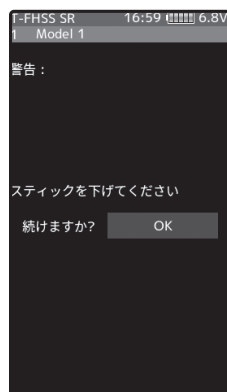
該当する機能のスイッチを切ると警告音は止ります。左の参考図は、アイドルアップの場合です。

警告音：
ピピピピピピピッ、休止（繰り返し）

参考

スロットルスティックワーニング

LCD 画面



P62 の "スロットルモード" を "前進 100 : ブレーキ 0" に設定している場合、安全のためスロットルスティックがスロー以外の位置で電源を ON にするとアラームがなります。

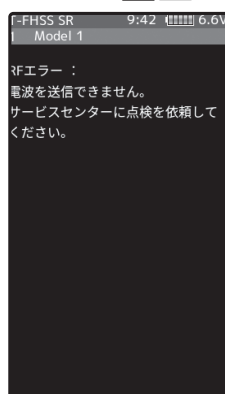
スロットルスティックをスローにするとアラームは止まります。また、**【続けますか? OK】**をタッチしても止まります。

必ずスロー位置で電源を ON してください。

警告音 :
ピピピピピピピッ、休止 (繰り返し)

RF エラー

LCD 画面



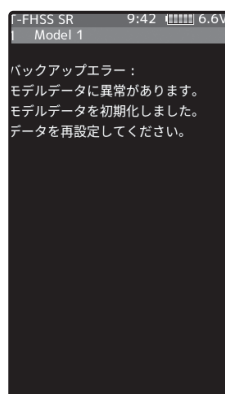
内蔵 RF モジュールが動作していない場合に **「RF エラー : 電波を送信できません」** と表示します。

弊社カスタマーサービスで点検が必要です。

警告音 :
ピピピピピピピッ、休止 (繰り返し)

バックアップエラー

LCD 画面

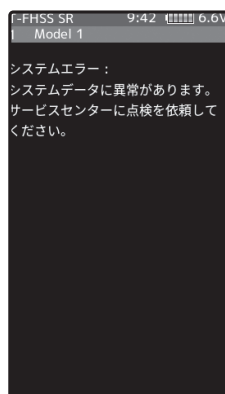


電源を入れたときなどで、本体内部のデータのやり取りが正常に行われなかったため、そのモデルのデータが初期化されます。その場合、警告音とともに、LCD 画面に **「バックアップエラー : モデルデータに異常があります」** を表示します。モデルデータが初期化されていますので、再度設定をしてください。

警告音 :
ピピピピピピピッ、休止 (繰り返し)

システムエラー

LCD 画面



何らかの原因で工場出荷時の設定データが読み取れない場合に
表示します。警告音とともに、LCD 画面に「**システムエラー：データに異常があります**」と表示が現われて警告します。

弊社カスタマーサービスで点検が必要です。

警告音：
ピピピピピピピッ、休止（繰り返し）

⚠注意

❗ システムエラーが発生した場合、すぐに使用を中止し、弊社カスタマーサービスセンター宛
修理依頼してください。

そのまま使用すると、送信機の異常動作により、車（ボート）が暴走する危険があります。

オプションパーツ（別売り）

T7XC にはオプションとして次のオプション関係が用意されています。

送信機用バッテリー／充電器

送信機用バッテリーを購入される場合は下記の品名のものをご使用ください。

● **FT2F1700B（6.6V/1700mAh）／ FT2F1100B（6.6V/1100mAh）リチウムフェライトバッテリー**

FT2F シリーズバッテリーは、負荷が大きくなると保護回路が働き出力が停止します。走行（走航）中に出力が停止すると暴走の危険がありますので、絶対に受信機側には使用しないでください。

● **専用充電器 LBC-34D P TX:FT2F1700B／ FT2F1100B 用（セットに 1 ケ付属）**

LBC-34D P は、FT2F シリーズバッテリーを送信機から充電する充電器です。

● **専用充電器 LBC-4E5 TX:FT2F1700B／ FT2F1100B 用**

LBC-4E5 は、FT2F シリーズバッテリーのバランス充電用です。

テレメトリーオプションセンサー

● **テレメトリーセンサーオプション（2021 年 11 月現在）**

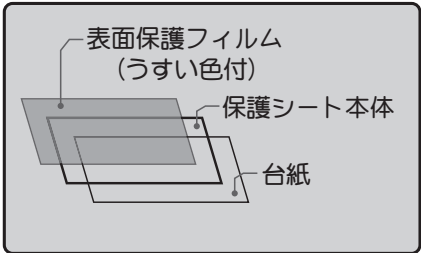
- ・電圧センサー（SBS-01V）／・温度センサー（SBS-01T）／・温度センサー（SBS-01TE）
- ・磁気回転センサー（SBS-01RM）／・ブラシレス回転センサー（SBS-01RB）
- ・電流センサー（SBS-01C）／・GPS センサー（SBS-01/02G）

参考

T7XC / T7PX 専用 LCD 画面保護シート

LCD 画面をキズやホコリからガードする保護シートです。

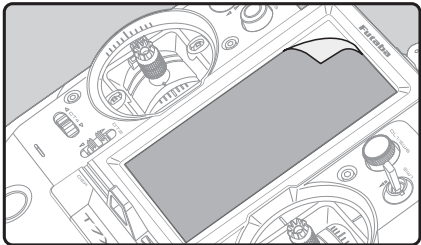
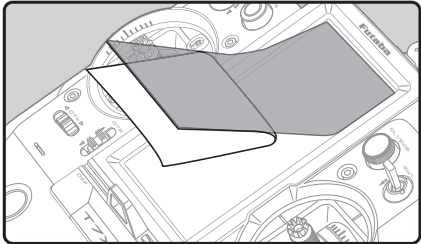
- * この保護シートは貼りやすく密着しやすいように、T7XC の LCD 画面より若干小さめにカットしてあります。
- * 保護シートは表側のうすい保護フィルム、裏側の台紙で挟まれています。
- * 剥がして貼り直すことができます。



T7XC 専用 LCD 画面保護シート

取り付け方法

- 1 LCD 画面にほこりの付着がないか確認し、あれば乾いたきれいな布で取り除いてください。ほこりの付着は気泡の原因になります。
- 2 台紙を 3 分の 1 ほどめくり、LCD 画面の縁の少し内側に沿ってゆっくりと保護シートを貼付してください。丁寧に保護シートを押しつけてください。台紙を剥がし、気泡が入らないようにスクリーンの表面を押しってください。カードなどを表面にあててゆっくりと滑らせると気泡が入りにくくなります。
- 3 保護シートをきれいに貼付できたら、表面の保護フィルムを剥がします。



SR モード対応サーボ／ S-FHSS 対応多チャンネル受信機

SR モード対応サーボ (2021 年 11 月現在)

SR モード対応サーボを S.BUS サーボメニューで SR モードに設定する場合、タイプ 1 / 2 / 3 の 3 種類から選べるサーボとタイプ 1 のみ設定できるサーボがあります。

入門向け	1/12 レーシングカー	1/10EP カードリフト ツーリング オフロード	1/10 GP ツーリングカー	1/8 レーシングカー	1/8 オフロードカー	1/5 カー
S3470SV S-U300	S9670SV BLS671SV BLS671Svi	S9470SV	S9370SV		S9372SV S9373SV speed B1 HPS-CB700 HPS-CB500	BLS373SV
		S9570SV	BLS371SV			
		S9571SV	speed T1 HPS-CT500	speed R1		
		BLS471SV				
BLS571SV						
speed T1						
HPS-500						
		HPS-CT700				

S-FHSS システム対応多チャンネル受信機 (2021 年 11 月現在)

S-FHSS システムのアナログ (ノーマル) モードは、7 チャンネルまで使用できます。5 チャンネル以上を使用する場合、次の受信機が使用できます。

R2008SB (8 チャンネル)

修理を依頼されるときは

修理を依頼される前に、もう一度この取扱説明書をお読みになって、チェックしていただき、なお異常のあるときは、次の要領で修理を依頼してください。

＜依頼先＞

Futaba ラジコンカスタマーサービスまで
修理依頼してください。

＜修理の時に必要な情報＞

トラブルの状況をできるだけ詳しく書いて修理品と一緒に送りください。

- 症状（トラブル時の状況も含めて）
- 使用プロポ（送信機、受信機、サーボの型番）
- 搭載車体（車体名、搭載状況）
- お送りいただいた修理品の型番および個数
- ご住所、お名前、電話番号

＜保証内容＞

保証書をご覧ください。

- 保証書の範囲内で修理をお受けになる場合は、修理品と一緒に保証書を送付してください。この場合、販売店印と購入日付の記入があるもののみ有効です。

＜本製品に関するご質問、ご相談＞

Futaba ラジコンカスタマーサービスに、ご連絡ください。

ラジコンカスタマーサービスセンター

修理・アフターサービス、プロポに関するお問い合わせは弊社ラジコンカスタマーサービスセンターへどうぞ。＜土・日・祝日および弊社休業日を除く＞

双葉電子工業（株）ラジコンカスタマーサービス

〒 299-4395 千葉県長生郡長生村藪塚 1080 TEL. 0475-32-4395

用途、輸出、改造等に関する注意

1. 模型用以外に使用しないでください。

本説明書に記載されている製品は、用途が模型用に限定されております。

2. 輸出する際の注意

- (イ) 本製品を海外に輸出する場合、輸出する国の電波法で認可されていないと使用することはできません。
- (ロ) 模型以外の用途で使用する場合、輸出貿易管理令で規制される場合があります、輸出許可申請等の法的手続きが必要となります。

3. 改造、調整、装飾、部品交換した場合の注意

本製品を弊社以外で改造、調整、部品交換などの手が加えられた場合、一切の責任を負いかねます。

本製品にシールを貼ったり、装飾を施すと、改造とみなされることがあり、修理をお引き受けできない場合があります。また、修理する場合、シールなど装飾品の破損に関しては、一切の責任を負いかねます。